

学位論文

---

価格理論を組み込んだ小学校社会科授業開発研究  
－社会事象の経済学的な説明をめざして－

---

2019

兵庫教育大学大学院  
連合学校教育学研究科  
教科教育実践学専攻  
(兵庫教育大学)

松浪 軌道

## 目次

序章 研究の目的, 意義と方法	1
第1節 研究の目的と意義	1
第2節 研究の方法と論文の構成	2
<b>第I部 価格理論を組み込んだ小学校社会科内容構成論の構築</b>	<b>5</b>
<b>第I章 小学校社会科授業における経済的な学習内容の課題と その改善の方向性</b>	<b>5</b>
第1節 社会科授業における「社会事象の経済学的な説明」	5
1 社会科授業における「説明」	5
2 社会科授業における「社会事象の経済学的な説明」の定義と構造	10
3 小学校社会科授業において「社会事象の経済学的な説明」をめざす意義	14
第2節 小学校社会科授業における経済的な学習内容の課題	18
1 小学校指導書社会編と小学校学習指導要領解説社会編における 経済的な学習内容の課題	18
2 小学校社会科先行授業における経済的な学習内容の課題	40
第3節 小学校社会科授業における経済的な学習内容の改善の方向性	58
1 小学校社会科授業における経済的な学習内容の課題の明確化	58
2 本研究の意義	61
3 価格理論を組み込むことによる経済的な学習内容の精緻化	61
<b>第II章 価格理論を組み込んだ小学校社会科内容構成論</b>	<b>63</b>
第1節 価格理論の概要と構造	63
1 価格理論における家計行動の概要	63
2 価格理論における企業行動の概要	66
3 価格理論の構造と経済的合理性の関係	71
第2節 価格理論の小学校社会科授業内容への変換	77
1 価格理論を組み込んだ教材と子どもとの近接化	77
2 価格理論を組み込んだ小学校社会科授業における検証資料の作成	84
3 価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法の構造化	86
第3節 価格理論を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成	89
1 利潤概念を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成	89
2 リスク概念を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成	95
3 需要・供給理論を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成	105
4 費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成	118

<b>第Ⅱ部</b>	<b>価格理論を組み込んだ小学校社会科授業の開発</b>	133
<b>第Ⅲ章</b>	<b>利潤概念を組み込んだ小学校地域学習の開発</b>	133
第1節	第4学年社会科授業モデル「兵庫県南あわじ市のレタス作りとたまねぎ作り」の開発	133
第2節	授業実践の分析と検討	142
<b>第Ⅳ章</b>	<b>リスク概念を組み込んだ小学校産業学習の開発</b>	144
第1節	第5学年社会科授業モデル「高知県のナス作り」の開発	144
第2節	授業実践の分析と検討	160
<b>第Ⅴ章</b>	<b>需要・供給理論を組み込んだ小学校歴史学習の開発</b>	164
第1節	第6学年社会科授業モデル「大正時代の米価上昇」の開発	164
第2節	授業実践の分析と検討	175
<b>第Ⅵ章</b>	<b>費用・便益理論を組み込んだ小学校公民学習の開発</b>	177
第1節	第6学年社会科授業モデル「名塩道路の開通と政治の働き」の開発	177
第2節	授業実践の分析と検討	187
<b>終章</b>	<b>研究の成果と課題</b>	189
第1節	研究の成果	189
第2節	今後の課題	192
 「謝辞」		
 「資料編」		
	・平成元年版小学校指導書社会編分析票	1
	・平成10年版小学校学習指導要領解説社会編分析票	7
	・平成20年版小学校学習指導要領解説社会編分析票	15
	・平成29年版小学校学習指導要領解説社会編分析票	21
	・小学校社会科先行授業分析票	29

## 序章 研究の目的、意義と方法

### 第1節 研究の目的と意義

#### 1 研究の目的

本研究の目的は、経済分析を行う上で不可欠な「価格理論」を組み込み、子どもが社会事象を経済学的に説明できる小学校社会科授業を開発することである。

社会科授業における「社会事象の経済学的な説明」を定義し、その構造を示す。そして、経済的な学習内容を精緻化するための価格理論を、小学校社会科授業の内容に変換する方法を明らかにする。その上で、価格理論における利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業を開発し、社会事象の経済学的な説明を促す有効性を検証する。

このような研究過程を経て得られた研究成果を、全国の小学校現場における授業実践の質的向上につなげる。また、社会認識形成を目標の一つとする社会科教育に、新たな可能性を提示する。

#### 2 研究の意義

経済的な学習内容を取り扱った小学校社会科授業の問題は、次の2点である。

- (1) 社会認識の形成をめざし、社会事象を多面的に説明する小学校社会科授業が、日々開発、実践されている。しかし、社会事象の経済学的な説明に関しては、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が取り扱われていない。
- (2) 小学校社会科授業には、経済的な学習内容が含まれているものの、経済に関する用語のみが使用され、用語の内容は自明のものとして取り扱われている。したがって、授業者も子どもも、経済に関する用語の内容を正確に理解せず、誤解したまま使用し続けることが危惧される。

本研究の意義は、価格理論における利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を組み込み、子どもが社会事象を経済学的に説明できる小学校社会科授業を開発することで、上記の問題(1)及び(2)を乗り越えられることである。

本研究における成果は、全国の小学校現場における授業実践の質的向上に資するものとなる。また、社会認識形成を目標の一つとする社会科教育に、新たな可能性を提示することができる。



## 序章

### 第2節 研究の方法と論文の構成

#### 1 研究の方法

本研究は、次に示す6点の方法で行う。

- (1) 社会科教育学の研究成果を基に、社会事象の経済学的な説明を定義し、その構造を明らかにする。また、社会科授業において社会事象の経済学的な説明をめざす意義を示す。(第I章第1節)
- (2) 平成元年版小学校指導書社会編、平成10年版、平成20年版、平成29年版小学校学習指導要領解説社会編の記述及び小学校社会科先行授業を対象として分析し、経済的な学習内容の課題を抽出する。さらに、経済的な学習内容の課題を改善する方向性を示す。(第I章第2節と第3節)
- (3) 経済学の研究成果を基に、価格理論の概要を整理し、その構造を明らかにする。(第II章第1節)
- (4) 社会科教育学の研究成果を基に、価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法を明らかにする。(第II章第2節)
- (5) (4)において明らかとなった方法を基に、利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を小学校社会科授業の内容に変換する。そして、それぞれの経済概念を組み込んだ小学校社会科授業の内容を構成する。(第II章第3節)
- (6) (5)の内容構成を基に、利潤概念を組み込んだ小学校地域学習、リスク概念を組み込んだ小学校産業学習、需要・供給理論を組み込んだ小学校歴史学習、費用・便益理論を組み込んだ小学校公民学習の授業モデルをそれぞれ開発する。そして、授業実践の結果を分析、検討し、社会事象の経済学的な説明を促すという点において有効であったかを検証する。(第III章、第IV章、第V章、第VI章)

#### 2 論文の構成

本論文の題目と構成は、次に示すとおりである。

##### (1) 題目

価格理論を組み込んだ小学校社会科授業開発研究  
—社会事象の経済学的な説明をめざして—

## 序章

### (2) 論文の構成

序章 研究の目的、意義と方法

第Ⅰ部 価格理論を組み込んだ小学校社会科内容構成論の構築

第Ⅰ章 小学校社会科授業における経済的な学習内容の課題とその改善の方向性

第Ⅱ章 価格理論を組み込んだ小学校社会科内容構成論

第Ⅱ部 価格理論を組み込んだ小学校社会科授業の開発

第Ⅲ章 利潤概念を組み込んだ小学校地域学習の開発

第Ⅳ章 リスク概念を組み込んだ小学校産業学習の開発

第Ⅴ章 需要・供給理論を組み込んだ小学校歴史学習の開発

第Ⅵ章 費用・便益理論を組み込んだ小学校公民学習の開発

終章 研究の成果と課題

序章では、本研究の目的、意義と方法について論じる。

第Ⅰ章では、小学校社会科授業における経済的な学習内容の課題とその改善の方向性について論じる。第1節では、社会科授業における「社会事象の経済学的な説明」を定義し、その構造を明らかにする。また、社会科授業において、社会事象の経済学的な説明をめざす意義を示す。第2節では、小学校学習指導要領〔社会〕に対応した解説編や指導書及び本研究に関する小学校社会科先行授業を分析し、経済的な学習内容の課題を抽出する。第3節では、抽出された経済的な学習内容の課題を考察し、改善の方向性を示す。

第Ⅱ章では、第Ⅰ章で論じた内容を基に、価格理論を組み込んだ小学校社会科内容構成論を示す。第1節では、価格理論の概要を整理し、その構造を明らかにする。第2節では、価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法について明らかにする。第3節では、価格理論における利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を変換し、小学校社会科授業の内容を構成する。

第Ⅲ章では、利潤概念を組み込んだ小学校地域学習を開発する。第1節では、利潤概念を組み込んだ第4学年社会科「兵庫県南あわじ市のレタス作りとたまねぎ作り」の授業モデルを開発する。第2節では、授業実践の結果を分析、検討する。

第Ⅳ章では、リスク概念を組み込んだ小学校産業学習を開発する。第1節では、リスク概念を組み込んだ第5学年社会科「高知県のナス作り」の授業モデルを開発する。第2節では、授業実践の結果を分析、検討する。

第Ⅴ章では、需要・供給理論を組み込んだ小学校歴史学習を開発する。第1節では、第6学年社会科「大正時代の米価上昇」の授業モデルを開発する。第2節では、授業実践の結果を分析、検討する。

## 序章

第VI章では、費用・便益理論を組み込んだ小学校公民学習を開発する。第1節では、費用・便益理論を組み込んだ第6学年社会科「名塩道路の開通と政治の働き」の授業モデルを開発する。第2節では、授業実践の結果を分析、検討する。

終章では、本研究の成果と今後の課題を整理する。

## 第 I 部 価格理論を組み込んだ小学校社会科内容構成論の構築

第 I 部では、価格理論を組み込んだ小学校社会科内容構成論を構築する。

第 I 章では、小学校社会科授業における経済的な学習内容の課題を明らかにし、改善の方向性を示す。第 II 章では、明らかにした改善の方向性を基に、価格理論を組み込んだ小学校社会科内容構成論について検討する。

### 第 I 章 小学校社会科授業における経済的な学習内容の課題とその改善の方向性

本章では、小学校社会科授業における経済的な学習内容の課題とその改善の方向性について論じる。

第 1 節では、社会科授業における「社会事象の経済学的な説明」を定義し、その構造を明らかにする。また、社会科授業において、社会事象の経済学的な説明をめざす意義を示す。第 2 節では、小学校学習指導要領 [社会] に対応した解説編や指導書及び本研究に関する小学校社会科先行授業を分析し、経済的な学習内容の課題を抽出する。第 3 節では、抽出された経済的な学習内容の課題を検討し、改善の方向性を示す。

#### 第 1 節 社会科授業における「社会事象の経済学的な説明」

本研究の目的は、子どもが社会事象を経済学的に説明できる小学校社会科授業の開発である。本節では、研究の目的をより明確にするため、社会事象の経済学的な説明について検討する。

第 1 項では、社会科授業における「説明」について論じる。第 2 項では、社会科授業における「社会事象の経済学的な説明」を定義し、その構造を示す。第 3 項では、小学校社会科授業において、社会事象の経済学的な説明をめざす意義について論じる。

##### 1 社会科授業における「説明」

社会科授業における「説明」について検討する。草原和博は、子どもが説明する社会科授業の教育内容について、次のように述べている。

子どもの常識のソトに位置する、しかし指導を尽くせば十分に引き上げ可能な「最近接領域」の見方・考え方を確定する。一般には、目的と手段（…のために…する）、条件と状況（…の場合は…になる）原因と結果（…なので…なった）の関係で命題化する<sup>(1)</sup>。（下線：松浪）

すなわち、社会科授業における説明とは、子どもが社会事象を目的－手段、条件－状況、原因－結果の関係で表現し、教育内容を習得することである。また、「世間一般で使用されている『説明』は、事実の描写や確認にとどまる程度のもの<sup>(2)</sup>」のため、社会科授業における説明とは、明確に峻別する必要がある。

本項では、上記の関係を、(1)原因－結果、(2)目的－手段、(3)条件－状況の順で論じる。

## 第 I 章 第 1 節

### (1) 社会科授業における「原因－結果」

岩田一彦は、社会科授業における原因－結果の関係について、次のように述べている。

社会諸科学の研究成果は、原因と結果の關係の明示的表現によって示される。社会科授業の中心に因果關係の学習がおかれているのは、社会諸科学の研究成果を習得させようとしているからである。社会諸科学の研究成果としての因果關係的説明は、小学校の社会科にも十分組み入れていくことができる<sup>(3)</sup>。

社会諸科学の研究成果が組み込まれる社会科授業は、社会事象間を原因－結果の關係(因果關係)で説明することが中核となる。

荻谷剛彦は、原因－結果の關係を成立させる条件として、次の 3 点をあげている。

- ① 原因は結果よりも時間的に先行していなければならない(原因の時間的先行)。
- ② 原因とみなされている現象も、結果とみなされている現象も、ともに変化しているのが確認できている(共変關係)。
- ③ 原因以外に重要と思われる他の要因が影響していない(他の条件の同一性)<sup>(4)</sup>。

原因－結果の關係は、①～③の条件を満たすことで成立する。しかし、本研究において開発する社会科授業では、「③他の条件との同一性」は取り扱わないこととする。なぜなら、理論研究の場合とは異なり、現実の社会事象の原因は複数存在するため、現実社会を対象とする社会科授業で、原因以外を一定とすることは困難だからである。

しかし、社会事象の原因を究明する際、候補となる事象は無限に存在する。このことについて、「自宅の火災」を例に取り上げて検討する。自宅で火災が発生した場合、火災発生という結果よりも、原因は時間的に先行する。したがって、自宅が建設されてから、火災発生直前までの事象は、すべて原因の候補となる。「ガスコンロを付けたままにしていた。」「タバコを消さずに寝た。」というものだけではなく、極端な例を示すと、「玄関の掃除をした。」「5年前に外壁を塗り直した。」という事象まで、すべて原因の候補となってしまう。これらの無限にある原因候補を絞り込む手段について、波頭亮は次のように述べている。

つまり、事象と事象の間には意味的連動性が存在するはずだという前提に立って、経験に基づいて意味的連動性がないと認定される事象については、原因特定化の際の候補から予め除外することができるのである<sup>(5)</sup>。

すなわち、原因－結果間の意味的連動性を考慮することにより、「玄関の掃除をした。」「5年前に外壁を塗り直した。」というありえない原因の候補を、取り除くことができる。

## 第 I 章 第 1 節

社会科授業では、資料を読み取ることで、原因－結果の関係を明らかにする。子どもは、資料を読み取る際、原因－結果間の意味的連動性を考慮し、ありえない情報を取捨選択する能力が求められる。

以上、検討してきた結果、本研究では因果関係成立の条件として、①原因の時間的先行、②共変関係、③意味的連動性の 3 点を取り扱うこととする。

さらに、社会科授業で子どもに因果関係の説明を求めるならば、問いのかたちも重要となる。森分孝治は、説明を求める問いについて、次のように述べている。

一般に科学的研究は、「なぜ」と問うことから始まるといわれるように、これら三つの問いの内（「何（What）」「いかに（How）」「なぜ（Why）」：松浪）、「なぜ」という問いのみが科学的説明を求める問いと考えられている。これは、科学的説明が多くの場合、ある事象が起こったことの、あるいは、法則が成立することの原因あるいは理由を明らかにすることであり、そのような科学的説明を求める問いは「なぜ」という問いであって、「何」あるいは「いかに」という問いではないからである<sup>6)</sup>。

つまり、子どもに「なぜ（Why）」と問うことにより、原因を探究させることが可能となる。なお、探究は、科学的研究の順序を基に、仮説－検証過程を中核として実施される。

以上、論じてきたことを基に、社会科授業における原因－結果の関係を整理すると、図 I-1-1 のようになる。

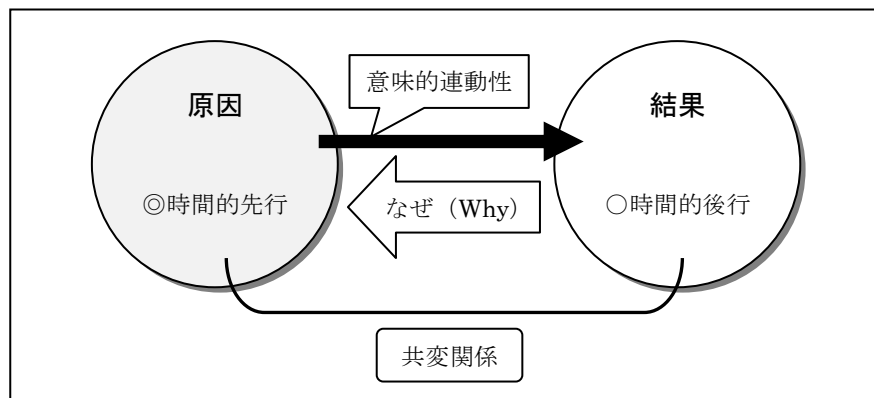


図 I-1-1 社会科授業における原因－結果の関係

図中の黒矢印は、原因－結果間の因果の方向を示している。また、白矢印は、結果について「なぜ」と問い、原因を究明するという社会科授業の構成を表している。

### (2) 社会科授業における「目的－手段」

目的－手段の関係は、機能的説明あるいは目的論的説明として、説明の型の一つに分類される。寺田篤弘は、機能的説明（目的論的説明）について、次のように述べている。

## 第 I 章 第 1 節

社会事象の結果を原因として説明するのが、機能的説明あるいは目的論的説明といわれているものである。因果関係のところでも述べたように、一般に説明は原因が時間的に説明しようとしている社会事象の前にこなくてはならない<sup>(7)</sup>。

目的—手段の関係を検討するため、「教師になるために猛勉強する。」という例文を示す。この場合、教師になるというゴールが未来にあり、目的実現のために現在、猛勉強をしている。つまり、猛勉強（手段）という現在の事象を説明している目的が、時間的には後行する。したがって、因果関係は成立していない。

しかし、本研究では、目的—手段の関係も説明に含める。なぜなら、目的—手段は、次に示す 2 点の方法で、原因—結果の関係に捉え直すことができるからである。

1 点目は、目的を欲望と捉える方法である。たしかに、教師になるという目的は、未来のものとなる。しかし、現在の猛勉強は、教師になりたいという現在の欲望で説明できる。つまり、「今、教師になりたいと思っているから猛勉強する。」と捉え直すことで、目的—手段を原因—結果の関係に転化できる<sup>(8)</sup>。

2 点目は、目的—手段—成果の関係で捉える方法である。教師になるという目的が実現し、成果となれば、「猛勉強したから教師になれた。」と捉え直すことができる。つまり、目的—手段—成果は、原因—結果の関係に転化できる<sup>(9)</sup>。

また、「『なぜ、そのような工夫や努力（手段：松浪）をしているのか』を探究させることによって<sup>(10)</sup>」、子どもは目的—手段の関係を説明することができる。したがって、実際の社会科授業では、手段に対して「なぜ」と問うことになる。

以上、論じてきたことを基に、社会科授業における目的—手段の関係を整理すると、図 I-1-2 のようになる。

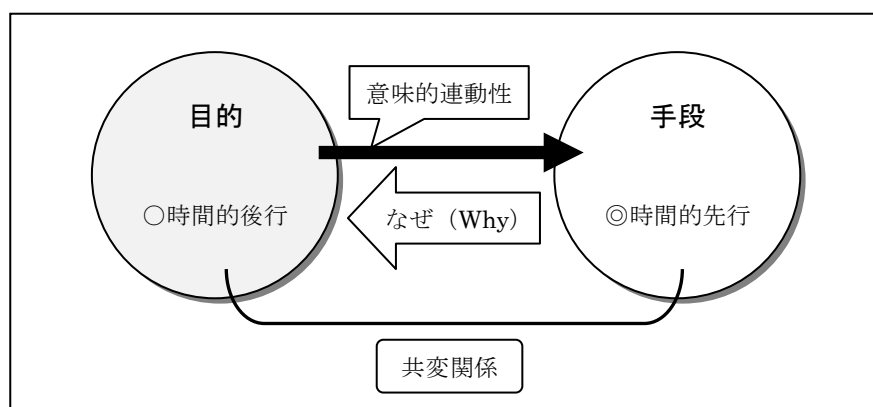


図 I-1-2 社会科授業における目的—手段の関係

時間的順序は逆となるものの、共変関係や意味的連動性は、原因—結果の関係と同じく不可欠の条件となる。

(3) 社会科授業における「条件－状況」

条件－状況は、「…の場合は、…になる<sup>(11)</sup>。」という関係で表される。この関係も、原因と同じく、条件が状況に対して時間的に先行する。また、共変関係も確認できる。そして、原因－結果や目的－手段のように、社会事象間を説明している。そこで、本研究では、条件－状況の関係も説明に含める。

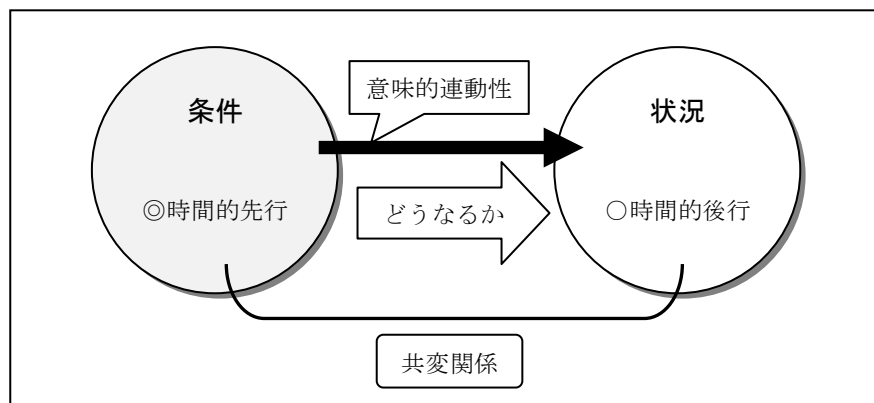
しかし、実際の授業では、問いのかたちに留意する必要がある。原因－結果では、結果となる社会事象に「なぜ」と問いかけ、原因を究明した。原因は、結果よりも過去の社会事象となる。つまり、「なぜ」と問うことで、時間的には後退して原因が探究される。

一方、条件－状況の問いのかたちについて、岡崎誠司は次のように述べている。

「なぜ」発問によって、子どもは事象・出来事の過去の原因を推論することができる。また、「どうなるか」発問によって、子どもは、事象・出来事の将来を予測することができる<sup>(12)</sup>。

条件－状況の関係では、条件となる社会事象に「どうなるか」と問いかけ、状況を予測する。すなわち、時間的には前進して状況が予測されることとなる。このように、原因－結果と条件－状況では、時間の進行方向が異なる。条件－状況の関係を用いて社会科授業を開発するならば、この相違点に留意することが不可欠となる。

以上、論じてきたことを基に、社会科授業における条件－状況の関係を整理すると、図I－1－3のようになる。



図I－1－3 社会科授業における条件－状況の関係

条件－状況は、原因－結果と時間の進行方向が異なるものの、条件の時間的先行、共変関係、意味的連動性は不可欠の条件となる。その点で、原因－結果の関係と共通している。



## 2 社会科授業における「社会事象の経済学的な説明」の定義と構造

第 1 項では、社会科授業における説明を 3 パターン示した（原因－結果，目的－手段，条件－状況）。ここでは、社会科授業における社会事象の経済学的な説明を定義し、その構造を明らかにする。

まずは、社会科授業における「経済学的な説明」について検討する。社会科授業の目標の一つである社会認識を形成するためには、経済学を含む社会諸科学の研究成果を、教育内容に反映させる必要がある。本研究で開発する小学校社会科授業においても、経済学の研究成果を組み込み、社会事象間の関係を説明することが目標となる。したがって、本研究がめざす経済学的な説明とは、「経済学の研究成果が組み込まれた説明」となる。

しかし、経済学の研究成果が組み込まれた説明とは、どのような説明なのだろうか。この問いを解明するため、「経済学の研究成果」について検討する。佐藤章浩は、経済学の研究成果に関して、次のように述べている。

経済問題に直面したときに、その枠組みとなり得るのが、研究の蓄積により系統立てられた経済概念である<sup>(13)</sup>。

経済概念は、経済学の研究の蓄積により系統立てられている。すなわち、経済概念は、経済学の研究成果の一つといえる。したがって、経済学の研究成果が組み込まれた説明には、経済概念の内容が反映されていると判断できる。

さらに、経済概念を明らかにするため、概念について検討する。概念とは、「事物・事象の共通性や規則性に関する知識<sup>(14)</sup>」である。したがって、特定の具体的な社会事象という限定を外しても通用する法則性をもつ。寺田は、概念について次のように述べている。

「社会学をする。」とは普通、言葉によっておこなう。この言葉の中で、その学問特有な言葉を術語、専門用語、用語といっている。この用語が示す内容が概念である<sup>(15)</sup>。（下線：松浪）

すなわち、用語が示す内容が概念であり、用語そのものは概念ではない。社会科授業においても、経済に関する用語だけを取り扱うならば、経済概念を組み込んだ説明にはならない。例えば、ある社会事象に対して、「利潤が増えるから。」という原因を示したとする。しかし、利潤概念の内容を理解していなければ、「利潤」という用語のみが先行した短絡的な説明となる。したがって、経済学的な説明では、用語だけではなく用語の内容を組み込むことが不可欠となる。

## 第 I 章 第 1 節

さらに、用語の内容について検討する。経済概念は、経済学の研究成果であるとともに、特定の具体的な社会事象という限定を外しても通用する法則性をもつ。つまり、経済概念を示す用語の内容にも、法則性が組み込まれる。したがって、用語の内容を明らかにするためには、法則性について論じる必要がある。

法則とは、一定の条件の下で、ある事象と他の事象との間に成立する関係である。すなわち、法則性とは、事象そのものではなく事象間の「関係」をさす。岩田は、社会科授業における法則性の例を、次のように示している。

法則性…中枢都市には交通網が集中する。高速道路の発達が、地方での活魚生産を盛んにした<sup>(16)</sup>。

「高速道路の発達－活魚生産の活発化」と、社会事象間の関係が示されている。また、法則性には、概念間の関係も含まれる。例えば、利潤を求める公式は、「売上－費用＝利潤」で表される。この公式には、利潤、売上、費用それぞれの概念間の関係が示されている。すなわち、法則性は、「社会事象間や概念間に成立する関係」と表現できる。

そして、これまでに論じたことから、経済概念とは、「経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容」と表現できる。

次に、経済学的な説明の構造について検討する。経済学的な説明とは、「経済概念（経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容）が組み込まれた説明」であった。つまり、第 1 項で示した説明を構成する要素（原因－結果、目的－手段、条件－状況）に、経済概念が組み込まれる。ここでは、原因－結果の関係を例として、経済学的な説明の構造を表現し、図 I-1-4 に示す。

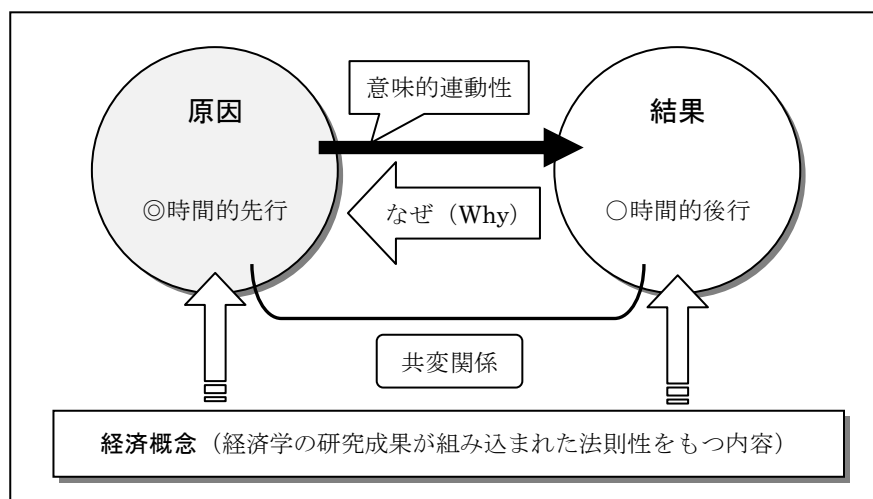


図 I-1-4 社会科授業における経済学的な説明の構造（原因－結果の場合）

## 第 I 章 第 1 節

経済概念が、説明を構成する要素（原因や結果）に組み込まれる。そのパターンは、次の 3 点である。

- ① 経済概念が、原因に組み込まれる。
- ② 経済概念が、結果に組み込まれる。
- ③ 経済概念が、原因と結果の双方に組み込まれる。

③のパターンがあるため、原因と結果の双方に、経済概念の枠から矢印を引いている。なお、教材によっては、原因と結果にそれぞれ別の経済概念が組み込まれることもある。また、複数の経済概念が取り扱われる社会科授業もありえる。

図 I - 1 - 4 に、小学校社会科授業の具体的な内容をあてはめ、図 I - 1 - 5 に示す。なお、例として、経済概念の一つである利潤を取り扱う。

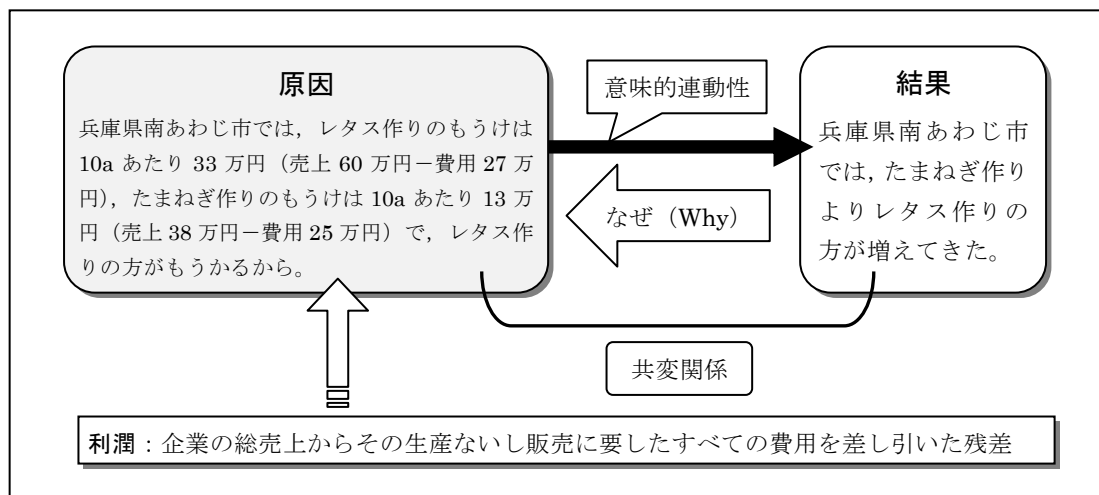


図 I - 1 - 5 小学校社会科授業における経済学的な説明の例（原因－結果の場合）<sup>(17)</sup>

兵庫県南あわじ市では、たまねぎ作りよりレタス作りの方が増えてきた。この社会事象を、利潤概念を用いて説明している。図 I - 1 - 5 のケースでは、利潤の枠から原因のみに矢印を引いている。なぜなら、結果には利潤の内容が組み込まれていないからである。

以上、論じてきたことから、本研究における社会事象の経済学的な説明を、次のように定義する。

社会事象の経済学的な説明とは、経済概念（経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容）を組み込んで、社会事象間を原因－結果、目的－手段、条件－状況の関係で示した言明である。

また、社会科授業における社会事象の経済学的な説明の構造を、図 I - 1 - 6 に示す。

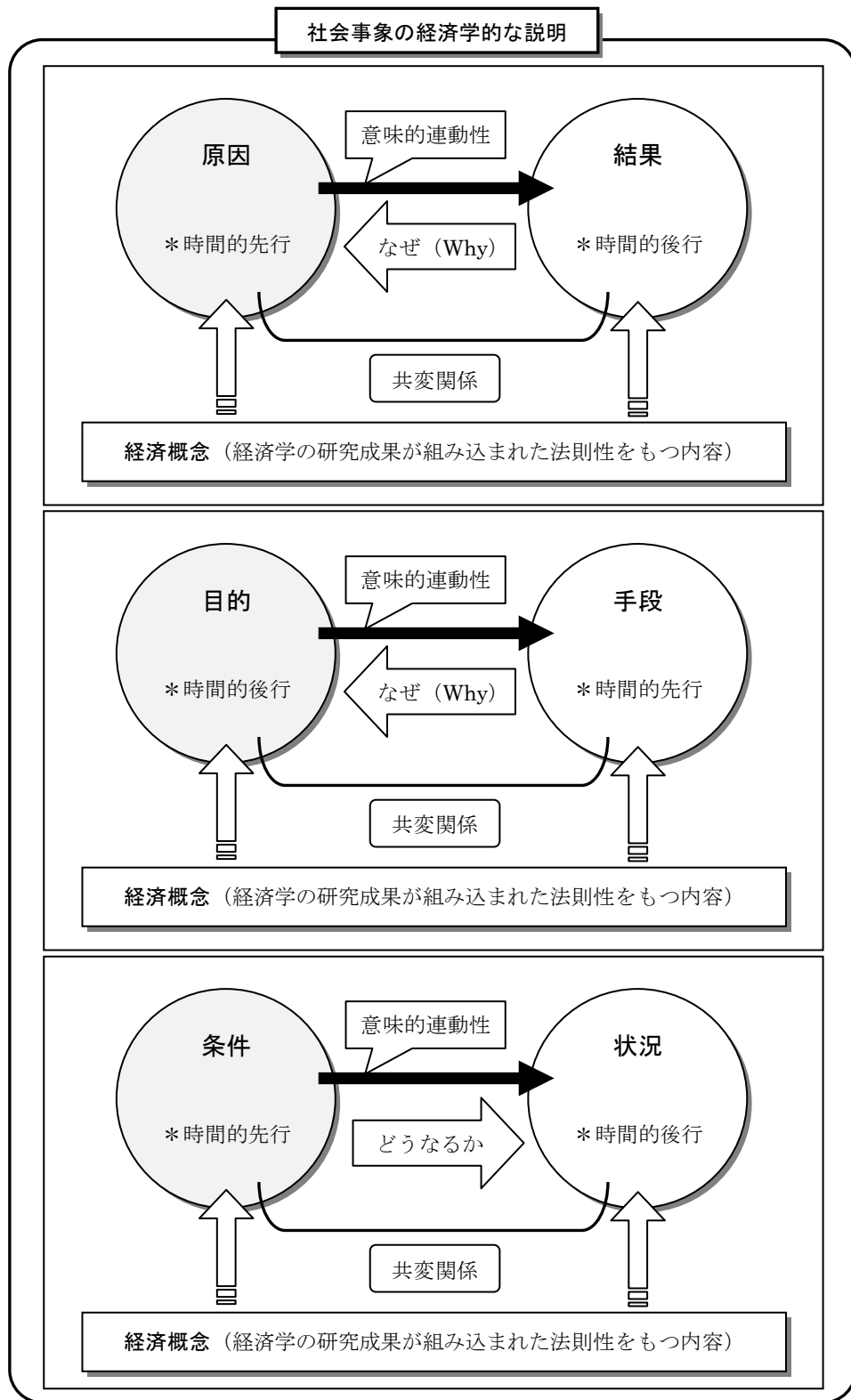


図 I - 1 - 6 社会科授業における社会事象の経済学的な説明の構造

原因—結果，目的—手段，条件—状況いずれかのパターンで社会科授業を開発することにより，子どもは社会事象を経済学的に説明することができる。

### 3 小学校社会科授業において「社会事象の経済学的な説明」をめざす意義

本項では、小学校社会科授業において社会事象の経済学的な説明をめざす意義について、検討する。

まずは、小学校社会科授業で、社会事象の説明をめざす意義について論じる。社会科授業は、社会認識形成をとおした市民的資質の育成を目標としている。そして、社会認識形成とは、「社会のしくみが分かる<sup>(18)</sup>」ことである。岩田は、社会科授業における「分かる」について、次のように述べている。

社会科で「分かる」とは、「社会事象間の関係」を知ることである。なかでも、「社会事象間の因果関係」を知ることが、本質的分かり方である。この社会事象間の関係は、子どもが問題意識を持ち、問題を探究していった結果として習得される<sup>(19)</sup>。

社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況の関係で説明することにより、社会のしくみが分かる。すなわち、社会科授業の目標の一つである社会認識形成が実現する。したがって、小学校社会科授業において社会事象の説明をめざすことは、有意義といえる。

次に、小学校社会科授業で、社会事象の経済学的な説明をめざす意義について論じる。ここでは、社会科教育学と認知心理学の 2 点から検討する。

1 点目は、社会科教育学の視点からの検討である。小学校社会科授業が学習対象とする現実社会は、あらゆる分野において経済活動が行われている。したがって、経済的な学習内容を授業で取り扱わなければ、社会認識を形成することはできない。

しかし、現在の小学校社会科授業では、経済的な学習内容が適切に取り扱われているとは言いがたい。例えば、産業学習の場合、産業に従事する人々の工夫や努力が、授業で取り扱われる。しかし、なぜ、そのような工夫を行うのかという内容が取り扱われないため、子どもは、「働く人々はすごいな。」という感想をもち、共感的な理解にとどまってしまう。もちろん、産業を学習する上で、共感的な理解は重要である。しかし、それだけでは、社会のしくみは分からない。そこで、産業に従事する人々による工夫の意図・目的を探究する。この手立てにより、売上を増やすため、リスクを回避するためといった経済学的な内容が取り扱われる。工夫や努力の事実を知るだけでなく、その意図・目的を経済学的に説明することにより、子どもの社会認識は深化、拡大する。

佐和隆光は、別の視点（経済に対する日本人の価値観）から、次のように述べている。

たしかに、古来、この国では、「お金は汚いもの」、「お金のことを口にするのは卑しいこと」といった通念が、あまねくゆきわたっていました。そのためもあって、子どもに経済学を教えることなど筋違いもはなはだしいと考える人が少なくありません<sup>(20)</sup>。

## 第 I 章 第 1 節

お金は汚いものという通念が、小学校社会科授業から経済的な学習内容を遠ざけている。しかし、子どもは将来、財・サービスの生産者や消費者として、経済活動を行う。その際、経済概念を習得し、活用できなければ、不利益を被るおそれがある。したがって、小学校段階で経済概念を取り扱い、社会事象を経済学的に説明する学習経験を積んでおくことは、有意義といえる。

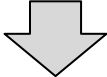
2 点目は、認知心理学の視点からの検討である。呂光暁は、子どもの経済理解について次のように述べている。

児童の経済理解は、学校教育における経済学習だけではなく、貯蓄や購買といった日常経験から強い影響を受ける。このような日常経験によってもたらされるのが「素朴理論」(naive theory)である。素朴理論とは、人が経験によって形成した物事や事象及びそれらの関係性に関する知識体系である。また、素朴理論には一般に、科学的に誤った不適切な内容と、専門領域の学問体系に近く、科学的と言える内容が共に含まれている<sup>(21)</sup>。

子どもは、社会科授業を受ける以前から、日常生活の経験により経済に関する素朴理論を獲得している。それらの素朴理論は、科学的で正確な内容と誤った不適切な内容が混在している。

例えば、子どもは日常生活の買い物経験において、小売店の商品には値段が付けられていることを知っている。しかし、小学校第 4 学年 27 名を対象として、商品の値段に関するアンケートを取ると、図 I - 1 - 7 に示す結果となった<sup>(22)</sup>。

質問：果物屋が、100 円でりんごを仕入れました。さて、この果物屋は、何円でお客さんにりんごを売るでしょう。A, B, C の中から考えられる答えを一つ選びましょう。  
A, 100 円より安い値段 (50 円くらい) B, 100 円 C, 100 円より高い値段 (150 円くらい)



A	B	C
7% (2 人/27 人)	52% (14 人/27 人)	41% (11 人/27 人)

図 I - 1 - 7 商品の値段に関するアンケート

正解である C を選択した子どもは、41% (11 人/27 人) であった。A を選択した子どもは、「安く売った方が、お客さんは喜んでくれる。」という理由をあげている。また、B を選択した子どもは、「100 円でりんごを仕入れているのだから、同じ値段で売らなければ不公平になる。」という理由をあげている。つまり、59% (16 人/27 人) の子どもは、小売店の利潤について理解していない。そして、顧客の喜びや公平という基準により商品の値段が決定するという誤った認識を形成していることが明らかとなった。

## 第 I 章 第 1 節

これらの素朴理論は、子どもが日常生活の経験から実感的に獲得しているため、容易には修正されないという特性がある。経済の学習が本格的に実施されるのは、中学校第 3 学年の公民的分野経済単元である。それまでに、経済に関する学習がなければ、誤った不適切な内容を含む素朴概念は、子どもの中に強く固定される。「経済理解に関する素朴理論が、7-8 歳の時期に形成されることを考慮すると<sup>(23)</sup>」、小学校段階で経済概念を取り扱うことは有効といえる。なぜなら、素朴理論に含まれる誤った不適切な内容を、早期の段階で修正できるからである。したがって、小学校社会科授業において、社会事象の経済学的な説明をめざすことは有意義といえる。

### 【註及び引用・参考文献】

- (1) 草原和博「説明としての社会科の授業づくりと評価」全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書 2011 p.30
- (2) 船田次郎「歴史事象の因果関係を『説明』する中学校社会科歴史授業の開発－単元『武士の台頭と武家政権の成立』における『説明モデル』の作成を通して－」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 24 号 2012 p.61
- (3) 岩田一彦「社会諸科学と教材」岩田一彦編著『小学校社会科の授業設計』東京書籍 1991 p.25
- (4) 荻谷剛彦『知的複眼思考法 誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社+α 文庫 2002.5 pp.202-203
- (5) 波頭亮『思考・論理・分析「正しく考え、正しく分かること」の理論と実践』産業能率大学出版部 2004 p.63
- (6) 森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書 1978 p.91
- (7) 寺田篤弘『道具としての社会学理論』新泉社 1996 p.15
- (8) 目的を欲望と捉え、原因－結果の關係に転化する方法については、次の文献を参照した。  
リチャード・S・ラドナー著 塩原勉訳『社会科学の哲学』1968 p.132
- (9) 目的－手段－成果と捉え、原因－結果の關係に転化する方法については、次の文献を参照した。  
岩田一彦「産業学習の内容」岩田一彦編著『小学校産業学習の理論と授業』東京書籍 1991 p.75
- (10) 米田豊「産業学習：人々の工夫や努力の科学化」全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書 2011 p.59
- (11) 前掲(1) p.30

## 第 I 章 第 1 節

- (12) 条件－状況の問いのかたちについては、次の文献を参照した。  
岡崎誠司『『説明』型社会科授業の特色と問題』岡崎誠司編著『社会科授業 4 タイプから仮説吟味学習へー「主体的・対話的で深い学び」の実現ー』風間書房 2018 p.51
- (13) 佐藤章浩「小学校社会科における経済概念の形成ー第 3 学年単元『スーパーマーケットのひみつをさぐる』を事例にー」全国社会科教育学会『社会科研究』第 73 号 2010 p.41
- (14) 中村哲「概念学習」森分孝治 片上宗二編『社会科 重要用語 300 の基礎知識』明治図書 2000 p.73
- (15) 寺田篤弘『社会学の方法と理論』新泉社 1991 p.26
- (16) 岩田一彦『社会科固有の授業理論 30 の提言ー総合的学習との関係を明確にする視点』明治図書 2001 p.80
- (17) 利潤の内容については、次の文献を参照した。  
「利潤」金森久雄 荒憲治郎 森口親司編『経済辞典 第 5 版』有斐閣 2013 p.1283
- (18) 米田豊『『習得・活用・探究』の授業づくりと評価問題』米田豊編著『「習得・活用・探究」の社会科授業&評価問題プラン』明治図書 2011 p.11
- (19) 岩田一彦「問い・知識の分析と授業設計」岩田一彦編著『小学校社会科の授業設計』東京書籍 1991 p.35
- (20) ルイズ・アームストロング 佐和隆光訳『レモンをお金にかえる法』河出書房新社 2005
- (21) 呂光暁「児童の素朴理論を生かした小学校社会科経済学習ー科学的社會認識の形成を目指してー」日本社会科教育学会『社会科教育研究』第 124 号 2015 p.14
- (22) アンケートは、西宮市立名塩小学校第 4 学年 A 組を対象とし、2018 年 4 月 18 日に実施した。なお、質問内容については、次の論文を参照した。  
麻柄啓一・小倉真由美『『お店のもうけ』概念の理解と教授』千葉大学教育学部附属教育実践研究指導センター『千葉大学教育実践研究』第 3 号 1996 p.13
- (23) 呂光暁『『概念変化』を通して経済に関する素朴理論を科学的理論に転換させる試みー単元『米の値段』（小学校第 5 学年）を例としてー』日本公民教育学会『公民教育研究』第 21 号 2013 p.64



## 第 2 節 小学校社会科授業における経済的な学習内容の課題

第 1 節では、研究の目的をより明確にするため、社会科授業における「社会事象の経済学的な説明」を定義し、その構造を明らかにした。また、社会科授業において、社会事象の経済学的な説明をめざす意義を示した。

本節では、第 1 節で論じた内容を基に、小学校社会科授業における経済的な学習内容の取り扱いを分析し、課題を抽出する。なお、分析の対象は、平成元年版小学校指導書社会編、平成 10 年版、平成 20 年版、平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編と、経済的な学習内容を取り扱った小学校社会科先行授業である。

第 1 項では、平成元年版小学校指導書社会編、平成 10 年版、平成 20 年版、平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編に示された記述を順に分析し、結果を考察する。第 2 項では、経済的な学習内容を取り扱った小学校社会科先行授業を分析し、結果を考察する。

### 1 小学校指導書社会編と小学校学習指導要領解説社会編における経済的な学習内容の課題

#### (1) 分析視点の設定

本研究では、子どもが社会事象を経済学的に説明できる小学校社会科授業の開発を目的としている。そして、第 1 節では、社会事象の経済学的な説明を、次のように定義した。

社会事象の経済学的な説明とは、経済概念（経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容）を組み込んで、社会事象間を原因－結果、目的－手段、条件－状況の関係で示した言明である。

ここでは、上記の定義や図 I－1－6 「社会科授業における社会事象の経済学的な説明の構造」を基に、平成元年版小学校指導書社会編（以降：H 元年版指導書）や平成 10 年版、平成 20 年版、平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編（以降：H10 年版解説編、H20 年版解説編、H29 年版解説編）の記述を分析するための視点を設定する。

分析視点は、次の 3 点を設定する。

【視点 1】社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

【視点 2】分析対象の記述における経済概念（経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容）の有無

【視点 3】経済概念の説明（原因－結果、目的－手段、条件－状況）への組み込まれ方

次頁以降で、それぞれの分析視点について論じる。

**【視点1】社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析**

社会科授業の説明には、原因－結果、目的－手段、条件－状況の3種類がある。H元年版指導書やH10年版、H20年版、H29年版の各解説編の記述から、次の2点を分析する。

- ① 原因－結果、目的－手段、条件－状況の関係で示された記述はあるか。
- ② ①があるならば、原因と結果、目的と手段、条件と状況は、それぞれどのような内容で構成されているのか。

**【視点2】分析対象の記述における経済概念（経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容）の有無**

社会事象の経済学的な説明には、経済概念が必要となる。経済概念とは、「経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容」である。また、法則性とは、「社会事象間や概念間に成立する関係」である。H元年版指導書やH10年版、H20年版、H29年版の各解説編の記述から、次の3点を分析する。

- ① 視点1－②で分析された記述には、経済に関する用語とその内容が含まれているか。
- ② ①で分析した経済に関する用語は、どのような法則性をもつのか<sup>①</sup>。
- ③ 視点1－②で分析された記述は、経済概念が組み込まれた説明といえるか<sup>②</sup>。

経済概念は、経済に関する用語そのものではなく、用語が示す内容である。そこで、①の分析において、経済に関する用語しか示されていないと判断した記述は、分析対象から除外する。

また、先に述べたように、経済概念は法則性をもつ内容が含まれていなければならない。そこで、②の分析では、経済に関する用語の意味を調査し、法則性の有無を明らかにする。経済に関する用語の意味は、辞典に示されている。そこで、次の2点の辞典を利用する。

A 大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典 第3版』岩波書店 1992

B 金森久雄 荒憲治郎 森口親司編『経済辞典 第5版』有斐閣 2013

Aは、経済学の分野で最も引用されている辞典のため採用した。また、Bは見出し語の数が多い（約20000語）という理由で採用した。

辞典に示された用語の意味を分析し、法則性の有無を判断する。ここでは、「宣伝」「輸送」を取り上げ、その分析例を、図I－2－1に示す。

## 第 I 章 第 2 節

### ① 宣伝（法則性有り）と判断できる場合）

経済学に関する用語	宣伝	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第5版』
経済学に関する用語の意味	情報の受け手の考えや行動を宣伝者の目標の方向に誘導し、特定の主義、主張を広めようとする計画的な情報伝達活動（②,p.745）	

↓ 法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）の抽出

意味に含まれる法則性	情報の受け手の考えや行動を宣伝者の目標の方向に誘導	特定の主義、主張の広まり
------------	---------------------------	--------------

### ② 輸送（法則性なし）と判断できる場合）

経済学に関する用語	輸送	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第5版』
経済学に関する用語の意味	交通のうち、人間と物の移動（①,p.399）	

↓ 法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）の抽出

意味に含まれる法則性	* 法則性なし	* 法則性なし
------------	---------	---------

図 I - 2 - 1 経済概念「宣伝（法則性有り）」と「輸送（法則性なし）」の分析例

本研究では、用語の意味から法則性が確認できなければ、経済概念にはならない。すなわち、「法則性なし」と判断した時点で、分析対象の記述には、経済概念が含まれないことが確定する。したがって、視点3の分析は行わない。

### 【視点3】経済概念の説明（原因－結果，目的－手段，条件－状況）への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方には、次の3パターンがある。

- A 原因（目的，条件）に組み込まれる。
- B 結果（手段，状況）に組み込まれる。
- C 原因と結果（目的と手段，条件と状況）の双方に組み込まれる。

以上のパターンをふまえ、H 元年版指導書や H10 年版，H20 年版，H29 年版の各解説編の記述から、次の1点を分析する。

- ① 視点2の分析により抽出された経済概念は、A,B,Cのうちどのパターンで説明に組み込まれているか（経済概念が説明に組み込まれていない場合は「D」とする）。

## 第 I 章 第 2 節

さらに、H 元年版指導書や H10 年版、H20 年版、H29 年版の各解説編から、分析対象の記述を選定する条件について補足する。分析対象は、視点 1-①の分析において原因-結果、目的-手段、条件-状況いずれかの関係が確認でき、視点 2-①の分析において経済に関する用語とその内容が示されていると判断した記述のみとする。なぜなら、上記の 2 点をクリアしていることが、社会事象の経済学的な説明を成立させるための最低条件と判断したからである。

### (2) 分析フレームワークの設定

(1) で論じたことを基に、分析フレームワークを作成し、次頁の図 I-2-2 に示す。また、分析の結果、次の 3 点の条件を満たしていれば、社会事象を経済学的に説明した記述と判断する。

- ① 視点 1 の分析により、H 元年版指導書や H10 年版、H20 年版、H29 年版の各解説編から収集した記述の中から、原因-結果、目的-手段、条件-状況いずれかの関係が確認できる。
- ② 視点 2 の分析により、経済概念（経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容）が、分析対象の記述に組み込まれていると判断できる。
- ③ 視点 3 の分析により、経済概念の説明への組み込まれ方が、次の 3 パターンのいずれかに該当していることが確認できる。
  - A 原因（目的、条件）に組み込まれる。
  - B 結果（手段、状況）に組み込まれる。
  - C 原因と結果（目的と手段、条件と状況）の双方に組み込まれる。



第 I 章 第 2 節

(3) 分析結果の整理と考察

まずは、H 元年版指導書、H10 年版、H20 年版、H29 年版の各解説編における分析結果を整理する。次に、分析結果について考察する。

① 分析結果の整理

分析の視点は、次の 3 点であった。

【視点 1】社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析
【視点 2】分析対象の記述における経済概念（経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容）の有無
【視点 3】経済概念の説明（原因－結果、目的－手段、条件－状況）への組み込まれ方

上記の視点 1～3 をふまえて、分析結果の一覧表を作成する。表 I－2－1（H 元年版指導書）、表 I－2－2（H10 年版解説編）、表 I－2－3（H20 年版解説編）、表 I－2－4（H29 年版解説編）に、それぞれの分析結果を示す。なお、実際の分析票については、〈資料編〉に掲載する。

表 I－2－1 H 元年版指導書の分析結果

No	分析対象の記述	関係	経済に関する用語	法則性の有無	経済概念の説明への組み込まれ方	判定：経済学的な説明といえるか
1	ちらしなどを配布したりして客を集める。	目的－手段	宣伝	○	目的にも手段にも組み込まれていない。	×
2	国民の食料を確保し、水産業を発展させるためには、水産資源の保護や育成が大切である。	目的－手段	資源	×		×
3	工業生産では、原料や燃料を必要とするばかりではなく、様々な加工を行って製品を造るので、生産の過程で各種の廃棄物を排出することになる。	原因－結果	工業	○	原因に組み込まれている。	○
4	トラック輸送は、トラックのもつ機能性を生かしつつ、高速道路をはじめ幹線道路網の整備によりめざましい発展を遂げ、今日では日本のどこへでも短時間に物を運ぶことができる。このことによって、国民生活を便利にし、産業の発展を支えている。	原因－結果	輸送	×		×
5	鉄道輸送でも、特に新幹線の整備や橋、トンネルの建設等によって日本の各地により一層短時間で移動できるようになり、国民の生活や仕事の仕方に影響を与えている。	原因－結果	輸送	×		×
6	情報化の進展ということが言われることから、人々が、その中で生きていくには、情報の正しい収集や活用の仕方、伝達の方法を身に付けることが大切である。	原因－結果	情報	×		×

第 I 章 第 2 節

表 I - 2 - 2 H10 年版解説編の分析結果

No	分析対象の記述	関係	経済に関する用語	法則性の有無	経済概念の説明への組み込まれ方	判定：経済学的な説明といえるか
1	飲料水、電気、ガスについては生活に必要な量を常に確保し、安定供給を図る。	目的－手段	資源	×		×
2	火力発電の燃料である石油や液化天然ガスなどを確保するため、これらを外国から輸入している。	目的－手段	資源	×		×
3	水産資源の保護、育成を図るために栽培漁業などに取り組んでいる	目的－手段	資源	×		×
4	野菜の生産に従事している人々は、その鮮度を保つために運輸に携わっている人々と協力して、トラックや鉄道、カーフェリー、飛行機などを利用して遠距離の消費地に生鮮野菜を出荷している	目的－手段	輸送	×		×
5	ニュース番組をつくる人々が事件や出来事の取材から編集・放映までの間に互いに連携を取り合い、正確な情報を速く、分かりやすく伝えるための工夫や努力をしている	目的－手段	情報	×		×
6	電話をはじめ、ファックス、コンピュータなどの情報機器によって、情報を確実に速く伝える。	目的－手段	情報	×		×
7	廃棄物などの適切な処理を怠ってきた結果として人々に有害な影響を及ぼす公害が発生し、国民の健康や生活環境が脅かされてきた。	原因－結果	公害	○	原因と結果の双方に組み込まれている。	○
8	国土に広がる森林が、木材を生産するだけでなく、国土の保全や水資源の涵養のために大切な働きしており、(後略：松浪)	原因－結果	資源	×		×

第 I 章 第 2 節

表 I - 2 - 3 H20 年版解説編の分析結果

No	分析対象の記述	関係	経済に関する用語	法則性の有無	経済概念の説明への組み込まれ方	判定：経済学的な説明といえるか
1	飲料水、電気、ガスについては生活や産業に必要な量を常に確保し安定供給を図る。	目的-手段	資源	×		×
2	水源を確保・維持するために森林が保全されていること、ダムや浄水場の建設が計画的に進められていること、それらの対策や事業は他の市や県の協力を得ながら行われていること、地域の人々も節水や水の再利用などに協力している	目的-手段	資源	×		×
3	生活様式の変化や都市化の進展などにより増加した廃棄物の不適切な処理の結果として人々に有害な影響を及ぼす公害が発生し、国民の健康や生活環境が脅かされてきた。	原因-結果	公害	○	原因と結果の双方に組み込まれている。	○
4	水産資源の保護、育成を図るために栽培漁業などに取り組んでいる。	目的-手段	資源	×		×
5	野菜の生産に従事している人々が、その鮮度を保つために運輸に携わっている人々と協力して、トラックや鉄道、カーフェリー、飛行機などを利用して遠距離の消費地に生鮮野菜を出荷している	目的-手段	輸送	×		×
6	多種多様な情報を必要に応じて瞬時に受信したり発信したりすることができる情報ネットワークの働きが、公共サービスの向上のために利用され、(後略：松浪)	目的-手段	情報ネットワーク	○	手段に組み込まれている。	○



第 I 章 第 2 節

表 I - 2 - 4 H29 年版解説編の分析結果

No	分析対象の記述	関係	経済に関する用語	法則性の有無	経済概念の説明への組み込まれ方	判定：経済学的な説明といえるか
1	飲料水、電気、ガスを供給する事業においては、現在に至るまでに安全かつ安定的に供給する仕組みがつけられ、計画的に改善されてきたことや、その結果、地域の公衆衛生が向上し、健康な生活が維持・向上できたこと。	原因－結果	資源	×		×
2	トラックや鉄道などによる陸上輸送や、貨物船やカーフェリーなどによる海上輸送、飛行機による航空輸送を使って鮮度を保ちながら生産物を国内外に届ける。	目的－手段	輸送			×
3	持続可能な漁業を目指し水産資源を保護している。	目的－手段	資源	×		×
4	原材料を加工しその形や性質を変えたり、部品を組み立てたりして生活や産業に役立つ製品を作り出している。	目的－手段	工業	○	手段に組み込まれている。	○
5	国民がコンピュータや携帯電話などの情報通信機器を利用することにより、いつでも、どこでも様々なサービスを享受でき、生活が向上していること。	原因－結果	情報通信産業	×		×
6	国民に多様な情報を伝えるため様々な番組を制作していること、情報を分かりやすく伝えるため映像や音声を集めていること。	目的－手段	情報	×		×
7	国民に正確な情報を伝えるために取材をしていること、情報を分かりやすく伝えるために記事を選択・加工したり編集したりしていること。	目的－手段	情報	×		×
8	産業の発展、生活様式の変化や都市化の進展により公害が発生して国民の健康や生活環境が脅かされてきた。	原因－結果	公害	○	原因と結果の双方に組み込まれている。	○

## 第1章 第2節

以上の分析結果から明らかとなった事実を、1～3の視点ごとに整理して示す。

### 【視点1】社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

視点1の分析から、次の3点が明らかとなった。

- ① 社会事象間の関係を原因－結果の関係で説明している記述は、10/28事例であった。
- ② 社会事象間の関係を目的－手段の関係で説明している記述は、18/28事例であった。
- ③ 社会事象間の関係を条件－状況の関係で説明している記述は、0/8事例であった。

### 【視点2】分析対象の記述における経済概念（経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容）の有無

視点2の分析から、次の2点が明らかとなった。

- ① 経済概念（経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容）が示された記述は、6/28事例であった。
- ② 取り扱われている経済概念は、宣伝、工業、公害、情報ネットワークであった。資源、輸送、情報、情報通信産業からは、法則性が確認されなかった。

### 【視点3】経済概念の説明（原因－結果、目的－手段、条件－状況）への組み込まれ方

視点3の分析から、次の4点が明らかとなった。

- ① 経済概念が原因（目的、条件）に組み込まれているものは、1/28事例であった。経済概念の種類は、工業である。
- ② 経済概念が結果（手段、状況）に組み込まれているものは、1/28事例であった。経済概念の種類は、情報ネットワークである。
- ③ 経済概念が原因と結果（目的と手段、条件と状況）の双方に組み込まれているものは、3/28事例であった。経済概念の種類は、3事例すべて公害である。
- ④ 経済概念が原因（目的、条件）にも結果（手段、状況）にも組み込まれていないものは、1/28事例であった。経済概念の種類は、宣伝である。

そして、社会事象を経済学的に説明していると判定された記述は、5/28事例であった。取り扱われている経済概念は、工業、公害、情報ネットワークである。

上記の、表I-2-1から表I-2-4の分析結果には、経済学の重要概念であり、H元年版指導書、H10年版、H20年版、H29年版の各解説編にも示されている売上（収益）、

第 I 章 第 2 節

費用、価格、需要、供給が取り扱われていない<sup>③</sup>。なぜなら、先に述べた条件を満たしておらず、分析対象とならなかったためである。分析対象の選定条件は、次の 2 点であった。

- ① 社会事象間を原因－結果、目的－手段、条件－状況いずれかの関係で説明している。
- ② 経済に関する用語とその内容が示されている。

売上、費用、価格、需要、供給が示された記述は、①の条件を満たしていなかったため、分析対象から除外していた。しかし、それらの中に、用語だけではなく内容も取り扱った記述があるならば、追加で分析をする。なぜなら、上記の 5 点は経済学の重要概念であり、その内容によっては、本研究に活用できる可能性を有するからである。

そこで、H 元年版指導書、H10 年版、H20 年版、H29 年版の各解説編から、売上（収益）、費用、価格、需要、供給が示された記述を抽出し、用語に関する内容の有無を確認する。また、内容が確認できたものについては、考察を加える。

売上（収益）が示された記述の分析結果を、表 I - 2 - 5 に示す。

表 I - 2 - 5 売上（収益）が示された記述の分析結果

No	分析対象 頁数 学年 項目	分析対象の記述 (用語は太字、内容は__で示す)	内容 の有無	考察 (内容有りの場合)
1	H20 年版解説編 p.28 第 3・4 学年 内容の取扱い (2)ーイの解説	ここでは、消費者の信頼を損なうことなく <b>売上げ</b> を高めるための販売者の工夫は、商品の品質や価格などを考えて店や商品を選んで購入している消費者の工夫にも結び付いていることについて指導することが考えられる。	×	
2	H29 年版解説編 p.37 第 3 学年 内容(2)ーアー(i)	(i) 販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ <b>売り上げ</b> を高めるよう、工夫して行われていることを理解すること。	×	
3	H29 年版解説編 p.38 第 3 学年 内容(2)ーアー(i)の解説	(前略：松浪) 販売の仕事は消費者の需要を踏まえて <b>売り上げ</b> を高めるよう工夫していること、商店では商品の品質や並べ方、値段の付け方などを工夫して販売していること、販売の仕事は商品や人を通して国内の他地域や外国とも関わりがあることなどを基に、販売の仕事の様子について理解することである。	×	
4	H29 年版解説編 p.39 第 3 学年 内容(2)ーイー(i)の解説	例えば、消費者はどのようなことを願って買い物をしているか、商店の人は消費者の願いに応え <b>売り上げ</b> を高めるためにどのような工夫をしているか、商品や客はどこから来ているかなどの問いを設けて調べたり、(後略：松浪)	×	
5	H29 年版解説編 p.79 第 5 学年 内容(2)ーアー(i)の解説	(前略：松浪) <u>輸送方法や販売方法を工夫することにより<b>収益</b>を上げていることなどを基に、</u> 食料生産に関わる人々の工夫や努力について理解することである。	△	「輸送方法や販売方法を工夫する。」という収益を上げるための方法が示されている。しかし、収益の意味や法則性にはふれられていない。

## 第 I 章 第 2 節

No.1, No.2, No.3, No.4 は、売上という用語のみが示されており、内容に関する記述はない。No.5 は、収益を上げるための方法が示されている。しかし、「企業の経営活動により流入した経済価値をいい、企業利益の積極的要素である<sup>(4)</sup>。」という売上（収益）の意味についてはふれられていない。また、価格×販売量＝売上になるといった法則性も取り扱われていない。そこで、内容の有無の項目を「△」とした。

費用が示された記述の分析結果を、表 I - 2 - 6 に示す。

表 I - 2 - 6 費用が示された記述の分析結果

No	分析対象 頁数 学年 項目	分析対象の記述 (用語は太字, 内容は <u>    </u> で示す)	内容 の有無	考察 (内容有りの場合)
1	H 元年版指導書 p.50 第 5 学年 内容(3)ーアの解説	我が国の運輸業の働きについては、人や物を運ぶという運輸業のもつ機能、輸送機関としての特徴（時間、量、 <b>費用</b> など）、国民生活や産業とのかかわりなどについて取り上げる必要がある。	×	/
2	H 元年版指導書 p.50 第 6 学年 (2)における内容の 取扱い(2)ーイの解説	その指導に当たっては、公共施設の建設や災害復旧のために必要な <b>費用</b> は租税によって賄われていることに気付かせ、租税が大切な役割を果たしていることを考えさせるよう配慮することが大切である。	×	/
3	H10 年版解説編 p.116 第 6 学年 内容(2)ーイの解説	また、公共施設の建設、地域の開発、災害復旧の取組などのために必要な <b>費用</b> は租税によってまかなわれていること、それらは国民によって納められていることなどを理解し、租税が大切な役割を果たしていることを考えることができるようにすることが大切である。	×	/
4	H20 年版解説編 p.61 第 5 学年 内容の取扱い(4)	(4) 内容の(2)のウ及び(3)のウにかかわって、 <b>価格</b> や <b>費用</b> 、交通網について取り扱うこととする。	×	/
5	H20 年版解説編 p.61 第 5 学年 内容の取扱い (4)の解説	内容(2)のウにおいては、生産を高める工夫や生産地と消費地を結ぶ運輸の働きなどに関連付けて、 <b>価格</b> や <b>費用</b> 、交通網について取り扱うようにする。 <b>価格</b> や <b>費用</b> については、例えば、野菜や魚など生鮮食料品の価格は時期や場所によって変わることで、 <u>生産の過程で様々な<b>費用</b>がかかることや生産物を消費地まで運ぶためには<b>費用</b>がかかることなどを取り上げ、</u> (後略：松浪)	△	費用が発生する場面(生産過程や輸送)について示されている。しかし、費用の意味や法則性にはふれられていない。
6	H20 年版解説編 p.65 第 5 学年 内容の取扱い (4)の解説	内容(3)のウにおいては、生産を高める工夫や原材料の確保、製品の輸送などと関連付けて <b>価格</b> や <b>費用</b> 、交通網について取り扱うようにする。 <b>価格</b> や <b>費用</b> については、 <u>製造の過程で様々な<b>費用</b>がかかること、原材料や製品の輸送のための<b>費用</b>がかかることやそれらの<b>費用</b>が<b>価格</b>に影響を与えていることなどを取り上げることが考えられる。</u>	○	費用が発生する場面(生産過程や輸送)について示されている。また、費用が <b>価格</b> に影響を与えているという内容も示されている。しかし、費用の意味やどのように <b>価格</b> に影響を与えているかについてはふれられていない。

第 I 章 第 2 節

No	分析対象 頁数 学年 項目	分析対象の記述 (用語は太字, 内容は <u> </u> で示す)	内容 の有無	考察 (内容有りの場合)
7	H20 年版解説編 p.92 第 6 学年 内容の取扱い (2)ーイの解説	「租税の役割」については、国や県、市によって行われている社会保障、災害復旧の取組、地域の開発などに必要な <b>費用</b> は租税によってまかなわれていること、それらは国民によって納められていることなどを理解し、租税が大切な役割を果たしていることを考えることができるようにする。	×	
8	H29 年版解説編 p.78 第 5 学年 内容(2)ーイー(i)	(i) 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や <b>費用</b> などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。	×	
9	H29 年版解説編 p.78 第 5 学年 内容(2)の解説	例えば、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や <b>費用</b> などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめ、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、(後略：松浪)	×	
10	H29 年版解説編 p.78 第 5 学年 内容(2)ーアー(i)の解説	(前略：松浪) <u>生産し輸送、販売する工程で<b>費用</b></u> が発生すること、輸送方法や販売方法を工夫することにより収益を上げていることなどを基に、食料 生産に関わる人々の工夫や努力について理解することである。	△	「生産し輸送、販売する工程」という費用が発生する場面について示されている。しかし、費用の意味や法則性にはふれられていない。
11	H29 年版解説編 p.80 第 5 学年 内容(2)ーイー(i)の解説	価格や費用に着目するとは、 <u>生産や輸送、販売の過程で掛かる<b>費用</b></u> や販売される際の価格について調べることである。(後略：松浪)	△	「生産や輸送、販売の過程」という費用が発生する場面について示されている。しかし、費用の意味や法則性にはふれられていない。
12	H29 年版解説編 p.105 第 6 学年 内容の取扱い (1)ーアの解説	「租税の役割」については、租税が国や県、市によって行われている対策や事業などの <b>費用</b> に使われていること、それらは主に国民によって納められた税金であることなどを理解できるようにする。(後略：松浪)	×	

No.1, No.2, No.3, No.4, No.7, No.8, No.9, No.12 は、費用という用語のみが示されており、内容に関する記述はない。No.5, No.10, No.11 は、費用が発生する場面（生産、輸送、販売の過程）が示されている。しかし、「企業の経営活動により流出した経済価値をいい、企業利益の消極要素である<sup>(5)</sup>。」という費用の意味についてはふれられていない。また、売上－費用＝利潤になるといった法則性も示されていない。そこで、内容の有無の項目を「△」とした。No.6 は、費用が発生する場面に加え、「費用が価格に影響を与えている。」という法則性につながる内容が示されている。そこで、内容の有無の項目を「○」とした。しかし、費用の意味や費用がどのように価格に影響を与えているのかを解説した記述はない。

価格が示された記述の分析結果を、表 I - 2 - 7 に示す。

第 I 章 第 2 節

表 I - 2 - 7 価格が示された記述の分析結果

No	分析対象 頁数 学年 項目	分析対象の記述 (用語は太字, 内容は <u> </u> で示す)	内容 の有無	考察 (内容有りの場合)
1	H 元年版指導書 pp.19-20 第 3 学年 内容(3)	(3) 自分たちの市(区, 町, 村)を中心にした地域の商店や商店街の様子について調べて, 地域の人々は品質や <b>価格</b> などを考えて購入していることや, 商店や商店街などでは販売について工夫していることを理解できるようにするとともに, 自分たちの地域は消費生活を通して広く国内の他地域などとかかわりがあるように気付くようにする。	×	
2	H 元年版指導書 p.20 第 3 学年 内容(3)の解説	また, 地域の人々の消費生活については, 品物を売る側の工夫だけではなく, 買う側の消費者の工夫も取り上げ, 地域の人々が <b>価格</b> や品質などを考えて購入していることを取り上げるようにする。	×	
3	H 元年版指導書 pp.20-21 第 3 学年 内容(3)の解説	その際, 観察や調査活動を通して, 地域の人々は, 目的に合わせて, 品質や <b>価格</b> などを考え商店や商店街を選択しているし, 商店や商店街でもアーケードや街灯などの施設や設備を整えたり, ちらしなどを配布したりして客を集める工夫をしていることを理解させるようにする。	×	
4	H 元年版指導書 pp.25-26 第 3 学年 内容の取扱い (2)の解説	ここでは, 地域の人々は品質や <b>価格</b> を考えて購入していることや, 商店や商店街などは販売について工夫していることについて, 地域の商店や商店街の様子を調べさせる指導を通してねらいの達成を図る必要がある。	×	
5	H10 年版解説編 pp.50-51 第 3・4 学年 内容の取扱い (1)ーアの解説	また, 「販売を取り上げる場合には消費者としての工夫について触れるようにする」とは, 消費者は商品の品質や <b>価格</b> などを考えて店や商品を選んで購入しており, 消費者としての工夫が売側の人たちの工夫にも結び付いていることに触れて指導することである。	×	
6	H20 年版解説編 p.28 第 3・4 学年 内容の取扱い (2)ーイの解説	ここでは, 消費者の信頼を損なうことなく売上げを高めるための販売者の工夫は, 商品の品質や <b>価格</b> などを考えて店や商品を選んで購入している消費者の工夫にも結び付いていることについて指導することが考えられる。	×	
7	H20 年版解説編 p.61 第 5 学年 内容の取扱い(4)	(4) 内容の(2)のウ及び(3)のウにかかわって, <b>価格</b> や費用, 交通網について取り扱うこととする。	×	
8	H20 年版解説編 p.61 第 5 学年 内容の取扱い (4)の解説	内容(2)のウにおいては, 生産を高める工夫や生産地と消費地を結ぶ運輸の働きなどと関連付けて, <b>価格</b> や費用, 交通網について取り扱うようにする。 <b>価格</b> や費用については, 例えば, <u>野菜や魚など生鮮食料品の価格は時期や場所によって変わる</u> こと, 生産の過程で様々な費用がかかることや生産物を消費地まで運ぶためには費用がかかることなどを取り上げ, (後略: 松浪)	○	「野菜や魚など生鮮食料品の価格は時期や場所によって変わる。」という価格変化の内容が示されている。しかし, 価格の意味と時期や場所によって価格が変化する理由についてはふれられていない。

第 I 章 第 2 節

No	分析対象 頁数 学年 項目	分析対象の記述 (用語は太字, 内容は <u> </u> で示す)	内容 の有無	考察 (内容有りの場合)
8	H20 年版解説編 p.65 第 5 学年 内容の取扱い (4)の解説	内容(3)のウにおいては, 生産を高める工夫や原材料の確保, 製品の輸送などと関連付けて <b>価格</b> や費用, 交通網について取り扱うようにする。 <b>価格</b> や費用については, 製造の過程で様々な費用がかかること, 原材料や製品の輸送のための費用がかかることやそれらの <b>費用が価格に影響を与えている</b> ことなどを取り上げることが考えられる。	○	費用が価格に影響を与えているという内容が示されている。しかし, 価格の意味や費用がどのように価格に影響を与えているのかについてはふれられていない。
9	H29 年版解説編 p.38 第 3 学年 内容(2)ーアー(i)の解説	(前略: 松浪) 販売の仕事は消費者の需要を踏まえて売り上げを高めるよう工夫していること, 商店では商品の品質や並べ方, <b>値段</b> の付け方などを工夫して販売していること, 販売の仕事は商品や人を通して国内の他地域や外国とも関わりがあることなどを基に, 販売の仕事の様子について理解することである。	×	
10	H29 年版解説編 p.78 第 5 学年 内容(2)ーイー(i)	(i) 生産の工程, 人々の協力関係, 技術の向上, 輸送, <b>価格</b> や費用などに着目して, 食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え, その働きを考え, 表現すること。	×	
11	H29 年版解説編 p.78 第 5 学年 内容(2)の解説	例えば, 生産の工程, 人々の協力関係, 技術の向上, 輸送, <b>価格</b> や費用などに着目して, 地図帳や地球儀, 各種の資料で調べ, まとめ, 食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え, その働きを考え, 表現することを通して, (後略: 松浪)	×	
12	H29 年版解説編 p.80 第 5 学年 内容(2)ーイー(i)の解説	(前略: 松浪) <u>食料の<b>価格</b>はどのように決まるのか</u> などの問いを設けて調べたり, 食料生産に関わる人々の工夫や努力とその土地自然条件や需要を関連付けて考えたりして, 調べたことや考えたことを表現することである。	△	「食料の <b>価格</b> はどのように決まるのか。」という問いが示されている。しかし, 問いの解や <b>価格</b> の意味についてはふれられていない。
13	H29 年版解説編 p.80 第 5 学年 内容(2)ーイー(i)の解説	<b>価格</b> や費用に着目するとは, 生産や輸送, 販売の過程で掛かる費用や販売される際の <b>価格</b> について調べることである。ここでは, <u>野菜や魚など生鮮食料品の<b>価格</b>は, 主として市場で決められ, 時期や場所によって変わる</u> こと, 市場の情報を基に出荷する場所, 量, 時期を判断していること, 産地のブランド化やいわゆる「6次産業化」など新しい取組をしていることなどを調べることも考えられる。	○	「野菜や魚など生産食料品の <b>価格</b> は, 主として市場で決められ, 時期や場所によって変わる」という <b>価格</b> 決定の場や <b>価格</b> 変化の内容が示されている。しかし, <b>価格</b> の意味や <b>価格</b> が変化する理由についてはふれられていない。
14	H29 年版解説編 pp.86-87 第 5 学年 内容の取扱い (3)ーイーの解説	ここでは, 学習したことを基に, 消費者や生産者の立場, 人々の安全, 環境, <b>価格</b> , 利便性, バリアフリーなどに対する願いが工業生産により実現されることや, (後略: 松浪)	×	

## 第 I 章 第 2 節

No.1, No.2, No.3, No.4, No.5, No.6, No.7, No.9, No.10, No.11, No.14 は、価格（値段）という用語のみが示されており、内容に関する記述はない。No.8 及び No.13 は、「生鮮食料品の価格は場所や時期によって変わる。」という法則性につながる内容が示されている。そこで、内容の有無の項目を「○」とした。しかし、「購入される経済財の 1 単位に支払われる貨幣量のこと<sup>⑥</sup>。」という価格の意味と時期や場所によって価格が変化する理由についてはふれられていない。

No.9 は、「費用が価格に影響を与えている。」という法則性につながる内容が示されている。そこで、内容の有無の項目を「○」とした。しかし、価格の意味や費用がどのように価格に影響を与えているのかについてはふれられていない。

No.12 は、「食料の価格はどのように決まるのか。」という問いが示されている。その解は、「需要と供給のバランスにより決定する。」となり、法則性をもつ内容といえる。しかし、No.12 の記述には、解が示されておらず、問いのみが設定されているため、内容の有無の項目を「△」とした。

需要が示された記述の分析結果を、表 I - 2 - 8 に示す。

表 I - 2 - 8 需要が示された記述の分析結果

No	分析対象 頁数 学年 項目	分析対象の記述 (用語は太字, 内容は <u>   </u> で示す)	内容 の有無	考察 (内容有りの場合)
1	H 元年版指導書 p.29 第 4 学年 内容(1)の解説	(前略：松浪) 飲料水の確保に当たって、地域の人々の <b>需要</b> に対しては、水源の確保に努めており、飲料水の <b>需要</b> の増加に対しては、広く他地域に協力を求めているのが実情である。	×	△
2	H 元年版指導書 p.30 第 4 学年 内容(1)の解説	したがって、この事例についても、電気の <b>需要</b> の増大と安定供給に対応して、電気の確保のための対策と事業が進められている。	×	△
3	H 元年版指導書 pp.43-44 第 5 学年 内容(1)ーアの解説	人々が、自然条件を生かしながら生産を高めるためにどのような工夫を行っているか、品種改良や生産の効率を高めるための技術の改良についてどのように努めているか、また、消費者の <b>需要</b> に応え良質な食糧の生産をするためにどのような工夫を行っているかを理解させる必要がある。	×	△
4	H10 年版解説編 pp.35-36 第 3・4 学年 内容(3)ーイの解説	飲料水の確保については、 <b>需要</b> の増加に対して、例えば、水源を確保する森林の保全、ダムや浄水場の建設などが計画的に進められていることを取り上げることが考えられる。	×	△
5	H10 年版解説編 p.36 第 3・4 学年 内容(3)ーイの解説	電気の確保については、電気の <b>需要</b> の増大と安定供給のため、例えば、燃料や水資源の確保のための対策や、発電所から消費地に送電されるまでの事業が行われていることを取り上げることが考えられる。	×	△



第 I 章 第 2 節

No	分析対象 頁数 学年 項目	分析対象の記述 (用語は太字, 内容は <u> </u> で示す)	内容 の有無	考察 (内容有りの場合)
6	H10 年版解説編 p.62 第 5 学年 内容(1)ーウの解説	その際、従事している人々は、消費者の <b>需要</b> に応え、新鮮で良質な物を生産し出荷するために様々な工夫や努力をしていることを具体的に取り上げるようにする。例えば、稲作では、品種改良や生産の効率を高めるための技術の改良を進めている事例、野菜や果物の生産では、消費者の <b>需要</b> に応え、新鮮で良質な野菜や果物を生産し出荷している事例、畜産物の生産では消費者の <b>需要</b> に応え、新鮮な牛乳や肉、卵などを生産し出荷している事例、(後略：松浪)	×	
7	H10 年版解説編 p.66 第 5 学年 内容(2)ーウの解説	これらの工夫や努力には、工業の種類や生産されている工業製品によって多少の違いが見られるものの、消費者の多様な <b>需要</b> に応え、環境に配慮して生産を高めていることなどが共通している。	×	
8	H20 年版解説編 p.31 第 3・4 学年 内容(3)ーイの解説	飲料水の確保については、 <b>需要</b> の増加に対して、水源を確保・維持するために森林が保全されていること、(後略：松浪)	×	
9	H20 年版解説編 p.31 第 3・4 学年 内容(3)ーイの解説	電気の確保については、 <b>需要</b> の増加に対して、主として火力、原子力、水力の発電所から送り出される電気によって安定供給が図られていること(後略：松浪)	×	
10	H20 年版解説編 p.61 第 5 学年 内容の取扱い (4)の解説	価格や費用については、例えば、野菜や魚など生鮮食料品の価格は時期や場所によって変わること、生産の過程で様々な費用がかかることや生産物を消費地まで運ぶためには費用がかかることなどを取り上げ、消費者の <b>需要</b> にこたえる生産や運輸の工夫に気付くようにすることが考えられる。	×	
11	H29 年版解説編 p.38 第 3 学年 内容(2)ーア-(i)の解説	(前略：松浪) 販売の仕事は消費者の <b>需要</b> を踏まえて売り上げを高めるよう工夫していること、商店では商品の品質や並べ方、値段の付け方などを工夫して販売していること、販売の仕事は商品や人を通して国内の他地域や外国とも関わりがあることなどを基に、販売の仕事の様子について理解することである。	×	
12	H29 年版解説編 p.80 第 5 学年 内容(2)ーイ-(i)の解説	(前略：松浪) 食料の価格はどのように決まるのかなどの問いを設けて調べたり、食料生産に関わる人々の工夫や努力とその土地自然条件や <b>需要</b> を関連付けて考えたりして、調べたことや考えたことを表現することである。	×	
13	H29 年版解説編 p.80 第 5 学年 内容(2)ーイ-(i)の解説	その(食料生産に関わる人々の)働きを考え、表現するとは、例えば、食料生産の仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や <b>需要</b> を関連付けて、食料生産に関わる人々の働きを考え、文章で記述したり、白地図や図表などにまとめたことを基に説明したりすることである。	×	

## 第 I 章 第 2 節

No	分析対象 頁数 学年 項目	分析対象の記述 (用語は太字, 内容は <u>   </u> で示す)	内容 の有無	考察 (内容有りの場合)
14	H29 年版解説編 p.82 第 5 学年 内容(3)ーアー(i)	(i) 工業生産に関わる人々は、消費者の <b>需要</b> や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解すること。	×	/
15	H29 年版解説編 pp.83-84 第 5 学年 内容(3)ーアー(i)の解説	(前略：松浪) 工場働く人々は優れた製品を生産するために様々な工夫や努力をしていること、工業生産には様々な工場が関連していること、我が国の工業生産は優れた技術を生かして消費者の <b>需要</b> や社会の発展に応える研究開発などの努力を行っていることなどを基に、工業生産に関わる人々の工夫や努力について理解することである。	×	/
16	H29 年版解説編 p.85 第 5 学年 内容(3)ーイー(i)の解説	優れた技術に着目するとは、産業用ロボットなどを活用したオートメーションなど大規模工場の生産システム、消費者の <b>需要</b> や社会の要請に応えるための生産の仕方、中小工場での技術を生かした生産の様子、新しい分野に挑戦する研究開発などについて調べることである。	×	/

No.1 から No.16 すべての事例において、需要という用語のみが示されており、内容に関する記述はない。したがって、「ある時期における、ある財・サービスを人々が購入しようとする欲求で、購買力に裏付けられたもの<sup>(7)</sup>。」という需要の意味についてはふれられていない。また、市場の価格は、需要と供給のバランスで決定するといった法則性も示されていない。

供給が示された記述の分析結果を、表 I - 2 - 9 に示す。

表 I - 2 - 9 供給が示された記述の分析結果

No	分析対象 頁数 学年 項目	分析対象の記述 (用語は太字, 内容は <u>   </u> で示す)	内容 の有無	考察 (内容有りの場合)
1	H 元年版指導書 p.29 第 4 学年 内容(1)の解説	したがって、この事例については、飲料水の確保のための対策や事業については、安定 <b>供給</b> のための工夫や努力と広く他地域の協力を得ていることを取り上げ、(後略：松浪)	×	/
2	H 元年版指導書 p.30 第 4 学年 内容(1)の解説	したがって、この事例についても、電気の需要の増大と安定 <b>供給</b> に対応して、電気の確保のための対策と事業が進められている。	×	/
3	H10 年版解説編 pp.32-33 第 3・4 学年 内容(3)の解説	飲料水の確保については、水源を確保するための対策や水源地から各家庭や工場などに <b>供給</b> されるまでの事業を、電気の確保については、発電に必要なエネルギー源を確保するための対策や、発電所から各家庭や工場などに送電されるまでの事業を、ガスの確保については、原料の確保や保安にかかわる対策や、ガスを製造する工場から各家庭や工場などに <b>供給</b> されるまでの事業を、(後略：松浪)	×	/

第 I 章 第 2 節

No	分析対象 頁数 学年 項目	分析対象の記述 (用語は太字, 内容は <u> </u> で示す)	内容 の有無	考察 (内容有りの場合)
4	H10 年版解説編 p.33 第 3・4 学年 内容(3)の解説	「これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを考えるようにする」とは、飲料水、電気、ガスについては、それらの安定 <b>供給</b> を図るために、(後略：松浪)	×	
5	H10 年版解説編 p.35 第 3・4 学年 内容(3)ーイの解説	「これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること」を調べるとは、飲料水、電気、ガスについては生活や産業に必要な量を常に確保し、安定 <b>供給</b> を図るために、(後略：松浪)	×	
6	H10 年版解説編 p.36 第 3・4 学年 内容(3)ーイの解説	電気の確保については、電気の需要の増大と安定 <b>供給</b> のため、例えば、燃料や水資源の確保のための対策や、発電所から消費地へ送電されるまでの事業が行われていることを取り上げることが考えられる。	×	
7	H10 年版解説編 p.36 第 3・4 学年 内容(3)ーイの解説	(前略：松浪) さらに浄水場や発電所などの施設を見学したりするなど、水や電気などがつくられ、消費地に <b>供給</b> するまでの事業を具体的に調べる活動が考えられる。	×	
8	H20 年版解説編 p.29 第 3・4 学年 内容(3)の解説	飲料水の確保については、水源を確保するための対策や水源地から各家庭や工場などに <b>供給</b> されるまでの事業を、電気の確保については、発電に必要なエネルギー源を確保するための対策や発電所から各家庭や工場などに送電されるまでの事業を、ガスの確保については、原料の確保や保安にかかわる対策やガスを製造する工場から各家庭や工場などに <b>供給</b> されるまでの事業を、(後略：松浪)	×	
9	H20 年版解説編 p.31 第 3・4 学年 内容(3)ーイの解説	「これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること」を調べるとは、飲料水、電気、ガスについては生活や産業に必要な量を常に確保し、安定 <b>供給</b> を図るための対策や事業を、(後略：松浪)	×	
10	H20 年版解説編 p.31 第 3・4 学年 内容(3)ーイの解説	電気の確保については、需要の増加に対して、主として火力、原子力、水力の発電所から送り出される電気によって安定 <b>供給</b> が図られていること(後略：松浪)	×	
11	H20 年版解説編 p.32 第 3・4 学年 内容(3)ーイの解説	実際の指導に当たっては、例えば、飲料水、電気、ガスを <b>供給</b> する仕事に携わる人々から消費地に供給されるまでの対策や事業について話を聞いたり、浄水場や発電所などの施設を見学したりして具体的に調べる活動、(後略：松浪)	×	
12	H20 年版解説編 p.35 第 3・4 学年 内容(4)ーアの解説	災害の防止について、火災を取り上げた場合には、消防署を中心に、警察署、市役所や町役場、病院、放送局、学校、電気・ガス・水を <b>供給</b> している機関などが普段から施設・設備の整備や点検、訓練、広報活動などに取り組み、火災の予防や発生時に対する備えをしていることや、(後略：松浪)	×	

第 I 章 第 2 節

No	分析対象 頁数 学年 項目	分析対象の記述 (用語は太字, 内容は <u> </u> で示す)	内容 の有無	考察 (内容有りの場合)
13	H29 年版解説編 pp.41-42 第 3 学年 内容(3)ーアー(7)の解説	(前略: 松浪) 近隣の消防署や警察署, 市役所や病院, 放送局, 水, 電気・ガスを <b>供給</b> している機関などが協力していること, 消防団など地域の人々が組織する諸団体が緊急事態に対処していることなどを基に, 地域の安全を守る働きについて理解することである。	×	
14	H29 年版解説編 p.42 第 3 学年 内容(3)ーアー(7)の解説	消防署や警察署などの関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解することとは, 火災については, 消防署を中心に警察署, 市役所, 病院, 放送局, 学校, 水, 電気・ガスを <b>供給</b> している機関などが普段から施設・設備の整備や点検, 訓練, 広報活動などに取り組み, (後略: 松浪)	×	
15	H29 年版解説編 p.53 第 4 学年 内容(2)ーアー(7)	(7) 飲料水, 電気, ガスを <b>供給</b> する事業は, 安全で安定的に <b>供給</b> できるよう進められていることや, 地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。	×	
16	H29 年版解説編 p.53 第 4 学年 内容(2)ーイー(7)	(7) <b>供給</b> の仕組みや経路, 県内外の人々の協力などに着目して, 飲料水, 電気, ガスの <b>供給</b> のための事業の様子を捉え, それらの事業が果たす役割を考え, 表現すること。	×	
17	H29 年版解説編 pp.53-54 第 4 学年 内容(2)の解説	例えば, <b>供給</b> の仕組みや経路, 県内外の人々の協力などに着目して, 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして, まとめ, 飲料水, 電気, ガスの <b>供給</b> のための事業の様子を捉え, それらの事業が果たす役割を考え, 表現することを通して, 飲料水, 電気, ガスを供給する事業は, 安全で安定的に <b>供給</b> できるよう進められていることや, 地域の人々の健康な生活の維持と向上に 役立っていることを理解できるようにすることである。	×	
18	H29 年版解説編 p.54 第 4 学年 内容(2)ーアー(7)の解説	(前略: 松浪) 飲料水, 電気, ガスを <b>供給</b> する事業は, 人々が安心してそれらを使うことができるよう様々な面で安全確保に努めていること, 必要な量をいつでも使えるよう確保に努めていること, 関係機関が相互に連携したり県内外の人々と協力したりして安定的に <b>供給</b> できるように進められていることなどを基に, 飲料水, 電気, ガスを <b>供給</b> する事業について理解することである。	×	
19	H29 年版解説編 p.54 第 4 学年 内容(2)ーアー(7)の解説	(前略: 松浪) 飲料水, 電気, ガスを <b>供給</b> する事業においては, 現在に至るまでに安全かつ安定的に <b>供給</b> する仕組みがつくられ, 計画的に改善されてきたことや, その結果, 地域の公衆衛生が向上し, 健康な生活が維持・向上してきたことなどを基に, 飲料水, 電気, ガスを <b>供給</b> する事業について理解することである。	×	

第 I 章 第 2 節

No	分析対象 頁数 学年 項目	分析対象の記述 (用語は太字, 内容は <u>   </u> で示す)	内容 の有無	考察 (内容有りの場合)
20	H29 年版解説編 p.55 第 4 学年 内容(2)－イ－(7)の解説	<b>供給</b> の仕組みや経路, 県内外の人々の協力などに 着目して, 飲料水, 電気, ガスの <b>供給</b> のための事 業の様子を捉え, それらの事業が果たす役割を考 え, 表現することとは, 社会的事象の見方・考え 方を働かせ, 飲料水, 電気, ガスの <b>供給</b> のため の事業の様子について, 例えば, どのような仕組 みで作られているか, (後略: 松浪)	×	
21	H29 年版解説編 p.55 第 4 学年 内容(2)－イ－(7)の解説	飲料水の <b>供給</b> については, 水資源の確保, ダムや 貯水池, 浄水場での高度な技術を活用した浄水 処理や給水の仕組みなどを調べることである。	×	
22	H29 年版解説編 p.55 第 4 学年 内容(2)－イ－(7)の解説	電気の <b>供給</b> については, 火力, 水力, 原子力など の発電所, 燃料や水資源の確保, 発電所から消費 地までの送電, 必要な量の電気の確保などの様 子を調べることである。	×	
23	H29 年版解説編 p.55 第 4 学年 内容(2)－イ－(7)の解説	ガスの <b>供給</b> については, 原料の液化天然ガスなど を外国から輸入していること, 液化天然ガスの 製造基地, 都市ガスとしての供給, 安全の確保 などの様子を調べることである。		

No.1 から No.23 すべての事例において, 供給という用語のみが示されており, 内容に  
関する記述はない。したがって, 「異なる価格水準に対し各経済主体もしくはそれら全体が  
市場取引の対象として提供する財・サービスの数量のこと<sup>⑧</sup>。」という供給の意味につい  
てはふれられていない。また, 市場の価格は, 需要と供給のバランスで決定するといった  
法則性も示されていない。

以上の分析結果を基に, 売上 (収益), 費用, 価格, 需要, 供給が示された記述における  
内容の有無を数値化すると, 表 I - 2 - 10 のようになる。

表 I - 2 - 10 売上 (収益), 費用, 価格, 需要, 供給が示された記述の分析結果

用語	事例数	内容の有無「○」	内容の有無「△」	内容の有無「×」
売上 (収益)	5 事例	0 / 5 事例	1 / 5 事例	4 / 5 事例
費用	12 事例	1 / 12 事例	3 / 12 事例	8 / 12 事例
価格	14 事例	3 / 14 事例	1 / 14 事例	10 / 14 事例
需要	16 事例	0 / 16 事例	0 / 16 事例	16 / 16 事例
供給	23 事例	0 / 23 事例	0 / 23 事例	23 / 23 事例
合計	70 事例	4 / 70 事例	5 / 70 事例	61 / 70 事例

売上 (収益), 費用, 価格, 需要, 供給が示された記述を分析することにより, 次の 3 点  
が明らかとなった。

## 第1章 第2節

- ① 用語のみで内容が示されていない記述は、61 / 70 事例であった。
- ② 内容が示されている記述は、9 / 70 事例であった。しかし、用語の意味については、1 事例も示されていないかった。
- ③ 内容の有無で「○」と判断した 4 事例は、法則性につながる内容が示されている。しかし、「なぜ価格が変化するのか。」「費用は価格にどのような影響を与えるのか。」という重要な情報は示されていない。

また、需要、供給が示された記述は全 49 事例あった。しかし、そのうち 1 事例も内容が含まれていなかった。H 元年版指導書、H10 年版、H20 年版、H29 年版の各解説編において、需要と供給は、経済学的な意味で用いられていないことが原因として考えられる。つまり、需要は「要求やニーズ」、供給は「物を与える」という一般的な意味で使用されているため、経済学的内容が示されることはない。

### ② 分析結果の考察

H 元年版指導書、H10 年版、H20 年版、H29 年版の各解説編から、「社会事象間を原因－結果、目的－手段、条件－状況いずれかの関係で説明している。」「経済に関する用語とその内容が示されている。」という 2 点の条件を満たし、分析対象となった記述は 28 事例である。この数値は、調査対象が指導書及び解説編計 4 冊であることを考慮すると、きわめて少ない。また、分析対象の記述に含まれていた経済に関する用語は全 8 種類であった。しかし、そのうち半分は、用語の意味に法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）を確認することはできなかった。最終的に、社会事象を経済学的に説明していると判定できた記述は、わずか 5 / 28 事例である。したがって、H 元年版指導書、H10 年版、H20 年版、H29 年版の各解説編については、社会事象の経済学的内容を意図して作成されていないと判断できる。

また、H 元年版指導書、H10 年版、H20 年版、H29 年版の各解説編には、経済に関する用語が多数確認できた。その中から、経済学の重要概念である売上（収益）、費用、価格、需要、供給に焦点化し、内容の有無を分析した。その結果、用語のみで内容が示されていない記述は、61 / 70 事例であった。当然、用語が示されているだけでは、その内容が小学校社会科の教科書や授業で取り扱われることはない。つまり、教師も子どもも経済に関する用語の内容を正確に理解せず、誤解したまま使用し続けることが危惧される。さらに、用語だけではなく法則性につながる内容（価格変化の条件や費用が価格に与える影響）が示されていた 4 事例も、「なぜ価格が変化するのか。」「費用は価格にどのような影響を与えるのか。」という重要な情報は示されていないかった。

次項では、経済的な学習内容を取り扱った小学校社会科先行授業を分析し、結果を考察する。

## 2 小学校社会科先行授業における経済的な学習内容の課題

### (1) 分析視点の設定

経済的な学習内容を取り扱った小学校社会科先行授業を分析するための視点を設定する。ここでは、本節第1項で設定した小学校指導書社会編と小学校学習指導要領解説社会編を分析するための3視点を活用する。ただし、分析対象が、指導書や解説編の記述ではなく授業となるため、調整が必要となる。

社会科授業は、学習課題とその解の内容が、子どもの習得する知識の中核となる。そこで、経済的な学習内容を取り扱った小学校社会科先行授業における学習課題とその解の内容に着目し、分析する。したがって、分析視点は次の3点となる。

**【視点1】社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析**

**【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念（経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容）の有無**

**【視点3】経済概念の説明（原因－結果、目的－手段、条件－状況）への組み込まれ方**

それぞれの分析視点について論じる。なお、分析の内容は、本節第1項のものを活用している。

また、子どもが習得する知識を分析するならば、本時の知識目標を参照した方が効率的である。しかし、本時の知識目標が、達成目標のかたちで具体的に示されていない場合、分析は困難となる<sup>9)</sup>。そこで、学習課題とその解に着目することとした。

**【視点1】社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析**

小学校社会科先行授業における学習課題とその解の内容から、次の2点を分析する。

- ① 学習課題とその解が、原因－結果、目的－手段、条件－状況の関係で示されているか。
- ② ①の条件を満たしているならば、原因と結果、目的と手段、条件と状況は、それぞれどのような内容で構成されているのか。

**【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念（経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容）の有無**

社会事象の経済学的な説明には、経済概念が必要となる。そこで、小学校社会科先行授業における学習課題とその解の内容から、次の3点を分析する。

## 第1章 第2節

- ① 視点1-②で分析された学習課題とその解には、経済に関する用語とその内容が含まれているか。
- ② ①で分析した経済に関する用語は、どのような法則性をもつのか<sup>(10)</sup>。
- ③ 視点1-②で分析された学習課題とその解の関係は、経済概念が組み込まれた説明といえるのか<sup>(11)</sup>。

経済概念は、経済に関する用語そのものではなく、用語が示す内容である。そこで、①の分析において、経済に関する用語しか示されていないと判断した学習課題とその解は、分析対象から除外する。

また、②の分析では、経済に関する用語の意味を調査し、法則性の有無を明らかにする。そこで、指導書及び解説編の分析と同様、次の2点の辞典を利用する。

- A 大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典 第3版』岩波書店 1992
- B 金森久雄 荒憲治郎 森口親司編『経済辞典 第5版』有斐閣 2013

本研究では、用語の意味から法則性が確認できなければ、経済概念にはならない。すなわち、法則性なしと判断した時点で、分析対象の学習課題とその解には、経済概念が含まれないことが確定する。したがって、視点3の分析は行わない。

### 【視点3】経済概念の説明（原因—結果，目的—手段，条件—状況）への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方には、次の3パターンがある。

- A 原因（目的，条件）に組み込まれる。
- B 結果（手段，状況）に組み込まれる。
- C 原因と結果（目的と手段，条件と状況）の双方に組み込まれる。

以上のパターンをふまえ、小学校社会科先行授業における学習課題とその解の内容から、次の1点を分析する。

- ① 視点2の分析により抽出された経済概念は、A,B,Cのうちどのパターンで説明に組み込まれているか（経済概念が説明に組み込まれていない場合は、「D」とする）。



## 第 I 章 第 2 節

### (2) 分析フレームワークの設定

(1) で論じたことを基に、分析フレームワークを作成し、次頁の図 I-2-3 に示す。また、分析の結果、次の 3 点の条件を満たしていれば、社会事象を経済学的に説明した授業と判断する

- ① 視点 1 の分析により、小学校社会科先行授業における学習課題とその解から、原因－結果、目的－手段、条件－状況いずれかの関係が確認できる。
- ② 視点 2 の分析により、経済概念（経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容）が、分析対象の学習課題とその解に含まれていると判断できる。
- ③ 視点 3 の分析により、経済概念の説明への組み込まれ方が、次の 3 パターンのいずれかに該当していることが確認できる。
  - A 原因（目的、条件）に組み込まれる。
  - B 結果（手段、状況）に組み込まれる。
  - C 原因と結果（目的と手段、条件と状況）の双方に組み込まれる。

第1章 第2節

【分析対象】第 [ ] 学年		形式 [ <input type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名		考案者	
出典			

○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】	【解】
--------	-----

【視点1】社会事象間を，原因－結果，目的－手段，条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果	<input type="checkbox"/> 目的－手段	<input type="checkbox"/> 条件－状況	比較
説明の内容構成	【原因】(目的, 条件)	【結果】(手段, 状況)		

【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	<input type="checkbox"/> ①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 <input type="checkbox"/> ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	

↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	
------------	--

【視点3】経済概念の説明 (原因－結果，目的－手段，条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。
-----------------	--

◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図

○ 分析結果の考察

図 I - 2 - 3 小学校社会科先行授業の分析フレームワーク

## 第 I 章 第 2 節

### (3) 分析対象とする小学校社会科先行授業

社会科教育学の分野で広く読まれている学術雑誌を調査し、分析対象とする小学校社会科先行授業を選定する。調査の対象となる学術雑誌や号数、論文の本数を表 I-2-11 に示す<sup>(12)</sup>。なお、本節第 1 項の小学校指導書社会編と小学校学習指導要領解説社会編の分析は、平成元年版以降を対象とした。そこで、調査する学術雑誌も時間のスケールを合わせ、1989 年（平成元年）から 2019 年（令和元年）の 30 年間に発行されたものとした。

**表 I-2-11 調査の対象**

編集・発行学会名	雑誌名	号数	総論文本数
全国社会科教育学会	社会科研究	第 37 号～第 90 号	390 本
全国社会科教育学会	社会科教育論叢	第 36 号～第 50 号	212 本
日本社会科教育学会	社会科教育研究	第 60 号～第 136 号	465 本
社会系教科教育学会	社会系教科教育学研究	第 1 号～第 30 号	408 本
日本公民教育学会	公民教育研究	第 1 号～第 26 号	145 本
合計		202 冊	1620 本

上記の学会誌から、分析対象とする小学校社会科先行授業を選定する。選定条件は、次の 4 点である。

- ① 校種が小学校のもの。
- ② 本時の展開が示されているもの。
- ③ 学習課題とその解に、原因－結果、目的－手段、条件－状況いずれかの関係が確認できるもの。
- ④ 学習課題とその解に、経済に関する用語とその内容が示されているもの。

調査の結果、①から④の選定条件をすべて満たした小学校社会科先行授業は 42 事例であった。表 I-2-12 に整理して示す。

**表 I-2-12 分析対象とする小学校社会科先行授業**

No	单元名	考案者	出典
1	新しい工業地域 －水島工業地区にある製鉄所を中心にして－	甲津和寿	甲津和寿「社会認識過程におけるスキーマと概念形成」全国社会科教育学会『社会科研究』第 37 号 1989 pp.92-102
2	トヨタ生産方式の秘密	小山直樹	小山直樹「小学校社会科概念探求学習の創造－『トヨタ生産方式の秘密』学習と『クロネコヤマト宅急便快進撃の秘密』学習を中心に－」全国社会科教育学会『社会科研究』第 39 号 1991 pp.39-55

第 I 章 第 2 節

No	単元名	考案者	出典
3 4	価格破壊のヒミツ	新山欣二	新山欣二「社会認識形成の『心理』に関する実証的研究－小学校第 5 学年『価格破壊のヒミツ』の場合－」全国社会科教育学会『社会科研究』第 47 号 1997 pp.61-70
5 6	中小小売店減少問題	岡崎誠司	岡崎誠司「新産業分類に基づく『ネットワーク部門』の内容編成－小学校産業学習の授業改善－」全国社会科教育学会『社会科研究』第 50 号 1999 pp.191-200
7	わたしたちの県 －広島菜をつくる－	岡崎誠司	岡崎誠司「フードシステム論に基づく小学校地域学習の単元開発－4 年生単元『わたしたちの県－広島菜をつくる－』の場合－」全国社会科教育学会『社会科研究』第 58 号 2003 pp.41-50
8	平城京と奈良の大仏	岡崎誠司	岡崎誠司「小学校歴史学習における『仮説吟味学習』－第 6 学年単元『平城京と奈良の大仏』の場合－」全国社会科教育学会『社会科研究』第 67 号 2007 pp.11-20
9	どうする!?! 鹿児島のごみ処理	吉元輝幸	吉元輝幸「小学校社会科における社会的判断力の育成－社会機能の批判的考察を手がかりとして－」全国社会科教育学会『社会科研究』第 68 号 2008 pp.51-60
10	スーパーマーケットのひみつを さぐる	佐藤章浩	佐藤章浩「小学校社会科における経済概念の形成－第 3 学年単元『スーパーマーケットのひみつをさぐる』を事例に－」全国社会科教育学会『社会科研究』第 73 号 2010 pp.41-50
11	黒鯛いっタイどうなるの!?	新谷和幸	新谷和幸「小学校社会科における『概念カテゴリー化学習』の授業構成－概念の名辞とカテゴリー化の手法に着目して－」全国社会科教育学会『社会科研究』第 80 号 2014 pp.57-68
12	日本の国土の広がりと領土	松岡靖	松岡靖「学習指導要領に依存した社会科授業からの改善方略－学習者の『状況』に着目した教科書メディアを相対化する授業改善を通して－」全国社会科教育学会『社会科研究』第 50 号 1999 pp.191-200
13 14 15 16	100 円ショップのひみつをさぐ ろう	真加部三智也	真加部三智也「社会的事象の見方・考え方を育成する産業学習の授業」全国社会科教育学会『社会科論叢』第 44 号 2005 pp.27-34
17 18	日本の農業 －野菜工場を事例として－	福田裕治	福田裕治「科学的な見方・考え方を育てる小学校社会科産業学習の教育内容開発－『野菜工場』を事例とした単元『日本の農業』－」全国社会科教育学会『社会科論叢』第 46 号 2007 pp.10-15

第 I 章 第 2 節

No	単元名	考案者	出典
19 20	どっちがいいで商!?	新谷和幸	新谷和幸「社会を見つめ暮らしに生きる産業学習－多様な消費者ニーズに応えるコンビニの働き－」全国社会科教育学会『社会科教育論叢』第 46 号 2007 pp.16-21
21	商店のある町－空き店舗問題－	岡崎誠司	岡崎誠司「社会変動の視点を重視した小学校地域学習の単元開発－第 3 学年単元『商店のある町－空き店舗問題－』の場合－」日本社会科教育学会『社会科教育研究』第 88 号 2002 pp.15-28
22	観光産業	佐藤克士	佐藤克士「観光研究の成果を組み込んだ「社会科観光」の授業開発とその評価－小学校第 5 学年産業学習－『観光産業』を題材にして－」日本社会科教育学会『社会科教育研究』第 118 号 2013 pp.1-14
23	これからの食料生産, 食料輸入のあり方	小野間正巳	小野間正巳「授業コミュニケーションの分析をととした社会科授業評価－GTMA, 会話分析, ポートフォリオ分析をとおして－」日本社会科教育学会『社会科教育研究』第 133 号 2018 pp.1-14
24	新しい工業地域 －水島工業地区にある製鉄所を中心にして－	甲津和寿	甲津和寿「スキーマ理論を組み込んだ社会科授業の展開－小学校における『工業立地』概念の形成－」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 3 号 1991 pp.15-20
25	各地のくらし単元－沖縄－	岡本昌浩	岡本昌浩「開発と保全の接点を探る地域経済学習－第 4 学年『開発単元』『各地のくらし単元』を例に－」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 50 号 1994 pp.15-20
26 27	わたしたちの生活と「食の安全」	齊藤昌長	齊藤昌長「『食の安全』から見た社会科授業の開発－消費者教育の視点を取り入れて－」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 16 号 2004 pp.37-44
28	ものを売る仕事－通信販売－	中本和彦 川田節生	中本和彦 川田節生「科学的な見方や考え方を拡大・深化させる小学校社会科の単元開発とその検証－小学校 3 年生単元『ものを売る仕事－通信販売－』を事例として－」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 18 号 2006 pp.19-30
29	コンテナの発達とわたしたちのくらし	酒井喜八郎	酒井喜八郎「体験に基づく子どもの問いから始まる地域学習－筏の総合学習から社会科『運輸業』・『林業』の授業設計へ－」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 19 号 1999 pp.97-104
30 31	我が国の食料生産と私たちのくらし －松江市のキュウリづくり－	加藤寿朗 和田倫寛	加藤寿朗 和田倫寛「子どもの社会認識発達に基づく小学校社会科授業の開発研究」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 21 号 2009 pp.1-10

第 I 章 第 2 節

No	単元名	考案者	出典
32	石見銀山から江戸幕府を見る ー江戸システムの確立ー	紙田路子	紙田路子「構造主義からの小学校社会科歴史学習の設計ー『石見銀山から江戸幕府を見る～江戸システムの確立』の授業設計ー」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 22 号 2010 pp.101-110
33	自動車を作る工業	埴岡靖司	埴岡靖司「『マルチ・スケール』アプローチによる小学校社会科学習ー小学校第 5 学年『工業のある場所と広がりー自動車工業ー』の内容開発」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 23 号 2011 pp.11-20
34	地域の特産物	小田浩平	小田浩平「情意的立場から合理的立場への『視点』の転換による概念の獲得ー小学校第 3 学年『地域の特産物』を事例にしてー」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 24 号 2012 pp.11-20
35 36	野菜作りのさかんな宮崎平野	吉崎雄貴	吉崎雄貴「子どもによる知識の構造の精緻化を目指した社会科授業開発ー『なぜ疑問の分割と連鎖』と『因果関係』に着目してー」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 26 号 2014 pp.71-80
37	工業生産と貿易	岡崎誠司	岡崎誠司「『グローバル化する社会』の理論獲得をめざす仮説吟味学習の単元開発ー小学校社会科第 5 学年単元『工業生産と貿易』の場合ー」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 27 号 2015 pp.41-50
38	気候の特色を生かした農業	佐々木豊	佐々木豊「概念装置獲得の過程を組み込んだ小学校社会科の授業開発ー第 5 学年『気候の特色を生かした農業』を事例としてー」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 27 号 2015 pp.51-60
39 40	梨農家で働く人々 (築西市関城地区)	佐藤克士	佐藤克士「社会空間の変容を捉えさせる小学校社会科授業開発ー第 3 学年地域学習 単元『梨農家で働く人々(築西市関城地区)』の場合ー」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 27 号 2015 pp.61-70
41 42	情報単元	戸田征男	戸田征男「情報産業の構造を読み解く小学校『情報単元』の授業開発ー『フリー』のビジネスモデルを事例としてー」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 28 号 2016 pp.41-50

## 第 I 章 第 2 節

### (4) 分析結果の整理と考察

まずは、経済的な学習内容を取り扱った小学校社会科先行授業の分析結果を整理する。次に、分析結果について考察する。

#### ① 分析結果の整理

分析の視点は、次の 3 点であった。

<b>【視点 1】</b> 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析
<b>【視点 2】</b> 分析対象の学習課題とその解における経済概念（経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容）の有無
<b>【視点 3】</b> 経済概念の説明（原因－結果、目的－手段、条件－状況）への組み込まれ方

上記の視点 1～3 をふまえて、分析結果の一覧表を作成する。表 I - 2 - 13 に、分析結果を示す。なお、実際の分析票については、〈資料編〉に掲載する。

**表 I - 2 - 13 小学校社会科先行授業の分析結果**

No	分析対象の記述	経済に関する用語	法則性の有無	経済概念の説明への組み込まれ方	判定：経済学的な説明といえるか
1	<b>【原因】</b> 日本は、製鉄に必要な鉄鉱石や原料炭などの主原料を、海外から輸入する。また、できた製品は国内外へ出荷する。輸送には、重量のある原料や、製品を大量に運べる船舶を利用する。 <b>【結果】</b> 日本の製鉄所はすべて海に面した所に建設されている。	立地論	○	原因と結果の双方に組み込まれている。	○
2	<b>【目的】</b> たくさんの種類の車を少量同じライン上で作るのに適している。倉庫がいらない。・土地が不要、建物が不要、労働者が不要、在庫管理が不要、運搬機材が不要。 <b>【手段】</b> ジャスト・イン・タイム方式をとる。	ジャスト・イン・タイム方式	×	/	×
3	<b>【原因】</b> 1 個分の儲けを減らしている。 <b>【結果】</b> 缶ジュースを 1 本 55 円で売ることができる。	利潤	○	原因にも結果にも組み込まれていない。しかし、本時以前に利潤について学習している。	△
4	<b>【原因】</b> 売るのにかかるお金を節約する。できるだけ安く仕入れる。 <b>【結果】</b> 缶ジュースを 1 本 55 円で売ることができる。	費用	○	原因にも結果にも組み込まれていない。	×
5	<b>【原因】</b> 消費者ニーズに対応した商品を置く。 <b>【結果】</b> コンビニは、多くの人々が利用し商店数や販売額を増やすことができる。	需要	○	原因にも結果にも組み込まれていない。	×

第 I 章 第 2 節

No	分析対象の記述	経済に関する用語	法則性の有無	経済概念の説明への組み込まれ方	判定：経済学的な説明といえるか
6	<p>【原因】 運輸業者や卸売り業者と協力して流通センターをつくりジャスト・イン・タイム輸送をしている。</p> <p>【結果】 コンビニは、多くの人々が利用し商店数や販売額を増やすことができる。</p>	ジャスト・イン・タイム物流	×		×
7	<p>【原因】 他の島から市場へ運ぶにはフェリー代がかかるが、倉橋町からはトラック輸送のため輸送費が安い。</p> <p>【結果】 漬物の会社は、多くの島の中で特に、倉橋町の農家に広島菜づくりをお願いする。</p>	費用	○	原因にも結果にも組み込まれていない。	×
8	<p>【原因】 稲の豊作や不作に関係ない。軽くて持ち運びに便利である。破損や腐敗の危険性がない。他のものに交換可能である。朝廷が自由に無制限に作ることができる。朝廷が自由に価値を決めることができる。</p> <p>【結果】 708年、朝廷は給料をお金に換えた。</p>	貨幣	○	原因にも結果にも組み込まれていない。	×
9	<p>【条件】 もしも、鹿児島市がごみ処理を止め、ごみ処理屋さんに頼むことになったらどうなるかを考えよう。</p> <p>【状況】 1キロ 20円程度の処分費用が必要となる。再利用できるものは買い取られる。</p>	費用	○	条件にも状況にも組み込まれていない。	×
10	<p>【原因】 お客さんは「いつでも」「何でも」「どこでも」「だれにでも」の安売りの方が嬉しいよ。どうしてだめなの。</p> <p>【結果】 小売店では、原価をベースとして一定の利潤を加算した上で価格を設定し、できる範囲で安売りを行っている。</p>	コスト プラス方式	○	原因に組み込まれている。	○
11	<p>【目的】 水産資源として将来性があるので、地域を活性化できる。</p> <p>【手段】 黒鯛を食べるように働きかけ、栽培を続ける。</p>	資源	×		×
12	<p>【目的】 利用できる海洋面積が増え、豊富な資源も利用できる。</p> <p>【手段】 沖ノ島島を守るために、たくさんのお金をかける。</p>	費用	○	原因にも結果にも組み込まれていない。	×
13	<p>【原因】 利益を上げるために、集客力を高める工夫（低価格、品揃え、立地など）をしている。</p> <p>【結果】 100円ショップは、売上げや店舗数が伸びている。</p>	収益（売上）	○	原因に組み込まれている。	○



第 I 章 第 2 節

No	分析対象の記述	経済に関する用語	法則性の有無	経済概念の説明への組み込まれ方	判定：経済学的な説明といえるか
14	<p>【原因】 100円ショップは、商品の価格を下げるために原材料費や賃金を安くするための努力をしている。</p> <p>【結果】 100円という低価格で売る。</p>	費用	○	原因にも結果にも組み込まれていない。	×
15	<p>【原因】 100円ショップは、商品の価格を下げるために、海上コンテナによる大量輸送によって経費を低くする努力をしている。</p> <p>【結果】 100円という低価格で売る。</p>	輸送	×		×
16	<p>【原因】 低価格の商品を売ることで集客力を高め、利益を上げる。</p> <p>【結果】 100円ショップで、原価120円の商品を売る。</p>	ロス・リーダー	○	原因と結果の双方に組み込まれている。	○
17	<p>【原因】 複数の農家が営農集団をつくり、大規模化させている。</p> <p>【結果】 岡山県産あきたこまちは安く売られている。</p>	集落営農	○	原因にも結果にも組み込まれていない。	×
18	<p>【原因】 特殊技術、少量生産によって、ブランド化している。</p> <p>【結果】 魚沼産コシヒカリは高く売られている。</p>	ブランド商品	○	原因にも結果にも組み込まれていない。	×
19	<p>【目的】 社会変化に伴う多様な消費者ニーズに着目し、人数の増加が見込める階層を購買層に定め、それらのニーズに沿った店をつくることで、売り上げを伸ばそうとしている。</p> <p>【手段】 ローソンは、健康的な商品や安さに焦点をあてた店を作った。</p>	収益(売上)	○	目的に組み込まれている。	○
20	<p>【目的】 広島県のローソンでは、消費者の多様なニーズに応えるために、大都市と地方の実態に即して販売形態を変える工夫を行っている。</p> <p>【手段】 東京のような大都市と広島とでは、販売方法が異なる。</p>	需要	○	目的にも手段にも組み込まれていない。	×
21	<p>【原因】 中区や南区では、交通が便利で店が多いため、土地の値段が高い。安佐北区や佐伯区は、中心部から遠いため、安くて広い土地を人々は買うことができる。</p> <p>【結果】 広島市中心の中区や南区では人口が減り、中心部より遠い安佐北区や佐伯区では、人口が急にたくさん増えている。</p>	地価	×		×

第 I 章 第 2 節

No	分析対象の記述	経済に関する用語	法則性の有無	経済概念の説明への組み込まれ方	判定：経済学的な説明といえるか
22	<p>【原因】 日光東照宮は、近年では Michelin で 3 つ星に格付けされたりパワースポットブーム等を背景にテレビや雑誌等で取り上げられたりするようになった。</p> <p>【結果】 日光東照宮は日光五大観光地の中で一番人気がある。</p>	宣伝	○	原因にも結果にも組み込まれていない。	×
23	<p>【目的】 BSE を安全になくすため。牛肉に対して不安をもっている人が多い。</p> <p>【手段】 多くの費用をかけて日本は安全基準を高く設定している。</p>	費用	○	目的にも手段にも組み込まれていない。	×
24	<p>【原因】 太平洋ベルト地帯には、自動車工場など鉄製品を使う工場が多い。新しい製鉄所は、重量のある製品が輸送しやすい。</p> <p>【結果】 日本の製鉄所は、関東から北九州にかけての太平洋ベルト地帯に多い。</p>	立地論	○	原因と結果の双方に組み込まれている。	○
25	<p>【原因】 地下にダムをつくるので立ち退き料などの費用が節約できる。</p> <p>【結果】 (宮古島は：松浪) 地下にダムを建設した。</p>	費用	○	原因にも結果にも組み込まれていない。	×
26	<p>【原因】 食生活が変化すると加工食品や外食の利用が多くなり、生産者と消費者の間に様々な業者が介在するようになった。これによって、経費を減らし保存性を高めるために農薬や食品添加物などが使われ、消費者に生産や流通段階での安全性に関する情報が届きにくくなった。</p> <p>【結果】 「食の安全」に対する問題が発生してきた。</p>	リスク (危険)	○	原因にも結果にも組み込まれていない。	×
27	<p>【原因】 食料の安定供給が優先され、食料の安全性については積極的な取り組みはしてこなかった。しかし、「食の安全」の問題が繰り返し発生してきたので、これまでの農業政策と食品安全行政を見直し、「食の安全」を確保しようとしている。</p> <p>【結果】 日本は「食の安全」を守る新しい仕組みを取り入れた。</p>	供給	○	原因にも結果にも組み込まれていない。	○
28	<p>【目的】 もうけるため。</p> <p>【手段】 通販は、かかる費用を少なくしようとしている。</p>	利潤	○	目的にも手段にも組み込まれていない。しかし、前時に利潤について学習している。	△

第 I 章 第 2 節

No	分析対象の記述	経済に関する用語	法則性の有無	経済概念の説明への組み込まれ方	判定：経済学的な説明といえるか
29	<p>【目的】 CO<sub>2</sub>を削減させる。</p> <p>【手段】 内陸輸送から鉄道輸送や海運に変えていこうとしている。</p>	輸送	×		×
30	<p>【原因】 消費者は調理しやすい形が揃っていて、まっすぐなキュウリを買う。消費者は見た目のいいキュウリを買う。小売店は消費者の好むまっすぐなキュウリを販売する。</p> <p>【結果】 キュウリ農家は、わざわざまっすぐなキュウリを栽培している。</p>	需要	○	原因にも結果にも組み込まれていない。	×
31	<p>【原因】 1箱に箱詰めできる本数が多いと遠くの九州の方から運ぶ時、一度にたくさん運べる。輸送にかかる費用が安くなるため、キュウリの値段が安くなる。</p> <p>【結果】 キュウリ農家は、わざわざまっすぐなキュウリを栽培している。</p>	費用	○	原因にも結果にも組み込まれていない。	×
32	<p>【原因】 貨幣制度を整え、正貨を安定的に流通させる。</p> <p>【結果】 江戸幕府は銀を必要とした。</p>	貨幣	○	原因にも結果にも組み込まれていない。しかし、後続の学習において、貨幣の法則性が学習されている。	△
33	<p>【原因】 工場をつくることのできる広大な土地が安く手に入ること、豊富で優秀な労働力の確保がしやすいこと、物流に有利な高速道路や港、空港が近くにあるという興津条件がそろっていること、国や地方の援助を受けることができるという理由で工場を立地している。</p> <p>【結果】 自動車関連工場は、内陸部に広がっている。</p>	立地論	○	原因と結果の双方に組み込まれている。	○
34	<p>【原因】 黒豆作りの農家の人々は、乾燥にお金や手間がかかっても、消費者がほしがる正月の時期に合わせて出荷すれば、たくさんの黒豆が高く売れる。</p> <p>【結果】 黒豆作りの農家の人々は、1月の終わりには自然に乾燥し、収穫できるのに、お金や手間のかかる乾燥機を使ってまで、11月の終わりに収穫する。</p>	需要・供給の法則	○	原因にも結果にも組み込まれていない。	×
35	<p>【原因】 きゅうりの旬は夏であり、旬ではない冬の時期だと生産量が減り、需要に比べ他府県からの入荷量が少なくなる。そのため、品物の価値が上がり、高い値段で取り引きされる。</p> <p>【結果】 旬ではない時期に（きゅうりを：松浪）出荷する。</p>	需要・供給の法則	○	原因に組み込まれている。	○

第 I 章 第 2 節

No	分析対象の記述	経済に関する用語	法則性の有無	経済概念の説明への組み込まれ方	判定：経済学的な説明といえるか
36	<p>【原因】 交通網が発達し、輸送時間が短縮された。また、鉄道による大量輸送によって輸送費用を削減でき、さらに、保冷設備の整備によって鮮度を保ち輸送できるようになった。</p> <p>【結果】 (きゅうりを：松浪) 全国に出荷することができる。</p>	費用	○	原因にも結果にも組み込まれていない。	×
37	<p>【原因】 人件費が安い、生産費が安い。</p> <p>【結果】 中国に日本の自動車会社の組立工場が、世界で最もたくさんある。</p>	費用	○	原因にも結果にも組み込まれていない。	×
38	<p>【原因】 沖縄県では冬のあたたかい気候を利用してビニールハウスを使わずに菊を栽培することで、生産にかかる費用をおさえて飛行機でも菊が出荷できるようにしている。</p> <p>【結果】 輸送費のかかる飛行機で菊を出荷することができる。</p>	費用	○	原因にも結果にも組み込まれていない。	×
39	<p>【原因】 築西市産（茨城県産）の梨が市場で高く評価され、高い収益を得ることができるからである。その中でも贈答用の「新高」は、最高級ブランド梨として 1 玉 (9L) 2500 円以上で販売されている。</p> <p>【結果】 築西市の中でも関城地区では、梨作りが盛んである。</p>	収益 (売上)	○	原因にも結果にも組み込まれていない。	×
40	<p>【目的】 他の産地と同じ農産物との差別化（付加価値）を図ることで、高値で取引される。</p> <p>【手段】 稲城市や世羅市では、6 次産業化をめざしている。</p>	6 次産業化	○	付加価値の上昇についての内容は、目的に組み込まれている。しかし、各産業の有機的・総合的結合については、示されていない。	△
41	<p>【原因】 新聞社は、新聞を作るのに、多くの人が関わっている。また、新聞を印刷したり、輸送したりするのもお金がかかる。そのため、新聞社は、新聞を有料で販売することによって、会社を運営している。</p> <p>【結果】 新聞は、有料である。</p>	費用	○	原因と結果の双方に組み込まれている。	○
42	<p>【原因】 民法は広告主からの広告収入によって運営されている。広告主は、番組と一緒に広告（CM）を見てもらうことによって、商品の売り上げを増やそうとしている。</p> <p>【結果】 民法のテレビ局は、無料で番組を放送している。</p>	広告収入	○	原因に組み込まれている。	○

以上の分析結果から明らかとなった事実を、1～3の視点ごとに整理して示す。

**【視点1】社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している  
学習課題とその解の分析**

視点1の分析から、次の3点が明らかとなった。

- ① 社会事象間の関係を原因－結果の関係で説明している記述は、32/42事例であった。
- ② 社会事象間の関係を目的－手段の関係で説明している記述は、9/42事例であった。
- ③ 社会事象間の関係を条件－状況の関係で説明している記述は、1/42事例であった。

**【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念（経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容）の有無**

視点2の分析から、次の2点が明らかとなった。

- ① 経済概念（経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容）が示された記述は、36/42事例であった。
- ② 取り扱われている経済概念は、立地論、利潤、費用、貨幣、コストプラス方式、収益（売上）、ロス・リーダー、集落営農、ブランド商品、需要、宣伝、リスク（危険）、供給、需要・供給の法則、6次産業化、広告収入であった。ジャスト・イン・タイム方式、ジャスト・イン・タイム物流、資源、輸送、地価からは、法則性が確認されなかった。

**【視点3】経済概念の説明（原因－結果、目的－手段、条件－状況）への組み込まれ方**

視点3の分析から、次の4点が明らかとなった。

- ① 経済概念が原因（目的、条件）に組み込まれているものは、5/42事例であった。経済概念の種類は、コストプラス方式、収益（売上）、需要・供給の法則、広告収入である。
- ② 経済概念が結果（手段、状況）に組み込まれているものは、0/42事例であった。
- ③ 経済概念が原因と結果（目的と手段、条件と状況）の双方に組み込まれているものは、5/42事例であった。経済概念の種類は、立地論、ロス・リーダー、費用である。
- ④ 経済概念が原因（目的、条件）にも結果（手段、状況）にも組み込まれていないものは、26/42事例であった。経済概念の種類は、利潤、費用、需要、貨幣、集落営農、ブランド商品、宣伝、リスク（危険）、供給、需要・供給の法則、収益（売上）、6次産業化である。なお、26事例のうち3事例は、先行または後続の授業において、経済概念の内容を学習しているため、△と判定している。

## 第1章 第2節

そして、社会事象を経済学的に説明していると判定された記述は、10 / 42 事例であった。取り扱われている経済概念は、立地論、コストプラス方式、収益（売上）、ロス・リーダー、需要・供給の法則、費用、広告収入である。

本節第1項では、経済学の重要概念であり、H 元年版指導書、H10 年版、H20 年版、H29 年版の各解説編にも示されている売上（収益）、費用、価格、需要、供給に焦点化した分析も行った。小学校指導書社会編と小学校学習指導要領解説社会編では、61 / 70 事例が、用語のみで内容が示されていなかった。また、残りの9事例も、内容が不十分という分析結果であった。

小学校社会科先行授業では、売上（収益）、費用、価格、需要、供給の5点の内容が示されたものが、全30事例抽出された。また、売上（収益）、費用、需要、供給の4点については、内容が説明に組み込まれ、「社会事象を経済学的に説明している。」と判定できるものも4事例見つかった<sup>(13)</sup>。もちろん、売上（収益）、費用、価格、需要、供給という用語のみが示された先行授業も多数存在する。しかし、内容が示されていたり、説明に組み込まれていたりする事例があるという点で、先行授業の方が、小学校指導書社会編や小学校学習指導要領解説社会編の記述よりも、質的に高いと判断できる。

### ② 分析結果の考察

#### A 「社会事象の経済学的な説明」に関する分析結果の考察

1989年（平成元年）から2019年（令和元年）の30年間に発行された全国社会科教育学会『社会科研究』『社会科教育論叢』、日本社会科教育学会『社会科教育研究』、社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』、日本公民教育学会『公民教育研究』の計202冊に掲載された論文（1620本）を調査対象とした。そして、「①校種が小学校のもの」「②本時の展開が示されているもの」「③学習課題とその解に、原因－結果、目的－手段、条件－状況いずれかの関係が確認できるもの」「④学習課題とその解に、経済に関する用語とその内容が示されているもの」を選定条件とした結果、分析対象となった小学校社会科先行授業は、42事例である。この数値は、調査対象の論文が1620本であることを考慮すると、きわめて少ない。そして、フレームワークによる分析の結果、社会事象を経済学的に説明していると判定できた記述は、わずか10 / 42事例（約23.8%）であった。この数値は、小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編の分析結果（5 / 28事例、約17.8%）と比較すると、約6%高いものの、依然として低い水準といえる。すなわち、小学校社会科先行授業でも、社会事象の経済学的な説明に関しては不十分と判断できる。

#### B 「売上（収益）、費用、価格、需要、供給」に関する分析結果の考察

売上（収益）、費用、価格、需要、供給の5点については、内容が示された小学校社会科先行授業が合計30事例抽出された。この数値は、調査対象の論文が1620本であること

## 第1章 第2節

を考慮すると、きわめて少ない。しかし、売上（収益）、費用、需要、供給の4点については、内容が説明に組み込まれ、「社会事象を経済学的に説明している。」と判定されたものも4事例見つかった。小学校指導書社会編と小学校学習指導要領解説社会編では、61/70事例が、用語のみで内容が示されていなかった。また、残りの9事例も、内容が不十分という分析結果であった。すなわち、売上（収益）、費用、価格、需要、供給に限定すると、小学校社会科先行授業は、小学校指導書社会編や小学校学習指導要領解説社会編の課題を乗り越えているといえる<sup>(14)</sup>。

### 【註及び引用・参考文献】

- (1) 視点2-②の分析で法則性が確認できれば、経済に関する用語を経済概念と判断する。
- (2) 視点1-②で分析された記述と視点2-②の分析で明らかとなった法則性を比べる。その上で、視点1-②で分析された記述は、経済概念が組み込まれた説明といえるかを判断する。
- (3) 収益には、財・サービスの売上に加えて、預金の利息といった営業外の入金も含まれる。しかし、収益の主たる構成要素は売上である。そこで、本研究では、収益と売上を同義として取り扱う。
- (4) 「収益」金森久雄 荒憲治郎 森口親司編『経済辞典第5版』有斐閣 2013.12 p.572
- (5) 「費用」金森久雄 荒憲治郎 森口親司編『経済辞典第5版』有斐閣 2013.12 p.1064
- (6) 「価格」金森久雄 荒憲治郎 森口親司編『経済辞典第5版』有斐閣 2013.12 p.129
- (7) 「需要」金森久雄 荒憲治郎 森口親司編『経済辞典第5版』有斐閣 2013.12 p.595
- (8) 「供給」金森久雄 荒憲治郎 森口親司編『経済辞典第5版』有斐閣 2013.12 p.236
- (9) ここでの「達成目標」とは、達成度が評価できるよう内容が明確化された目標を意味する。
- (10) 視点2-②の分析で法則性が確認できれば、経済に関する用語を経済概念と判断する。
- (11) 視点1-②で分析された記述と視点2-②の分析で明らかとなった法則性を比べる。その上で、視点1-②で分析された記述は、経済概念が組み込まれた説明といえるかを判断する。

## 第 I 章 第 2 節

- (12) 論文本数については、研究論文に加え、特集論文、研究ノート、実践研究及び実践報告、学会のシンポジウムや課題研究の報告もカウントした。ただし、書評やコラムについては除外している。また、松浪が執筆した研究論文（2本）も除外している。
- (13) ただし、需要と供給の概念については、需要・供給の法則として説明に組み込まれている（表 I - 2 - 13 を参照）。
- (14) 本研究では、平成元年版小学校指導書社会編、平成 10 年版、平成 20 年版、平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編と、経済的な学習内容を取り扱った小学校社会科先行授業を分析対象とした。しかし、小学校社会科教科書は、分析していない。理由は、次の 2 点である。
- ① 現行（2019 年度）の小学校社会科教科書は、平成 20 年版小学校学習指導要領解説社会編を基に構成されている。本研究では、平成 20 年版小学校学習指導要領解説社会編を分析対象としているため、小学校社会科教科書まで分析する必要はないと判断した。
  - ② 次年度（2020 年度）からは、平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編に基づいた小学校社会科教科書が使用される。つまり、現行（2019 年度）の小学校社会科教科書は、大幅に改訂されることとなるため、分析の対象から除外した。



### 第 3 節 小学校社会科授業における経済的な学習内容の改善の方向性

第 2 節では、小学校社会科授業における経済学的な学習内容の課題を明らかにするため、次の 2 点を行った。

- ① 平成元年版小学校指導書社会編，平成 10 年版，平成 20 年版，平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編の分析と考察
- ② 経済的な学習内容を取り扱った小学校社会科先行授業の分析と考察

本節では、第 2 節での分析と考察を基に、小学校社会科授業における経済的な学習内容の改善の方向性を示す。第 1 項では、第 2 節で抽出された課題を明確化し、本研究の意義について論じる。第 2 項では、明確化された課題を乗り越えるための方法について検討する。具体的には、価格理論を組み込むことで、経済的な学習内容を精緻化するという方向性について論じる。

#### 1 小学校社会科授業における経済的な学習内容の課題の明確化

H 元年版指導書，H10 年版，H20 年版，H29 年版の各解説編を分析し，考察した結果，次の 2 点の課題が明らかとなった。

- ① 指導書及び解説編計 4 冊のうち，社会事象を経済学的に説明していると判定できた記述は，わずか 5 事例である。したがって，H 元年版指導書，H10 年版，H20 年版，H29 年版の各解説編は，社会事象の経済学的な説明を意図して作成されていない。
- ② 経済学の重要概念であり，指導書及び解説編計 4 冊にも示されている売上（収益），費用，価格，需要，供給の 5 点については，61 / 70 事例が，用語のみで内容が示されていない。また，残りの 9 事例も，内容が不十分である。

また，経済的な学習内容を取り扱った小学校社会科先行授業を分析し，考察した結果，次の 2 点の課題が明らかとなった。なお，上記の課題①②と比較して論じるため，通し番号③④で示す。

- ③ 調査対象の論文 1620 本のうち，社会事象を経済学的に説明していると判定できた小学校社会科先行授業は，わずか 10 事例である。小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編の分析結果と同じく，きわめて低い水準といえる。
- ④ 売上（収益），費用，価格，需要，供給の 5 点の内容が示された小学校社会科先行授業は，調査対象の論文 1620 本のうち，わずか 30 事例である。

## 第 I 章 第 3 節

まずは、社会事象の経済学的な説明に関する課題①と③について論じる。課題①と③の内容から、H 元年版指導書、H10 年版、H20 年版、H29 年版の各解説編や小学校社会科先行授業において、社会事象の経済学的な説明は意図されていないことが分かる。社会事象の経済学的な説明は、社会科の目標の一つである社会認識を形成する上で有効である。また、第 1 節で論じたように、社会科教育学だけではなく、認知心理学の視点からも社会事象の経済学的な説明は有意義といえる。そこで、本研究では引き続き、社会科教育の分野で蓄積が乏しい「社会事象の経済学的な説明」をめざし、小学校社会科授業を開発する。

次に、経済学の重要概念である「売上（収益）、費用、価格、需要、供給」に関する課題②と④について論じる。課題②の内容から、H 元年版指導書、H10 年版、H20 年版、H29 年版の各解説編の記述には、上記の 5 点の内容が示されていないことが分かる。また、課題④の内容から、小学校先行授業においても、売上（収益）、費用、価格、需要、供給の内容が示されたものは 30 / 1620 事例ときわめて少ない。そこで、これら 5 点の内容に着目し、小学校社会科授業を開発する。

しかし、第 2 節の分析で判明したように、社会事象を経済学的に説明した授業は皆無ではない。また、売上（収益）、費用、価格、需要、供給の内容を取り扱った記述は、指導書及び解説編ではゼロであるものの、小学校社会科先行授業では 30 事例抽出されている。したがって、社会科教育における本研究の意義や新規性を考慮すると、売上（収益）、費用、価格、需要、供給の内容を取り扱い、社会事象を経済学的に説明した授業を開発するだけでは不十分である。

そこで、小学校社会科授業で取り扱う経済概念について、さらに検討する。そもそも、売上（収益）、費用、価格、需要、供給の 5 点は、経済学において重要というだけでなく、指導書や解説編に掲載されているという理由で選定している。しかし、小学校段階で学習しておくべき経済概念は、売上（収益）、費用、価格、需要、供給以外にも 3 点ある。

1 点目は、利潤である。企業は生産要素の制約の下で、利潤の最大化が実現するように財・サービスの生産量を決定している。つまり、利潤の最大化を目的として、企業は生産活動を行っている。さらに、利潤と密接に関連する売上（収益）、費用、価格といった概念が、指導書及び解説編で取り扱われているにも関わらず、利潤についての記述はない。また、前節第 2 項における小学校社会科先行授業の分析では、利潤の内容を取り扱ったものが 2 事例抽出された (No.3, No.28)。しかし、どちらも適切に説明には組み込まれていない。

2 点目は、リスクである。企業が、利潤の最大化という目的を達成するためには、有効な手段を選択し、実行に移すことが不可欠となる。その際、利潤の金額は、企業が手段を選択する際の判断基準となる。そして、獲得できる利潤の金額に、多大な影響を与える要素として、リスクがあげられる。しかし、指導書及び解説編において、リスクに関する記述はない。また、前節第 2 項における小学校社会科先行授業の分析では、リスクの内容を取り扱ったものが 1 事例抽出された (No.26)。しかし、適切に説明には組み込まれていない。

## 第 I 章 第 3 節

3 点目は、便益である。現代社会は、企業の生産活動のみで成立しているわけではない。公共の福祉のため、政府（国や地方公共団体）が行う公共事業も不可欠となる。そして、公共事業の場合、新規事業の採択時や採択後一定期間経過した事業については、評価を行うことが義務付けられている。具体的には、事業全体にかかる総費用や事業実施により生まれる総便益を算出し、双方の数値を比較することで、事業の採択や継続を決める判断材料としている。したがって、費用と便益の内容を総合した費用・便益理論を取り扱うことは、現代社会のしくみを理解する上で有意義といえる。しかし、指導書及び解説編において、便益に関する記述はない。また、前節第 2 項における小学校社会科先行授業の分析でも、便益の内容を取り扱ったものは 0 事例であった。

利潤概念、リスク概念、費用・便益理論を組み込んで小学校社会科授業を構成する意義については、第 II 章第 3 節でさらに詳しく論じる。しかし、現段階で明らかなのは、上記の経済概念を組み込んで社会事象を経済学的に説明した小学校社会科授業は、未だ開発されていないということである。この事実は、現在の小学校社会科授業の課題といえる。

また、前節第 2 項における小学校社会科先行授業の分析では、需要と供給双方の内容を取り扱ったものが 2 事例抽出された（No.34, No.35）。そして、No.35 については、需要と供給が適切に説明に組み込まれている。図 I - 3 - 1 に、原因－結果の関係を示す。

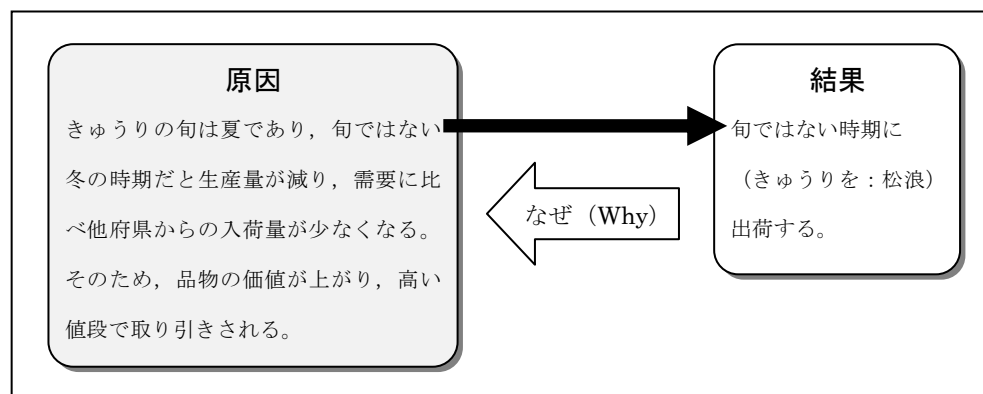


図 I - 3 - 1 小学校社会科先行授業分析票 No. 35 における原因－結果の関係<sup>(1)</sup>

原因には、きゅうりの供給が減るしくみが示されている。また、「需要に比べ」と需要と供給の関係についても言及されている。したがって、No.35 は、需要と供給の関係が適切に説明に組み込まれた事例といえる。しかし、需要が増加すれば価格が上昇する（需要が減少すれば価格が下落する）という需要側の法則性については、内容が乏しい。すなわち、需要と供給双方の内容が的確に取り扱われているとは言い難い。また、需要と供給のバランスにより価格が決定するというしくみも示されていない。

そこで、本研究では、利潤概念、リスク概念、費用・便益理論に加え、需要・供給理論も取り扱い、それぞれを組み込んだ小学校社会科授業を開発する。

## 2 本研究の意義

第 1 項では、利潤概念、リスク概念、費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業が未開発であることを論じた。また、需要・供給理論が組み込まれた小学校社会科先行授業についても、内容が不十分であることを明らかにした。

したがって、利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論それぞれを組み込んで社会事象の経済学的な説明をめざした小学校社会科授業を開発することは、有意義といえる。本研究における成果は、全国の小学校現場における授業実践の質的向上に資するものとなる。また、社会認識形成を目標の一つとする社会科教育に、新たな可能性を提示することができる。

## 3 価格理論を組み込むことによる経済的な学習内容の精緻化

本研究では、利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論のそれぞれを組み込んで小学校社会科授業を開発する。つまり、合計 4 本の授業モデルを提示することとなる。

社会科授業の目標の一つである社会認識を形成するためには、経済学を含む社会諸科学の研究成果を、教育内容に反映させる必要がある。しかし、第 2 節の分析で判明したように、指導書及び解説編では、経済学の研究成果が十分に反映されていない。そこで、授業を開発するにあたり、利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論について、経済学的に検討する必要がある。

そのためには、上記の経済概念を統合する理論について、検討することが不可欠となる。なぜなら、経済概念は個々に独立して成り立っているわけではなく、それぞれが関連して一つの理論体系が構築されているからである。そして、利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論や売上（収益）、費用、価格といった経済概念は、精緻に構築された価格理論に組み込まれている。したがって、利潤、リスク、需要・供給理論、費用・便益理論を経済学的に検討する前に、価格理論の概要を整理しておく必要がある。

ここで、経済学における価格理論の位置付けについて補足する。経済学は、分析対象のちがいによりミクロ経済学とマクロ経済学の 2 種類に分類される。ミクロ経済学は、個別の経済主体（家計や企業）の行動分析から始まり、市場全体や経済全体へと視野を広げていく。そのため、微視的経済学と訳される。そして、価格形成のしくみを最重要課題としていることから、「価格理論」ともいわれる。一方、マクロ経済学は、国民所得や国民総生産、経済全体の投資や消費という大きな視野から分析をする。そのため、巨視的経済学と訳される。すなわち、価格理論は、経済学の一部門であると共に、経済分析を行う上で不可欠な理論といえる。

## 第 I 章 第 3 節

先に述べたように、利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論は、価格理論の体系に組み込まれている。したがって、それらを個別に検討し、小学校社会科授業に反映させても、精緻な学習内容にはならない。

ここでは、利潤概念を例として論じる。小学校現場の社会科授業では、産業従事者の意図、目的を理解させるため、「なぜ、〇〇のような工夫をするのだろうか。」と発問する授業が見られる。子どもは、「売上を増やすため。」「もうかるから。」と発問に対して解答する。その際、売上と儲け（利潤）が明確に峻別されず取り扱われることがある。しかし、売上と儲け（利潤）は、全く意味の異なる経済概念である。売上は、生産した財・サービスの販売により企業が得る代金を意味する。そして、「 $\text{価格} \times \text{販売量} = \text{売上}$ 」で求められる。一方、利潤は、各企業がその最大化をめざしており、売上から費用を差し引いた残余を意味する。つまり、「 $\text{売上} - \text{費用} = \text{利潤}$ 」で求められる。授業者が、価格理論を理解していない場合、売上と利潤の位置付けや意味が曖昧なため、両概念が峻別されずに取り扱われる。そして、授業を受けた子どもには誤った経済認識が形成される。この状態では、経済的な学習内容が精緻化されているとはいえない。

しかし、授業者が価格理論を理解し、その内容を授業に組み込むことができれば、経済的な学習内容は精緻化する。例示したように、「企業の目的は利潤の最大化」「 $\text{売上} - \text{費用} = \text{利潤}$ 」は、利潤概念の内容である。他にも、価格理論を概観することにより、「利潤の最大化が達成される価格と供給量の組み合わせ（価格と限界費用曲線の接点）の集合体が、一企業の供給曲線になる。」といった内容も把握できる。この内容は、利潤－価格－供給量－供給曲線や利潤－価格－限界費用曲線－供給曲線という概念間の関係も含まれている。利潤概念だけを検討していても、概念間の関係を理解することはできない。したがって、まずは、価格理論の全体像を捉えることが重要となる。その上で、利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を個別に検討し、小学校社会科授業に組み込むことで、経済的な学習内容は精緻化される。

そこで、第 II 章では、価格理論の概要を整理し、その構造を示す。その上で、利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を個別に検討し、小学校社会科授業の内容を構成する。

### 【註及び引用・参考文献】

- (1) 吉崎雄貴「子どもによる知識の構造の精緻化を目指した社会科授業開発－『なぜ疑問の分割と連鎖』と『因果関係』に着目して－」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 26 号 2014 pp.71-80

## 第Ⅱ章 価格理論を組み込んだ小学校社会科内容構成論

前章では、本研究の目的をより明確にするため、「社会事象の経済学的な説明」について論じた。また、小学校学習指導要領〔社会〕に対応した解説編や指導書及び本研究に関する小学校社会科先行授業を分析し、経済的な学習内容の課題を抽出した。そして、抽出された経済的な学習内容の課題を考察し、改善の方向性を明らかにした。

本章では、第Ⅰ章で論じた内容を基に、価格理論を組み込んだ小学校社会科内容構成論を示す。

第1節では、価格理論の概要を整理し、その構造を明らかにする。第2節では、価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法について明らかにする。第3節では、価格理論における利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用、便益理論を変換し、小学校社会科授業の内容を構成する。

### 第1節 価格理論の概要と構造

本節では、本研究で開発する小学校社会科授業において、内容構成の中核となる価格理論について整理する。価格理論は、主に家計と企業という二つの経済主体の行動を分析し、市場価格が成立するしくみを明らかにしている。価格理論においては、家計の行動から需要曲線、企業の行動から供給曲線が導かれ、この2曲線の関係により市場価格が形成される。つまり、需要曲線が導き出される背後には家計行動の理論、供給曲線が導き出される背後には企業行動の理論がそれぞれ存在する。

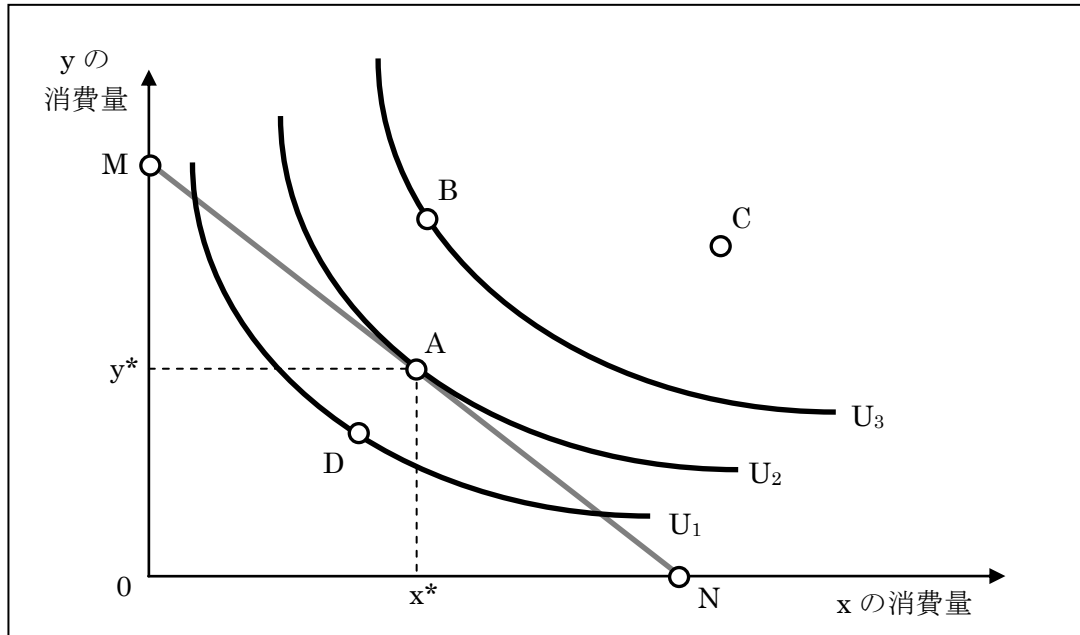
第1項では、価格理論における家計行動の概要について整理する。第2項では、価格理論における企業行動の概要について整理する。第3項では、価格理論の全体構造を示し、経済分析の基礎となる経済的合理性との関係について検討する。

#### 1 価格理論における家計行動の概要

家計は、制約の範囲内で、効用の最大化が実現するように財・サービスの消費量を決定する。家計行動の理論とは、家計の最適な消費計画を明らかにし、財・サービスに対する需要曲線を導き出す理論である。また、最適な消費計画を明らかにするためには、無差別曲線と予算制約線について理解する必要がある。

無差別曲線とは、家計の選好を表現したものであり、同じ効用が得られる財・サービスの組み合わせを結んだ曲線である。また、予算制約線とは、与えられた所得及び価格の下で、家計が購入できる財の最も大きい組み合わせを結んだ直線である<sup>(1)</sup>。

無差別曲線と予算制約線とを同じ図で表すことにより、最適な消費計画を導き出すことができる。次頁の図Ⅱ-1-1に、無差別曲線と予算制約線から導き出された最適な消費計画の例を示す。なお、分析を単純化するため、財は $x$ と $y$ の2種類であると仮定する。



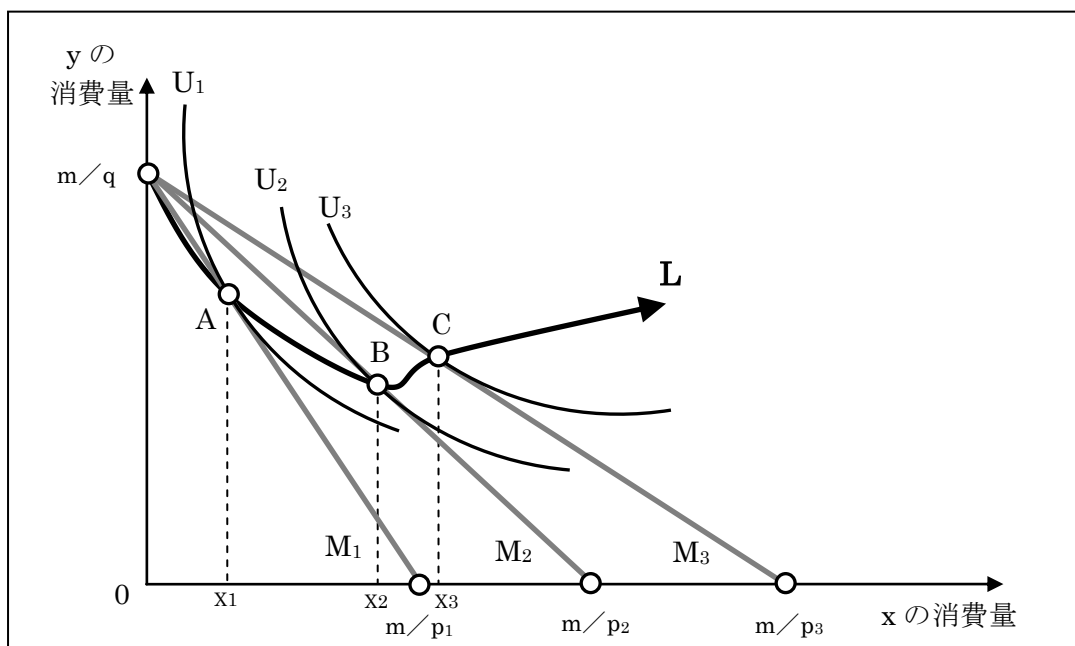
図Ⅱ－1－1 無差別曲線と予算制約線から導き出された最適な消費計画の例<sup>(2)</sup>

MNが予算制約線、 $U_1$ 、 $U_2$ 、 $U_3$ が無差別曲線である。点Bや点Cについては、予算制約線MNよりも右上方に位置するため購入不可能である。したがって、効用は発生しない。また、点Dを通る無差別曲線 $U_1$ は、点Aを通る無差別曲線 $U_2$ よりも内側（左下方）に位置する。したがって、点Aよりも効用水準が低いこととなる。点Aは無差別曲線MNと予算制約線 $U_2$ が接している点である。予算制約線上なので購入が可能な範囲の組み合わせであり、効用水準が最も高い。すなわち、点Aのように、無差別曲線と予算制約線が接する点において、効用の最大化が実現する。そして、最適な消費の組み合わせは、 $x^*$ と $y^*$ となる。

財・サービスの価格を変化させ、さまざまな予算制約下での最適な消費計画を発見することにより、需要曲線が導き出せる。例えば、所得 $m$ 及び $y$ の価格 $q$ は一定とし、 $x$ の価格 $p$ が $x_1 \rightarrow x_2 \rightarrow x_3$ と下落することを仮定する。 $x$ の価格が上昇すれば、消費量は減少するため予算制約線の勾配は大きくなる。逆に $x$ の価格が下落すれば、消費量は増加するため予算制約線の勾配は小さくなる。このケースにおける予算制約線の変化と無差別曲線の関係を、次頁の図Ⅱ－1－2に示す。

なお、予算制約線 $M_1$ 、 $M_2$ 、 $M_3$ の $y$ 切片は、 $m/q$ となる。これは、予算制約式( $px + qy = m$ )を、次のように変形することで確かめられる。

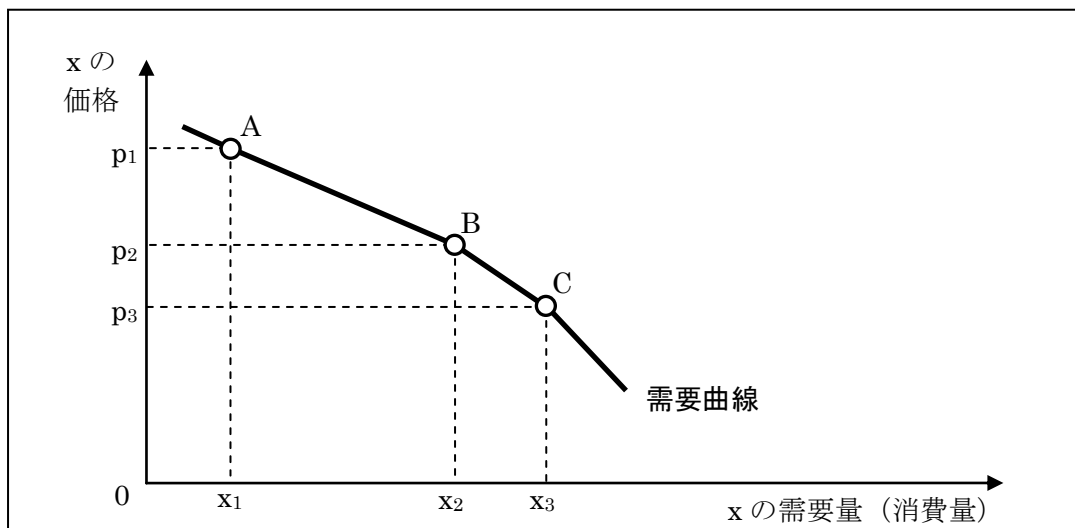
$$y = -\frac{p}{q}x + \frac{m}{q}$$



図Ⅱ-1-2 価格-消費曲線の例<sup>(3)</sup>

直線  $M_1$ ,  $M_2$ ,  $M_3$  はそれぞれ、 $x$  の価格が  $p_1$ ,  $p_2$ ,  $p_3$  ( $p_1 > p_2 > p_3$ ) のときの予算制約線である。点 A, 点 B, 点 C は、価格が  $p_1$ ,  $p_2$ ,  $p_3$  におけるそれぞれの最適な消費の組み合わせである。点 A, B, C を通る曲線 L は価格-消費曲線といわれ、 $p$  がさまざまな値に変化したときの最適な消費の組み合わせの軌跡である。また、無差別曲線が  $U_1$ ,  $U_2$ ,  $U_3$  の順に右上方に位置していることから、曲線 L 上の消費の組み合わせは、L の矢印方向に沿って効用水準が高くなっていくことを意味する。

図Ⅱ-1-2 から、さまざまな価格に対する  $x$  の最適な消費量を把握することができる。その関係を、図Ⅱ-1-3 に示す。



図Ⅱ-1-3 需要曲線の例<sup>(4)</sup>



## 第Ⅱ章 第1節

縦軸に  $x$  の価格  $p$ ，横軸に  $x$  の需要量（消費量）がそれぞれ示され，右下がりの曲線が両者の関係を表している。この曲線が， $x$  財に対する需要曲線である。

つまり，無差別曲線と予算制約線の接点から導き出された価格－消費曲線を， $x$ （あるいは  $y$ ）の価格と消費量の関係で捉えなおすことにより， $x$ （あるいは  $y$ ）の需要曲線が明らかとなる。以上が，家計行動の理論の概要である。

### 2 価格理論における企業行動の概要

企業は，制約の範囲内で，利潤の最大化が実現するように財・サービスの生産量を決定する。企業行動の理論とは，各種生産要素の最適な投入量を明らかにした上で，利潤が最大となる産出量を求め，財・サービスに対する供給曲線を導き出す理論である。利潤最大化問題を解決するためには，次の2段階の分析，検討を必要とする。

第1段階：費用最小化の条件を明らかにし，短期と長期の費用曲線を導き出す。

第2段階：求められた費用曲線から，利潤が最大となる産出量を明らかにする。

そして，利潤最大化問題の解として，供給曲線が導き出される。

費用最小化について検討する前に，生産における短期と長期について述べる。生産要素には，その投入量を容易に変更できるものと変更が困難なものが存在する。例えば，工場を新設し，機械を導入するには長期の時間を要する。一方，特殊ではない原材料の増減は，工場の新設と比べると，はるかに短期で実現できる。

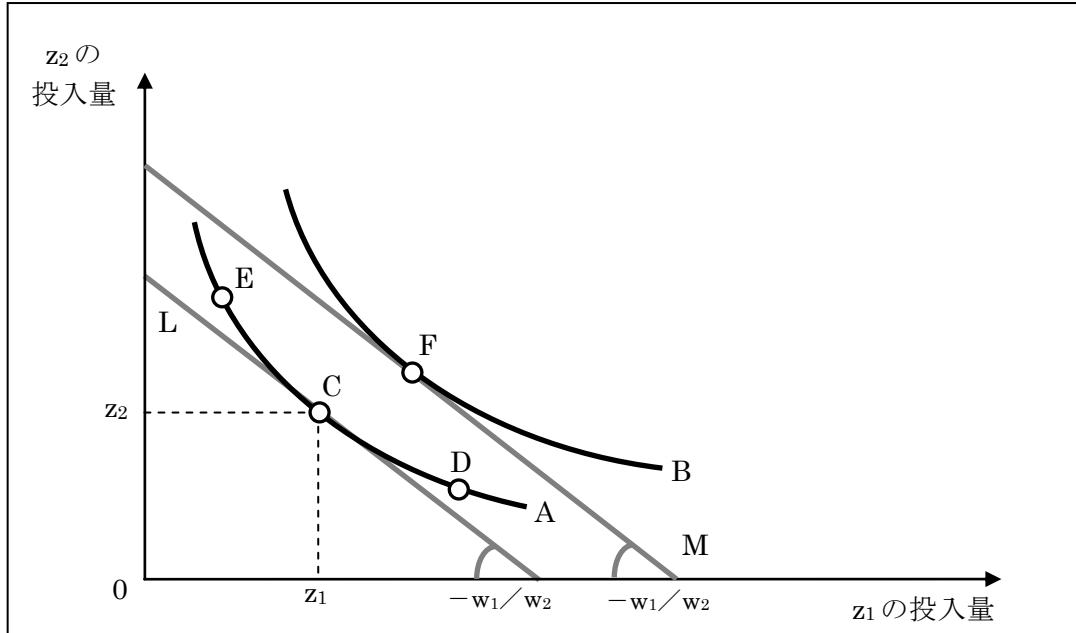
経済学では，理論を単純化するため，生産要素を2種類に分けている。一つは，相対的に短い期間で投入量を変更できる生産要素であり，「可変的生产要素」という。もう一つは，投入量の変更に，相対的に長い期間を要する生産要素であり，「固定的生産要素」という。また，可変的生产要素は自由に変更できるものの，固定的生産要素は変更できない期間は「短期」，いずれの生産要素も変更できるほど長い期間は「長期」と定義されている。

費用が最小となる産出量を明らかにするためには，等産出量曲線と等費用曲線について理解する必要がある。等産出量曲線とは，同じ産出量を生み出すことができる生産要素の組み合わせを結んだ直線である。家計行動の理論における無差別曲線に該当する。また，等費用曲線とは，与えられた要素価格の下で，同じ総費用となる生産要素の組み合わせを結んだ直線である。家計行動の理論における予算制約線に該当する。

等産出量曲線と等費用曲線とを同じ図で表すことにより，費用が最小となる点を導き出すことが可能となる。次頁の図Ⅱ－1－4に，等産出量曲線と等費用曲線から導き出された費用最小の組み合わせの例を示す。なお，分析を単純化するため，財は  $x$  と  $y$  の2種類であると仮定する。また，生産要素  $z_1$  と  $z_2$  の価格を  $w_1$ ， $w_2$  とする。生産要素の価格を設定

第Ⅱ章 第1節

することで、家計行動の理論において論じた予算制約線と同じく、一定の費用で購入できる  $z_1$  と  $z_2$  の組み合わせが検討できる。すなわち、費用  $c$  を一定として、「 $w_1z_1 + w_2z_2 = c$ 」を満たす組み合わせである。

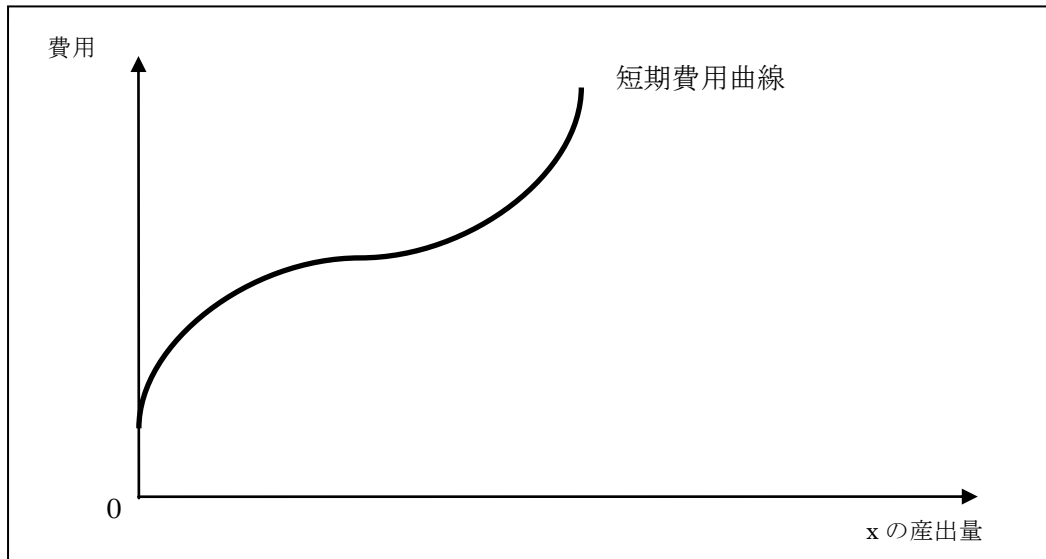


図Ⅱ-1-4 費用最小の組み合わせの例<sup>(5)</sup>

一定の産出水準をもたらす組み合わせの中で、費用が最小となる組み合わせを検討する。曲線 A、B は等産出量曲線である。曲線 A は、 $x$  を 100 単位生産するときの等産出量曲線とする。この曲線上で、費用が最小の組み合わせが点 C であることは、図から明らかである。点 D や点 E の組み合わせも、 $x$  を 100 単位生産できる。しかし、それらの点を通る等費用線は、L よりも右上となる。したがって、点 D や点 E は点 C よりも費用を要する組み合わせといえる。 $x$  が 200 単位の等産出量曲線を B とすると、費用最小の組み合わせは F となる。このように、費用が最小となる点においては、等産出量曲線と等費用曲線が接することが分かる。

生産要素の価格が変化すると、等費用曲線の位置が変わる。費用が最小となる点も生産要素の価格に応じて存在することとなる。そして、それらの点の軌跡は、費用曲線として表現される。費用曲線の例を、次頁の図Ⅱ-1-5 に示す。

横軸には  $x$  の産出量、縦軸には費用をとる。右上がりの曲線は、短期費用曲線を示している。短期費用曲線とは、短期における生産要素の投入量と産出量の関係を、費用と産出量の関係に置き換えたものとも解釈できる。



図Ⅱ－1－5 費用曲線の例

短期の費用は、2種類に分類できる。1点目は可変費用である。可変費用とは、生産水準に依存して増減する費用をさす。2点目は固定費用である。固定費用とは、生産水準に関わりのない一定の費用をさす。そして、可変費用と固定費用の総和が、総費用となる。

図Ⅱ－1－5の短期費用曲線は、原点を通過していない。つまり、生産水準がゼロのときも費用はゼロにはならないことを示している。生産水準がゼロのとき、可変費用はゼロのはずである。したがって、このときの費用は固定費用となる。

また、長期費用曲線とは、長期における各生産水準とそれに対応する最小費用の関係を示すものである。長期に固定費用は存在しない。したがって、すべての費用が可変費用となる。つまり、長期費用曲線は、原点を通る右上がりの曲線として表される。

引き続き、求められた費用曲線から、利潤が最大となる産出量を明らかにする。

まずは、さまざまな費用概念について検討する。可変費用及び固定費用については先に述べた。その他にも、次のような費用概念が存在する。

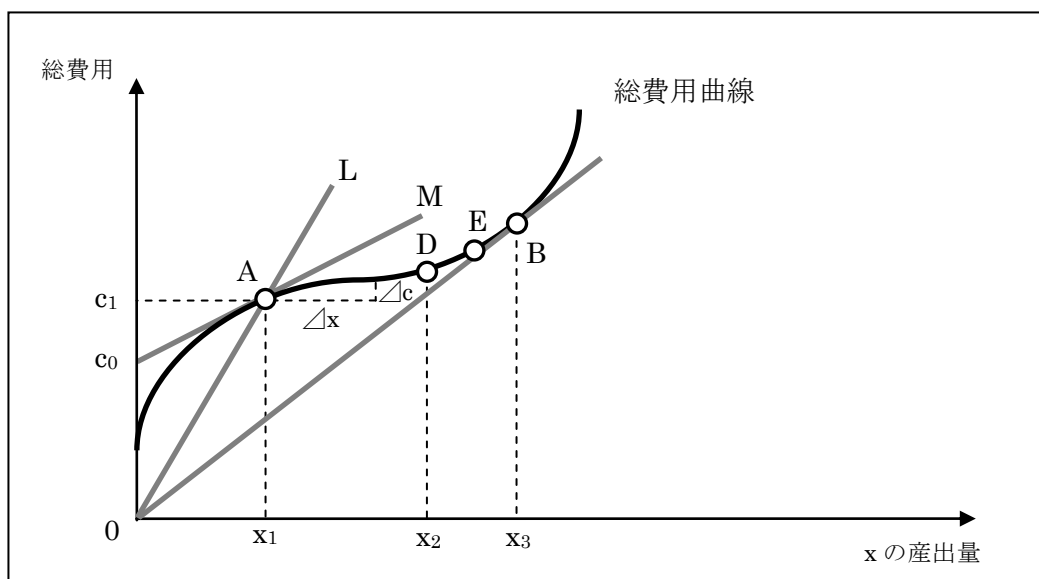
- ① 総費用（可変費用＋固定費用）      ② 平均可変費用（可変費用÷産出量）
- ③ 平均固定費用（固定費用÷産出量）      ④ 平均費用（総費用÷産出量）

さらに、利潤最大化問題を解決し、供給曲線を導き出すための重要な概念に「限界費用」がある。限界費用は、産出量の増加分に対する総費用の増加分で定義される。すなわち、次頁のような式となる。

$$MC = \frac{\Delta C}{\Delta X}$$

第Ⅱ章 第1節

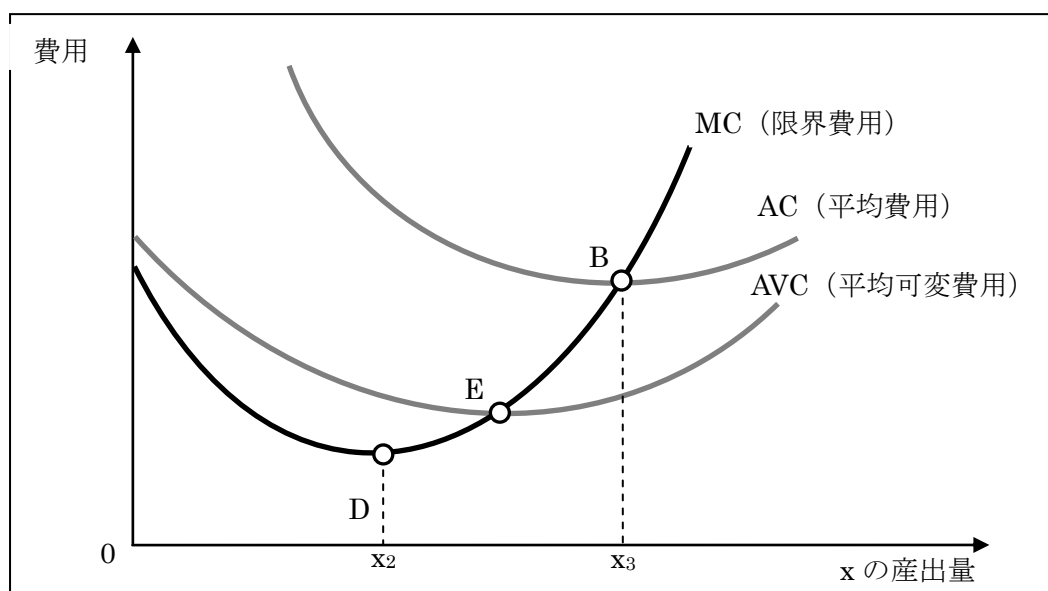
MCは限界費用， $\Delta x$ は産出量の増加分， $\Delta c$ は費用の増加分をそれぞれ表している。産出量と総費用との関係を示す曲線（総費用曲線）の例を，図Ⅱ-1-6に示す。



図Ⅱ-1-6 総費用曲線の例<sup>(6)</sup>

$c_0$ は，産出量がゼロのときも必要となる費用，すなわち固定費用と等しくなる。産出量が  $x_1$  のとき，総費用は  $c_1$  となる。しかし， $c_0$  は固定費用なので，「 $c_1 - c_0 =$  可変費用」となる。点 A における平均費用は，「総費用  $c_1 \div$  産出量  $x_1$ 」で求められる。すなわち，原点 O から点 A を通る直線 L の勾配に等しくなる。

図Ⅱ-1-6の総費用曲線に対応する平均可変費用曲線，平均費用曲線，限界費用曲線は，図Ⅱ-1-7の形状となる。



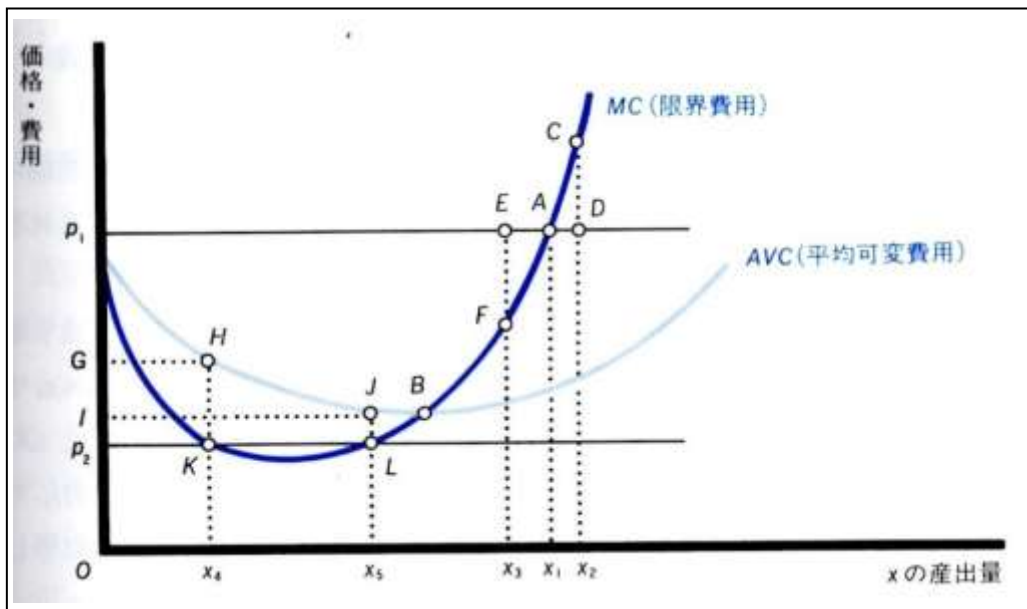
図Ⅱ-1-7 平均可変費用曲線，平均費用曲線，限界費用曲線の形状<sup>(7)</sup>

第Ⅱ章 第1節

図Ⅱ－1－7の三つの費用曲線の特徴は、次に示す3点である。

- ① 3曲線とも U 字型である。限界費用が当初逡減し、その後増加する場合にはいつもこのような形状となる。
- ② 平均費用曲線は、最小となる点 B で限界費用曲線と交差する。
- ③ 平均可変費用曲線は、最小となる点 E で限界費用曲線と交差する。

短期の限界費用曲線は、企業行動の分析において最も重要となる。とりわけ、利潤の最大化を目的とする競争的企業<sup>⑧</sup>にとっては、限界費用曲線がその企業の供給曲線となる。競争的企業が供給する財の価格が、 $P$  で与えられていると仮定する。財を 1 単位生産するごとに、 $p$  ずつ売上が増える。費用についても、財を 1 単位生産するごとに限界費用が増える。したがって、 $p$  が限界費用よりも大きいならば、生産を増加することにより利潤を高めることができる。逆に、限界費用が  $p$  を上回るならば、生産量を減らして利潤を高めることができる。以上の内容を、図Ⅱ－1－8で検討する。



図Ⅱ－1－8 競争的企業の供給曲線の例<sup>⑨</sup>

価格が  $P_1$  で与えられていると仮定する。利潤を最大にする生産量は、価格  $P_1$  と限界費用が一致する A での生産量  $x_1$  となる。生産量を  $x_1$  から  $x_2$  に増加させると、収入は  $P_1 \times (x_2 - x_1)$  だけ増加する。それに対し費用は、限界費用曲線 AC 部分の下側面積分増加する。その結果、ACD の面積に等しい利潤が減少する。また、生産量を  $x_3$  に減少させると、収入は  $P_1 \times (x_1 - x_3)$  だけ減少する。費用の節約分は、限界費用曲線の AF 部分の下側の面積である。収入の減少分が費用の節約分を FEA だけ上回っているため、その分利潤が

減少する。したがって、価格と限界費用が一致する点 A が、利潤を最大にする点となることは明らかである。すなわち、利潤の最大化を目的とする競争的企業は、市場の価格と限界費用が一致する点で生産量を決定している。

価格が  $p_1$  よりも上昇すれば、最適な生産量は  $x_1$  よりも増加する。また、価格が  $p_1$  よりも下落すれば、生産量も減少する。このように、限界費用はさまざまな市場価格とそれに対応する生産量（供給量）の関係を表す曲線、すなわち供給曲線として理解される。

ただし、供給曲線となるのは、平均可変費用曲線と交差する点 B よりも右側部分だけである。例えば、価格が  $p_2$  だとする。点 K 及び点 L が、価格  $p_2$  と限界費用が一致する点となる。仮に  $x_4$  で生産を行うと、総売上は  $p_2 \times x_4$  である。それに対して、可変費用の総額は、平均可変費用  $\times$  産出量なので、 $OG \times GH$  となる。すなわち、総可変費用が総売上を  $GH \times HK$  上回り、利潤はマイナスとなる。赤字の総額は、固定費用  $+ GH \times HK$  となる。また、仮に  $x_5$  で生産を行うと、総売上は  $p_2 \times x_5$  である。それに対して、可変費用の総額は、 $OI \times IJ$  となる。すなわち、総可変費用が総売上を  $IJ \times JL$  上回り、利潤はマイナスとなる。それでは、この企業が何も生産しないとすれば、どうなるであろうか。生産しないので、売上はゼロである。可変費用も必要がない。したがって、 $x_5$  で生産を行うよりも、 $GH \times HK$  だけ損失は少なくてすむ。また、 $x_4$  で生産を行うよりも、 $IJ \times JL$  だけ損失は少なくてすむ。ただし、固定費用は必要となるので、利潤はやはりマイナスとなる。

以上の検討から、財の価格が平均可変費用以下の場合、売上によって可変費用すら取り戻すことはできない。したがって、何も生産せず、供給をゼロにするという行動が選択される。こうして、点 B よりも右上の限界費用曲線だけが、供給曲線となる<sup>(10)</sup>。

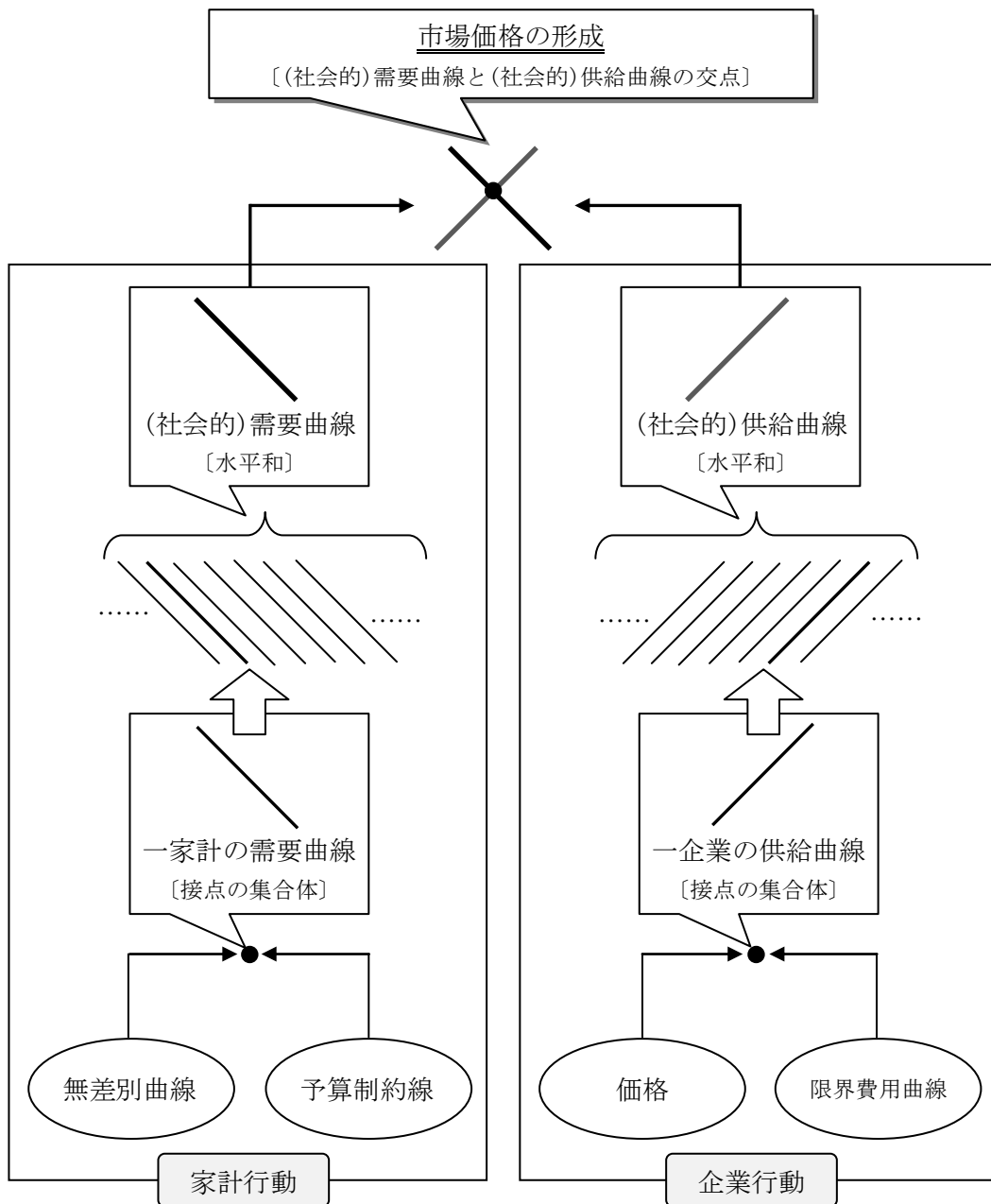
つまり、等産出量曲線と等費用曲線の接点から費用最小の組み合わせが導き出される。その点の軌跡から総費用曲線を描くことができ、限界費用曲線、平均費用曲線、平均可変費用曲線も明らかとなる。そして、価格と限界費用曲線が一致する点で利潤の最大化が実現する。したがって、価格と限界費用曲線の接点の集合体が、企業の供給曲線となる。以上が、企業行動の理論の概要である。

### 3 価格理論の構造と経済的合理性の関係

第1項及び第2項で分析したように、価格理論における家計行動とは、予算制約の下で効用の最大化をめざすことであった。効用の最大化が実現する価格と需要量の組み合わせ（予算制約線と無差別曲線の接点）の集合体が、一家計の需要曲線となる。そして、各家計の需要曲線の水平和が、(社会的) 需要曲線となる。また、価格理論における企業行動とは、生産要素の制約の下で利潤の最大化をめざすことであった。利潤の最大化が達成される価格と供給量の組み合わせ（価格と限界費用曲線の接点）の集合体が一企業の供給曲線となる。そして、各企業の供給曲線の水平和が (社会的) 供給曲線となる。さらに、導き出された (社会的) 需要曲線と (社会的) 供給曲線の関係から市場価格が形成される。

第Ⅱ章 第1節

以上の価格理論の概要を整理し、構造的に示すと、図Ⅱ-1-9のようになる。



図Ⅱ-1-9 価格理論の構造

家計行動の分析、企業行動の分析に通底する概念が、経済的合理性である。ここからは、経済分析の基礎となる経済的合理性について検討し、価格理論との関係について論じる。

まずは、経済学の研究成果から、経済的合理性について検討する。山田晃久は、企業の経済的合理性について、次頁のように述べている。

## 第Ⅱ章 第1節

伝統的経済学の観点から企業の経済的合理性について考察すれば、通常、目的－手段との関係においてホモ・エコノミクス（経済人，homo economicus）が利潤を極大化するために、最小のコストで最大の効果を生むように合理的に行動するということになる。その場合、稀少性の概念が前提となっている<sup>(11)</sup>。

企業の経済的合理性とは、利潤の極大化（最大化）という目的を達成するために、最小のコストで最大の効果を生む手段を選択，実行することと述べられている。このように、経済的合理性では、目的－手段の関係が明確に示される。また、ここで重要となるのは、稀少性の概念である。稀少性の意味については、次に示すとおりである。

稀少性 scarcity ある財（もしくは資源，サービスなど）が稀少であるとは、価格がゼロのときにその財（資源，サービス）の利用可能な量に制約があることを指す。この事実こそ経済学の存在理由であり、限られた資源の効率的な配分法・利用法が追求される<sup>(12)</sup>。

制約とは、条件や枠により自由に活動できないことを意味する。すなわち、家計ならば、予算制約の下で効用の最大化をめざすこととなる。また、企業ならば、生産要素の制約の下で利潤の最大化をめざすこととなる。このように、目的を達成するため、どのような手段でも選択できるわけではなく、制約の範囲内で手段を選択するという視点が、経済的合理性には含まれている。

ニール・J・スメルサー（Neil Joseph Smelser）は、経済社会学の立場から、経済的合理性について次のように述べている。

伝統的な経済学分析における最も重要な「所与」の一つは、経済的合理性である。すなわち、もし人が或る経済的背景のもとにおいて選択という状況をあたえられるとしたら、彼はその経済的立場を最高にするようにふるまうであろうということである<sup>(13)</sup>。

目的－手段の関係が、「経済的立場を最高にするようにふるまう」という表現で示されている。また、「或る経済的背景のもとにおいて選択という状況をあたえられるとしたら<sup>(14)</sup>」という表現は、先述した制約の内容を示している。

次に、社会科教育学の研究成果から、経済的合理性について検討する。魚住忠久は、経済的合理性について次のように述べている。

資本主義経済システムは、市場を舞台に各人が自由に私利を追求し、その結果に責任をもつことを前提にしている。それゆえ、個人も企業も「経済的合理性」を重視して活動する。すなわち、個人の場合には限られた収入（資金）をいかに賢明に、計画的に配分し、最大の満足を得るべく使うかという「経済的合理性」が課題となり、企業の場合には、生産の方法と規模の「経済的合理性」を追求することで利潤を最大にしようとする<sup>(15)</sup>。



第Ⅱ章 第1節

魚住は、個人（家計）と企業という異なる経済主体から、経済的合理性を考察している。しかし、目的のために手段を選択、実行するという点においては、個人（家計）も企業も共通している。また、「限られた収入（資金）<sup>(16)</sup>」という制約の具体的な例が示されている。この例では、収入という生産要素が、選択可能な手段に制約をかけている。

山田、スメルサー、魚住の経済的合理性に関する論を整理し、表Ⅱ－1－2に示す。

表Ⅱ－1－2 経済的合理性に関する各研究者の論

	山田晃久	ニール・J・スメルサー	魚住忠久
目的に関する記述	ホモ・エコノミクス(経済人, homo economicus) が利潤を極大化する	経済的立場を最高にする	①満足を最大化する(個人) ②利潤を最大化する(企業)
手段に関する記述	最小のコストで最大の効果を生むように合理的に行動するという事になる。その場合、稀少性の概念が前提となっている。	もし人が或る経済的背景のもとにおいて選択という状況をあたえられるとしたら、彼はその経済的立場を最高にするようにふるまう。	①限られた収入(資金)をいかに賢明に、計画的に配分し、最大の満足を得るべく使うかを選択する。 ②利潤を最大にするため、生産の方法や規模を選択する。

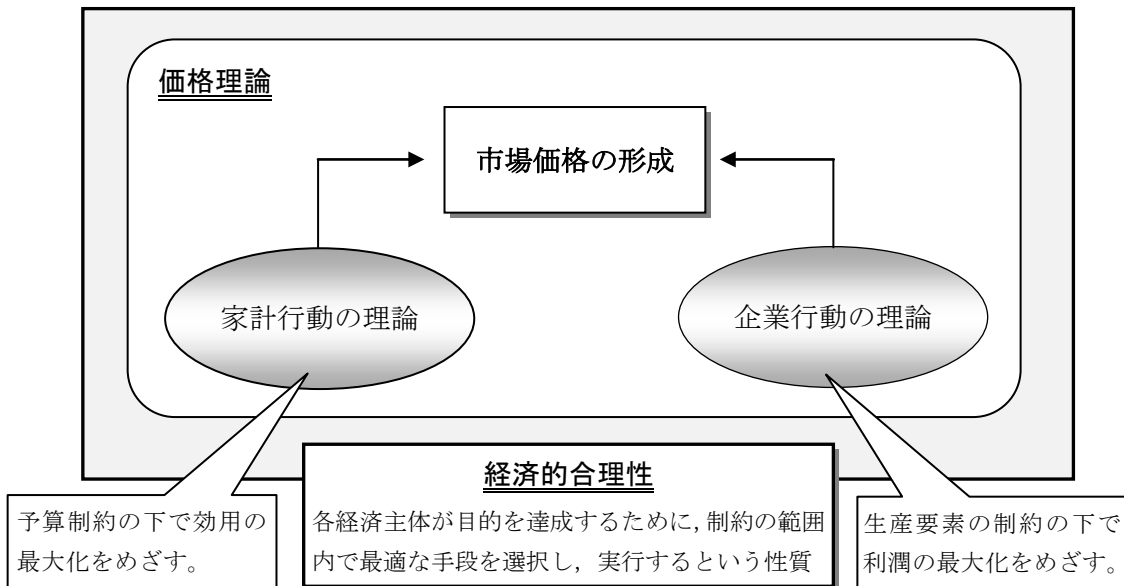
\*下線を引いた部分は、制約に関する記述を示す。

経済的合理性に関する各研究者の論には、目的、手段、制約に関する記述が必ず含まれるという点で共通している。したがって、経済的合理性には、目的、手段、制約の3要素が不可欠といえる。

以上、論じてきたことを基に、本研究における経済的合理性を次のように定義する。

経済的合理性とは、各経済主体が目的（利潤の最大化や効用の最大化）を達成するために、制約の範囲内で最適な手段を選択し、実行するという性質である。

スメルサーは、「経済学分析における最も重要な『所与』の一つは、経済的合理性である<sup>(17)</sup>」と述べている。経済学分析には、価格理論も含まれる。また、所与とは前提を意味する。したがって、経済的合理性は価格理論の前提となる。すなわち、各経済主体が目的を達成するため、制約の範囲内で最適な手段を選択、実行するという性質が前提となり、価格理論が構築されている。価格理論と経済的合理性の関係を示すと、次頁の図Ⅱ－1－10のようになる。



図Ⅱ－1－10 価格理論の構造と経済的合理性の関係

家計行動の理論と企業行動の理論から、市場価格が導き出される。これが、価格理論の全容であった。そして、価格理論の前提となる性質が、経済的合理性である。すなわち、家計行動や企業行動から市場価格が形成されるまでの、価格理論におけるすべての内容が、経済的合理性をフレームとして論じられている。

【註及び引用・参考文献】

- (1) 予算制約線の背後には、予算制約式が存在する。財を  $x$  と  $y$  の 2 種類と仮定し、 $x$  の価格を  $p$ 、 $y$  の価格を  $q$  とし、所得を  $m$  ( $x$  と  $y$  の購入に利用可能な貨幣額) とすれば、「 $px + qy = m$ 」という予算制約式が成り立つ。つまり、家計は予算制約式を満たす範囲で  $x$  財と  $y$  財を購入できることとなる。また、予算制約線は、予算制約式を満たす  $x$  財と  $y$  財の最も大きい組み合わせを、直線で結んだものである。
- (2) 図Ⅱ－1－1 の作成にあたっては、次の文献を参照した。  
倉澤資成『入門 | 価格理論 第2版』日本評論社 1988 p.51
- (3) 図Ⅱ－1－2 の作成にあたっては、次の文献を参照した。  
前掲 (2) p.65
- (4) 図Ⅱ－1－3 の作成にあたっては、次の文献を参照した。  
前掲 (2) p.66
- (5) 図Ⅱ－1－4 の作成にあたっては、次の文献を参照した。  
前掲 (2) p.140
- (6) 図Ⅱ－1－5 の作成にあたっては、次の文献を参照した。  
前掲 (2) p.153

## 第Ⅱ章 第1節

- (7) 図Ⅱ-1-6の作成にあたっては、次の文献を参照した。  
前掲(2) p.155
- (8) 競争的企業とは、「競争市場で財・サービスの供給を行う企業」を意味する。また、競争市場とは、「無数の需要主体(買手)と供給主体(売手)が存在し、それぞれが購入量や販売量を変更しても、財・サービスの価格に何ら影響及ぼさない市場」を意味する。
- (9) 前掲(2) p.157
- (10) 本項は、価格理論の概要を示すことを目的としているため、供給曲線を導き出す過程については短期に焦点化して論じ、長期は省略している。短期の限界費用曲線が、競争的企業における短期の供給曲線である。同様に、競争的企業における長期の供給曲線は、長期の限界費用曲線となる。価格と長期の限界費用曲線が一致する点で生産を行うとき、長期には最も大きい利潤が生まれるからである。
- (11) 山田晃久「経済的合理性における価値観—経済的・社会的交換の企業経営原理への一試論」横浜商科大学学術研究会『横浜商大論集』第24巻 第1号 1990 p.82
- (12) 「稀少性」金森久雄 荒憲治郎 森口親司編『経済辞典第5版』有斐閣 2013 p.217
- (13) ニール・J・スメルサー著 加藤昭二訳『経済社会学』至誠堂 1967 pp.41-42
- (14) 前掲(13) pp.41-42
- (15) 魚住忠久「21世紀グローバル時代に問われる経済リテラシー」魚住忠久 山根栄次 宮原悟 栗原久編著『グローバル時代の経済リテラシー』ミネルヴァ書房 2005 pp.10-11
- (16) 前掲(15) p.10
- (17) 前掲(13) p.41

## 第2節 価格理論の小学校社会科授業内容への変換

第1節で概観したように、価格理論は抽象度が高いため、小学校段階の子どもには理解が困難である。したがって、価格理論の内容をそのまま小学校社会科授業に組み込むことはできない。そこで、本節では、価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法について検討する。

滝沢武久は、子どもの発達は一定の順序を追うものとし、その段階を「感覚運動的思考－映像的思考－具体的思考－抽象的思考<sup>(1)</sup>」の順で示している。社会の一般法則として導き出された価格理論を理解するには、高度な抽象的思考を必要とする。

そこで、抽象度の高い価格理論の内容を具体化する方法について、第1項及び第2項で検討する。第1項では、価格理論を組み込んだ教材と子どもとの近接化について論じる。第2項では、検証資料における価格理論の数値化及び概念地図化について論じる。そして、第3項では、第1項及び第2項で論じた価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法について整理し、構造図として示す。

### 1 価格理論を組み込んだ教材と子どもとの近接化

価格理論の抽象度を下げるには、「価格理論－小学校段階の子ども」間の距離を縮めることが有効である。そのためには、授業で取り扱う教材に工夫を加える必要がある。

価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する上で、どのような素材を選定し、教材化するのかが、重要な検討事項となる。また、教材構成の中核となる学習課題や資料活用についても論じることも不可欠となる。

本項では、まず、小学校社会科授業における教材や素材の位置付けについて整理する。次に、価格理論を組み込んだ教材と子どもとの近接化を意図した素材の選定や学習課題の設定、資料活用の方法について検討する。

#### (1) 小学校社会科授業における教材と素材の位置付け

授業とは、「教師と教材と子どもの3者の相互関連的な動的過程<sup>(2)</sup>」である。教材は、授業を構成する3要素（教師、教材、子ども）の一つとして重要な役割をもつ。そして、教材を構成するための資源となるものが、素材である。ここでは、小学校社会科授業における教材や素材の位置付けを、類似した用語である教育内容（教科内容、学習内容）との比較をとおして整理する<sup>(3)</sup>。子安潤は、教材について次のように述べている。

教材とは、教師にとっては教科内容を獲得させるための事物・事象であり、子どもにとっては学習の直接の対象となる事物・事象である。教科内容が科学・技術・芸術の中から選び取られた抽象物であるのに対して、教材は、属性として具体的状況をより顕在的に持っている<sup>(4)</sup>。

## 第Ⅱ章 第2節

教育内容が、科学、技術、芸術の中から選び取られた抽象物であるならば、社会科授業における教育内容とは、社会諸科学の研究成果から抽出された概念となる。そして、教材とは、抽象的な概念を子どもに習得させるための具体的な事物、事象である。

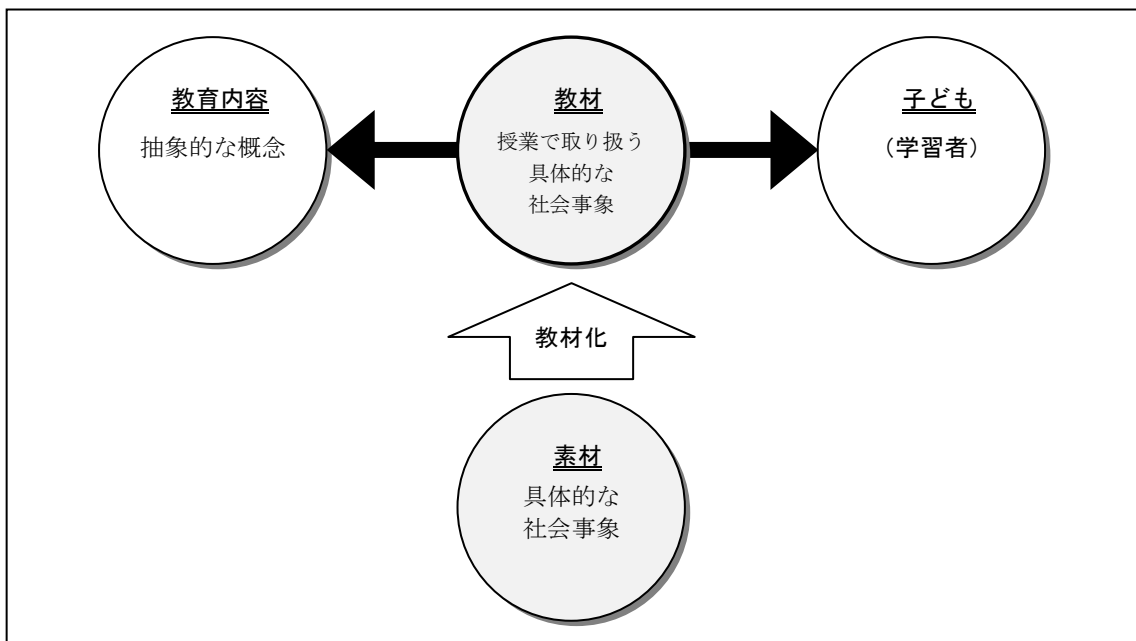
抽象的な概念（教育内容）をそのまま教え込んでも、子どもは理解できない。または、長期記憶に耐え得るものではないため、すぐに忘れてしまう。しかし、具体的な社会事象に組み込まれた概念ならば、習得・活用することが可能となる。つまり、教材がなければ、社会科授業は成立しない。また、森本直人は、教材について次のように述べている。

教材は、一定の教育内容を前提とし、その価値を具体的に子どもたちに提示する素材であって初めて媒体としての役割を果たし、教育内容を子どもたちに伝えるのである。このように、教材は教育内容の習得という授業過程において決定的な位置を占めるものであるから、授業のよしあしは教材の質にかかわっているともしえるのである<sup>6)</sup>。

したがって、教材を構成する際は、教育内容と照合し、十分に吟味しなければならない。そのためには、教材と教育内容を明確に峻別して捉える必要がある。また、森本が、教材を「教育内容－子ども（学習者）」間の媒体と表現していることは重要な視点である。

さらに、教材と素材の関係について論じる。教材は、始めから教材として成立しているわけではなく、「素材を教材化する」というプロセスを経て構成される。つまり、教材とは、「教育内容－子ども（学習者）」間の媒体であると同時に、「教育内容－素材」の中間に位置付くものともいえる。

以上、論じたことを基に、小学校社会科授業における教材と素材の位置付けを示すと、図Ⅱ－2－1のようになる。



図Ⅱ－2－1 小学校社会科授業における教材と素材の位置付け

## 第Ⅱ章 第2節

「教育内容－子ども（学習者）」間は、双方向の矢印で示している。なぜなら、社会科授業の開発及び実践では、次の2方向の働きが存在するからである。

- ① 教育内容と照合して教材が構成され、子どもに提供されるという働き

[教師側からの視点]

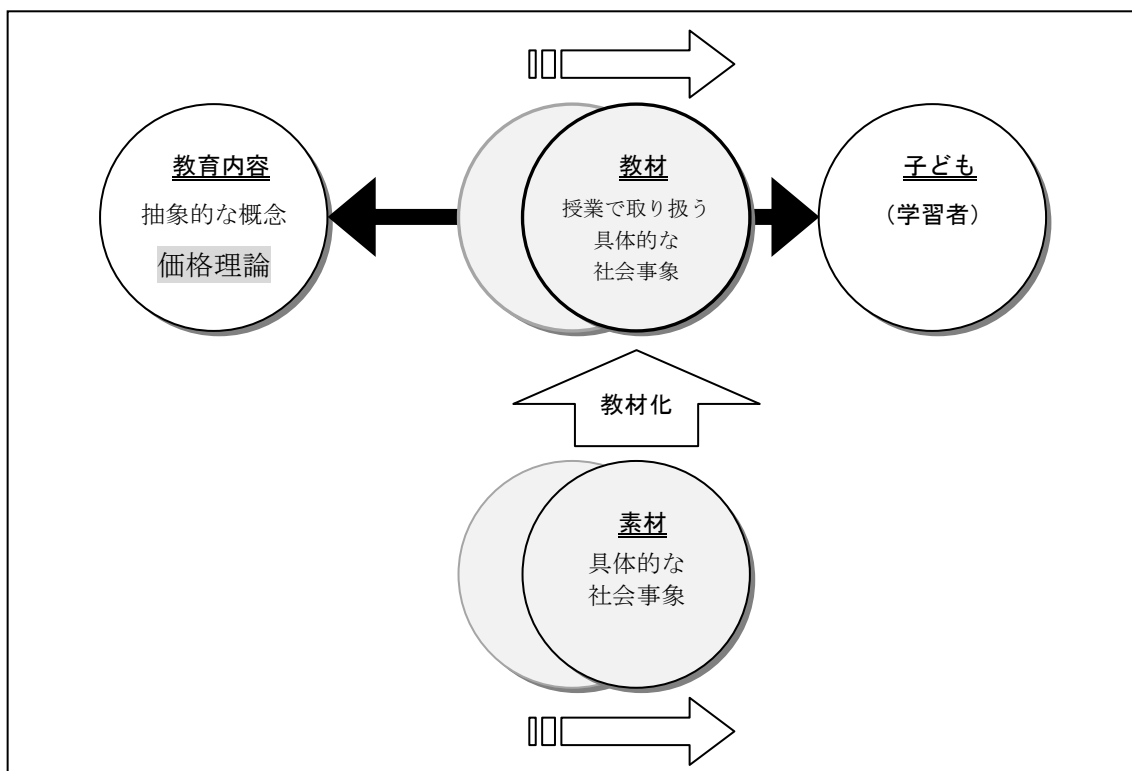
- ② 子ども（学習者）が、教材をとおして教育内容を習得するという働き

[子ども側からの視点]

また、図Ⅱ－2－1に本研究の内容をあてはめると、教育内容の項目に、「価格理論」が組み込まれることとなる。

### （2）価格理論を組み込んだ教材と子どもとの近接化を意図した素材の選定

（1）で述べたように、価格理論という教育内容をそのまま習得させることはできない。したがって、教育内容と子どもの媒介体である教材の構成が重要となる。しかし、価格理論は、大人でも理解が難しい抽象的な内容である。そこで、教材を構成する際は、子どもとの距離を意図的に縮める必要がある。すなわち、教材の構成資源となる素材を、子どもに近接化させることで、必然的に教材も子どもに近いものとなる。図Ⅱ－2－1を活用し、教材及び素材と子どもとの近接化を示すと、図Ⅱ－2－2のようになる。



図Ⅱ－2－2 教材及び素材と子どもとの近接化

## 第Ⅱ章 第2節

価格理論の内容は変わらないので、教育内容と子どもの距離は縮まない。そこで、素材を子どもに寄せて選定することにより、自ずと教材と子どもの距離が近くなる。

それでは、どのような素材を選べば、教材と子どもとの距離は近くなるのであろうか。ここからは、価格理論を組み込んだ教材と子どもとの近接化を意図した素材の選定について論じる。茂木喬は、中学校社会科の経済学習で取り扱う教材の選定について、次のように述べている。

抽象的な概念の積み重ねによって社会的事象を理解させることは困難であり、より身近で具体的な事柄を通して着実な思考と理解に導くとともに、生徒の主体的な学習を重視する方向での工夫が一層求められているのである<sup>(6)</sup>。

つまり、子どもにとって、「より身近で具体的な事柄」を素材として選定することが重要となる。茂木は、中学生を対象として述べているので、対象が小学校段階の子どもならば、なおさら身近で具体的な素材が不可欠といえる。

子どもに身近で具体的な素材といえは、地域があげられる。生活圏である地域を素材に選定することで、子どもは、地域を直接観察したり調査したりすることが可能となる。また、価格理論を生活経験と関連付け、学習課題を解決するという効果も期待できる。つまり、地域教材は、価格理論を組み込んだ教材と子どもとの距離を縮めるという点で有効である。

しかし、小学校段階の子どもの生活圏は限られている。そのため、対象範囲が拡大する第5学年の産業学習や時間軸が追加される第6学年の歴史学習において、地域教材を取り続けるには限界がある。したがって、地域以外の素材の選定も不可欠となる。

中元順一は、身近で具体的な事柄を取り扱う際は、地域以外の素材の検討も必要として、次のよう述べている。

「身近」とは、生徒が親しみをもつことができること、空間的に近くにあることはもちろん、遠く離れたところにあったとしても親しみをもつことができることである。それゆえ、教材として考えていく場合、一般にいわれる地域教材（空間的な親近感を重視した教材）ばかりではなく、心理的な親近感を重視した教材も考えていくことが求められる<sup>(7)</sup>。

すなわち、地域教材ではなくても、心理的な親近感を重視した教材を取り扱うことで、子どもとの近接化が実現する。さらに、中元は、身近で具体的な事柄を取り扱うための教材内容の構成について、次の二つの視点を示している<sup>(8)</sup>。

- ① 難解な専門用語ではなく、日常用語を用いた授業を考える。
- ② 生徒が日頃抱いていると思われる興味・関心・疑問や意見を授業に生かす。

## 第Ⅱ章 第2節

①について論じる。本章第1節で示したように、価格理論では、小学校段階の子どもにとって難解な専門用語が多数使用される。それらの用語を、授業でそのまま取り扱っていると、子どもと教材との距離は離れる一方となる。なぜなら、子どもにとって理解できない言葉を繰り返し聞かされる時間は、苦痛でしかないからである。そこで、難解な専門用語を、子どもの分かる言葉に変換して示すことが不可欠となる。例えば、「利潤」という用語を示しても、子どもは理解できない。利潤を、日常用語である「もうけ」と表現することにより、子どもは無理なく教材と向き合うことができる。また、仮に難解な用語をそのまま取り扱う場合は、日常用語を用いて意味を検討し、子どもに丁寧に解説する必要がある。

②について論じる。子どもが、教材を身近に捉えるためには、その教材に対する興味・関心（疑問や意見も含めて）が必須となる。そして、子どもが、興味・関心を示す素材として、木原擴茂は有田和正の論を援用し、「毎日見ているようで実は見ていない<sup>9)</sup>」ものという条件をあげている。すなわち、子どもの日常生活と関連した素材の選定が、教材を身近にするために重要となる。

木原は、具体的な事例として、「かっぱえびせん」を素材に選定し、水産業の授業モデルを開発している。かっぱえびせんの原料となるエビは、瀬戸内海、中国、アメリカ、カナダで漁獲されたものであり、空間的には子どもと距離のある素材である。しかし、誰もが一度は食べたことがあり、スーパーやコンビニにも日常的に陳列されているという点で、心理的には身近な素材といえる。

本研究で開発する小学校社会科授業でも、子どもにとって空間的、心理的に身近な素材を選定し、教材と子どもとの近接化をめざす。

### (3) 価格理論を組み込んだ教材と子どもとの近接化を意図した教材構成

素材が決定したら、教材を構成する作業（教材化）が必要となる。社会科授業における教材構成については、關浩和の論が参考になる。關は、社会科授業における教材構成について、次のように述べている。

教材は、単元や毎時間の指導計画作成の段階で、授業実践の観点から、学習内容の基準や地域、子どもの実態を吟味した上で、資料や発問を中心に構成されていくべきものである<sup>(10)</sup>。

つまり、教材の中核となる資料や発問にも、教師の手立てが必要となる。いくら空間的、心理的に身近な素材が選定できても、資料や発問の取り扱い次第で、子どもが教材から離れてしまうことは十分にあり得る。そこで、教材の中核となる資料や発問の構成について、方法論的な側面から検討する。まずは発問、とりわけ社会科授業の中心となる学習課題に着目する。そして、価格理論を組み込んだ教材と子どもとの近接化を意図した学習課題の設定について論じる。



## 第Ⅱ章 第2節

教材と子どもとの近接化を実現するには、切実に追究、解決したくなる学習課題との出会いが必須となる。そのためには、子どもが自ら問題意識をもち、学習課題を明確に捉えなければならない。その方法について、岩田一彦は、次の4点をあげている<sup>(11)</sup>。

- 1 既習事項との矛盾を認識させる方法
- 2 事象間の矛盾を認識させる方法
- 3 新しい知識の習得による知的好奇心に訴える方法
- 4 子どもの生活経験と関連させて学習問題をとらえさせる方法

1と2は、矛盾する「既習知識－社会事象」や「社会事象A－社会事象B」の関係を提示し、意図的に認知的不協和を生じさせる方法である。子どもは、認知的不協和が生じると、「なぜ」と自ら問題意識をもち、学習課題を明確に捉えることができる。また、3のように、子どもの知的好奇心を刺激する新たな情報を提示することも有効な方法である。

本研究で開発する小学校社会科授業でも、子どもの認知的不協和を誘発したり知的好奇心を刺激したりする手立てを意図的に組み込んで、学習課題を発見・把握させる。この手立てにより、子どもは切実に学習課題を追究・解決したくなるため、自ら教材との距離を縮める効果が期待できる。なお、4については、子どもの生活経験が関わるので、(2)で論じた素材の選定が重要となる。

次に、価格理論を組み込んだ教材と子どもとの近接化を意図した資料活用の方法について論じる。植田真夕子は、米田豊の論を援用し、社会科授業における資料の重要性について、次のように述べている。

社会科授業は、資料を活用せずに成立することはない。なぜならば、資料には子供が思考する基礎材料となる「思考操作に活用する多様な情報」が含まれており、この情報を活用せずに、問題解決を行うことはできないからである<sup>(12)</sup>。

資料を活用しなければ、学習課題の解を導き出すことはできないため、社会科授業は成立しない。それでは、社会科授業において、どのように資料を取り扱えば、子どもとの近接化が実現するのであろうか。

本研究では、子どもが社会事象を経済学的に説明できる小学校社会科授業の開発を目的としている。第Ⅰ章第1節で定義したように、社会事象の経済学的な説明とは、「経済概念を組み込んで、社会事象間を原因－結果、目的－手段、条件－状況の関係で示した言明」である。そして、社会事象を経済学的に説明するには、子どもが学習課題に対して仮説を設定し検証する過程、すなわち「仮説－検証過程」をたどる必要がある。

仮説－検証過程では、子どもが自ら問題解決的に学習することが求められる。そして、山場となるのが検証場面である。検証場面で活用される資料は、学習課題の解につながる

## 第Ⅱ章 第2節

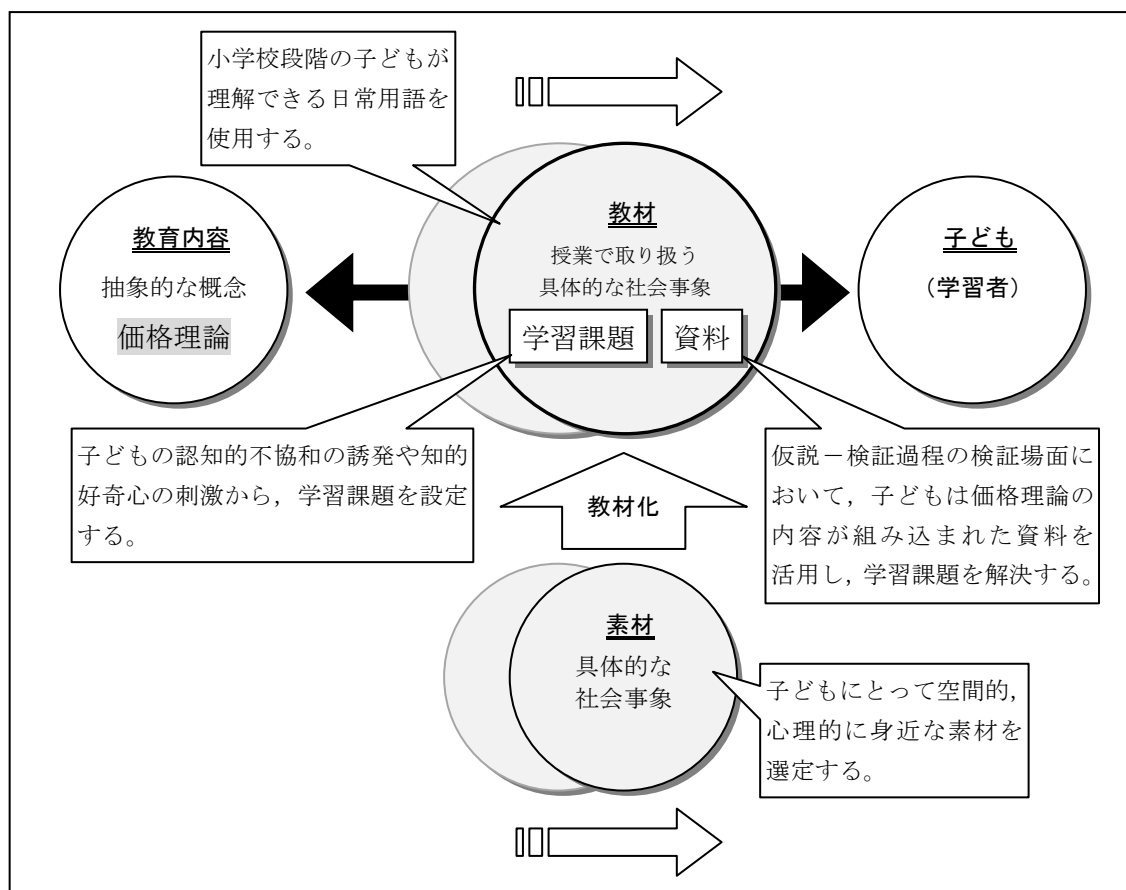
内容で構成される。したがって、子どもにとって検証場面は、「資料活用せざるを得ない状況」となる。なぜなら、資料を活用しない限り、学習課題の正確な解を導き出すことはできないからである。つまり、検証場面では、資料と子どもとの距離が最も近くなる<sup>(13)</sup>。

そこで、価格理論の内容を組み込んだ資料を、検証場面で取り扱う。この手立てにより、子どもは資料に示された価格理論の内容を活用して、学習課題を解決する。したがって、価格理論を組み込んだ教材（資料）と子どもとの近接化が実現する。さらに、社会事象を経済学的に説明するという、本研究における社会科授業の目標も達成することができる。

以上、論じてきたことから、価格理論を組み込んだ教材と子どもとの距離を近接化するには、次の4点が必要となる。

- ① 難解な専門用語ではなく、小学校段階の子どもが理解できる日常用語を使用する。
- ② 子どもにとって空間的、心理的に身近な素材を選定する。
- ③ 子どもの認知的不協和の誘発や知的好奇心の刺激から、学習課題を設定する。
- ④ 仮説－検証過程の検証場面において、子どもに価格理論の内容を組み込んだ資料を活用させる。

また、価格理論を組み込んだ教材と子どもとの近接化について、図Ⅱ－2－2を活用して整理すると、図Ⅱ－2－3のようになる。



図Ⅱ－2－3 価格理論を組み込んだ教材と子どもとの近接化

本研究で開発する小学校社会科授業でも、図Ⅱ－2－3の内容を基に、価格理論を組み込んだ教材と子どもとの近接化をめざす。

## 2 価格理論を組み込んだ小学校社会科授業における検証資料の作成

第1項の(3)では、価格理論を組み込んだ教材と子どもとを近接化させる資料活用の方法について論じた。仮説－検証過程の検証場面において、子どもに価格理論を組み込んだ資料を活用させることで、教材と子どもとの距離を縮めることができる。しかし、これだけでは、資料活用の方法論的な検討にとどまっており、内容論的な側面からの検討が不十分である。そこで、本項では、検証資料に価格理論を反映させる際、どのように内容を構成すればよいのかについて検討する。

価格理論の内容をそのまま資料に示しても、小学校段階の子どもは当然理解できない。したがって、これまでと同様、価格理論の抽象度を下げる必要がある。そこで、数値による表現や概念地図による表現を用いて、価格理論を小学校社会科授業の内容に変換し、検証資料に反映させる。

まずは、数値による表現を用いた検証資料の作成について論じる。岩田一彦は、産業学習での数値による表現の重要性について、次のように述べている。

工夫や努力の内容は情緒的になりがちである。たとえば、「質のよい製品を作り、新しい技術を生みだしていくためには、大変な努力をしていかなければなりません」「このように、農家の人々は、いろいろな心配や苦労を重ねながら、米作りに取り組んでいます」等の情緒的な言葉が使用されることが多い。情緒的表現に共感し、工夫や努力がわかったとしてしまう危険が大いにある。このようなおそれがある工夫や努力の内容は、できるだけその成果を数値で表すことが重要である<sup>(14)</sup>。

岩田は、情緒的で曖昧になりがちな、工夫や努力の内容を改善する方略として、数値による表現を提案している。この考え方は、本研究での検証資料作成においても参考にできる。本研究では、抽象的な価格理論の内容を具体的に示すという目的で、数値表現を採用する。

例えば、検証資料に「売上が増える」と示しただけでは、売上が具体的にいくら増加したのかは分からない。検証資料からの情報が曖昧になれば、習得される知識の質も低下する。この状態では、社会事象の経済学的な説明にはならない。

価格理論に関する売上や費用、利潤といった諸概念は、通貨単位で表現できる。つまり、売上や費用を通貨単位で数値化し、「～円」と検証資料に示すことで、子どもはより明確に、価格理論に関する情報を把握できる。

次に、概念地図による表現を用いた検証資料の作成について論じる。本章第1節で示したように、価格理論はグラフを使用した表現が多い。そして、これらのグラフは通常、点や曲線により構成される。しかし、価格理論のグラフは抽象度が高いため、検証資料にその

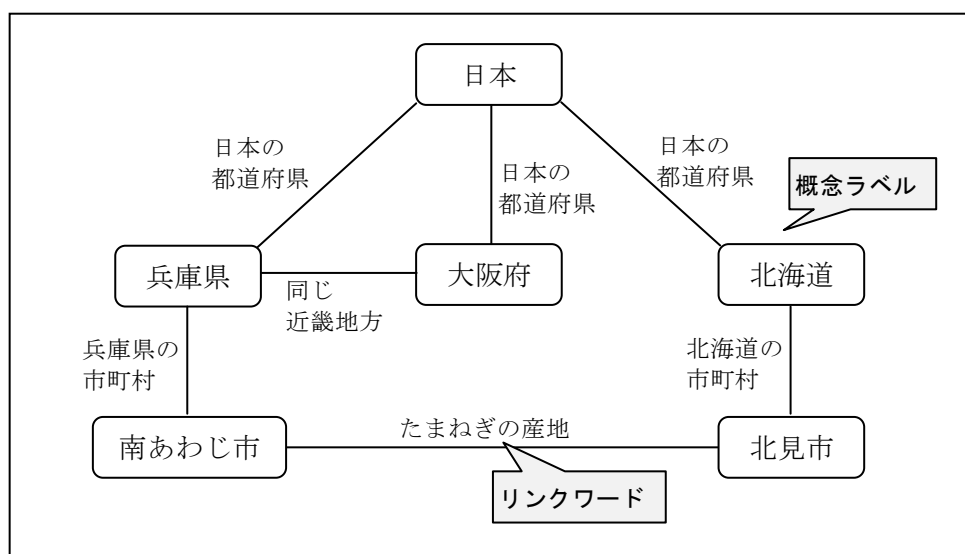
## 第Ⅱ章 第2節

まま示すことはできない。そこで、授業で取り扱う素材を絵グラフで表現する。絵グラフとは、「各項目に関係するイラストなどを利用してグラフ化する手法であり、利用者に何を表したグラフなのかを分かりやすく説明する<sup>(15)</sup>」ものである。この手立てにより、点や曲線で構成されたグラフよりも、内容の読み取りが容易となる。

しかし、単にグラフを絵グラフにただけでは、価格理論そのものを小学校社会科授業の内容に変換したことにはならない。そこで、概念地図法の考え方を援用する。福岡敏行は、概念地図（コンセプトマップ）について、次のように述べている。

概念構造は、「概念」と「概念」を結びつける役割をする「命題」によって構築されていきます。そして、各々の概念はより包含性が大きく、より一般的な上位概念に結びつけられ、全体として階層的な構造をつくります。このそれぞれの「概念」につけられている言葉を「概念ラベル」、そのつながりを表す言葉を「リンクワード」、これを用いて図式で視覚的に表したものが「コンセプトマップ（概念地図：松浪）」なのです<sup>(16)</sup>。

概念地図は、概念ラベル（概念を表す）とリンクワード（各概念を結び付ける命題を表す）によって構成されることが分かる。小学校社会科の内容で概念地図の例を示すと、図Ⅱ－2－4のようになる。



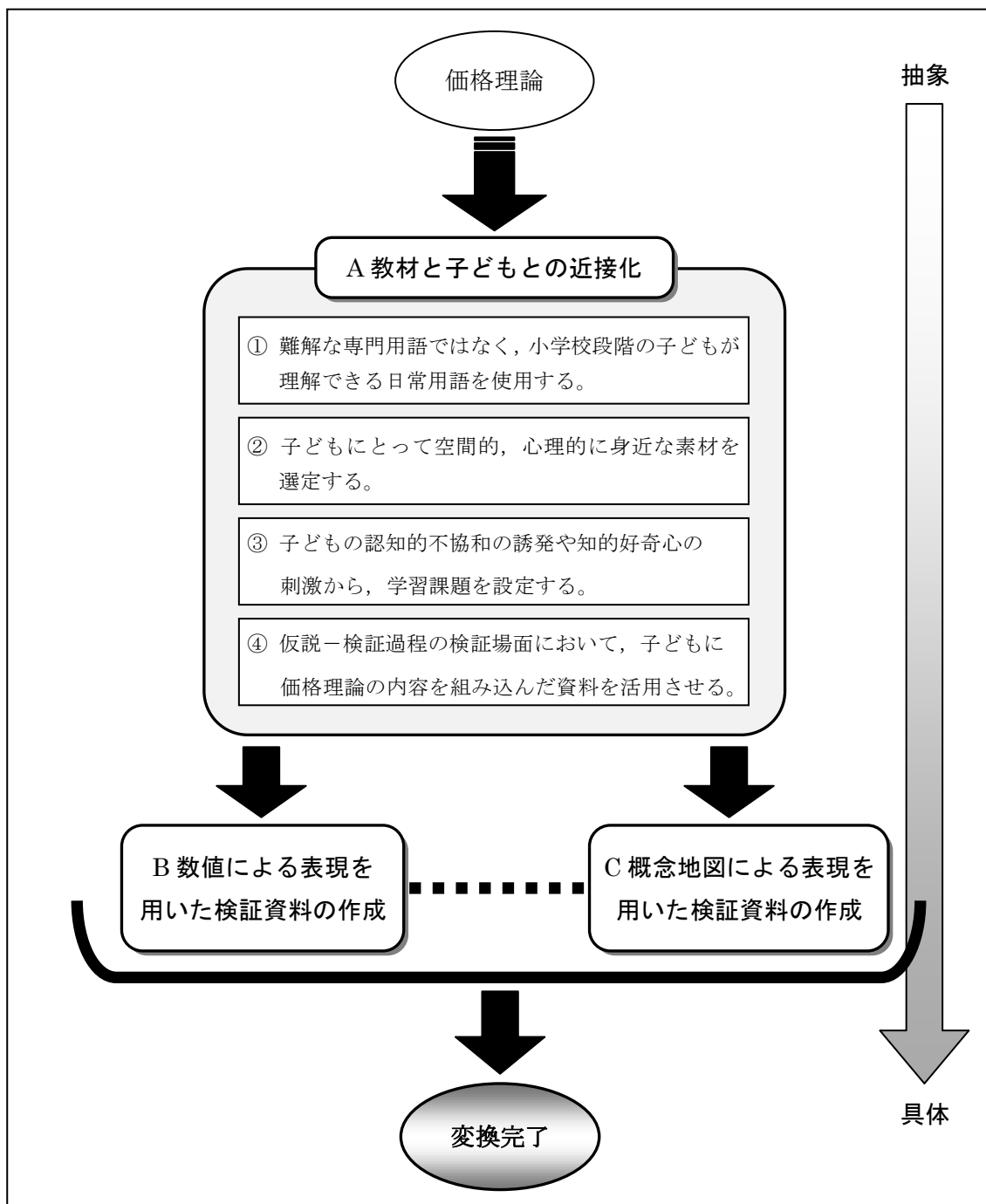
図Ⅱ－2－4 概念地図の例

本研究で概念地図による表現を実施した場合、価格理論に関する知識には概念ラベルが付く。そして、それぞれの知識の関係は、リンクワードで示される。つまり、価格理論に関する知識やそれらの関係が可視化されるため、子どもは検証資料の内容を明確に理解することができる。したがって、概念地図による表現は、価格理論を組み込んだ検証資料の作成においても、有効に働くことが期待できる。

3 価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法の構造化

価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法について、第1項では「価格理論を組み込んだ教材と子どもとの近接化」、第2項では「価格理論を組み込んだ小学校社会科授業における検証資料の作成」をそれぞれ論じた。本項では、第1項及び第2項の検討を基に、価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法を構造化する。

第1項及び第2項の内容を構造的に示すと、図Ⅱ-2-5のようになる。



図Ⅱ-2-5 価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法の構造図

## 第Ⅱ章 第2節

価格理論は、Aのプロセスで教材化されることにより、子どもと近接化する。さらに、B（数値による表現）またはC（概念地図による表現）を用いて検証資料を作成することにより、小学校社会科授業の内容への変換は完了する。また、価格理論の内容によっては、BとCの両方を実施することもあり得る。その内容を、B-C間の点線で表現している。

図Ⅱ-2-5の手順で変換作業を行えば、価格理論の抽象度は下がる。その結果、小学校社会科授業に組み込むことができる内容となる。

### 【註及び引用・参考文献】

- (1) 波多野完治 滝沢武久『子どものものの考え方』岩波新書 1963 p.49
- (2) 森本直人「第4章 4. 教材・教具」社会認識教育学会編『改訂新版 初等社会科教育学』学術図書出版社 2000 p.37
- (3) 「授業の各教科で教授する内容」という意味が強調される場合、教育内容は教科内容と示される。また、教師ではなく、学習者（子ども）の立場から教育内容を捉えた場合は、学習内容と示される。本研究では、教育内容、教科内容、学習内容を同義として取り扱う。
- (4) 子安潤「教材」恒吉宏典 深澤広明編『授業研究 重要用語 300 の基礎知識』明治図書 1999 p.152
- (5) 前掲（2） p.39
- (6) 茂木喬『身近で具体的な事柄を通しての経済学習』の指導のねらいと配慮事項  
茂木喬編著『身近で具体的な事柄を通しての経済学習』明治図書 1993 pp.9-10
- (7) 中元順一『身近で具体的な事柄を通しての経済学習』の指導の基本ポイント」茂木喬編著『身近で具体的な事柄を通しての経済学習』明治図書 1993 p.17
- (8) 前掲（7） pp.18-19
- (9) 木原擴茂「小学校社会科教材開発の条件—児童の思考パターンを中心に—」全国社会科教育学会『社会科研究』第37号 1989 p.106
- (10) 關浩和「社会科授業における教材構成論の位置と意義—『視点取得』の方法を手がかりにして—」全国社会科教育学会『社会科研究』第50号 1999 p.181
- (11) 岩田一彦「第I章 授業設計の理論 (6) 学習指導案の設計」岩田一彦編著『小学校社会科授業の設計』東京書籍 1991 pp.81-82
- (12) 植田真夕子「小学校社会科授業における子供の思考操作—仮説検証過程における資料活用を事例として—」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第29号 2017 p.33
- (13) 社会科授業では、検証場面だけではなく、学習課題の発見や仮説の設定においても資料が活用される。しかし、「資料活用せざるを得ない状況」となると、検証場面に限定される。したがって、資料と子どもとの距離が最も近くなると判断した。

## 第Ⅱ章 第2節

- (14) 岩田一彦「第Ⅰ章 産業学習の理論 6 産業学習の内容」岩田一彦編著『小学校産業学習の理論の授業』東京書籍 1991 p.71
- (15) 総務省統計局ホームページ「なるほど統計学園高等部」  
[<https://www.stat.go.jp/koukou/howto/process/graph/graph3.html> 2019.8.6  
最終閲覧]
- (16) 福岡敏行「コンセプトマッピングとはどんなものか？」福岡敏行編著『コンセプトマップ活用ガイド』東洋館出版 2002 p.24

### 第3節 価格理論を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成

第2節では、価格理論を小学校社会科授業の内容へと変換する方法について論じた。価格理論を、小学校社会科授業の内容へと変換するには、教材と子どもとの近接化が必要となる。さらに、取り扱う価格理論の内容に応じて、数値や概念地図による表現を利用する。これらの表現を用いて、価格理論を小学校社会科授業の内容に変換し、検証資料に組み込む。

本節では、以上の方法を基に、価格理論を変換し、小学校社会科授業の内容を構成する。第1項では利潤概念、第2項ではリスク概念、第3項では需要・供給理論、第4項では費用・便益理論をそれぞれ変換し、小学校社会科授業の内容を構成する。

また、各項では、第2節第3項で示した図Ⅱ-2-5「価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法の構造図」を基に、次の順で論を展開する（第1項で取り扱う利潤概念を例とする）。

- (1) 利潤概念の解説と小学校社会科授業で取り扱う意義
- (2) 利潤概念を組み込んだ教材と子どもとの近接化
  - ① 小学校段階の子どもが理解できる日常用語の使用
  - ② 子どもにとって身近な素材の選定
  - ③ 認知的不協和の誘発や知的好奇心の刺激を基にした学習課題の設定
- (3) 利潤概念を組み込んだ小学校社会科授業における検証資料の作成
- (4) 利潤概念を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成

上記の「(3) 利潤概念を組み込んだ小学校社会科授業における検証資料の作成」については、数値による表現か概念地図による表現、いずれかを選択して検証資料の内容を構成する。そして、第2節第3項の図Ⅱ-2-5に示した「④仮説-検証過程の検証場面において、子どもに価格理論の内容を組み込んだ資料を活用させる。」については、本節では論じないこととする。

#### 1 利潤概念を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成

##### (1) 利潤概念を組み込んだ小学校社会科授業の意義

本章の第1節第2項「価格理論における企業行動の概要」で論じたように、価格理論において、企業は生産要素の制約の下で、利潤の最大化が実現するように財・サービスの生産量を決定している。また、利潤の最大化は、市場価格と限界収入の接点を生産量とすることで実現できる。企業の目的が利潤の最大化である以上、利潤は価格理論（企業行動の理論）において中核的な概念といえる。ここでは、利潤概念についてさらに検討し、小学校社会科授業で取り扱う意義について論じる。



## 第Ⅱ章 第3節

企業は、「商品の購入→商品生産→商品販売という順序で活動し、最初の投資額を上回る販売額を実現して利潤<sup>(1)</sup>」を得ている。なお、商品の購入とは、生産資材（原材料や機械設備）の購入を意味する。つまり、投資額（総費用）＜販売額（総売上）を実現することが、利潤獲得において絶対条件となる。また、獲得した利潤は、企業規模の拡大や縮小に影響を与える。したがって、企業は利潤の金額を考慮せずに、経済活動は実施できない。

また、利潤とは「企業活動によって生み出された生産物を売った金額から、その生産に要した労働力や原材料やエネルギーに対する支払いを差し引いた残余<sup>(2)</sup>」のことである。生産物を売った金額が売上、その生産に要した労働力や原材料やエネルギーが費用となる。したがって、利潤の金額を算出する公式は、「売上－費用＝利潤」で表される。

第Ⅰ章第2節第1項「小学校指導書社会編と小学校学習指導要領解説社会編における経済的な学習内容の課題」でも分析したように、現行の平成20年版や令和2年度完全実施の平成29年版小学校学習指導要領〔社会〕及びそれらの解説編では、経済と関連のある内容が示されている。主なものとして、第3学年の「地域の生産や販売」、第4学年の「県の産業」、第5学年の「我が国の産業」があげられる。しかし、それらの内容は、産業に従事する人々の工夫や努力に焦点があてられており、企業が獲得をめざす利潤についてはふれられていない。猪瀬武則は、「地域の生産と販売」を例にあげ、小学校社会科授業において利潤概念を取り扱う必要性について、次のように述べている。

これ（小売店の利潤にはふれず工夫のみを取り扱うこと：松浪）はとりもなおさず、学習指導要領が「販売を取り上げる場合には消費者としての工夫」という観点から扱うように指示しているためであり、生産や販売の観点が、経済概念としての「利潤」に結びつく構成とはならないのである。もちろん、「現行の扱いで十分だ」「社会機能と工夫を理解させればよい」とする考えからすれば、利潤や経済概念は無意味なものであろう。しかし、こうした概念無しには、「なぜ、生産活動をするのか」「なぜ、商業活動があるのか」という問いに対しては、答えることができない。子どもは常に、こうした生産行為や商行為を「善行」や「思いやり」としてのみ認識することになる。いわゆる「経済」を学ぶのではなく、社会機能を道徳として学ぶことになる<sup>(3)</sup>。

生産活動や商業活動の目的（利潤の獲得）を取り扱わず、工夫や努力のみに着目すると、子どもの理解は、「農家の人々のおかげで年間通して野菜が食べられる。」「工場で働く人々が苦勞しているのおかげで暮らしが豊かになる。」といった共感的な内容に偏るおそれがある。

平成20年版小学校社会科学習指導要領〔社会〕以降、「価格や費用」という新たな経済概念が追加され、その解説編において具体的な取り扱いが示されている。たしかに、価格や費用を取り扱うことで、利潤概念の習得が可能となる。しかし、価格については、利潤の金額に及ぼす影響や売上との関係（価格×販売量＝売上）が示されていない。また、費用についても、その具体的な内容や利潤との関係（売上－費用＝利潤）が示されていない。

## 第Ⅱ章 第3節

すなわち、平成 20 年版以降の小学校学習指導要領〔社会〕やその解説編に示される価格や費用の内容だけでは、利潤概念を習得させることはできない。

資本主義経済において、企業が獲得した利潤は、人的資源、天然資源、資本財といった生産要素に投資される。その結果、企業の生産性は向上し、より多くの利潤を生むこととなる。この利潤が、再び各種の生産要素に投資され、事業はさらに拡大する。以上のプロセスを、「拡大再生産」という。また、各企業が利潤を獲得し、拡大再生産を行うことで、社会全体の経済成長にもつながる。すなわち、現代社会の産業を理解する上で、利潤は不可欠な概念といえる。したがって、利潤概念を取り扱わなければ小学校社会科授業、とりわけ産業学習は、現実社会の産業と乖離することとなる。以上、論じてきたことから、利潤概念を小学校社会科授業で取り扱うことは有意義と判断できる。

### (2) 利潤概念を組み込んだ教材と子どもとの近接化

ここからは、第2節第3項で示した図Ⅱ-2-5「価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法の構造図」を基に、利潤概念の小学校社会科授業の内容への変換について論じる。なお、(2)-②以降は、具体的な素材を基にした検討が必要となる。そこで、「兵庫県南あわじ市のレタス作りとたまねぎ作り」を素材として論じる。

#### ① 小学校段階の子どもが理解できる日常用語の使用

利潤という用語は、甲斐睦朗編の『小学校国語教科書の学習語彙表とその指導』（以降：『学習語彙表』）に掲載されていない。したがって、小学校段階の子どもにとっては、日常使用することのない難解語である<sup>(4)</sup>。そこで、利潤を日常用語に変換する必要がある。

花岡幸子は、利潤の最大化を、「限界収入が限界費用とイコールになったところで、利益（利潤または儲け）が最大になること<sup>(5)</sup>。」と述べている。この記述から、「利潤→もうけ」に換言できることが分かる<sup>(6)</sup>。また、「もうけ」という用語は、『学習語彙表』に「もうかる（儲かる）」という見出し語が掲載されているため、小学校社会科授業でも使用できる。

#### ② 子どもにとって身近な素材の選定

利潤概念を組み込んだ教材と子どもを近接化するには、身近な素材の選定が不可欠となる。そこで、先に述べたように、「兵庫県南あわじ市のレタス作りとたまねぎ作り」を素材とし、小学校社会科授業を開発する。理由は次の2点である。

- A 自動車を使用すると、淡路島には現任校（西宮市立名塩小学校）から約 40 分で到着する。また、訪れたことのある子どもも多いため、空間的に身近といえる。
- B 淡路島産のレタスやたまねぎは、家庭やスーパーマーケットで目にする機会が多く、子どもの日常生活に関連している。したがって、心理的に身近な素材といえる。

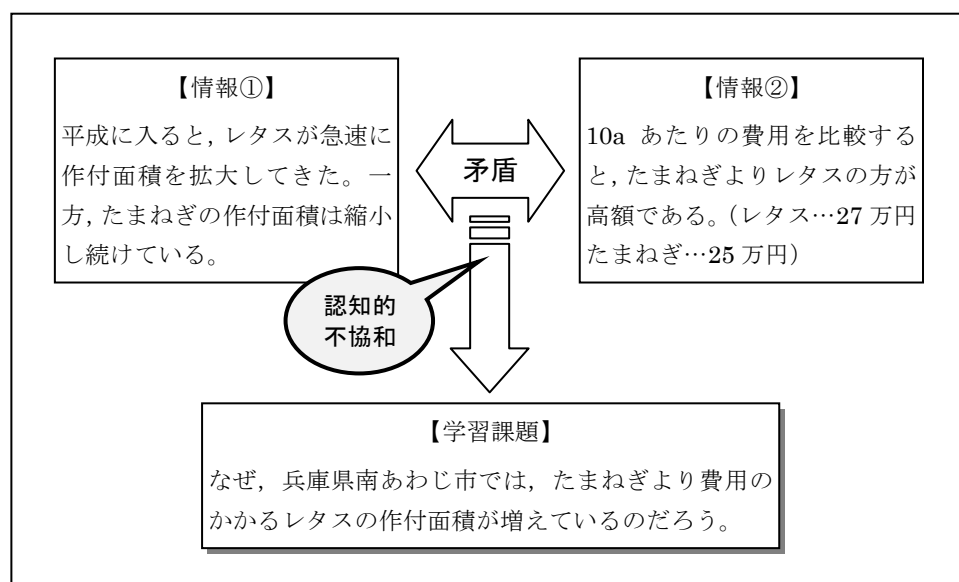
## 第Ⅱ章 第3節

つまり、授業実践の対象となる子どもにとって、兵庫県南あわじ市のレタス作りとたまねぎ作りは、空間的にも心理的にも身近な素材といえる。そこで、利潤概念を組み込んだ小学校社会科授業を開発するための素材に選定した。

### ③ 認知的不協和の誘発や知的好奇心の刺激を基にした学習課題の設定

子どもに「淡路島で有名な野菜は何でしょう。」と問いかけると、たまねぎという回答が即座に返ってくる。しかし、平成に入ると、レタスが急速に作付面積を拡大してきた。一方、たまねぎの作付面積は、縮小し続けている。また、2000年にはレタスの売上がたまねぎを抜き、それ以降は第1位を保持している。しかし、10aあたりの費用を比較すると、たまねぎよりレタスの方が高額となっている。具体的には、レタスが27万円/10a、たまねぎが25万円/10aである<sup>7)</sup>。これらの矛盾する2点の事実を提示すれば、子どもの認知的不協和を誘発し、「なぜ、兵庫県南あわじ市では、たまねぎより費用のかかるレタスの作付面積が増えているのだろう。」という学習課題を把握させることができる。

利潤概念を組み込んだ小学校社会科授業における学習課題の設定について、図Ⅱ-3-1に示す。



図Ⅱ-3-1 利潤概念を組み込んだ小学校社会科授業における学習課題の設定

「情報①-情報②」間の矛盾から生じる認知的不協和を利用し、学習課題を把握させる。

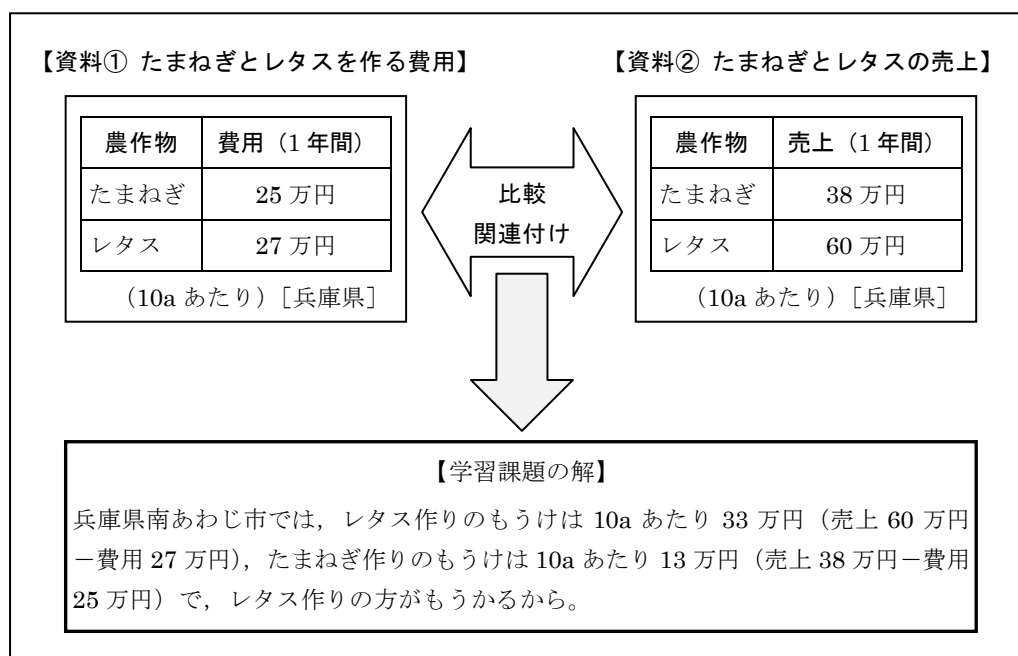
以上、①～③で論じてきた手立てにより、利潤概念を組み込んだ教材と子どもとの近接化が実現する。

## 第Ⅱ章 第3節

### (3) 利潤概念を組み込んだ小学校社会科授業における検証資料の作成

学習課題の解を導き出すため、仮説を設定して資料で検証する。この検証資料に、利潤概念を反映させる。学習課題の解は、「レタス作りは、たまねぎ作りよりも費用がかかる。しかし、利潤もたまねぎ作りよりレタス作りの方が高くなる。」という内容である。この解を導き出すには、どちらの利潤が多いか（少ないか）だけではなく、厳密な金額まで明らかにする必要がある。なぜなら、「100円高い」と「100万円高い」では、意味合いが全く異なるからである。

そこで、具体的な数値を用いて、レタス作りとたまねぎ作りにおける利潤の金額を比較させる。しかし、利潤の金額そのものを検証資料に示してしまうと、売上－費用の関係で導き出される利潤のしくみを理解することはできない。この課題を乗り越えるため、まずは売上の数値のみを提示する（レタスが60万円/10a、たまねぎが38万円/10a）<sup>(8)</sup>。次に、売上－費用の公式に具体的な数値をあてはめ、利潤の金額を算出させる。実際の授業で子どもに提示する検証資料と学習課題の解を、図Ⅱ－3－2に示す。



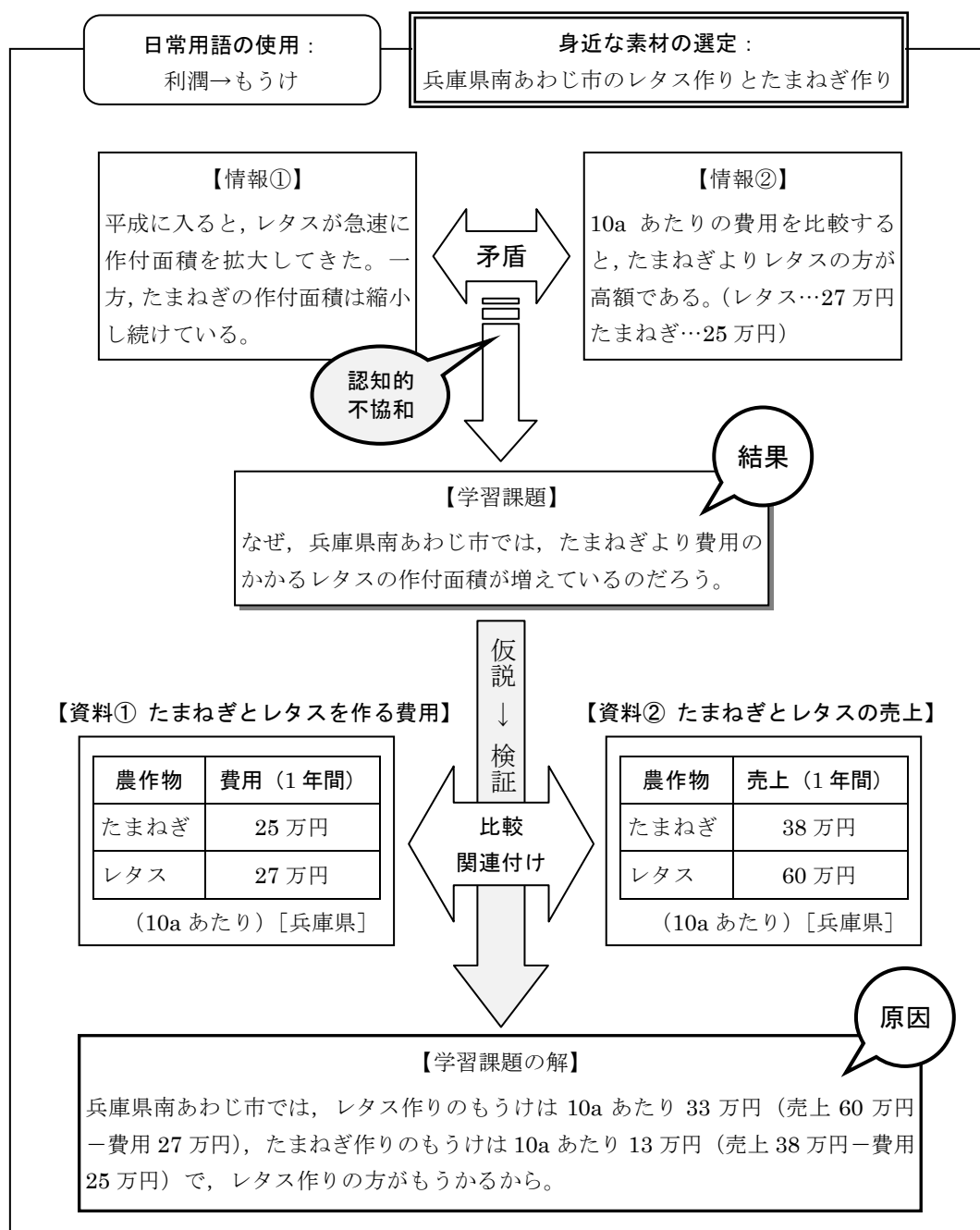
図Ⅱ－3－2 利潤概念を組み込んだ小学校社会科授業における検証資料と学習課題の解

検証資料①と②を提示することで、子どもは売上与費用の数値を関連付け、利潤の金額を計算する。算出した利潤の金額があれば、学習課題についての説明が可能となる。

このように、利潤概念を数値によって表現し、検証資料に組み込むことで、小学校社会科授業の内容への変換がすべて完了する。

(4) 利潤概念を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成

(2)～(3)において、利潤概念を変換し、小学校社会科授業の内容を構成してきた。これまでの論を整理し、本研究における利潤概念を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成を、図Ⅱ－3－3に示す。



図Ⅱ－3－3 利潤概念を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成

図Ⅱ－3－3を基に、利潤概念を組み込んだ小学校社会科授業を開発し、実践することで、子どもは社会事象（兵庫県南あわじ市のレタス作りとたまねぎ作り）を経済学的に説明できる。なお、単元の指導計画や本時案については、第Ⅱ部第Ⅲ章「利潤概念を組み込んだ小学校地域学習の開発」で示す。

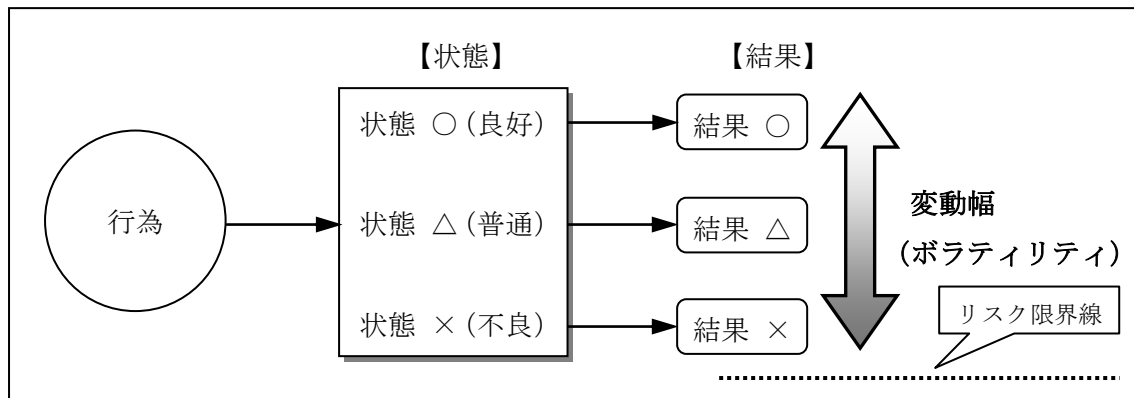
## 2 リスク概念を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成

### (1) リスク概念を組み込んだ小学校社会科授業の意義

企業が、利潤の最大化という目的を達成するためには、有効な手段を選択し、実行に移すことが不可欠となる。その際、利潤の金額は、企業が手段を選択する際の判断基準となる。そして、獲得できる利潤の金額に、多大な影響を与える要素として、リスクがあげられる。

安達智彦は、リスクの意味について、「価値の変化が前もって予想できず不確実に変動する可能性<sup>(9)</sup>」と示している。このことから、リスクとは、不確実に価値が変動する「可能性」であり、価値の変化（損失や利益）そのものではないことが分かる。また、価値の変化とは、価値の低下だけではなく上昇も含まれる。つまり、リスクとは「損失を被る可能性（ダウンサイドリスク）」と「利益が生じる可能性（アップサイドリスク）」の双方が含まれる。

酒井泰弘は、「リスクとは、状態の如何によって、一つの行為から複数個の結果が生まれることを指す。それは人間の生活維持や社会経済に対して、マイナスとプラスの両面を持つ。リスクが大きいとは、複数の結果の間で変動の幅が大きく、また結果の程度が大きいことを意味する<sup>(10)</sup>」と定義している。すなわち、状態により、行為の結果には複数のパターンが生じる。また、リスクの大小は、結果の変動幅（ボラティリティ）や結果の程度によって決定する。酒井の論を基に、リスクにおける行為、状態、結果の関係を図Ⅱ－3－4に示す。



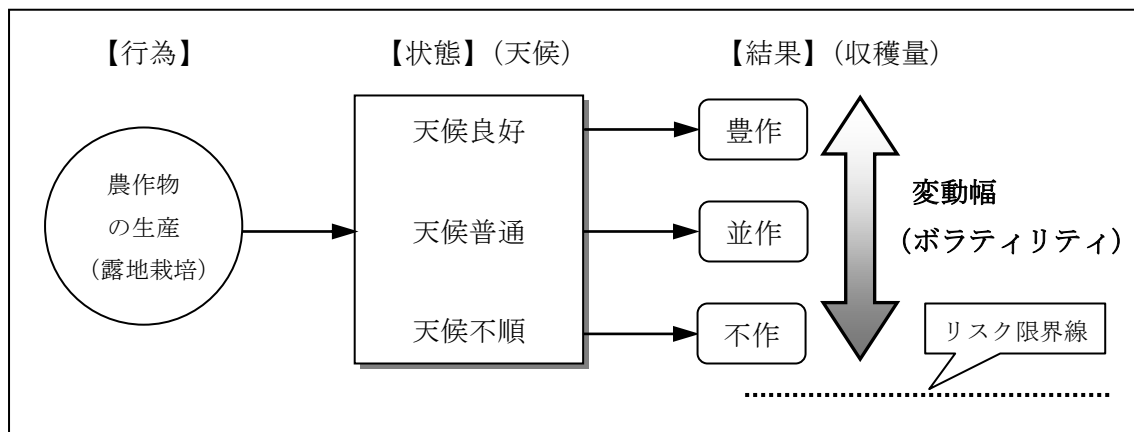
図Ⅱ－3－4 リスクにおける行為、状態、結果の関係<sup>(11)</sup>

## 第Ⅱ章 第3節

図Ⅱ－3－4に示されるように、行為の結果は状態により左右される。そして、「結果○（アップサイドリスク）～結果×（ダウンサイドリスク）」間の変動幅が、リスクの大小を決定する。また、結果の程度もリスクの大小に影響を与える。リスク限界線とは、「許容できる損失の限界」を意味する。したがって、結果×の程度がリスク限界線に近いほど、リスクは大きくなる。

ここでは、農業に焦点をあて、リスク概念を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成について論じる。農業を取り扱うため、学習対象も「農業リスク」となる<sup>(12)</sup>。なお、素材については、本項「(2)－②子どもにとって身近な素材の選定」で詳細に論じる。

前頁の図Ⅱ－3－4に、農業の内容をあてはめると、図Ⅱ－3－5のようになる（露地栽培による農作物の生産を仮定する）。



図Ⅱ－3－5 農業リスクにおける行為、状態、結果の関係

農作物の収穫量は、天候状態によって変動する。そして、「豊作～不作」間の変動幅が、リスクの大小を決定する。また、不作の場合、例年に比べて若干少ない収穫量となるのか、リスク限界線を超えるほど少ない収穫量となるのかで、リスクの大きさは全く異なる。

なお、図Ⅱ－3－5はあくまでも行為、状態、結果の関係を単純化して示すため、状態を天候に限定し、収穫量の変動を例示したものである。現実の農業では、虫害や病害、土や水の状態、農家の家族構成や個人の健康状態といったあらゆる要因が関連し、収穫量に影響を与える。

以上、論じてきたことから、本研究における農業リスクを次のように定義する。

農業リスクとは、農業に従事する人々が損失を被る可能性、または利潤が生じる可能性のことをいう。

そして、農業リスクの大小は、結果の変動幅や程度によって決定されることとなる。

## 第Ⅱ章 第3節

また、本研究では、「利潤が生じる可能性（アップサイドリスク）」ではなく、「損失を被る可能性（ダウンサイドリスク）」に焦点をあて、その対処手段を取り扱う。なぜなら、農業経営では、ダウンサイドリスクへの対処なくして安定した利潤の獲得は望めないからである。農業の場合、市場価格が上昇する時期に合わせて、農作物の大量供給を意図しても、悪天候や病虫害、連作障害といったダウンサイドリスクに対処していなければ、商品作物を収穫、出荷できないおそれがある。まずは、農業リスクの基礎となるダウンサイドリスクを取り扱うことで、子どもに過度な負荷をかけることなくリスク概念に着目させることができる。

しかし、現段階では、「農業に従事する人々が損失を被る可能性」を有するすべての事象が学習対象となり、射程が広すぎる。そこで、農業リスクを分類し、開発する社会科授業で取り扱う教育内容を決定する。農業リスクの分類を、表Ⅱ－3－2に整理して示す。

表Ⅱ－3－2 農業リスクの分類<sup>(13)</sup>

種類	解説	関連する条件
収量リスク	天候、病害、虫害等によって起こる生産の変動に起因するリスク	自然条件
市場リスク	生産物と投入財の予測不可能な価格変動に伴うリスク（価格リスク） 販路や需要など市場構造の変化に伴うリスク（販売リスク）	社会条件
制度リスク	政策変更による補助金削減・規制強化・税制変更・契約不履行に伴う賠償責任、取引上の問題発生による訴訟、国際紛争による農作物輸出禁止などに起因するリスク	社会条件 個人条件
技術リスク	技術革新に伴う従来の技術の衰退や新技術導入に伴うリスク	社会条件
財務リスク	農業経営の財務的な不安定性に関するリスク（経営破綻リスクが最も重大）	社会条件 個人条件
人的リスク	経営者やその家族、あるいは中核的な従業員の死亡、事故、怪我、病気、経営離脱に起因するリスク	個人条件

各リスクには、関連する条件がある。財務リスクには個別の経営体における財務状況、人的リスクには個人の健康状態、制度リスクには契約不履行に伴う賠償責任や取引上の問題発生による訴訟という個人条件が関連するので、教材として取り扱うのは困難である。

また、市場リスク、技術リスクは、第5学年の学習内容として、難易度が高すぎるため、教材には適さないと判断した。以降で、その理由について論じる。

まずは、市場リスクについて論じる。開発する社会科授業では、リスク概念に加えて市場価格の変動についても取り扱う。しかし、予測不可能な価格変動に伴う価格リスクや市場構造の変化に伴う販売リスクは、その関係よりもさらに複雑な内容となる。

次に、技術リスクについて論じる。現代社会では、農業技術の向上をめざし、日々研究が重ねられている。そのため、技術革新を学習内容として取り扱うことは、社会認識形成



## 第Ⅱ章 第3節

において有効である。しかし、技術革新に伴う従来の技術の衰退や新技術導入に伴う技術リスクは、その内容よりもさらに高度となる。

つまり、市場リスクや技術リスクを教材として取り扱うことで、子どもに過度な負担をかけ、リスク概念を組み込んで社会事象を経済学的に説明させるという目的を達成できないおそれがある。そこで、開発する社会科授業では、収量リスクを取り扱う。収量リスクである悪天候や病虫害の被害は、可視化することができる。さらに、「収量リスクの現実化が収穫量を低下させ、利潤減少につながる。」という関係を、子どもは無理なく理解できると判断した。

また、収量リスクの中から、天候に関するリスクを取り扱う<sup>(14)</sup>。なぜなら、日本列島は気象変化の激しいアジアモンスーン気候に属しており、農業においても風水害や冷害が頻発するという自然条件をもつからである。さらに、農業経験がほとんどない現代の子どもにとって、風水害や冷害により農作物を収穫できないリスクは、病虫害のリスクよりも理解しやすい内容であると判断した。

農家の人々は、あらゆる農業リスクを考慮して農業経営を行っている<sup>(15)</sup>。したがって、農業リスクの概念を小学校社会科授業に組み込むことで、より現実の農業に近い認識形成が可能となる。そして、習得した農業リスクに関する知識は、水産業や工業といった他産業の学習でも活用できる。なぜなら、現代社会では、あらゆる分野の企業が、リスクマネジメント（リスクの分析、評価、対処）を実施しているからである。したがって、リスク概念を小学校社会科授業で取り扱うことは、有意義といえる。

### （2）リスク概念を組み込んだ教材と子どもとの近接化

ここからは、第2節第3項で示した図Ⅱ-2-5「価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法の構造図」を基に、リスク概念の小学校社会科授業の内容への変換について論じる。なお、（2）-②以降は、具体的な素材を基にした検討が必要となる。そこで、「高知県のナス作り」を素材として論じる。

また、天候に関するリスクの中から、低温のリスクを取り扱う。なぜなら、素材とした高知県の冬は、台風が襲来しないため、強風のリスクが低いからである。そして、大陸からの北西季節風は、中国山地や四国山地を越えると乾いた風となるため、大雨のリスクも低い。しかし、晴天ならば雲が少ないので、冬の高知県では放射冷却現象が発生し、日没から早朝にかけては急激に気温が低下する<sup>(16)</sup>。例えば、ナスの産地である安芸市は、冬の最低気温が平均 4.8℃であり、生育する最低限界温度の 7℃よりも低くなる<sup>(17)</sup>。そこで、ビニールハウス導入により低温のリスクが回避され、収穫量の安定が実現しているという内容を取り扱う。

## 第Ⅱ章 第3節

### ① 小学校段階の子どもが理解できる日常用語の使用

リスクという用語は、『学習語彙表』に掲載されていないため、小学校段階の子どもにとっては難解語となる。したがって、リスクを日常用語に変換する作業が必要となる。

しかし、本研究では、あえてリスクという用語を変換せずに使用する。なぜなら近年、リスクという用語は急速に普及し、マスメディアのみならず日常会話でも使用される一般的な言語となったからである。とりわけ、日本は、地震や津波、火山の噴火といった自然災害が頻発する国である。それらの自然災害をリスクと捉え、適切に対処する方法が日常的に発信されている。しかし、リスクの内容は、自然災害に関わるものだけではない。

現代社会のリスクを概観するため、日本リスク学研究会の分類を表Ⅱ－3－1に示す。

表Ⅱ－3－1 現代社会におけるリスクの分類<sup>(18)</sup>

No	リスクの種類	No	リスクの種類
1	自然災害のリスク	8	放射線のリスク
2	都市災害のリスク	9	廃棄物リスク
3	労働災害のリスク	10	高度技術リスク
4	食品添加物と医薬品のリスク	11	グローバルリスク
5	環境リスク	12	社会経済活動に伴うリスク
6	バイオハザードや感染症リスク	13	投資リスクと保険
7	化学物質のリスク		

さらに、新たな種類のリスクも現在進行形で生まれている。未来を生きる子どもたちは、多種多様なリスクと向き合って生きていかなければならない。そこで、リスクという用語をそのまま使用することにした。

しかし、リスクを換言せずに用いるならば、その意味を授業で解説することが不可欠となる。そこで、「リスクとは、損をする可能性のこと。」という知識を、子どもに提示する。この意味の内容は、先に示した農業リスクの定義を基にしている。また、日常用語を使用し、子どもが理解できるよう表現した。

### ② 子どもにとって身近な素材の選定

リスク概念を組み込んだ教材と子どもを近接化するには、身近な素材の選定が不可欠となる。そこで、先に述べたように、「高知県のナス作り」を素材とし、小学校社会科授業を開発する。

高知県は、現任教（西宮市立名塩小学校）から距離があり、決して空間的に身近な場所とはいえない。しかし、高知県産のナスは、家庭やスーパーマーケットで目にする機会が多く、子どもの日常生活に関連している。また、ナスは誰もが食べたことのある一般的な野菜である。したがって、心理的に身近な素材といえる。そこで、リスク概念を組み込んだ小学校社会科授業を開発するための素材に選定した。

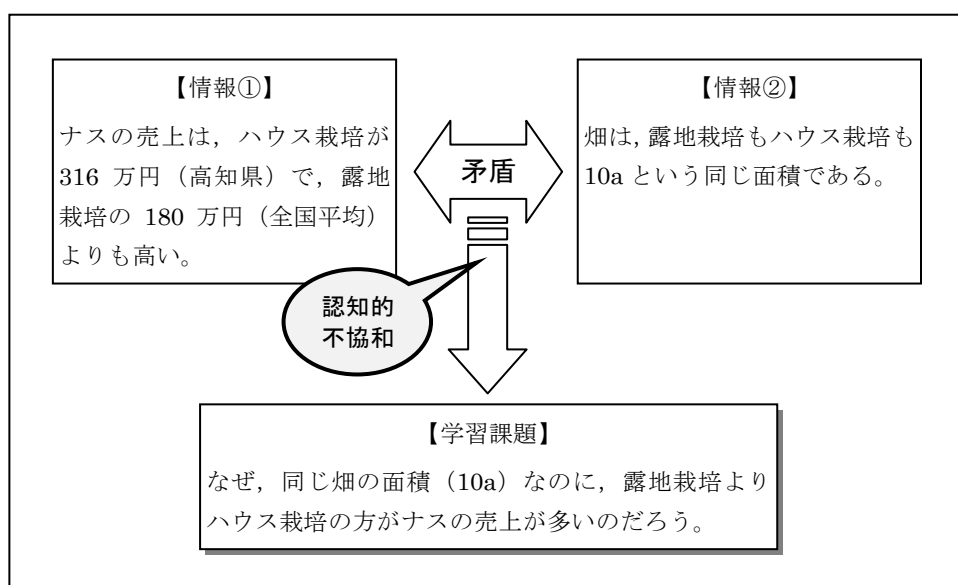
## 第Ⅱ章 第3節

### ③ 認知的不協和の誘発や知的好奇心の刺激を基にした学習課題の設定

本節第1項「利潤概念を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成」の(4)では、費用を視点として、「なぜ、兵庫県南あわじ市では、たまねぎより費用のかかるレタスを作る農家が増えているのだろう。」という学習課題を設定した。高知県のナス作りでも、同様に費用を視点とし、「なぜ、高知県の農家は、露地栽培より費用のかかるハウス栽培をして、ナスを生産するのだろう。」という学習課題を把握させる（露地栽培の費用は58万円/10a、ハウス栽培の費用は155万円/10a）<sup>(19)</sup>。そして、売上の具体的な金額を提示し、売上－費用の公式によって、露地栽培とハウス栽培の利潤を算出させる。つまり、高知県のナス作りにおいても、利潤概念を取り扱うこととなる。

ナス作りの利潤については、露地栽培が122万円/10a、ハウス栽培が161万円/10aである。費用は、露地栽培よりハウス栽培の方が高いため、この利潤のちがいは、売上の差によって生まれている（露地栽培の売上は180万円/10a、ハウス栽培の売上は316万円/10a）<sup>(20)</sup>。ここで、売上の差に着目することにより、子どもの認知的不協和を誘発することができる。今回は、本節第1項で示した兵庫県南あわじ市の学習とは異なり、取り扱う農作物はナスで統一されている。また、畑も10aと同じ面積である。しかし、露地栽培とハウス栽培のちがいで、売上は136万円/10aの差が生じている。この事実を利用すれば、「なぜ、同じ畑の面積（10a）なのに、露地栽培よりハウス栽培の方がナスの売上が多いのだろう。」という学習課題を把握させることができる。

リスク概念を組み込んだ小学校社会科授業における学習課題の設定について、図Ⅱ－3－6に示す。



図Ⅱ－3－6 リスク概念を組み込んだ小学校社会科授業における学習課題の設定

## 第Ⅱ章 第3節

「情報①－情報②」間の矛盾から生じる認知的不協和を利用し、学習課題を把握させる。  
 以上、①～③で論じてきた手立てにより、リスク概念を組み込んだ教材と子どもとの近接化が実現する。

### (3) リスク概念を組み込んだ小学校社会科授業における検証資料の作成

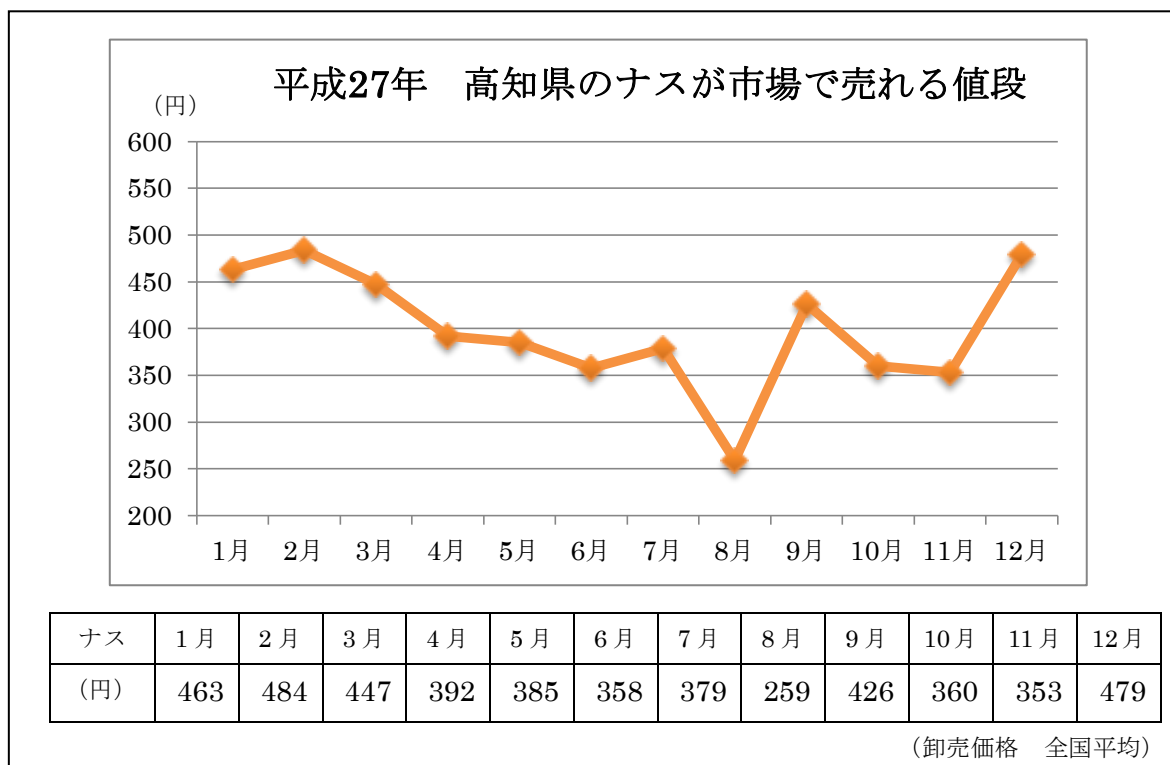
学習課題の解を導き出すため、仮説を設定して資料で検証する。この検証資料に、リスク概念を反映させる。学習課題の解は、次に示す2点である。

A ハウス栽培を行う冬は、ナスに高い値段が付く。

B ハウス栽培は温度調節ができ、低温のリスクを防ぐことができるので、収穫量が増加する。

A はナスの市場価格に関する解、B は農業リスク（低温のリスク）に関する解である。これらの解を導き出すために、検証資料の内容を構成する。

まずは、A の解に到達させるための資料について論じる。ナスは、6月頃～9月頃が旬の野菜である。そのため、夏は市場への供給が多くなり価格は下落する。一方、冬は露地栽培が不可能となるため、市場への供給が減少し、価格は上昇する。つまり、「市場価格の上昇→売上の増加→利潤の増加」となるため、多額の設備投資をして、ハウス栽培を実施している。A の解を導き出せるよう、ナスの市場価格の推移（月別）を、表と折れ線グラフで提示する。図Ⅱ－3－7に示す。



図Ⅱ－3－7 平成27年 高知県のナスの市場価格<sup>(21)</sup>

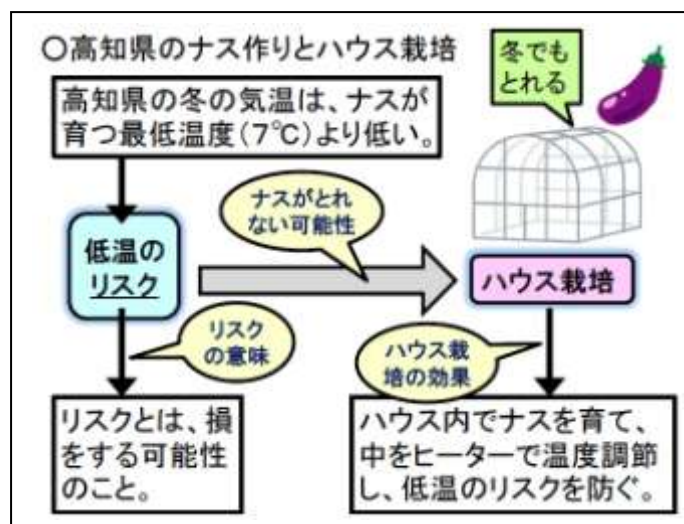
## 第Ⅱ章 第3節

図Ⅱ－3－7を検証段階で提示することにより、「冬はナスに高い値段が付く。」という情報を読み取らせることができる。この情報が、Aの解に直結する。

次に、Bの解に到達させるための資料について論じる。Bの解は、「①ハウス栽培は温度調節ができ、低温のリスクを防ぐ。」「②ハウス栽培によりナスの収穫量が増加する。」という2点の内容から構成されている。そこで、検証資料を2種類作成し、それぞれの資料から読み取った情報を関連付けて、Bの解を導き出せるようにする。

①の内容を組み込んだ検証資料では、子どもにリスクという用語だけを読み取らせても無意味である。リスクの意味や対処法についても、検証資料に明記する必要がある。したがって、一つの資料に組み込まれる情報量は多くなる。

そこで、①の内容を、概念地図法を用いて資料に反映させる。本章の第2節第3項で論じたように、概念地図は、概念を表す「概念ラベル」と各概念を結び付ける命題を表す「リンクワード」によって構成される。概念ラベルとリンクワードを用いることで、多くの情報や情報間の関係を整理して示すことができる。①の内容を、概念地図法を用いて検証資料に反映させると、図Ⅱ－3－8のようになる。



図Ⅱ－3－8 概念地図法を用いて低温のリスクの内容を組み込んだ検証資料

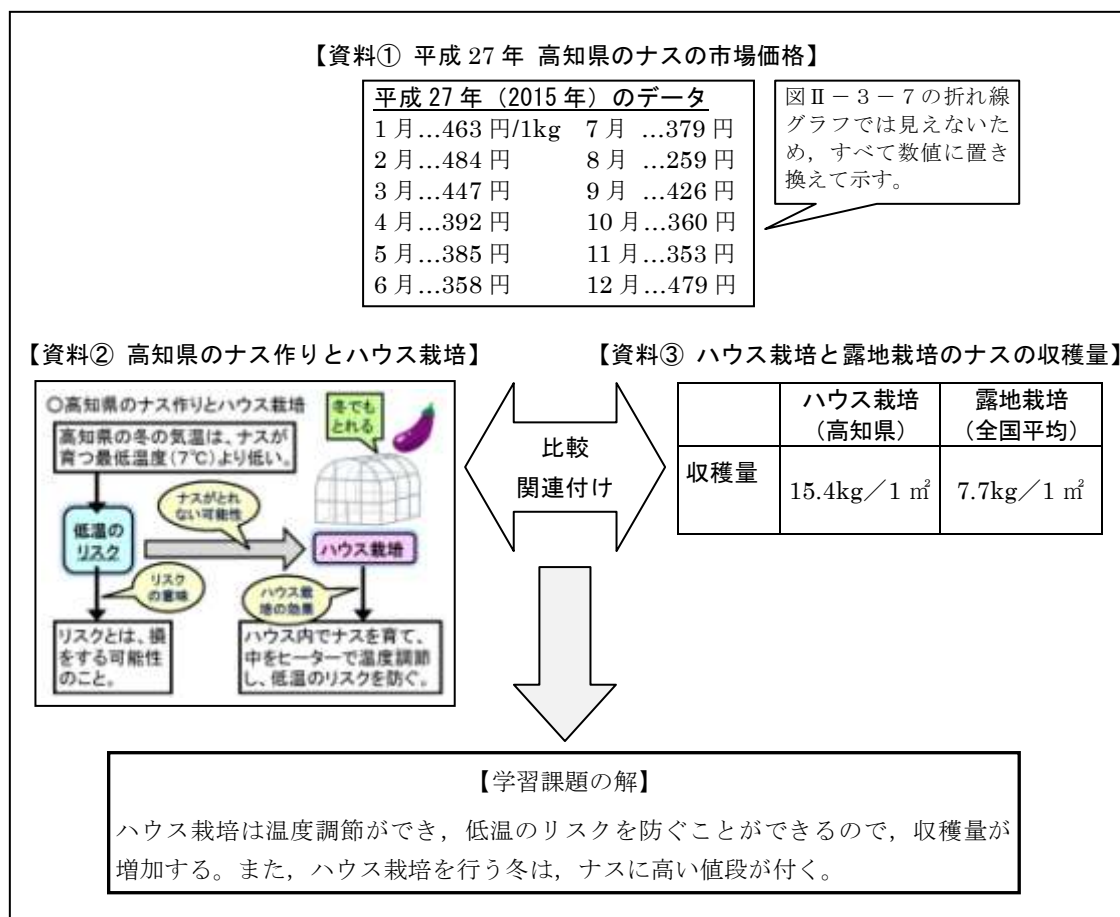
②の内容については、露地栽培とハウス栽培の収穫量が比較できる検証資料を提示する。そして、露地栽培よりもハウス栽培の方がナスの収穫量が多いという事実から、②の内容を読み取らせる。具体的な検証資料を、表Ⅱ－3－3に示す。

表Ⅱ－3－3 ハウス栽培と露地栽培のナスの収穫量<sup>(22)</sup>

	ハウス栽培 (高知県)	露地栽培 (全国平均)
収穫量	15.4kg/1 m <sup>2</sup>	7.7kg/1 m <sup>2</sup>

## 第Ⅱ章 第3節

以上、論じてきたことを基に、実際の授業で子どもに提示する検証資料と学習課題の解を、図Ⅱ-3-9に示す。



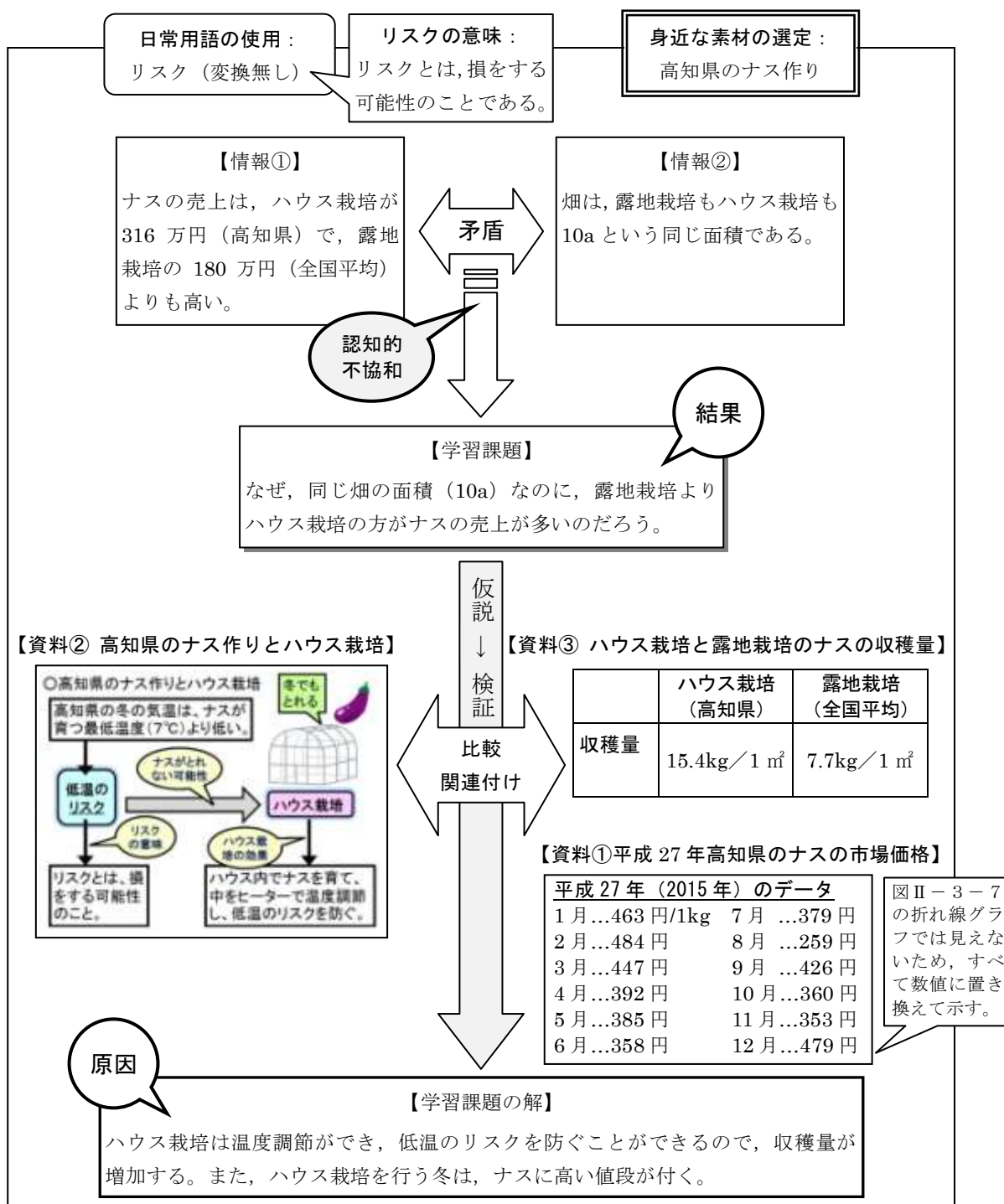
図Ⅱ-3-9 リスク概念を組み込んだ小学校社会科授業における検証資料と学習課題の解

概念地図法を用いた資料②を提示することで、子どもはリスクの意味もふまえてハウス栽培のメリットを読み取ることができる。また、検証資料②と③の内容を関連付けることで、農業リスク（低温のリスク）に関する学習課題の解を導き出すことができる。

このように、リスク概念を概念地図で表現し、検証資料に組み込むことで、小学校社会科授業の内容への変換がすべて完了する。

### (4) リスク概念を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成

(2)～(3)においてリスク概念を変換し、小学校社会科授業の内容を構成してきた。これまでの論を整理し、本研究におけるリスク概念を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成を、次頁の図Ⅱ-3-10に示す。



図Ⅱ-3-10 リスク概念を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成

図Ⅱ-3-10を基に、リスク概念を組み込んだ小学校社会科授業を開発し、実践することで、子どもは社会事象（高知県のナス作り）を経済学的に説明できる。なお、単元の指導計画や本時案については、第Ⅱ部第Ⅳ章「リスク概念を組み込んだ小学校産業学習の開発」で示す。

### 3 需要・供給理論を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成

#### (1) 需要・供給理論を組み込んだ小学校社会科授業の意義

価格理論は、主に家計と企業という二つの経済主体の行動を分析し、市場価格が成立するしくみを明らかにしている。そして、市場価格は、家計の行動から導き出された需要曲線と企業の行動から導き出された供給曲線の関係により決定する。つまり、需要・供給理論は、市場価格を決定するという点で、価格理論の中でも重要な位置付けといえる。ここでは、需要・供給理論についてさらに検討し、小学校社会科授業で取り扱う意義について論じる。

需要とは、「ある時期における、ある財・サービスを人々が購入しようとする欲求で、購買力に裏付けられたもの」である。また、供給とは、「異なる価格水準に対し各経済主体もしくはそれら全体が市場取引の対象として提供する財・サービスの数量のこと」である<sup>(23)</sup>。需要と供給は、それぞれ需要曲線、供給曲線として表現される。

本章第1節において論じたように、効用の最大化が実現する価格と需要量の組み合わせ（予算制約線と無差別曲線の接点）の集合体が、一家計の需要曲線となる。そして、各家計の需要曲線の水平和が、社会的需要曲線となる。また、価格と供給量の組み合わせ（価格と限界費用曲線の接点）の集合体が一企業の供給曲線となる。そして、各企業の供給曲線の水平和が、社会的供給曲線となる。

この社会的需要曲線と社会的供給曲線は、市場に参加する需要主体（買手）と供給主体（売手）が、市場価格に反応して需給量を変化させる行動を表現したものである<sup>(24)</sup>。需要主体と供給主体の利害は、市場価格に関して相反している。この利害関係を調整する場が、市場となる。

さらに、社会的需要曲線と社会的供給曲線によって価格が決まる市場は、完全競争市場であることが前提となる。完全競争市場の条件は、次の4点である。

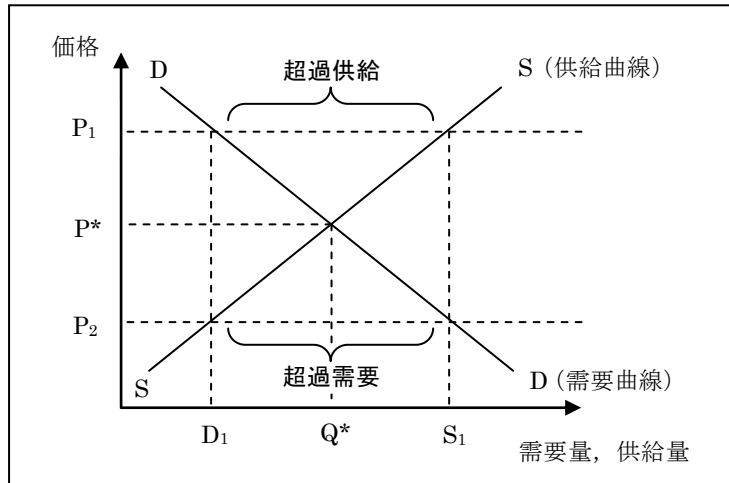
- (1) 市場で取引される財は同質となる。
- (2) 市場には多数の小規模な需要主体（買手）と供給主体（売手）が参加している。
- (3) 市場における価格、財の性質、各主体の行動に関する情報は、完全に市場参加者に行き渡っている。
- (4) 市場は誰でも自由に参入し、退出することができる。

(2)は、個々の供給主体が価格支配力をもたず、プライステイカー（価格受容者）であることを意味する。現実の社会において、(1)~(4)の条件をすべて満たす市場は存在しない。しかし、農作物市場は、4点の条件に比較的近く、完全競争市場に類似した市場といえる。

需要曲線と供給曲線の関係から、市場価格や需給量がどのように決まっているのかを、図Ⅱ-3-11に示す。



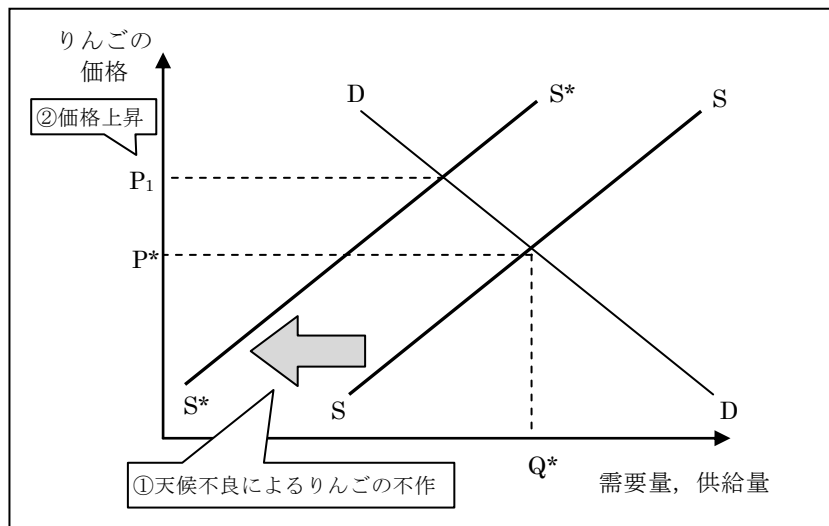
第Ⅱ章 第3節



図Ⅱ-3-11 市場価格と需給量の決定

価格が  $P_1$  のとき、 $D_1$  から  $S_1$  の超過供給がおこる。供給量が多く需要量が少ない状態のため、供給主体間の競争が発生し、価格は下落する。やがて、超過供給が 0 になる価格水準  $P^*$  で下落は止まる。また、価格が  $P_2$  のとき、 $S_2$  から  $D_2$  の超過需要がおこる。需要量が多く供給量が少ない状態のため、需要主体間で取り合いが発生し、価格は上昇する。やがて、超過需要が 0 になる価格水準  $P^*$  で上昇は止まる。すなわち、最適な需要量と供給量が一致した価格水準  $P^*$  で、市場価格と需給量が決定する。この働きが市場の調整であり、 $P^*$  は均衡価格、 $Q^*$  は均衡需給量となる。

図Ⅱ-3-11 は、超過需要や超過供給による市場価格の調整であり、あくまでも曲線に沿った価格変化である。しかし、需要と供給の状態が変わると、需給曲線がシフトし、均衡価格の変化が起こる。例えば、供給曲線がシフトするケースを、図Ⅱ-3-12 に示す。



図Ⅱ-3-12 天候不良による供給曲線のシフトとりんごの価格

## 第Ⅱ章 第3節

縦軸にりんごの価格、横軸にりんごの需要量、供給量をとる。P\*は均衡価格、Q\*は均衡需給量である。天候不良によるりんごの不作という要因により、供給曲線がSSからS\* S\*にシフトすると、需要曲線DDとの交点が左上方に変化する。したがって、りんごの均衡価格は上昇する。このように、価格の変化には、「超過需要や超過供給により価格が均衡水準となるよう調整されるもの」と「需要曲線や供給曲線のシフトにより、均衡価格が変化するもの」があり、明確に峻別することが不可欠である。

これまで論じてきたように、需要と供給は、価格決定の中核となる要素である。そして、小学校社会科授業でも、財・サービスの価格については数多く取り扱われている。しかし、現行の平成20年版や令和2年度完全実施の平成29年版小学校学習指導要領〔社会〕及びそれらの解説編では、需要・供給理論に関する内容は示されていない。現在、市場価格の決定は、中学校社会科公民的分野経済単元において取り扱われている。しかし、小学校社会科授業でも価格が取り扱われている以上、小学校段階で需要・供給理論に着目することは有意義といえる。また、需要・供給理論を組み込んだ小学校社会科授業を実践することで、子どもの社会事象に対する経済学的な説明を促すことができる。

### (2) 需要・供給理論を組み込んだ教材と子どもとの近接化

ここからは、第2節第3項で示した図Ⅱ-2-5「価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法の構造図」を基に、需要・供給理論の小学校社会科授業の内容への変換について論じる。なお、(2)-②以降は、具体的な素材を基にした検討が必要である。そこで、「大正時代の米価上昇」を素材として論じる。

しかし、大正時代の米価上昇を素材とするならば、あらかじめ需要・供給理論との関係を明らかにしておくことが不可欠となる。そこで、需要・供給理論を組み込んだ教材と子どもとの近接化について論じる前に、大正時代の米価上昇を分析、検討する。そして、需要・供給理論との関係を明らかにする。

大正時代を代表する歴史事象として米騒動がある。騒動が発生した場所は、28市153町178ヵ村に及び、騒動鎮圧のため推定57000人の軍隊が出動した。検挙された者は25000人以上にのぼる。また、騒動は炭鉱にも波及しており、賃上げの要求から暴動に発展している。そして、米騒動を機に、寺内正毅内閣は総辞職に追い込まれることとなる。米騒動は、「近代日本史上でもっとも大規模な社会運動のひとつ<sup>(25)</sup>」として位置付けられている。

米騒動の背景には極端な米価の上昇がある。米価上昇の要因について、仲村哲郎、成田龍一、阿部真琴の論を整理し、表Ⅱ-3-4に示す。

表Ⅱ－3－4 米価上昇の要因に関する各研究者の論<sup>(26)</sup>

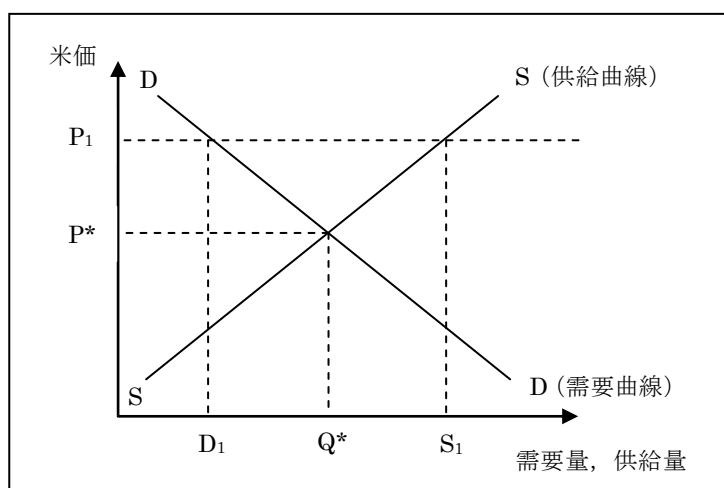
研究者	米価上昇の要因
仲村 哲郎	・農村から都市への人口集中や労働者の増加 ・内地産米と外米輸入の減少 ・シベリア出兵を見越した大商人の米の買い占め
成田 龍一	・夏場の端境期のため米が品薄 ・シベリア出兵による米の買い占めと売り惜しみ
阿倍 真琴	・工業製品の値上がりによる米の生産費の上昇 ・資本主義の発展による米の消費の増大 ・戦時下の労働力不足 ・地主の米の隠退蔵と米商人の買い占めや投機 ・地主を守るための外米輸入関税の固守 ・シベリア出兵による米の需要増加

しかし、表Ⅱ－3－4の要因を、開発する社会科授業においてすべて取り扱うには情報量が膨大である。また、内容が高度なため、第6学年段階の子どもにとって理解が困難なものもある。そこで、各研究者の論を、需要・供給の概念と関連付けて整理し、小学校社会科授業において取り扱う米価上昇の要因を選択すると、次の2点となる。

- ① 農村から都市部へと人口が移動し、米の需要が増加した。一方、農村では労働力不足により、米の供給は停滞した。
- ② ロシアの社会主義革命を封じ込めるためのシベリア出兵が決定する。兵士の食糧として、大量の米が必要となり需要が増加した。しかし、米商人は高利潤を得るために米の買い占めと売り惜しみをを行い、供給は減少した。

米価上昇の要因を探究することで、①や②に示される米騒動の背景や大正時代の特色を理解させることができる。また、米価の変化には、必ず需要と供給が関係する<sup>(27)</sup>。つまり、本素材では、需要と供給の概念に着目した上で米価上昇の要因を習得できる。

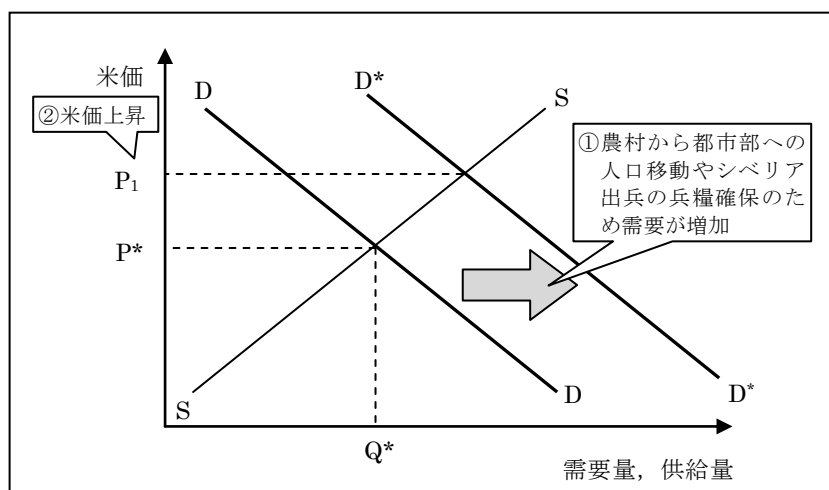
ここからは、大正時代における米価上昇のしくみを、需要曲線と供給曲線の関係から、より詳細に分析、検討する。米価と米の需要量、供給量の関係を、図Ⅱ－3－13に示す。



図Ⅱ－3－13 米価と米の需要量、供給量の関係

縦軸に米価，横軸に米の需要量，供給量をとる。 $P^*$ は均衡価格， $Q^*$ は均衡需給量である。仮に価格が  $P_1$  であると，需要量は  $D_1$ ，供給量は  $S_1$  となり，超過供給が発生する。これは，米価の上昇による需給量の増減を示したものであり，曲線に沿った変動である。

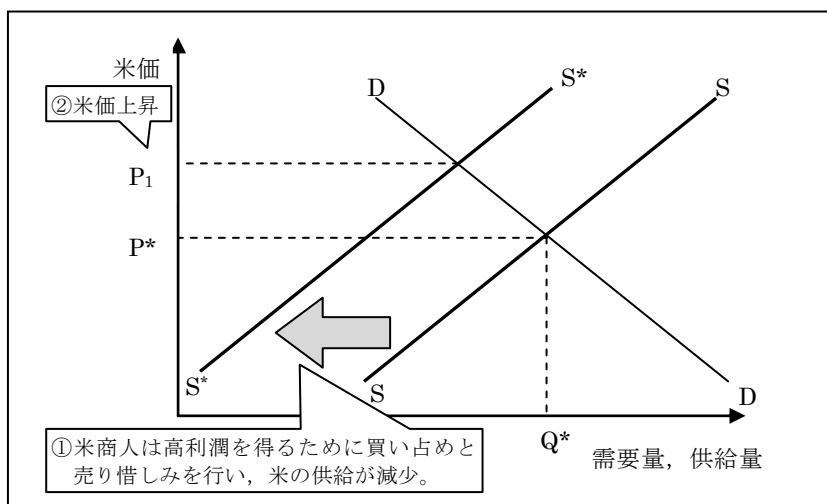
しかし，大正時代の米価上昇は曲線に沿った変動ではなく，米に関する諸条件の変化から起こった需給曲線のシフトで説明できる。まずは，需要曲線のシフトについて検討する。大正時代は，農村から都市部への人口移動やシベリア出兵の兵糧確保のため，米の需要が増加している。この状態を，図Ⅱ-3-14に示す。



図Ⅱ-3-14 需要曲線のシフトと米価の上昇

需要曲線が  $DD$  から  $D^* D^*$  へとシフトすることで，供給曲線  $SS$  との交点が変わる。したがって，米価は上昇する。

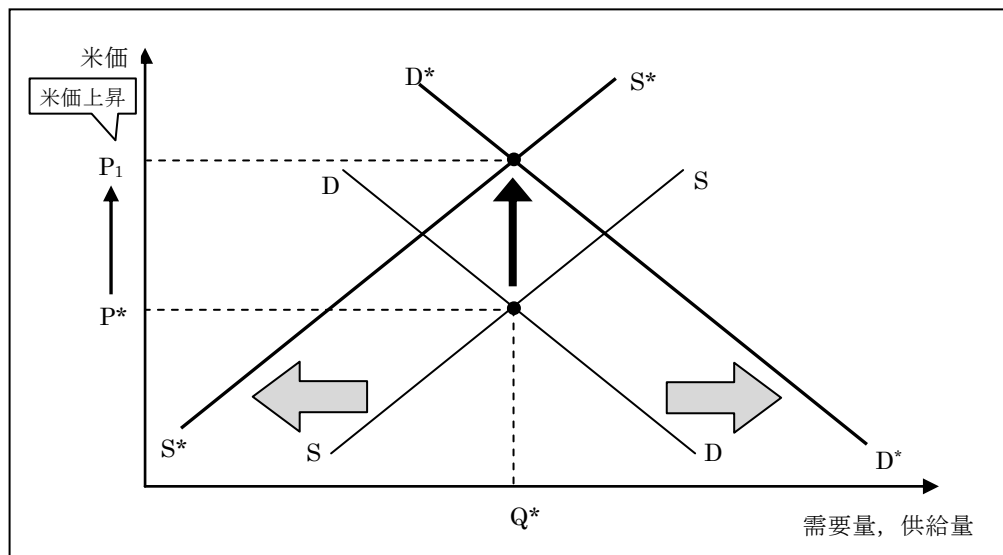
次に，供給曲線のシフトについて検討する。大正時代，米商人は高利潤を得るために買い占めと売り惜しみを行い，米の供給は減少している。この状態を図Ⅱ-3-15に示す。



図Ⅱ-3-15 供給曲線のシフトと米価の上昇

供給曲線が  $SS$  から  $S^* S^*$  へとシフトすることで、需要曲線  $DD$  との交点が変化する。したがって、米価は上昇する。

以上、論じてきたことを総合し、大正時代における米価上昇のしくみを示すと、図Ⅱ-3-16 のようになる。



図Ⅱ-3-16 需給曲線のシフトと米価の上昇

需要の増加による曲線の右へのシフト ( $DD \rightarrow D^* D^*$ ) と供給の減少による曲線の左へのシフト ( $SS \rightarrow S^* S^*$ ) が重なり、大正時代の米価は上昇したことが分かる。つまり、大正時代の米価上昇と需要・供給理論は、密接に関連している。そして、これまでの内容を基に、需要・供給理論を小学校社会科授業の内容に変換する。

① 小学校段階の子どもが理解できる日常用語の使用

「需要」「供給」という用語は、『学習語彙表』に掲載されていないため、小学校段階の子どもにとっては難解語となる。したがって、日常用語に変換する作業が必要である。

池上彰は、経済理論を子どもに身近にするため、需要を「買いたいと思っている欲求<sup>(28)</sup>」と示している。しかし、欲求とは、欲しがり求めることを意味し、個人の感情や状態に左右される。そこで、需要を「買いたい量」と換言する。「買う」ではなく「買いたい」と示すことで、欲求を表現している。また、池上は、供給を「売り出される商品の量<sup>(29)</sup>」と示している。ここでは、より簡潔に「売る量」と換言し、小学校社会科授業で使用する。

② 子どもにとって身近な素材の選定

本研究では、小学校歴史学習に需要・供給理論を組み込んで授業を開発する。つまり、選定される素材は歴史事象となる。歴史事象の場合、子どもとの空間的な距離や心理的な距離だけではなく、時間的な距離も存在する。したがって、可能な限り子どもに身近な素材

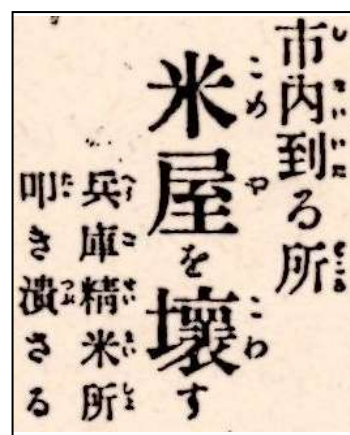
を選定することが必須となる。そこで、先に述べたように、「大正時代の米価上昇」を素材とし、小学校社会科授業を開発する。

米は、我が国の主食のため、誰もが日常的に食べている。そして、米価（米の値段）の変化も、日常生活に直結する問題である。したがって、米や米価は、子どもにとって心理的に身近な素材といえる。また、米価の急上昇が要因となり発生した米騒動は、富山県から始まったものの、現任校（西宮市立名塩小学校）がある兵庫県や隣の大阪府でも暴動が発生している。その事実を証明する資料が、図Ⅱ-3-17である。

【①大阪朝日新聞】



【②大阪毎日新聞】

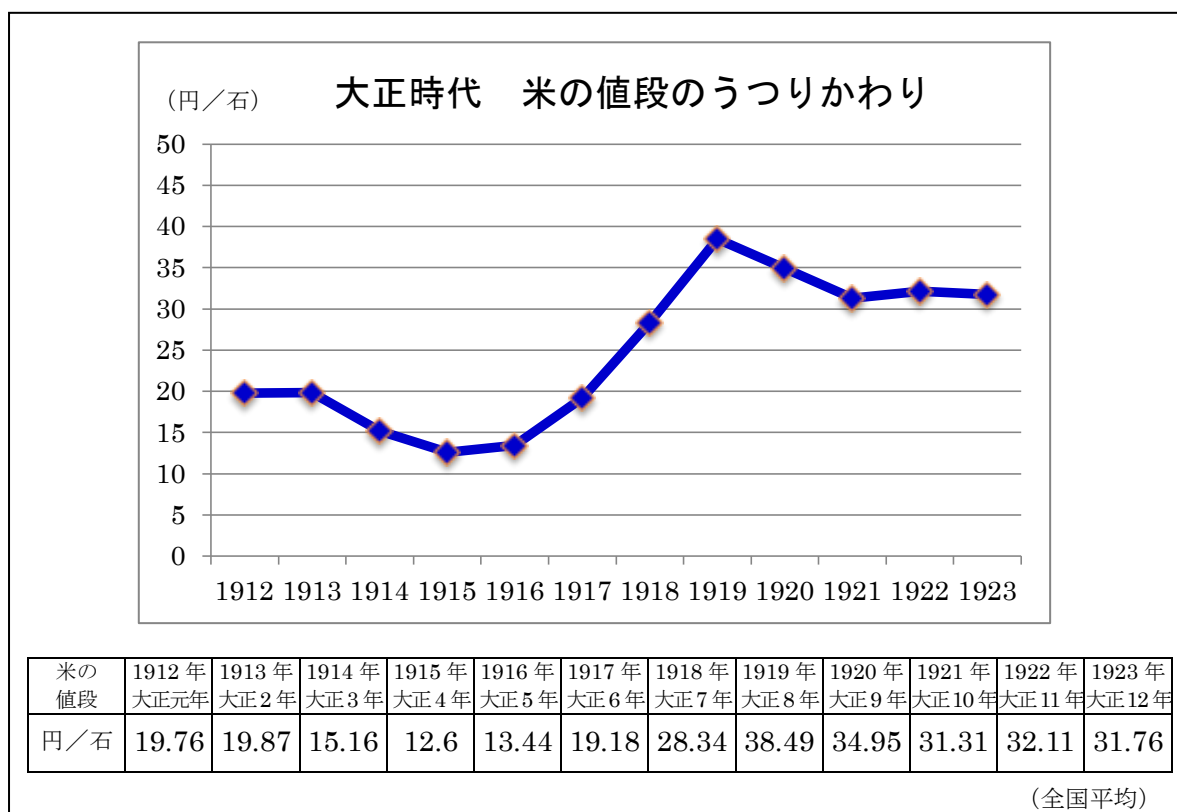


図Ⅱ-3-17 米騒動について報じた新聞記事<sup>(30)</sup>

これらの資料を提示することにより、子どもにとって米騒動や米価の上昇は空間的にも身近なものとなる。歴史事象は、過去の出来事である以上、時間的な距離を縮めることはできない。しかし、素材の選定や資料の内容を工夫することで、子どもにとって空間的、心理的に身近な内容に変換することができる。

③ 認知的不協和の誘発や知的好奇心の刺激を基にした学習課題の設定

本節の第1項及び第2項では、2点の矛盾する情報を提示し、子どもの認知的不協和を誘発して学習課題を設定してきた。本項では、子どもの知的好奇心を刺激して、学習課題を把握させる。そのために、次頁の図Ⅱ-3-18の資料を提示する。

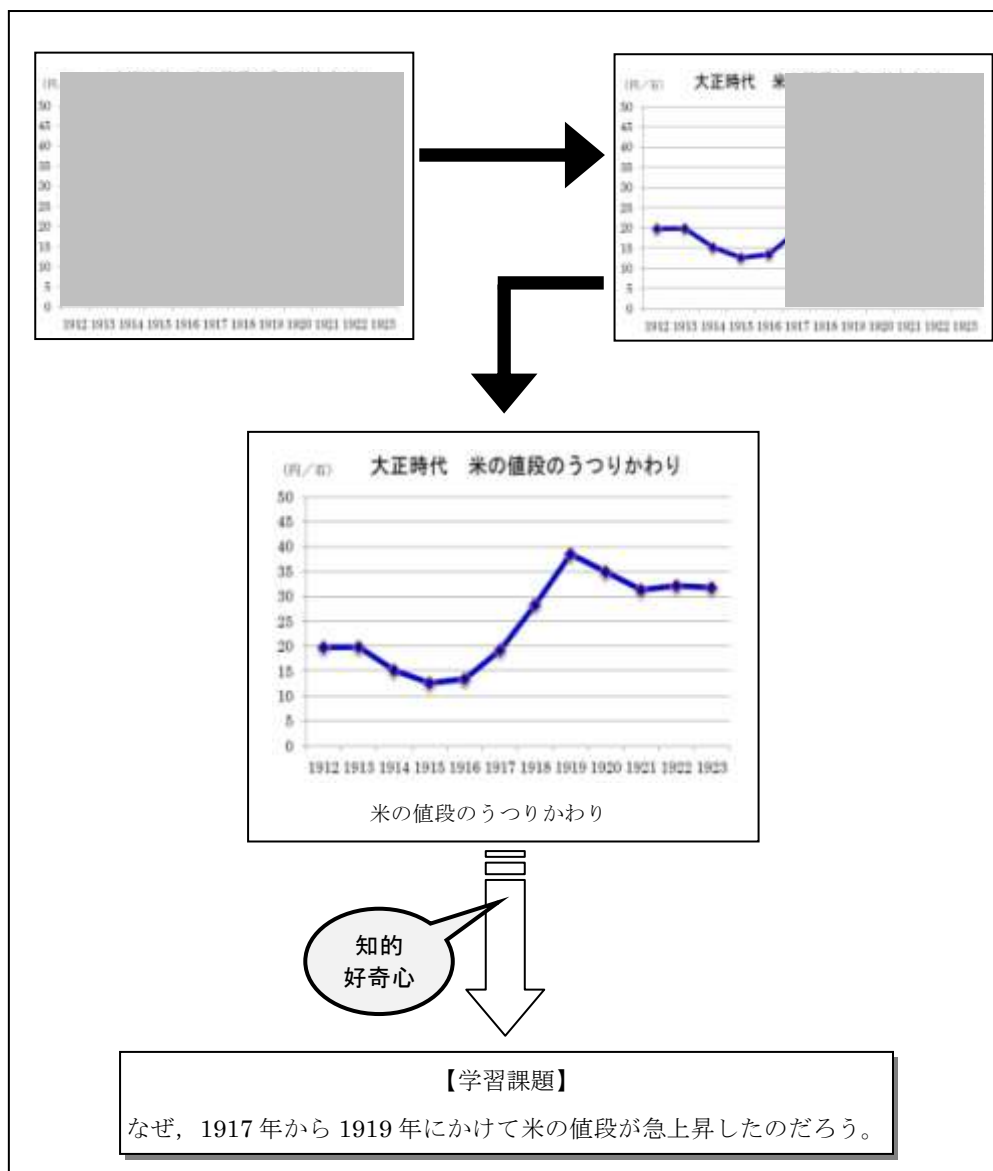


図Ⅱ－3－18 1石あたりの米価の推移<sup>(31)</sup>

1917年（大正6年）の段階では、19.18円だった米価が急上昇し、1919年（大正6年）には38.49円となっている。つまり、わずか3年間で米価は2倍以上に急上昇している。しかし、図Ⅱ－3－18を、単に示すだけでは、すべての子どもが知的好奇心を刺激されるとは限らない。そこで、折れ線グラフの見せ方にも、工夫が必要となる。

具体的な方法として、はじめは折れ線グラフ全体を隠しておく。そして、第1段階は、1906年（明治39）～1916年（大正5年）までの米価の推移を、折れ線グラフ左端から順に、ゆっくりと提示する。教室にあるテレビの画面と、プレゼンテーションソフトの機能を利用すれば可能である。第2段階は、1917年（大正6年）以降の折れ線グラフを、同様の方法で提示する。第1段階では、米価に大きな変化は見られない。しかし、第2段階において、米価は急上昇する。数値ではなく折れ線グラフで示すことにより、子どもは1917年以降の米価の急上昇を、視覚的に捉えることができる。その結果、知的好奇心が刺激され、「なぜ、1917年から1919年にかけて米の値段が急上昇したのだろう。」という学習課題を、円滑に把握できる。

以上、論じたことを基に、需要・供給理論を組み込んだ小学校社会科授業における学習課題の設定について、図Ⅱ－3－19に示す。



図Ⅱ－3－19 需要・供給理論を組み込んだ小学校社会科授業における学習課題の設定

子どもの知的好奇心を刺激するには、資料の内容はもちろん、見せ方にも工夫が必要となる。以上、①～③で論じてきた手立てにより、需要・供給理論を組み込んだ教材と子どもとの近接化が実現する。

(3) 需要・供給理論を組み込んだ小学校社会科授業における検証資料の作成

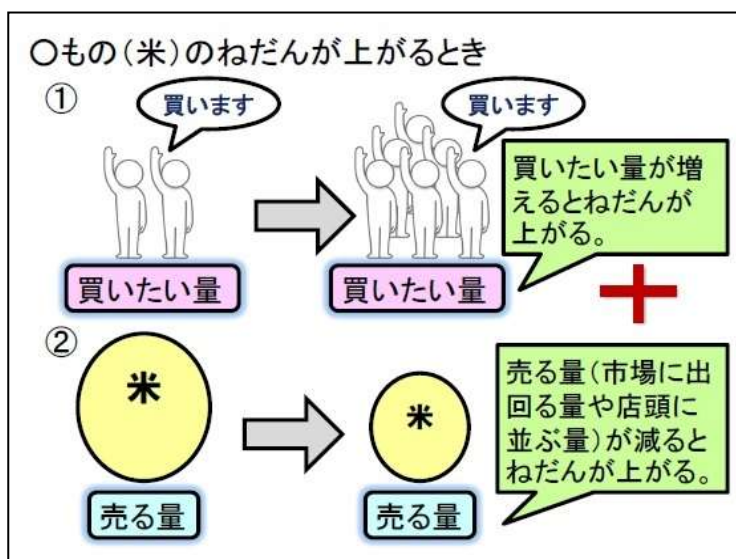
学習課題の解を導き出すため、仮説を設定して資料で検証する。この検証資料に、需要・供給理論を反映させる。学習課題の解は、次に示す4点である。なお、内容が多いため、実際の授業では2時間構成とする。また、( )内には取り扱う時間、【 】内には需要と供給どちらの内容が組み込まれているかを示す。



- A シベリア出兵で兵士への食糧を用意するため、日本政府は大量に米を買い必要があり、社会全体で米を売りたい量が増えた。…（第1時）【需要】
- B 米商人は、日本政府に高く売りつけてもうけるために、買いしめや売りおしめをしたので、社会全体で米を売る量が減った。…（第1時）【供給】
- C 日本の総人口が増え、農村から都市部へと人口が集中し、社会全体で米を売りたい量が増えた。…（第2時）【需要】
- D 米の作付面積はあまり増えなかったため、社会全体で売りたい量が増えたほど売れる量は増えていなかった。…（第2時）【供給】

ここでは、第1時で習得をめざすAとBの解を、例として取り扱う。AとBの解に到達するためには、需給曲線のシフトの内容を反映させた資料を読み取ることが不可欠となる。しかし、大正時代の米価上昇のしくみを、先に示した需要曲線と供給曲線のグラフ（図Ⅱ-3-16）から検証させることは得策ではない。なぜなら、需要・供給・市場価格の関係は、中学校社会科公民的分野経済単元（第3学年）で取り扱われる内容のため、小学校第6学年段階の子どもには難易度が高いからである。すなわち、グラフを提示することは、子どもの混乱を招き、大正時代の米価上昇に関する経済学的な説明を妨げるおそれがある。そこで、需給曲線のシフトに関する内容の抽象度を下げ、小学校段階の子どもでも理解可能な内容に変換する。

需給曲線のグラフは通常、点や曲線から構成されている。しかし、このままでは抽象度が高いため、実際の授業で取り扱う「(供給される)米」や「(需要する)人」をイラストで表し、絵グラフとして示す。さらに、概念地図法を用いて、大正時代の米価上昇のしくみを、需要と供給の両面から検証資料に示すと、図Ⅱ-3-20のようになる。



図Ⅱ-3-20 概念地図法を用いて需給曲線のシフトの内容を組み込んだ検証資料

①は需要曲線のシフト，②は供給曲線のシフトの内容をそれぞれ表している。

①では，米の需要者が2名から6名に増加したと仮定している。図中の「→」でシフトを表現し，需要が増えると価格が上がることをリンクワードとして明記した。②では，米のイラストのサイズを小さくすることで，供給の減少を示している。図中の「→」でシフトを表現し，供給が減ると価格が上がることをリンクワードとして明記した。また，需要と供給の両面で価格が決定するという内容を，①－②間の「+」で表現している。

しかし，図Ⅱ－3－20の提示のみでは，需給曲線のシフトを生み出す「価格以外の条件の変化」の内容が不明確である。そこで，別の資料に，需給曲線のシフトを生み出す条件の変化を示す。具体的には，次の図Ⅱ－3－21に示す2点の検証資料である。

【別資料①】「シベリア出兵に必要な食糧」＊需要曲線のシフトを生み出す条件の変化を示す。



ロシア革命により，ロシアでは国王中心の政治が終わりました。そして，新たにソビエト連邦（ソ連）という国となりました。ソ連の動きを警戒したアメリカ，イギリス，フランスとともに1918年，日本もシベリアに出兵しました（シベリア出兵）。兵士の食糧を用意するため，日本政府は大量の米を買う必要がありました。

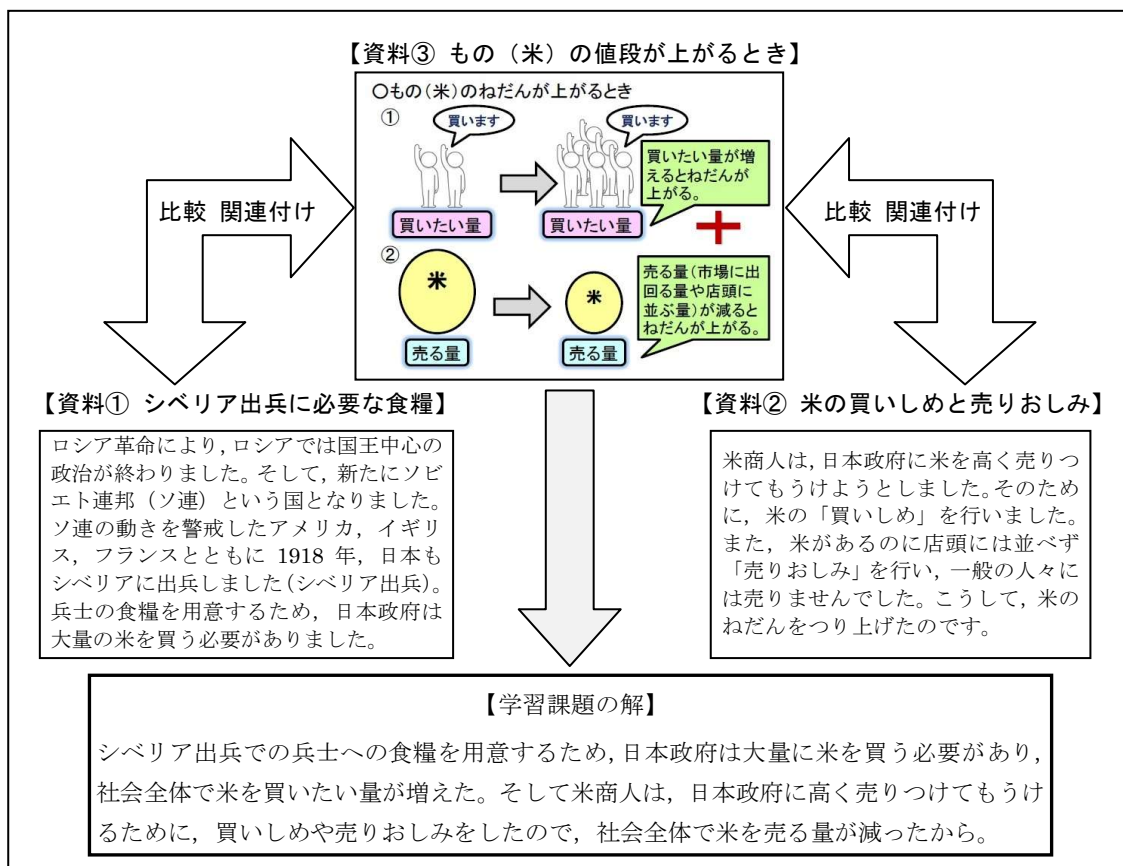
【別資料②】「米の買いしめと売りおしみ」＊供給曲線のシフトを生み出す条件の変化を示す。

米商人は，日本政府に米を高く売りつけてもうけようとしてきました。そのために，米の「買いしめ」を行いました。また，米があるのに店頭には並べず「売りおしみ」を行い，一般の人々には売りませんでした。こうして，米のねだんをつり上げたのです。

図Ⅱ－3－21 需給曲線のシフトを生み出す価格以外の条件の変化を示した検証資料<sup>(32)</sup>

需給曲線のシフトを生み出す条件の変化と図Ⅱ－3－20の内容を関連付けることで，子どもは需要と供給の概念に着目し，シフトの考え方もふまえて大正時代における米価上昇の要因を理解できる。

以上，論じてきたことを基に，実際の授業（第1時）で子どもに提示する検証資料と学習課題の解を，図Ⅱ－3－22に示す。



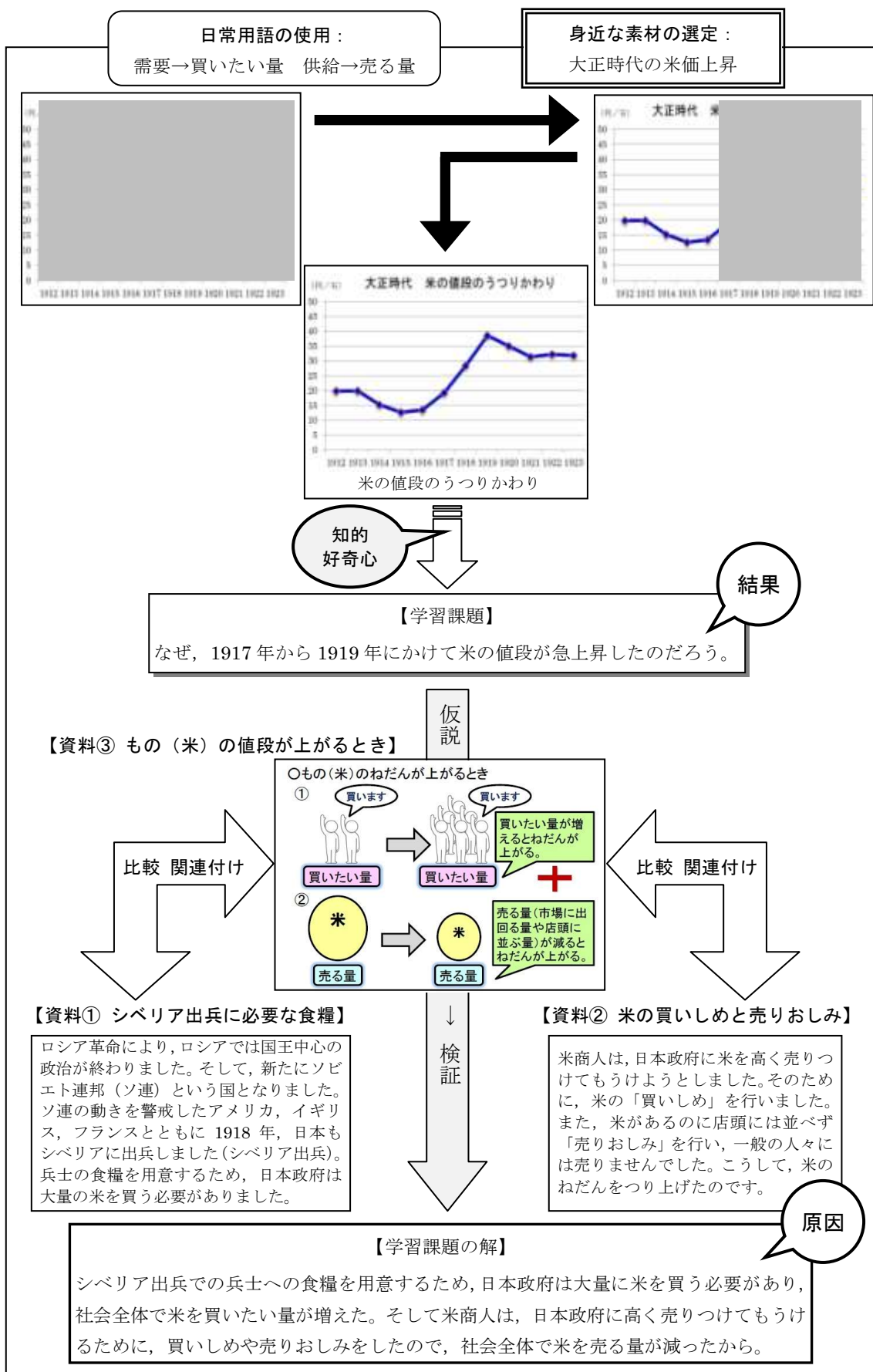
図II-3-22 需要・供給理論を組み込んだ小学校社会科授業における検証資料と学習課題の解

概念地図法を用いた資料③を提示することで、子どもは需要と供給の関係により米価が上昇することが分かる。また、資料①や②の内容（需給曲線のシフトを生み出す価格以外の条件）を資料③と関連付けることで、学習課題の解を導き出すことができる。

このように、需要・供給理論を概念地図で表現し、検証資料に組み込むことで、小学校社会科授業の内容への変換がすべて完了する。

(4) 需要・供給理論を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成

(2)～(3)において需要・供給理論を変換し、小学校社会科授業の内容を構成してきた。これまでの論を整理し、本研究における需要・供給理論を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成を、次頁の図II-3-23に示す。



図Ⅱ-3-23 需要・供給理論を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成

図Ⅱ－3－23を基に、需要・供給理論を組み込んだ小学校社会科授業を開発し、実践することで、子どもは社会事象（大正時代の米価上昇）を経済学的に説明できる。なお、単元の指導計画や本時案については、第Ⅱ部第Ⅴ章「需要・供給理論を組み込んだ小学校歴史学習の開発」で示す。

### 4 費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成

#### (1) 費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業の意義

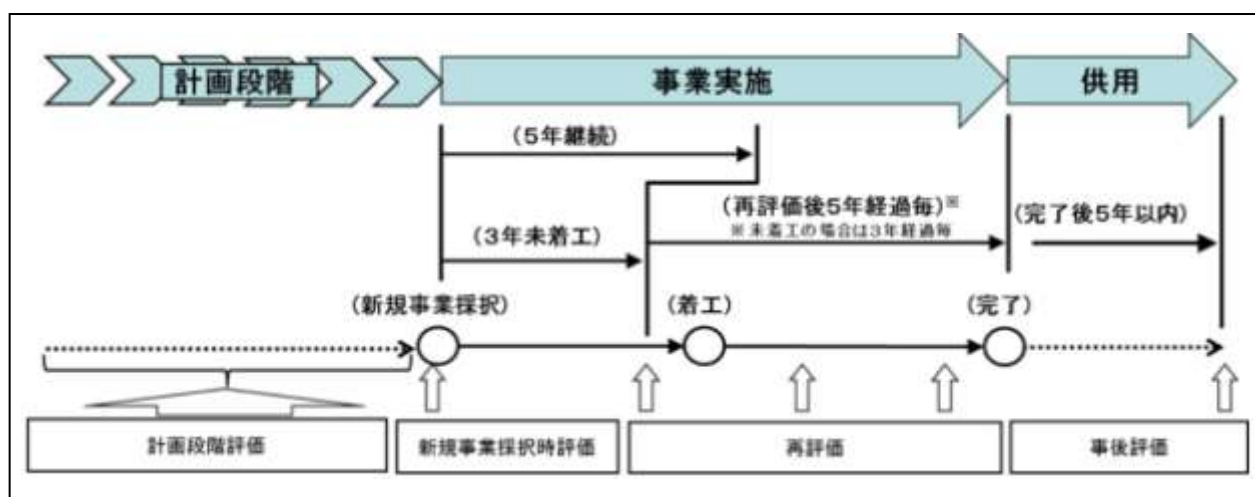
経済学における費用とは、ある目的を達成するために断念せざるを得ない価値を意味する。例えば、10時間睡眠をとれば、10時間分の余暇を断念しなければならない。つまり、10時間の睡眠には、余暇10時間分の費用がかかっている。また、経済学における便益とは、消費者が財・サービスを利用することで得られる価値を意味する。いずれの価値も、金銭という有形のものから、時間短縮や労力削減といった無形のものまでを幅広く包括する。

本項では、公共事業を学習対象とし、小学校社会科授業の内容を構成する。公共事業の場合、新規事業の採択時や採択後一定期間経過した事業については、評価を行うことが義務付けられている。具体的には、事業全体にかかる総費用や事業実施により生まれる総便益を算出し、双方の数値を比較することで、事業の採択や継続を決める判断材料としている。この評価を、「費用便益分析」という。費用便益分析では、費用と便益双方の数値が必要となる。そこで、本研究における費用と便益も、無形の価値を具体的な数値（円）で表現して取り扱う。そして、費用・便益理論の内容を、費用便益分析に焦点化して論じる。本節第1項でもふれたように、企業は、事業において獲得した売上や負担した費用から利潤を算出することにより、自社の経済活動を評価する。一方、費用便益分析は、社会的な便益や社会的な費用を考慮することから、主として国や地方公共団体における公共事業の評価に採用されている。

また、本研究では、公共事業の中から道路整備事業を取り扱う。なぜなら、道路は最も基礎的かつ必需の社会資本であり、我が国はこの60年間、その整備に注力してきたからである。以降は、公共事業を道路整備事業と同義として論じる。現行の道路整備事業における費用便益分析マニュアルは、2018年（平成30年）に発行されている。そこには、費用便益分析の趣旨が次のように示されている。

費用便益分析は、道路事業の効率的かつ効果的な遂行のため、新規事業採択時評価、再評価、事後評価の各段階において、社会・経済的な側面から事業の妥当性を評価し、併せて、評価を通じて担当部局においてより効果的な事業執行を促すことを企図するものである<sup>(33)</sup>。

費用便益分析は、新規事業採択時に行われるだけでなく、再評価や事後評価の際にも実施される。国土交通省のホームページには、公共事業における事業進捗と事業評価の流れが図で表現されている。図Ⅱ－3－24に示す。



図Ⅱ－3－24 公共事業における事業進捗と事業評価の流れ<sup>(34)</sup>

再評価は5年経過ごと（未着工の場合は3年経過ごと）に行われ、事後評価は事業完了後5年以内に実施されることが分かる。また、公共事業の計画段階には、計画段階評価が行われる。この評価は、政策目標を明確にした上で複数案の比較、検討を行うものであり、費用便益分析は実施されない。

また、現行の費用便益分析マニュアルには、費用便益分析における基本的な考え方が、次のように示されている。

費用便益分析は、ある年次を基準年とし、道路整備が行われる場合と、行われない場合のそれぞれについて、一定期間の便益額、費用額を算定し、道路整備に伴う費用の増分と便益の増分を比較することにより分析、評価を行うものである<sup>(35)</sup>。

基準年は「評価時点」、一定期間は「50年間」と費用便益分析マニュアルに示されている。また、この記述から、費用便益分析は次の3段階をふまえて実施されることが分かる。

- ① 道路整備事業を実施する場合としない場合の便益額を算定し、便益の増加分を示す。
- ② 道路整備事業を実施する場合としない場合の費用額を算定し、費用の増加分を示す。
- ③ ①と②で示された便益と費用の増加分を比較する。

①（便益額の算定）について論じる。道路整備事業における便益は、「十分な精度で計測が可能でかつ金銭表現が可能である、『走行時間短縮』、『走行経費減少』、『交通事故減少』の項目<sup>(36)</sup>」から算定される。表Ⅱ－3－5は、それぞれの便益の算定式を示したものである。



表Ⅱ－3－5 「走行時間短縮便益」「走行費用減少便益」「交通事故減少便益」の算定式<sup>(37)</sup>

走行時間短縮便益の計測	<p>* 道路の整備，改良が行われない場合の総走行時間費用から，道路の整備・改良が行われる場合の総走行時間費用を差し引いて算定される。</p> <p style="text-align: center;"><b>走行時間短縮便益： <math>BT = BT_0 - BT_w</math></b></p> <p style="text-align: center;"><b>総走行時間費用： <math>BT_i = \sum_j \sum_l (Q_{ijl} \times T_{ijl} \times \alpha_j) \times 365</math></b></p> <p>ここで，BT：走行時間短縮便益（円／年） BT<sub>i</sub>：整備 i の場合の総走行時間費用（円／年）                  Q<sub>ijl</sub>：整備 i の場合のリンク l における車種 j の交通量（台／日）                  T<sub>ijl</sub>：整備 i の場合のリンク l における車種 j の走行時間（分）                  α<sub>j</sub>：車種 j の時間価値原単位（円／分・台）                  i：整備有の場合 W，無の場合 O j：車種 l：リンク</p>
走行経費減少便益の計測	<p>* 道路の整備，改良が行われない場合の総走行費用から，道路の整備・改良が行われる場合の総走行費用を差し引いて算定される。</p> <p style="text-align: center;"><b>走行費用減少便益： <math>BR = BR_0 - BR_w</math></b></p> <p style="text-align: center;"><b>総走行費用： <math>BR_i = \sum_j \sum_l (Q_{ijl} \times L_l \times \beta_j) \times 365</math></b></p> <p>ここで，BR：走行経費減少便益（円／年） BR<sub>i</sub>：整備 i の場合の総走行経費（円／年）                  Q<sub>ijl</sub>：整備 i の場合のリンク l における車種 j の交通量（台／日）                  L<sub>l</sub>：リンク l の延長（km） β<sub>j</sub>：車種 j の走行経費原単位（円／台・km）                  i：整備有の場合 W，無の場合 O j：車種 l：リンク</p>
交通事故減少便益の計測	<p>* 道路の整備，改良が行われない場合の交通事故による社会的損失から，道路の整備・改良が行われる場合の交通事故による社会的損失を差し引いて算定される。</p> <p style="text-align: center;"><b>年間総事故減少便益： <math>BA = BA_0 - BA_w</math></b></p> <p style="text-align: center;"><b>交通事故の社会的損失： <math>BA_i = \sum_l (AA_{il})</math></b></p> <p>ここで，BA：年間総事故減少便益（千円／年）                  BA<sub>i</sub>：整備 i の場合の交通事故の社会的損失（千円／年）                  AA<sub>il</sub>：整備 i の場合のリンク l における交通事故の社会的損失（千円／年）<sup>(38)</sup></p>

表Ⅱ－3－5に示された3点の用語について，意味の内容を補足する。

1点目はリンクである。道路網は，交差点や曲がり角といった道路の特徴点「ノード」とノード同士を結んで道路の形状を示す「リンク」で表現される。すなわち，リンクとは，二つのノードを結ぶ道路区間を意味する。

2点目は時間価値原単位（α）である。時間価値原単位とは，自動車1台の走行時間が，1分間短縮された場合の価値を貨幣単位で表現したものである。例えば，乗用車ならば39.6円，バスならば365.96円の貨幣価値となる。

3点目は走行経費原単位（β）である。走行経費原単位とは，自動車1台が1km走行した場合の経費を計測したものである。例えば，乗用車が時速50kmで走行するならば，1kmあたり20.12円の経費がかかる<sup>(39)</sup>。

## 第Ⅱ章 第3節

それぞれの算定式に情報をあてはめ、走行時間短縮、走行経費減少、交通事故減少の各便益を導き出す。その結果から、道路の整備、改良全体の便益を算定する。まずは、整備、改良路線の供用開始年を起算点とし、検討期間 50 年間にわたる各年次の便益数値を算定する。次に、50 年間の各便益を将来価値から現在価値に換算する。なぜなら、供用開始年で得られる 1 円の価値は、その 1 年後に得られる 1 円の価値より大きいと考えられるからである。そのために、社会的割引率（4%）<sup>(40)</sup>を用いて、次の式により便益の現在価値をもとめる。

$$\text{便益 } j \text{ の現在価値 : } \text{BofPV}_j = \sum_t \left\{ \frac{B_{jt}}{(1+i)^{s+t}} \right\}$$

ここで、BofPV<sub>j</sub>：便益 j の現在価値（円）

s：基準年次（平成 n 年）から供用開始年次（平成 n+s 年）までの年数（年）

t：供用開始年次を 0 年目とする年次（年）

B<sub>jt</sub>：供用開始後 t 年目の便益 j の計測値（円）

i：社会的割引率（=4%）

j：便益種別（走行短縮便益、走行経費減少便益、交通事故減少便益）<sup>(41)</sup>

この式から算出された各便益における現在価値額の合計が、プロジェクト便益となる。

②（費用額の算定）について論じる。道路整備事業の費用便益分析で取り扱う費用は、「道路整備に要する事業費（用地費を含む）及び、維持管理に要する費用<sup>(42)</sup>」と明確に規定されている。したがって、費用は便益と異なり、時間短縮や交通事故減少の効果を貨幣単位で表すという作業は行われず、あらかじめ「円」で示された数値を取り扱うこととなる。

まずは、事業費及び維持管理費について、道路の整備、改良が行われる場合の費用から道路の整備、改良が行われない場合の費用を減じた差を導き出す。そして、検討期間 50 年間にわたる各年次の費用を算定する。次に、50 年間の各費用を将来価値から現在価値に換算する。便益と同じく、社会的割引率（4%）を用いて、次の式により費用の現在価値をもとめる必要がある。

$$\text{費用 } j \text{ の現在価値 : } \text{CofPV}_j = \sum_t \left\{ \frac{C_{j(s+t)}}{(1+i)^{s+t}} \right\}$$

ここで、CofPV<sub>j</sub>：費用 j の現在価値（円）

s：基準年次（平成 n 年）から供用開始年次（平成 n+s 年）までの年数（年）

t：供用開始年次を 0 年目とする年次（年）

C<sub>j(s+t)</sub>：年次 s+t 年目の費用 j の値（円）

i：社会的割引率（=4%）

j：費用種別（事業費、維持管理費）<sup>(43)</sup>

この式から算出された各費用における現在価値額の合計が、プロジェクト費用となる。



## 第Ⅱ章 第3節

③（便益と費用の増加分の比較）について論じる。①と②において示した方法により、道路整備事業におけるプロジェクト便益（走行時間短縮便益＋走行経費短縮便益＋交通事故減少便益）及びプロジェクト費用（事業費＋維持管理費）が算定される。双方をどのように比較するかは、主として2点の方法がある。

1点目は、費用便益比（Cost Benefit Ratio, B/C）を用いる方法であり、最も一般的といえる。費用便益比は、次の式によってもとめられる。

費用便益比（B/C）＝

$$\boxed{\text{プロジェクト便益の現在価値}} \div \boxed{\text{プロジェクト費用の現在価値}}$$

費用便益比が1以上であれば、総便益が総費用を上回る事となるため、その事業を採択（継続）することが望ましいと判断される。

2点目は、経済的純現在価値（Economic Net Present Value, ENPV）を用いる方法である。経済的純現在価値は、次の式によってもとめられる。

経済的純現在価値（ENPV）＝

$$\boxed{\text{プロジェクト便益の現在価値}} - \boxed{\text{プロジェクト費用の現在価値}}$$

費用便益分析の目的に応じて、どちらの方法でも選択することが可能である。ただし、経済的純現在価値を用いる方法については、社会的割引率の変化による影響が大きいことやプロジェクトの収益率を示さないという理由から、1点目の費用便益比が主として採用されている。

以上、費用・便益理論の中から、費用便益分析に焦点をあてて検討してきた。ここからは、小学校社会科授業に費用・便益理論を組み込む意義について論じる。平成20年版及び平成29年版の小学校学習指導要領〔社会〕には、第6学年の学習内容として、我が国の政治の働きがあげられている。そして、「政治は国民の願いを実現し国民生活の安定と向上を図るために大きな働きをしていること<sup>(44)</sup>」を取り扱うよう明記されている。

この記述を受け、小学校社会科教科書においても、国民の願いを実現させるための政治のしくみが示されている。例えば、光村図書の小学校社会科教科書には、「みんなの願いをもとにして、それを実現させるのが政治の働きなんだね<sup>(45)</sup>」という登場人物（子ども）の発言が示されている。たしかに、国民の願いが出発点となり、さまざまな社会保障や公共事業が実現していることは事実である。しかし、国民の願いが、政治の働きによってすべて実現しているわけではない。

これまでに論じたように、公共事業は費用便益分析の結果を基に、事業の採択や継続を決定している。つまり、いくら国民が願っても、不採択及び中断となる事業は存在する。

しかし、現行の平成20年版や令和2年度完全実施の平成29年版小学校学習指導要領〔社会〕及びそれらの解説編では、事業評価や費用便益分析の内容について示されていない。費用・便益理論に着目することで、国民の願いのみならず事業評価の内容も授業で取り扱うことができる。すなわち、政治の働きを経済学的な側面からも説明できる。したがって、費用・便益理論を組み込んで小学校社会科授業を開発することは、有意義といえる。

(2) 費用・便益理論を組み込んだ教材と子どもとの近接化

ここからは、第2節第3項で示した図Ⅱ-2-5「価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法の構造図」を基に、費用・便益理論の小学校社会科授業の内容への変換について論じる。なお、(2)-②以降は、具体的な素材を基にした検討が必要である。そこで、「名塩道路の開通」を素材として論じる。

① 小学校段階の子どもが理解できる日常用語の使用

「費用」という用語は、『学習語彙表』に掲載されている。小学校段階の子どもにとっては日常用語のため、変換の必要はない。一方、「便益」という用語は、『学習語彙表』に掲載されていないので、小学校の子どもにとっては難解語となる。したがって、日常用語に変換する作業が必要となる。

しかし、本研究では、あえて便益という用語を変換せずに使用する。理由は次の2点である。

- A 費用はそのまま便益のみを換言すると、授業で取り扱う費用便益分析という用語も使用できなくなる。
- B 小学校第6学年という発達段階をふまえると、便益の意味を丁寧に解説すればそのまま使用可能と判断できる。

以上の理由から、便益という用語をそのまま使用することにした。しかし、Bに示したように、便益を換言せずに用いるならば、その意味を授業で解説することが不可欠となる。そこで、「便益とは、よい効果をお金の単位(円)で表したものだ」という知識を子どもに提示する。この意味は、「(1)費用・便益理論の解説と小学校社会科授業で取り扱う意義」で検討した便益の内容を参照し、日常用語を用いて表現したものである。

② 子どもにとって身近な素材の選定

費用・便益理論を組み込んだ教材と子どもを近接化するには、身近な素材の選定が不可欠となる。そこで、先に述べたように、「名塩道路の開通」を素材とし、小学校社会科授業を開発する。その理由は、次の2点である。

A 2015年（平成27年）に開通した名塩道路は、現任校（西宮市立名塩小学校）の校区にある道路のため、空間的に身近な素材といえる。

B 名塩道路の開通により、子どもは生活の向上（登下校時の危険や通学時間の減少）を日常的に実感している。したがって、心理的に身近な素材といえる。

政治単位において学習する国や地方公共団体の政治の働きは、子どもの実生活と距離があり、興味・関心の低下を招きやすい。また、費用・便益理論の内容も抽象的である。そこで、空間的にも心理的にも身近な「名塩道路の開通」を素材に選定した。

### ③ 認知的不協和の誘発や知的好奇心の刺激を基にした学習課題の設定

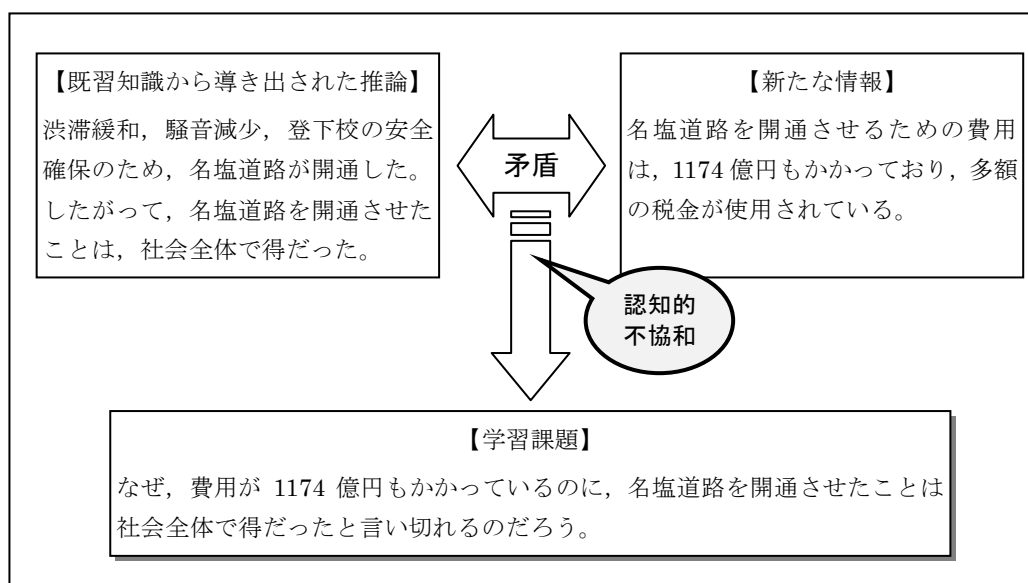
実際の授業では、まず、「なぜ、名塩道路を開通させる必要があったのだろうか。」という学習課題を探究する。そして、検証資料の情報から、渋滞緩和や騒音減少、登下校の安全確保のため、名塩道路が開通させる必要があったことを理解させる。

次に、「名塩道路を開通させたことは社会全体で得だったのか、損だったのか。」と問いかける。子どもは前時までに、名塩道路開通のメリットを学習しているので、得だったと答えるであろう。そこで、「なぜ、名塩道路を開通させたことは、社会全体で得だったと言い切れるのだろうか。」という学習課題を提示する。子どもは渋滞緩和や騒音減少、登下校の安全確保という既習知識を根拠とし、名塩道路の開通は得だったと主張するはずである。

このタイミングで、新たな情報を追加する。すなわち、「名塩道路を開通させるための費用＝1174億円」という情報を提示する。また、1174億円はすべて税金で賄われていることも補足する。そして、「実際に、名塩道路を開通させる費用は、1174億円もかかっている。なぜ、渋滞緩和や騒音減少が実現しただけで得だと言い切れるのか。」と揺さぶりをかける。この問いに対して、子どもは明確に返答することはできないと考えられる。なぜなら、円単位で示されている費用と、円単位で示されていない名塩道路開通のメリットを比較することは不可能だからである。

既習知識を根拠として導き出した推論（名塩道路を開通させたことは、社会全体で得だった。）に対して、新たな情報（費用＝税金 1174億円）を追加する。この手立てにより、子どもが確信をもって主張した推論を揺さぶることができる。この方法で子どもの認知的不協和を誘発し、「なぜ、費用が 1174 億円もかかっているのに、名塩道路を開通させたことは社会全体で得だったと言い切れるのだろうか。」という学習課題を把握させる。

費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業における学習課題の設定について、図Ⅱ－3－25に示す。



図Ⅱ－3－25 費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業における学習課題の設定

既習知識から導き出された推論に，矛盾する新たな情報を追加することで，学習課題を把握させる。

以上，①～③で論じてきた手立てにより，費用・便益理論を組み込んだ教材と子どもとの近接化が実現する。

### (3) 費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業における検証資料の作成

学習課題の解を導き出すため，仮説を設定して資料で検証する。この検証資料に，費用・便益理論を反映させる。学習課題の解は，「名塩道路を開通させたことによる総便益が，総費用を上回っている。」という内容である。この解を導き出すには，名塩道路開通による総便益と総費用のどちらが多いか（少ないか）だけではなく，厳密な金額まで明らかにする必要がある。なぜなら，「総便益が総費用よりも100円多い」ことと，「総便益が総費用よりも100万円多い」ことでは，意味合いが全く異なるからである。

そこで，具体的な数値を用いて，名塩道路開通による総便益と総費用の金額を比較させる。しかし，総便益や総費用の金額そのものを検証資料に示してしまうと，算定結果の比較だけで学習課題の解に到達できる。これでは，子どもが数値を操作することがないため，費用・便益理論に着目しているとは言い難い。もちろん，便益額や費用額の算定におけるΣ（与えられた条件を基に総和をもとめる）の計算を，第6学年の子どもが行うには無理がある。しかし，走行時間短縮，走行経費減少，交通事故減少の各便益を足して総便益を求めたり，名塩道路の開通費用や維持・管理費用を足して総費用を求めたりすることは可能である。そこで，図Ⅱ－3－26の2点の検証資料を示す。

【資料①】名塩道路開通による総便益

平成 24 年度を基準とし、50 年間で計算されている。

便益 (名塩道路開通によって生まれるよい効果を「円」で計算したもの)			
走行時間短縮便益 = 運転にかかる時間が短くなることで生まれるよい効果	走行経費減少便益 = 運転にかかるお金が減ることで生まれるよい効果	交通事故減少便益 = 交通事故が減ることによって生まれるよい効果	総便益 = それぞれのよい効果の合計
1495 億円	68 億円	14 億円	億円

【資料②】名塩道路開通による総費用

平成 24 年度を基準とし、50 年間で計算されている。

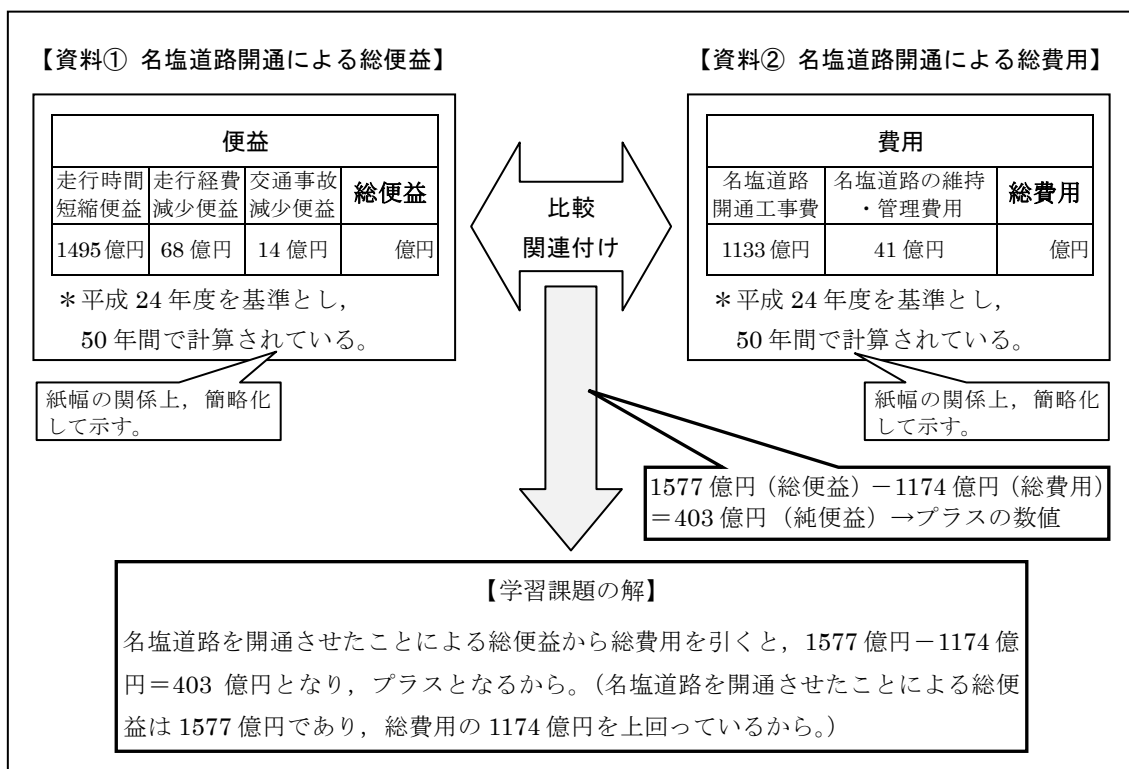
費用 (名塩道路開通を開通させ、維持・管理するためにかかる金額)		
名塩道路の開通工事費用	名塩道路の維持・管理費用	総費用
1133 億円	41 億円	億円

図Ⅱ-3-26 名塩道路開通による総便益及び総費用<sup>(46)</sup>

まず、子どもは、資料①と資料②に示された数値を基に、総便益（1495 億円+68 億円+14 億円）と総費用（1133 億円+41 億円）を算出する。次に、「1577 億円（総便益）－1174 億円（総費用）」を立式し、403 億円（純便益）を算出する。この時点で、純便益がプラスの数値となっているため、名塩道路を開通させたことは社会全体で得だったと結論付けることができ、学習課題は解決する。

なお、(1)では、費用と便益の比較において、費用便益比（Cost Benefit Ratio, B/C）を用いる方法が一般的であると論じた。費用便益比は、「総便益÷総費用」で算出できる。しかし、本研究で開発する小学校公民学習では、経済的純現在価値（Economic Net Present Value, ENPV）を用いる。なぜなら、経済的純現在価値は、「総便益－総費用」の計算で求められるため、名塩道路の開通により得している金額を、費用便益比よりも具体的に把握することができるからである。

以上、論じてきたことを基に、実際の授業で子どもに提示する検証資料と学習課題の解を、図Ⅱ-3-27に示す。



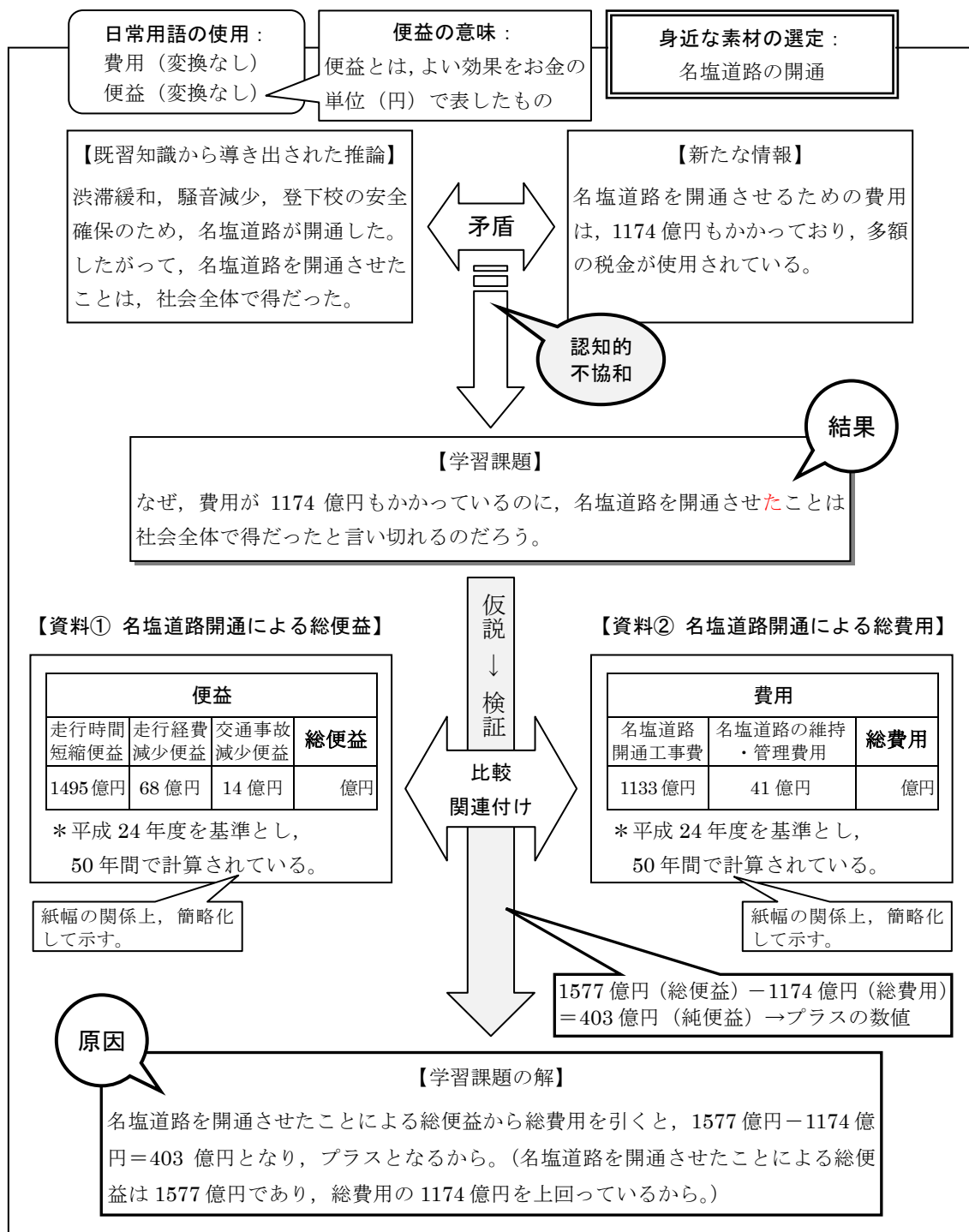
図Ⅱ-3-27 費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業における検証資料と学習課題の解

検証資料①と②を提示することで、子どもは名塩道路開通による総便益と総費用を計算する。そして、それらの金額を関連付け、純便益を求める。その数値がプラスであれば、学習課題についての説明が可能となる。

このように、費用と便益を数値によって表し、検証資料に組み込むことで、小学校社会科授業の内容への変換がすべて完了する。

(4) 費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成

(2)～(3)において費用・便益理論を変換し、小学校社会科授業の内容を構成してきた。これまでの論を整理し、本研究における費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成を、次頁の図Ⅱ-3-28に示す。



図Ⅱ－3－28 費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成

図Ⅱ－3－28 を基に，費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業を開発し，実践することで，子どもは社会事象（名塩道路の開通）を経済学的に説明できる。なお，単元の指導計画や本時案については，第Ⅱ部第Ⅵ章「費用・便益理論を組み込んだ小学校公民学習の開発」で示す。

【註及び引用・参考文献】

- (1) 櫻井幸男「経済学が考えていること，経済学から学ぶこと」黒坂真編『現代経済学を学ぶ』法律文化社 2003 p.9
- (2) 林敏彦『改訂版 経済学入門』放送大学教育振興会 2004 p.46
- (3) 猪瀬武則 須藤早苗「経済概念を形成する小学校社会科の授業構成－『そよ風島のジャワの樹』の場合」『弘前大学教育学部研究紀要クロスロード』第10号 2006 p.22
- (4) 利潤という用語が小学校段階の子どもにとって日常用語であるか否かは，甲斐睦郎編『小学校国語教科書の学習語彙表とその指導』1982 光村図書（以降：『学習語彙表』）を用いて判別した。この文献では，光村図書の小学校第1学年～第6学年の国語教科書に示された用語が，全4種の語彙集や国語辞典により，多角的に検討されている。本研究における日常用語は，『学習語彙表』に掲載されている見出し語とする。また，難解語は，『学習語彙表』に見出し語として掲載がないものとする。
- (5) 花岡幸子『経済用語図鑑』WAVE出版 2016 p.66
- (6) 「儲」は，小学校段階で学習する漢字ではないため，「もうけ」と表記している。
- (7) 農林水産省ホームページ 品目別経営統計「たまねぎ農業経営収支」「レタス農業経営収支」  
〔<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001061833> 2019.8.6 最終閲覧〕
- (8) 前掲（7）
- (9) 安達智彦『素朴な疑問「金融」って何だろう？』日本実業出版社 2002 p.206
- (10) 酒井泰弘「経済学におけるリスクとは」橘木俊詔 長谷部泰男 今田高俊 益永茂樹編『リスク学入門1』岩波書店 2007 pp.59-60
- (11) 図Ⅱ－3－4の作成にあたっては，前掲書（10）p.61を参照した。
- (12) 農業に関するリスクの表現は，先行研究において「農業におけるリスク」「農業経営のリスク」と多岐に渡る。本研究では，次の文献に依拠し，「農業リスク」と示す。  
・南石晃明『農業におけるリスクと情報のマネジメント』農林統計出版 2011
- (13) 表Ⅱ－3－2の作成にあたっては，次の文献を参照した。  
・前川寛『農家のためのリスクマネジメント』家の光協会 2007 p.47  
・前掲（12）pp.58-60
- (14) 天候に関するリスクには，悪天候による不作だけではなく「天候良好→収量増加→市場価格下落→売り上げ，利潤の減少」という市場リスクと関連付いたものもある。しかし，本研究は収量リスクを対象とするため，天候不良による収量低下を取り扱う。
- (15) 農家は，企業の一形態（個人企業）に分類される。したがって企業に含まれる。



## 第Ⅱ章 第3節

- (16) 冬の高知県において放射冷却現象については、次のホームページを参照した。
- ・高知地方気象台ホームページ「地勢と気象」  
〔<http://www.jma-net.go.jp/kochi/koutinokisyoutiseikishou/tiseikisyoutiseikishou.html> 2019.8.6 最終閲覧〕
- (17) 高知県安芸市における冬（12月～3月）の最低気温平均は、気象庁のデータを基に算出した。
- (18) 表Ⅱ－3－1の作成にあたっては、次の文献を参照した。
- ・盛岡通「【概説】リスク学の領域と方法－リスクと賢くつきあう社会の知恵－」  
日本リスク学研究会『リスク学事典』TBSブリタニカ 2000 pp.3-6
- (19) 農林水産省ホームページ 品目別経営統計「なす農業経営収支」  
〔<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001061833> 2019.8.6 最終閲覧〕
- (20) 前掲 (19)
- (21) 図Ⅱ－3－7の作成にあたっては、次のホームページを参照した。
- ・農畜産業振興機構ホームページ「ベジ探野菜情報総合把握システム」  
〔<http://vegetan.alic.go.jp/sch7.do> 2019.8.6 最終閲覧〕
- (22) 表Ⅱ－3－3の作成にあたっては、次のホームページを参照した。
- ・農林水産省ホームページ 品目別経営統計「なす農業経営の概況」  
〔<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001061833> 2019.8.6 最終閲覧〕
- (23) 需要と供給の意味については、次の文献を参照した。
- ・「需要」金森久雄 荒憲治郎 森口親司編『経済辞典第5版』有斐閣 2013 p.595
  - ・「供給」金森久雄 荒憲治郎 森口親司編『経済辞典第5版』有斐閣 2013 p.236
- (24) 需要主体や供給主体は、個人の場合もあれば、複数の人間が集まった組織の場合もある。
- (25) 成田龍一『大正デモクラシー』岩波新書 2007 p.89
- (26) 表Ⅱ－3－4の作成にあたっては、次の文献を参照した。
- ・仲村哲郎『大正デモクラシーと米騒動』歴史春秋社 2002 pp.27-28
  - ・前掲 (27) p.83
  - ・阿部真琴『兵庫米騒動記』新日本出版社 1969 pp.11-12
- (27) 阿部真琴は、大正時代には「米の供給と消費の間に大きな不均衡がうまれた」と、前掲 (28)『兵庫米騒動記』p.11において述べている。
- (28) 池上彰『池上彰の社会科教室① こんなに身近な経済』帝国書院 2006 p.10
- (29) 前掲 (30) p.10

## 第Ⅱ章 第3節

- (30) ①は「大阪朝日新聞号外 大正7年8月13日」、②は「大阪毎日新聞号外 大正7年8月13日」の記事である。なお、いずれの記事も、次の資料から引用した。
- ・「わくわく！新発見！『秘蔵なま史料』だからわかる！ほんとうの近現代史 6. 『米騒動号外・米相場変動通知表』 歙谷書店 2015
- (31) 図Ⅱ-3-18の作成にあたっては、次の文献を参照した。
- ・中沢弁次郎『日本米価変動史』 柏書房 2001 pp.430-477
- なお、図中に示されている米価は、桑名、近江、新潟、金沢、下関、名古屋、京都、松山、熊本、高岡、酒田、東京、大阪の米相場の平均値である。
- (32) 別資料①の作成にあたっては、次の文献を参照した。
- ・帝政ロシアの通貨事情ホームページ「シベリア出兵」  
〔<http://www.a-saida.jp/images/shuppei.htm> 2019.8.6 最終閲覧〕
  - ・金谷俊一郎『金谷の日本史「なぜ」と「流れ」がわかる本 改訂版』東進ブックス 2015 p.129
- 別資料②の作成にあたっては、次の文献を参照した。
- ・金谷俊一郎『金谷の日本史「なぜ」と「流れ」がわかる本 改訂版』東進ブックス 2015 p.129
- (33) 国土交通省 道路局 都市局「費用便益分析マニュアル」2018 p.1  
〔[http://www.mlit.go.jp/road/ir/hyouka/plcy/kijun/ben-eki\\_h30\\_2.pdf](http://www.mlit.go.jp/road/ir/hyouka/plcy/kijun/ben-eki_h30_2.pdf) 2019.8.6 最終閲覧〕
- (34) 国土交通省ホームページ「事業評価の仕組み」  
〔[http://www.mlit.go.jp/tec/hyouka/public/09\\_public\\_01.html](http://www.mlit.go.jp/tec/hyouka/public/09_public_01.html) 2019.8.6 最終閲覧〕
- なお、図Ⅱ-3-24の内容は、道路整備事業のみならず国土交通省管轄のすべての公共事業に適応される。
- (35) 前掲 (33) p.1
- (36) 前掲 (33) p.1
- (37) 表Ⅱ-3-5の作成にあたっては、前掲 (35) pp.7-13を参照した。
- (38) 交通事故の社会的損失額についても、一般道路と高速道路のちがいや車線数に応じてそれぞれ算定式が設定されている。本稿では省略する。
- (39) 時間価値原単位と走行経費原単位の例については、前掲 (35) p.7及びp.10を参照した。
- (40) 社会的割引率は、次の資料において、4%を適用することが示されている。
- ・国土交通省「公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針（共通編）」2009  
〔<http://www.mlit.go.jp/tec/hyouka/public/090601/shishin/shishin090601.pdf> 2019.8.6 最終閲覧〕
- (41) 前掲 (33) p.15

## 第Ⅱ章 第3節

- (42) 前掲 (33) p.16
- (43) 前掲 (33) p.17
- (44) 文部科学省『平成 20 年版小学校学習指導要領解説社会編』東洋館出版社 2008 p.88
- (45) 石毛直道 ほか 16 名『社会 6』光村図書 2017 p.157
- (46) 図Ⅱ－3－26の作成にあつては、次の資料を参照した。

- ・近畿地方整備局事業評価監視委員会「一般国道 176 号 名塩道路【再評価】」2012 p.7

[<https://www.kkr.mlit.go.jp/plan/ippan/zigyohyoka/ol9a8v000000di0t-att/5.pdf> 2019.8.6 最終閲覧]

名塩道路を教材とし、授業開発を行っている時点での最新のデータを使用した。なお、「■ 残事業」に示された数値は、再評価時点までに新たに発生した便益や費用を考慮せず、事業を継続した場合に生まれる便益や費用を対象として算出されたものである。本研究では、学習内容を簡潔にするため、残事業の数値は取り扱わないこととする。

## 第Ⅱ部 価格理論を組み込んだ小学校社会科授業の開発

第Ⅰ部では、小学校社会科授業における経済的な学習内容の課題を明らかにし、価格理論を組み込んで授業開発を行うという改善の方向性を示した。そして、価格理論を組み込んだ小学校社会科内容構成論を構築した。

第Ⅱ部では、第Ⅰ部の内容を基に、価格理論を組み込んだ小学校社会科授業を開発する。第Ⅲ章では利潤概念を組み込んだ小学校地域学習、第Ⅳ章ではリスク概念を組み込んだ小学校産業学習、第Ⅴ章では需要・供給理論を組み込んだ小学校歴史学習、第Ⅵ章では費用・便益理論を組み込んだ小学校公民学習をそれぞれ開発する。

## 第Ⅲ章 利潤概念を組み込んだ小学校地域学習の開発

利潤概念を小学校社会科授業の内容に変換することにより、子どもにとって身近な素材が選定された。そして、学習課題を設定し、検証資料も作成した。そこで、本章では、それらの材料を基に、利潤概念を組み込んだ小学校地域学習を開発する。

第1節では、利潤概念を組み込んだ第4学年社会科「兵庫県南あわじ市のレタス作りとたまねぎ作り」の授業モデルを開発する。第2節では、授業実践の結果を分析、検討する。

### 第1節 第4学年社会科授業モデル「兵庫県南あわじ市のレタス作りとたまねぎ作り」の開発

本節では、設定した学習課題や作成した検証資料を活用し、利潤概念を組み込んだ第4学年社会科「兵庫県南あわじ市のレタス作りとたまねぎ作り」の授業モデルを開発する。なお、本単元は、大単元「わたしたちの兵庫県」を構成する小単元である。

(1) 小単元名 「兵庫県南あわじ市のレタス作りとたまねぎ作り」

(2) 小単元の目標

- 淡路島の農家は、気候を生かして農業を行い、作り方や売り方を工夫して(\*1)もうけを得ていることが分かる。 【社会事象についての知識】
  - 淡路島の農業における社会事象の因果関係を究明するために、資料から必要な情報を読み取ったり解釈したりすることができる。 【資料活用の技能】
  - 資料から読み取った知識を、比較したり関連付けたりすることで、学習課題に対して設定した仮説を検証することができる。 【社会的な思考・判断・表現】
  - 淡路島の農業に関心を持ち、農業の特色(\*2)について主体的に探究しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】
- ・作り方や売り方の工夫(\*1)、農業の特色(\*2)の具体的な内容は、(3)小単元の指導計画に示す。

### 第Ⅲ章 第1節

#### (3) 小単元の指導計画

小単元「兵庫県南あわじ市のレタス作りとたまねぎ作り」の指導計画を、表Ⅲ－1－1に示す。なお、利潤概念を組み込んだ授業は、第5時である。

表Ⅲ－1－1 小単元「兵庫県南あわじ市のレタス作りとたまねぎ作り」の指導計画

時	学習課題	【知識】目標
1 2	なぜ、兵庫県南あわじ市は、たまねぎの出荷量が日本全国で第3位なのだろう。	○兵庫県南あわじ市が、日本全国で第3位のたまねぎの出荷量である理由について、次の4点のことが分かる。 ・瀬戸内式気候の淡路島は、温暖で日照量が多く、たまねぎの生産に適している。 ・水はけの良い土質に加えて、畜産業と協力し、土に牛糞堆肥を混ぜている。 ・海からの風を利用してたまねぎ小屋で乾燥させた淡路島産のたまねぎは、糖度が高く色つやも良い。そのため、日本全国の人々から、高く評価されている。 ・南あわじ市の三原地区は、国（農林水産省）からたまねぎの指定産地とされているため、出荷数量の1/2を指定消費地に出荷しなければならない。
3	なぜ、レタスは春や秋が収穫時期なのに、兵庫県南あわじ市は、冬にも収穫するのだろうか。	○レタスは春や秋が収穫時期なのに、兵庫県南あわじ市は冬にも収穫する理由について、次の3点のことが分かる。 ・瀬戸内式気候の淡路島は、冬でも気温が高いためレタスを生産できる。マルチ栽培やトンネル栽培により、土や空気の温度を意図的に上げている。 ・南あわじ市の三原地区は、国（農林水産省）から冬レタスの指定産地とされているため、出荷数量の1/2を指定消費地に出荷しなければならない。
4	なぜ、1991年～1995年は、兵庫県より香川県の方が大阪府中央卸売市場にレタスを多く出荷しているのに、1996年以降は逆転しているのだろうか。	○1991年～1995年は、兵庫県より香川県の方が大阪府中央卸売市場にレタスを多く出荷しているのに、1996年以降は逆転している理由について、次の2点のことが分かる。 ・1994年のレタス自動包装機導入が労働量を減らし、レタスの作付面積を増やした。 ・保冷库へのストックと保冷トラックへの輸送（コールドチェーン化）が実現し、1998年には明石海峡大橋も開通したため、鮮度の高いレタスを短時間で運べるようになった。

### 第Ⅲ章 第1節

時	学習課題	【知識】目標
5	なぜ、兵庫県南あわじ市では、たまねぎより費用のかかるレタスの作付面積が増えているのだろうか。	○兵庫県南あわじ市では、たまねぎより費用のかかるレタスの作付面積が増えている理由について、次のことが分かる。 ・兵庫県南あわじ市では、レタス作りのもうけは 10a あたり 33 万円（売上 60 万円－費用 27 万円）、たまねぎ作りのもうけは 10a あたり 13 万円（売上 38 万円－費用 25 万円）で、レタス作りの方がもうかる。
6	なぜ、兵庫県南あわじ市では、レタス作りの方がもうかるのに、たまねぎ作りを続けている農家が多いのだろうか。	○兵庫県南あわじ市では、レタス作りの方がもうかるのにたまねぎ作りを続けている農家が多い理由について、次の2点のことが分かる。 ・レタス作りは、たまねぎ作りよりも1年間で10a あたり 17 時間多くの労働時間（時間コスト）がかかる。 ・レタスは気温に敏感なため、温度調節を誤ると変形球となり、商品化できなかったり商品の値段が下がったりする危険がある。

本時案については、利潤概念が組み込まれた第5時を示す。

#### （4）本時案－第5時－

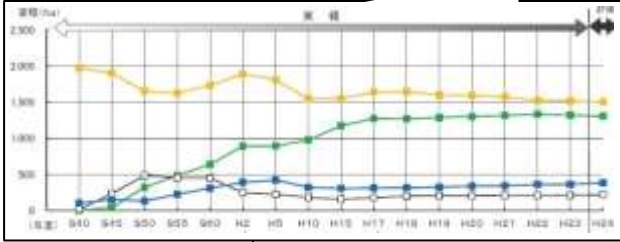
##### ① 本時の目標

- 兵庫県南あわじ市では、たまねぎより費用のかかるレタスの作付面積が増えている理由について、次のことが分かる。 **【社会事象についての知識】**
- ・ 兵庫県南あわじ市では、レタス作りのもうけは 10a あたり 33 万円（売上 60 万円－費用 27 万円）、たまねぎ作りのもうけは 10a あたり 13 万円（売上 38 万円－費用 25 万円）で、レタス作りの方がもうかる。

##### ② 本時の授業仮説

○具体的な数値が示された資料 2「たまねぎとレタスを作る費用」と資料 3「たまねぎとレタスの売上」を提示し、それぞれの農作物の売上と費用を比較させる。この手立てにより、子どもは「売上－費用」の公式から、たまねぎとレタスのもうけ（利潤）を算出する。そして、算出されたたまねぎとレタスのもうけ（利潤）を比較することにより、本時の目標に到達することができるであろう。

③ 本時の展開


学習活動	発問 (○) 指示 (◎) 確認 (◇) 指導上の留意点 (・)	予想される子どもの反応 (・)	資料 (*) 評価 (◎)						
<p>1. 本時の学習課題を把握する。</p>	<p>○この資料は、兵庫県南あわじ市で作られている主な野菜の作付面積のうつりかわりです。作付面積の変化から、何か気が付くことはありませんか。</p>  <p>・作付面積とは「田畑で作物を実際に植え付けている面積」であることを伝える。</p> <p>○たまねぎとレタスでは、どちらの方が作る費用がかかるでしょうか。</p> <p>・資料 2 を提示し、たまねぎ生産よりレタス生産の費用の方が高いことを読み取らせる。</p>	<p>予想される子どもの反応 (・)</p> <p>・たまねぎの作付面積は1位だけど、減ってきている。</p> <p>・レタスの作付面積が増えてきている。</p> <p>・作付面積が減ってきているから、たまねぎだと思う。</p> <table border="1" data-bbox="815 1279 1155 1507"> <thead> <tr> <th>農作物</th> <th>費用 (1年間)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>たまねぎ</td> <td>25万円</td> </tr> <tr> <td>レタス</td> <td>27万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(10aあたり) [兵庫県]</p> <p>・レタスを作る費用の方がたまねぎより2万円高い。</p> <p>・なぜ、兵庫県南あわじ市では、わざわざ費用のかかるレタスの作付面積が増えているのだろうか。</p>	農作物	費用 (1年間)	たまねぎ	25万円	レタス	27万円	<p>*資料 1 淡路島の主要野菜作付面積の推移</p> <p>*資料 2 たまねぎとレタスを作る費用</p>
農作物	費用 (1年間)								
たまねぎ	25万円								
レタス	27万円								
<p>なぜ、兵庫県南あわじ市では、たまねぎより費用のかかるレタスの作付面積が増えているのだろうか。</p>									

第Ⅲ章 第1節

学習活動	発問 (○) 指示 (◎) 確認 (◇) 指導上の留意点 (・)	予想される子どもの反応 (・)	資料 (*) 評価 (◎)												
<p>2. 仮説を設定する。</p> <p>3. 資料で検証する。</p> <p>4. 検証結果を共有する。 <b>【授業仮説】</b></p> <div data-bbox="240 1615 783 1827" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○たまねぎ 売上 38 万円－費用 25 万円＝もうけ 13 万円</p> <p>○レタス 売上 60 万円－費用 27 万円＝もうけ 33 万円</p> </div>	<p>◎学習課題の答えを予想しましょう。</p> <p>・予想を同じカテゴリーに分類させたり既習知識を活用させたりすることで、仮説へと高める。</p> <p>◎資料からの情報を基に、仮説を確かめてみましょう。</p> <p>◎資料から分かった学習課題の答えを発表しましょう。</p> <p>・板書にもうけを求める数式を示し、全体で共有する。</p>	<p>・淡路島は、瀬戸内式気候で冬でも暖かいと習ったので、たまねぎよりレタスの方がたくさん収穫できる</p> <p>・レタスの方がたまねぎよりも市場で高く売れる。</p> <div data-bbox="810 824 1153 1050" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>農作物</th> <th>費用 (1 年間)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>たまねぎ</td> <td>25 万円</td> </tr> <tr> <td>レタス</td> <td>27 万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(10a あたり) [兵庫県]</p> </div> <div data-bbox="810 1133 1153 1359" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>農作物</th> <th>売上 (1 年間)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>たまねぎ</td> <td>38 万円</td> </tr> <tr> <td>レタス</td> <td>60 万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(10a あたり) [兵庫県]</p> </div> <p>・資料3のたまねぎとレタスの売上から、資料2のそれぞれを生産するためにかかる費用を引く。計算すると、レタスの方がたまねぎよりもうかることが分かる。</p>	農作物	費用 (1 年間)	たまねぎ	25 万円	レタス	27 万円	農作物	売上 (1 年間)	たまねぎ	38 万円	レタス	60 万円	<p>*資料2 たまねぎとレタスを作る費用</p> <p>*資料3 たまねぎとレタスの売上</p>
農作物	費用 (1 年間)														
たまねぎ	25 万円														
レタス	27 万円														
農作物	売上 (1 年間)														
たまねぎ	38 万円														
レタス	60 万円														



第Ⅲ章 第1節

学習活動	発問 (○) 指示 (◎) 確認 (◇) 指導上の留意点 (・)	予想される子どもの反応 (・)	資料 (*) 評価 (◎)
5. 学習課題の解をまとめる。	<p>◎資料から読み取った情報を基にして, 学習課題の答えを書きましょう。</p> <p>◇農家の人々にも生活があります。安定してもうけることは重要なのです。</p>	<p>◎学習課題の解 (=社会事象の経済学的な説明) がワークシートに記述されているか。</p> <div data-bbox="815 546 1347 759" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[学習課題]</p> <p>なぜ, 兵庫県南あわじ市では, たまねぎより費用のかかるレタスの作付面積が増えているのだろう。</p> </div> <div data-bbox="1034 770 1123 846" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="815 853 1347 1182" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[学習課題の解]</p> <p>兵庫県南あわじ市では, レタス作りのもうけは 10a あたり 33 万円 (売上 60 万円-費用 27 万円), たまねぎ作りのもうけは 10a あたり 13 万円 (売上 38 万円-費用 25 万円) で, レタス作りの方がもうかる。</p> </div>	◎評価

④ 本時の板書計画

なぜ兵庫県南あわじ市ではたまねぎより費用のかかるレタスの作付面積が増えているのだろう

**予想**

- たまねぎよりレタスの方がたくさん収かくてさる。(淡路島は瀬戸内気候で冬でも暖かい)
- レタスの方がたまねぎよりも市場で高く売れる。

たまねぎよりレタスを作る費用の方が高い

たまねぎの作付面積 ↓  
レタスの作付面積 ↑

資料①

品名	たまねぎ	レタス
費用 (円)	25	27
	万円	万円

資料②

品名	たまねぎ	レタス
売上 (円)	38	60
	万円	万円

売上げ - 費用 = もうけ

<たまねぎ>  
38万円 - 25万円 = 13万円

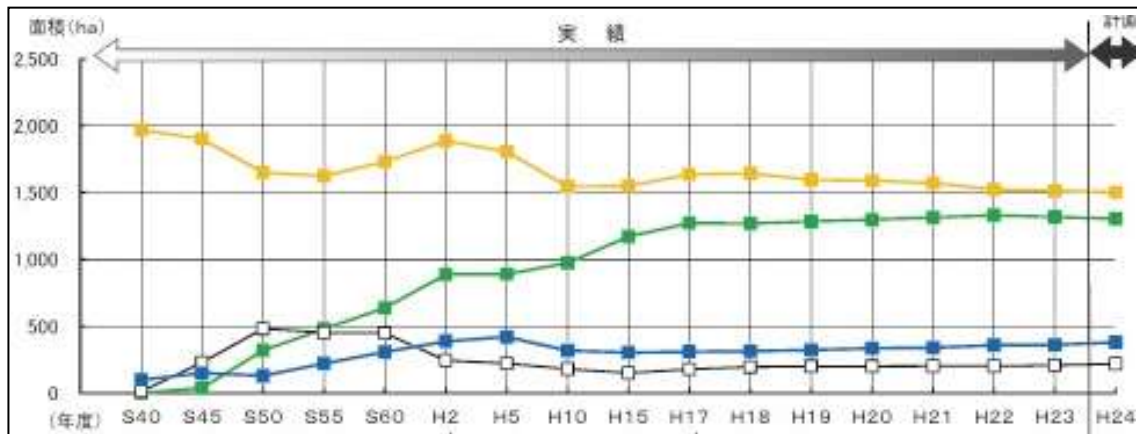
<レタス>  
60万円 - 27万円 = 33万円

20万円の差

<こたえ>  
兵庫県南あわじ市ではレタス作りのもうけは10aあたり33万円、たまねぎ作りのもうけは10aあたり13万円で、レタス作りの方がもうかる。

⑤ 本時の資料

資料1 「淡路島の主要野菜作付面積の推移」



農畜産業振興機構ホームページ「野菜情報 2013年6月号」

[<http://vegetable.alic.go.jp/yasaijoho/santi/1306/santi1.html> 2019.11.9 最終閲覧]

資料2 「たまねぎとレタスを作る費用」

農作物	費用 (1年間)
たまねぎ	25万円
レタス	27万円

(10aあたり) [兵庫県]

農林水産省ホームページ 品目別経営統計「たまねぎ 農業経営収支」「レタス 農業経営収支」

[<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001061833> 2019.11.9 最終閲覧]

資料3 「たまねぎとレタスの売上」

農作物	売上 (1年間)
たまねぎ	38万円
レタス	60万円

(10aあたり) [兵庫県]

農林水産省ホームページ 品目別経営統計「たまねぎ 農業経営収支」「レタス 農業経営収支」

[<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001061833> 2019.11.9 最終閲覧]

⑥ 分析フレームワークを用いた本時の分析

第Ⅰ章第2節で作成した小学校社会科先行授業の分析フレームワークを用いて本時(第5時)を分析し、表Ⅲ-1-2に示す。

表Ⅲ-1-2 利潤概念を組み込んだ第5時の分析結果

【分析対象】 第[4] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	兵庫県南あわじ市のレタス作りとたまねぎ作り	考案者	松浪軌道
出典	-		
○分析対象の学習課題とその解			
【学習課題】	なぜ、兵庫県南あわじ市では、たまねぎより費用のかかるレタスの作付面積が増えているのだろう。	【解】	兵庫県南あわじ市では、レタス作りのもうけは10aあたり33万円(売上60万円-費用27万円)、たまねぎ作りのもうけは10aあたり13万円(売上38万円-費用25万円)で、レタス作りの方がもうかる。
【視点1】 社会事象間を、原因-結果、目的-手段、条件-状況で説明している学習課題とその解の分析			
説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因-結果 <input type="checkbox"/> 目的-手段 <input type="checkbox"/> 条件-状況		
説明の内容構成	【原因】 兵庫県南あわじ市では、レタス作りのもうけは10aあたり33万円(売上60万円-費用27万円)、たまねぎ作りのもうけは10aあたり13万円(売上38万円-費用25万円)で、レタス作りの方がもうかる。	【結果】 兵庫県南あわじ市では、たまねぎより費用のかかるレタスの作付面積が増えている。	比較
【視点2】 分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無			
経済に関する用語	利潤	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』	
経済に関する用語の意味	企業の総売上額からその生産ないし販売に要したすべての費用を指し引いた残差(②,p.1283)		
↓ 法則性(社会事象間や概念間に成立する関係)の抽出			
意味に含まれる法則性	企業の総売上額からその生産ないし販売に要したすべての費用を指し引いた	残差	
【視点3】 経済概念の説明(原因-結果、目的-手段、条件-状況)への組み込まれ方			
経済概念の説明への組み込まれ方	<input checked="" type="checkbox"/> A 原因(目的, 条件)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果(手段, 状況)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果(目的と手段, 条件と状況)の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因(目的, 条件)にも結果(手段, 状況)にも組み込まれていない。		
◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図			
○ 分析結果の考察			
原因に示された記述は、経済概念【利潤】に関する内容である。また、利潤の意味から、経済学の研究結果が組み込まれた法則性をもつ内容が確認できる。したがって、社会事象を経済学的に説明した学習課題とその解である。			

第2節 授業実践の分析と検討

本節では、利潤概念を組み込んだ小学校地域学習「兵庫県南あわじ市のレタス作りとたまねぎ作り」の実践結果を分析、検討する。

(1) 授業分析の視点

利潤概念を組み込んだ小学校地域学習「兵庫県南あわじ市のレタス作りとたまねぎ作り」の第5時を、西宮市立名塩小学校第4学年A組30名に実践した(2019年3月7日)。

第5時の評価基準を、表Ⅲ-2-1に示す。

表Ⅲ-2-1 第5時の評価基準

A	「B」の内容に加え、たまねぎ作りのもうけ(13万円)とレタス作りのもうけ(33万円)の金額から、レタス作りの方が10aあたり20万円もうけが多いことについて記述している。
B	学習課題の解として、「たまねぎとレタスの売上から、それぞれの生産にかかる費用を引くと、レタス作りのもうけの方が多くなる。」という内容を記述している。または、「売上-費用=利潤」の公式に具体的な数値をあてはめ、たまねぎ作りのもうけ(38万円-25万円=13万円)とレタス作りのもうけ(60万円-27万円=33万円)を比較して学習課題の解を記述している。
C	「A」及び「B」の内容を記述していない。

授業の終末、「資料から読み取った情報を基にして、学習課題の答えを書きましょう。」と指示している。そして、ワークシートに示された学習課題の解を分析し、目標到達度を評価した。

(2) 第5時の質的分析と検討

目標到達度「A」及び「B」の子どもを抽出し、ワークシートに示された学習課題の解を質的に分析する。目標到達度「A」及び「B」の記述例を、図Ⅲ-2-1に示す。

- ・「B」の解 (No.27)

レタスは、1個が27万円かかっても売上げは60万円だから60-27=33で33万円もうけて、たまねぎは1個が25万円かかっても売上げは38万円だから38-25=13で13万円だから。

- ・「A」の解 (No.19)

年間で、レタスの売上げと費用は60万円、27万円だから60-27=33ともうけが出て、たまねぎは38万円、25万円だから38-25=13ともうけが出て、レタスとたまねぎのもうけとしてはレタスの方が20万多いから。

図Ⅲ-2-1 「A」及び「B」の学習課題に対する解の記述例

### 第Ⅲ章 第2節

「B」の解は、「売上－費用＝利潤（もうけ）」の公式に具体的な数値をあてはめ、利潤の金額を算出することで、レタス作りがたまねぎ作りより儲かることを説明できている。したがって、本時の目標に到達していると判断した。

「A」の解は、算出した利潤の金額を比較し、減法を用いることでその差額（20万円）まで明らかにしている。つまり、「B」の解よりも内容が高度といえる。したがって、「A」と評価した。

#### （3）第5時の量的分析と検討

第5時における目標到達度の分布を、表Ⅲ－2－2に示し、量的に分析する。なお、第5時を実践した2019年3月7日の欠席者は、3名である。

表Ⅲ－2－2 第5時における目標到達度の分布

A	B	C
77.8% (21人/27人)	18.5% (5人/27人)	3.7% (1人/27人)

本時の目標に到達している「A」及び「B」を合算すると、96.3%（26人/27人）となる。したがって、利潤概念を組み込んだ第4時の授業過程は、社会事象の経済学的な説明を促すという点において、有効と判断できる。

## 第Ⅳ章 リスク概念を組み込んだ小学校産業学習の開発

リスク概念を小学校社会科授業の内容に変換することにより、子どもにとって身近な素材が選定された。そして、学習課題を設定し、検証資料も作成した。そこで、本章では、それらの材料を基に、リスク概念を組み込んだ小学校産業学習を開発する。なお、学習内容として取り扱う産業は、農業とする。

第1節では、リスク概念を組み込んだ第5学年社会科「高知県のナス作り」の授業モデルを開発する。第2節では、授業実践の結果を分析、検討する。

### 第1節 第5学年社会科授業モデル「高知県のナス作り」の開発

本節では、設定した学習課題や作成した検証資料を活用し、リスク概念を組み込んだ第5学年社会科「高知県のナス作り」の授業モデルを開発する。なお、本単元は、大単元「わたしたちの食生活と食料生産」を構成する小単元である。

#### (1) 小単元名 「高知県のナス作り」

#### (2) 小単元の目標

- 高知県のナス農家は、気候を生かして農業を行い、作り方や売り方を工夫して（\*1）リスクを回避し、もうけを得ていることが分かる。 【社会事象についての知識】
  - 高知県のナス作りにおける社会事象の因果関係を究明するために、資料から必要な情報を読み取ったり解釈したりすることができる。 【資料活用の技能】
  - 資料から読み取った知識を、比較したり関連付けたりすることで、学習課題に対して設定した仮説を検証することができる。 【社会的な思考・判断・表現】
  - 高知県の農業に関心を持ち、ナス作りの特色（\*2）を主体的に探究しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】
- ・作り方や売り方の工夫（\*1）、ナス作りの特色（\*2）の具体的な内容は、（3）小単元の指導計画に示す。

## 第Ⅳ章 第1節

### (3) 小単元の指導計画

小単元「高知県のナス作り」の指導計画を、表Ⅳ－1－1に示す。なお、リスク概念を組み込んだ授業は、第5時である。また、本小単元では、利潤概念を組み込んだ授業も、第4時に設定している。

表Ⅳ－1－1 小単元「高知県のナス作り」の指導計画

時	学習課題	【知識】目標
1	<p style="text-align: center;"><b>【単元を貫く問い】</b></p> <p style="text-align: center;">なぜ、高知県はナスの生産量が日本で一番多いのだろう。</p>	<p>○高知県は、ナスの生産が日本で一番多い県だということを知る<sup>(1)</sup>。</p> <p>○「なぜ、高知県はナスの生産量が日本で一番多いのだろう。」という単元を貫く問いを把握する。</p> <p>○既習知識を想起し、「売上－費用」の公式によって、もうけが算出できることを知る。</p>
2	なぜ、ナスの収穫時期は夏なのに、高知県では冬に収穫することができるのだろう。	<p>○ナスの収穫時期は夏なのに、高知県では冬に収穫することができる理由について、次の3点のことが分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県は、緯度が低いので太陽の光が強く当たり、日中の寒気は和らぐ。</li> <li>・北西季節風が、中国山地や四国山地をこえると乾いた風になるので、晴れの日が多くなり、日中の寒気は和らぐ。</li> <li>・高知県の近海で暖流（黒潮）が流れているので、寒気は和らぐ。</li> </ul>
3	なぜ、高知県の冬の気温は、ナスの生育適温よりも低いのに、収穫できるのだろう。	<p>○高知県の冬の気温がナスの生育適温よりも低いのに収穫できる理由について、次のことが分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビニールハウスを設置し、ハウスの中をヒーターで暖めている。</li> </ul> <p>○ビニールハウスの中をヒーターで暖めるには、10aあたり年間37万円の光熱費がかかっており、設備の利用には費用も伴うことを知る<sup>(2)</sup>。</p>
4	なぜ、高知県の農家は、露地栽培より費用のかかるハウス栽培をして、ナスを生産するのだろう。	<p>○高知県の農家が、露地栽培より費用のかかるハウス栽培をしてナスを生産する理由について、次のことが分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県のハウス栽培のもうけは、10aあたり161万円（316万円－155万円）、露地栽培の全国平均のもうけは、10aあたり122万円（180万円－58万円）で、ハウス栽培の方がもうかる。</li> </ul>
5	なぜ、同じ畑の面積（10a）なのに、露地栽培よりハウス栽培の方がナスの売上が多いのだろう。	<p>○同じ畑の面積（10a）なのに、露地栽培よりハウス栽培の方がナスの売上が多い理由について、次の2点のことが分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス栽培は温度調節ができ、低温のリスクを防ぐことができるので、収穫量が増加する。</li> <li>・ハウス栽培を行う冬は、ナスに高い値段が付く。</li> </ul>



## 第IV章 第1節

時	学習課題	【知識】目標
6	<p style="text-align: center;"><b>【単元を貫く問い】</b></p> <p style="text-align: center;">なぜ、高知県はナスの生産量が日本で一番多いのだろう。</p>	<p>○高知県のナスの生産量が、日本で一番多い理由について、次のことが分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県のナス農家は、緯度の低さや北西季節風、暖流（黒潮）の影響による日中の寒気の和らぎやビニールハウスによる温度調節を利用し、高い金額で売れてもうかる冬にナスを大量生産している。</li> </ul>

本時案については、利潤概念を組み込んだ第4時及びリスク概念を組み込んだ第5時を示す。

### （4）本時案－利潤概念を組み込んだ第4時－

#### ① 本時の目標

- 高知県の農家が、露地栽培より費用のかかるハウス栽培をしてナスを生産する理由について、次のことが分かる。 【社会事象についての知識】
- ・高知県のハウス栽培のもうけは、10aあたり161万円（316万円－155万円）、露地栽培の全国平均のもうけは、10aあたり122万円（180万円－58万円）で、ハウス栽培の方がもうかる。

#### ② 本時の授業仮説

<p>○具体的な数値が示された資料1「ナスのハウス栽培と露地栽培の費用」と資料2「ナスのハウス栽培と露地栽培の売上」を提示し、それぞれの栽培方法の売上と費用を比較させる。この手立てにより、子どもは「売上－費用」の公式から、ハウス栽培と露地栽培のもうけ（利潤）を算出する。そして、算出されたハウス栽培と露地栽培のもうけ（利潤）を比較することにより、本時の目標に到達することができるであろう。</p>
--

#### ③ 本時の展開

学習活動	発問（○）指示（◎）確認（◇） 指導上の留意点（・）	予想される子どもの反応（・）	資料（*） 評価（◎）
1. 前時の学習内容を復習する。	○前の時間、なぜ高知県の冬の気温は、ナスの生育適温よりも低いのに収穫できるのかを探究しました。なぜだったのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビニールハウスを設置しているから。</li> <li>・ハウス内は、ヒーターで温度調節をしていた。</li> </ul>	

第IV章 第1節

学習活動	発問 (○) 指示 (◎) 確認 (◇) 指導上の留意点 (・)	予想される子どもの反応 (・)	資料 (*) 評価 (◎)						
2. 本時の学習課題を把握する。	<p>○高知県のナスのハウス栽培にかかる光熱費は、10a あたりで1年間いくらかかったでしょうか。</p> <p>○露地栽培にかかる光熱費は、10a あたりで1年間いくらかかるでしょうか。</p> <p>◇実は、1年間で3万円です。</p> <p>◎さらに、ナスのハウス栽培と露地栽培全体にかかる費用も確認しましょう。</p> <p>・資料1を提示し、ハウス栽培と露地栽培全体にかかる費用を比較させる。</p>	<p>・1年間で37万円かかる。</p> <p>・露地栽培はビニールハウスを使わないから、もう少し安いかもしれない。</p> <p>・全然ちがう。とても安い。</p> <table border="1" data-bbox="810 880 1153 1106"> <thead> <tr> <th>栽培方法</th> <th>費用 (1年間)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハウス [高知県]</td> <td>155万円</td> </tr> <tr> <td>露地 [全国平均]</td> <td>58万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(10a あたり)</p> <p>・全体の費用も、露地栽培よりハウス栽培の方が高い。</p> <p>・なぜ、高知県のナス農家は、そこまでお金をかけてハウス栽培をするのだろう。</p>	栽培方法	費用 (1年間)	ハウス [高知県]	155万円	露地 [全国平均]	58万円	<p>*資料1 ナスのハウス栽培と露地栽培の費用</p>
栽培方法	費用 (1年間)								
ハウス [高知県]	155万円								
露地 [全国平均]	58万円								
<p>なぜ、高知県の農家は、露地栽培より費用のかかるハウス栽培をして、ナスを生産するのだろう。</p>									
3. 仮説を設定する。	<p>○学習課題の答えを予想しましょう。</p> <p>・予想を同じカテゴリーに分類させたり既習知識を活用させたりすることで、仮説へと高める。</p>	<p>・兵庫県南あわじ市のレタスのように、費用が多くても売上が高いからもうかる。</p> <p>・冬は、どの都道府県もナスを作っていないから、市場で高い値段で売れる。</p>							

第IV章 第1節

学習活動	発問 (○) 指示 (◎) 確認 (◇) 指導上の留意点 (・)	予想される子どもの反応 (・)	資料 (*) 評価 (◎)												
<p>4. 資料で検証する。</p>	<p>◎資料からの情報を基に、仮説を確かめてみましょう。</p>	<table border="1" data-bbox="810 432 1155 658"> <thead> <tr> <th>栽培方法</th> <th>費用 (1年間)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハウス [高知県]</td> <td>155 万円</td> </tr> <tr> <td>露地 [全国平均]</td> <td>58 万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(10a あたり)</p> <table border="1" data-bbox="810 725 1155 952"> <thead> <tr> <th>栽培方法</th> <th>売上 (1年間)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハウス [高知県]</td> <td>316 万円</td> </tr> <tr> <td>露地 [全国平均]</td> <td>180 万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>(10a あたり)</p>	栽培方法	費用 (1年間)	ハウス [高知県]	155 万円	露地 [全国平均]	58 万円	栽培方法	売上 (1年間)	ハウス [高知県]	316 万円	露地 [全国平均]	180 万円	<p>*資料 1 ナスのハウス栽培と露地栽培の費用</p> <p>*資料 2 ナスのハウス栽培と露地栽培の売上</p>
栽培方法	費用 (1年間)														
ハウス [高知県]	155 万円														
露地 [全国平均]	58 万円														
栽培方法	売上 (1年間)														
ハウス [高知県]	316 万円														
露地 [全国平均]	180 万円														
<p>4. 検証結果を共有する。 <b>【授業仮説】</b></p>	<p>◎資料から分かった学習課題の答えを発表しましょう。 ・板書に、もうけを求める数式を示し、全体で共有する。</p>	<p>・資料 2 のハウス栽培と露地栽培の売上から、資料 1 のそれぞれの栽培方法にかかる費用を引く。計算すると、ハウス栽培の方が露地栽培よりもうけることが分かる。</p>	<p>◎評価</p>												
<p>○ハウス栽培 売上 316 万円－費用 155 万円＝もうけ 161 万円 ○露地栽培 売上 180 万円－費用 58 万円＝もうけ 122 万円</p>															
<p>5. 学習課題の解をまとめる。</p>	<p>◎資料から読み取った情報を基にして、学習課題の答えを書きましょう。</p>	<p>◎学習課題の解 (=社会事象の経済学的な説明) がワークシートに記述されているか。</p> <table border="1" data-bbox="815 1451 1347 1603"> <tr> <td>[学習課題]</td> </tr> <tr> <td>なぜ、高知県の農家は、露地栽培より費用のかかるハウス栽培をして、ナスを生産するのだろうか。</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">↓</p> <table border="1" data-bbox="815 1682 1347 1989"> <tr> <td>[学習課題の解]</td> </tr> <tr> <td>高知県のハウス栽培のもうけは、10a あたり 161 万円 (316 万円－155 万円)、露地栽培の全国平均のもうけは、10a あたり 122 万円 (180 万円－58 万円) で、ハウス栽培の方がもうかる。</td> </tr> </table>	[学習課題]	なぜ、高知県の農家は、露地栽培より費用のかかるハウス栽培をして、ナスを生産するのだろうか。	[学習課題の解]	高知県のハウス栽培のもうけは、10a あたり 161 万円 (316 万円－155 万円)、露地栽培の全国平均のもうけは、10a あたり 122 万円 (180 万円－58 万円) で、ハウス栽培の方がもうかる。									
[学習課題]															
なぜ、高知県の農家は、露地栽培より費用のかかるハウス栽培をして、ナスを生産するのだろうか。															
[学習課題の解]															
高知県のハウス栽培のもうけは、10a あたり 161 万円 (316 万円－155 万円)、露地栽培の全国平均のもうけは、10a あたり 122 万円 (180 万円－58 万円) で、ハウス栽培の方がもうかる。															

④ 本時の板書計画

なぜ 高知県の農家は 露地栽培より費用のかかるハウス栽培をして、ナスを生産するのだろう。

ナスのハウス栽培にかかる年間費用 年間 37 万円 <small>(10aあたり) ①高知県</small>	ナスの露地栽培にかかる年間費用 年間 3 万円 <small>(10aあたり) ②全国平均</small>
ナスのハウス栽培にかかる年間費用 年間 155 万円 <small>(10aあたり) ③高知県</small>	ナスの露地栽培にかかる年間費用 年間 58 万円 <small>(10aあたり) ④全国平均</small>

露地栽培よりハウス栽培の方が費用が高い

**予想**

- 費用が大きいし、売上が高いからハウス栽培の方がもうかる。  
(兵庫県南あわじ市のレタスのように)
- 冬はどの都道府県もナスを作っていないから、市場で高い値段で売れる。

**資料1**

高知県	全国平均
155	58
万円	万円

**資料2**

高知県	全国平均
316	180
万円	万円

**売上げ - 費用 = もうけ**

＜ハウス栽培＞  
316万円 - 155万円 = 161万円

＜露地栽培＞  
180万円 - 58万円 = 122万円

39万円の差

**＜こたえ＞**  
高知県のハウス栽培のもうけは10aあたり161万円、露地栽培のもうけは10aあたり122万円(全国平均)でハウス栽培でナスを生産した方がもうかる

## 第IV章 第1節

### ⑤ 本時の資料

資料1 「ナスのハウス栽培と露地栽培の費用」

栽培方法	費用（1年間）
ハウス栽培 [高知県]	155 万円
露地栽培 [全国平均]	58 万円

(10a あたり)

農林水産省ホームページ 品目別経営統計「なす 農業経営収支」

[<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001061833> 2019.11.11 最終閲覧] を基に作成：  
松浪]

資料2 「ナスのハウス栽培と露地栽培の売上」

栽培方法	売上（1年間）
ハウス栽培 [高知県]	316 万円
露地栽培 [全国平均]	180 万円

(10a あたり)

農林水産省ホームページ 品目別経営統計「なす 農業経営収支」

[<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001061833> 2019.11.11 最終閲覧] を基に作成：  
松浪]

### ⑥ 分析フレームワークを用いた本時の分析

第I章第2節で作成した小学校社会科先行授業の分析フレームワークを用いて本時（第4時）を分析し、表IV-1-2に示す。

表IV-1-2 利潤概念を組み込んだ第4時の分析結果

【分析対象】 第 [5] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	高知県のナス作り	考案者	松浪軌道
出典	-		
○分析対象の学習課題とその解			
【学習課題】	なぜ、高知県の農家は、露地栽培より費用のかかるハウス栽培をして、ナスを生産するのだろうか。	【解】	高知県のハウス栽培のもうけは、10aあたり161万円(316万円-155万円)、露地栽培の全国平均のもうけは、10aあたり122万円(180万円-58万円)で、ハウス栽培の方がもうかる。
【視点1】 社会事象間を、原因-結果、目的-手段、条件-状況で説明している学習課題とその解の分析			
説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因-結果 <input type="checkbox"/> 目的-手段 <input type="checkbox"/> 条件-状況		
説明の内容構成	【原因】 高知県のハウス栽培のもうけは、10aあたり161万円(316万円-155万円)、露地栽培の全国平均のもうけは、10aあたり122万円(180万円-58万円)で、ハウス栽培の方がもうかる。	【結果】	高知県の農家は、露地栽培より費用のかかるハウス栽培をして、ナスを生産する。
【視点2】 分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無			
経済に関する用語	利潤	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』	
経済に関する用語の意味	企業の総売上額からその生産ないし販売に要したすべての費用を指し引いた残差(②,p.1283)		
↓ 法則性(社会事象間や概念間に成立する関係)の抽出			
意味に含まれる法則性	企業の総売上額からその生産ないし販売に要したすべての費用を指し引いた	残差	
【視点3】 経済概念の説明(原因-結果、目的-手段、条件-状況)への組み込まれ方			
経済概念の説明への組み込まれ方	<input checked="" type="checkbox"/> A 原因(目的, 条件)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果(手段, 状況)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果(目的と手段, 条件と状況)の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因(目的, 条件)にも結果(手段, 状況)にも組み込まれていない。		
◎「社会事象の経済的な説明」の構造図			
【利潤】 企業の総売上額からその生産ないし販売に要したすべての費用を指し引いた残差			
○ 分析結果の考察			
原因に示された記述は、経済概念【利潤】に関する内容である。また、利潤の意味から、経済学の研究結果が組み込まれた法則性をもつ内容が確認できる。したがって、社会事象を経済的に説明した学習課題とその解である。			

第IV章 第1節

(5) 本時案－リスク概念を組み込んだ第5時－

① 本時の目標

○ 同じ畑の面積 (10a) なのに、露地栽培よりハウス栽培の方がナスの売上が多い理由について、次の2点のことが分かる。 【社会事象についての知識】

A ハウス栽培は温度調節ができ、低温のリスクを防ぐことができるので、収穫量が増加する。

B ハウス栽培を行う冬は、ナスに高い値段が付く。

② 本時の授業仮説

○概念地図法を用いた資料2「高知県のナス作りとハウス栽培」から、低温のリスクの存在やハウス栽培がその予防となっていることを読み取る。そして、資料3「ハウス栽培と露地栽培のナスの収穫量」から、ハウス栽培の収穫量 (15.4kg / 1㎡) の方が露地栽培の収穫量 (7.7kg / 1㎡) より多いことを読み取る。そして、2点の資料から読み取った情報を関連付けることにより、リスク概念を組み込んだ本時の目標Aに到達することができるであろう。

③ 本時の展開

学習活動	発問 (○) 指示 (◎) 確認 (◇) 指導上の留意点 (・)	予想される子どもの反応 (・)	資料 (*) 評価 (◎)
1. 前時の学習内容を復習する。	○なぜ、高知県のナス農家は、露地栽培より費用のかかるハウス栽培をするのですか。 ・第4時のもうけを算出した数式を確認させる。	・露地栽培よりハウス栽培の方がもうかるから。 ・約40万円の差があった。	
2. 本時の学習課題を把握する。	○なぜ、ハウス栽培は露地栽培よりも費用がかかるのに、もうけは多いのですか。  ○「10a」というまったく同じ畑の面積で比較しています。何か不思議なことはありませんか。	・ハウス栽培は、露地栽培に比べて売上が多いから。  ・なぜ、同じ畑の面積なのに、売上に大きな差がついているのだろう。	

○ハウス栽培  
売上 316万円－費用 155万円＝もうけ 161万円  
○露地栽培  
売上 180万円－費用 58万円＝もうけ 122万円

第IV章 第1節


学習活動	発問 (○) 指示 (◎) 確認 (◇) 指導上の留意点 (・)	予想される子どもの反応 (・)	資料 (*) 評価 (◎)												
<p>なぜ、同じ畑の面積 (10a) なのに、露地栽培よりハウス栽培の方がナスの売上が多いのだろう。</p>															
3. 仮説を設定する。	<p>○学習課題の答えを予想しましょう。</p> <p>・予想を同じカテゴリーに分類させたり既習知識を活用させたりすることで、仮説へと高める。</p>	<p>・ナスを冬に育てることはめずらしいから、高い値段が付き、売上が多くなる。</p> <p>・ハウス栽培は温度調整ができ、外の気温に左右されないから、生産量が多くなる。</p>													
4. 資料で検証する。	<p>◎資料からの情報を基に、仮説を確かめてみましょう。</p> <div data-bbox="470 1003 790 1131" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>実際は、折れ線グラフを提示する。ここでは、数値に置き換えた資料を示す。実物は、「⑤本時の資料」参照。</p> </div>	<p>平成 27 年 (2015 年) のデータ</p> <table border="1" data-bbox="810 929 1161 1131"> <tr> <td>1月...463円/kg</td> <td>7月...379円</td> </tr> <tr> <td>2月...484円</td> <td>8月...259円</td> </tr> <tr> <td>3月...447円</td> <td>9月...426円</td> </tr> <tr> <td>4月...392円</td> <td>10月...360円</td> </tr> <tr> <td>5月...385円</td> <td>11月...353円</td> </tr> <tr> <td>6月...358円</td> <td>12月...479円</td> </tr> </table>	1月...463円/kg	7月...379円	2月...484円	8月...259円	3月...447円	9月...426円	4月...392円	10月...360円	5月...385円	11月...353円	6月...358円	12月...479円	<p>*資料 1 平成 27 年 高知県のナス の市場価格</p>
1月...463円/kg	7月...379円														
2月...484円	8月...259円														
3月...447円	9月...426円														
4月...392円	10月...360円														
5月...385円	11月...353円														
6月...358円	12月...479円														
<div data-bbox="450 1198 1161 1736" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>○高知県のナス作りとハウス栽培</p> <p>高知県の冬の気温は、ナスが育つ最低温度 (7℃) より低い。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>低温のリスク</p> <p>↓</p> <p>リスクとは、損をする可能性のこと。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ハウス栽培</p> <p>↓</p> <p>ハウス内でナスを育て、中をヒーターで温度調節し、低温のリスクを防ぐ。</p> </div> </div> <p>ナスがとれない可能性</p> <p>冬でもとれる</p> <p>ハウス栽培の効果</p> <p>リスクの意味</p> </div>															
<table border="1" data-bbox="678 1803 1161 1960" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>ハウス栽培 (高知県)</th> <th>露地栽培 (全国平均)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収穫量</td> <td>15.4kg/1 m<sup>2</sup></td> <td>7.7kg/1 m<sup>2</sup></td> </tr> </tbody> </table>					ハウス栽培 (高知県)	露地栽培 (全国平均)	収穫量	15.4kg/1 m <sup>2</sup>	7.7kg/1 m <sup>2</sup>						
	ハウス栽培 (高知県)	露地栽培 (全国平均)													
収穫量	15.4kg/1 m <sup>2</sup>	7.7kg/1 m <sup>2</sup>													

資料 2  
高知県のナス作りとハウス栽培

資料 3  
ハウス栽培と露地栽培のナスの収穫量



第IV章 第1節

学習活動	発問 (○) 指示 (◎) 確認 (◇) 指導上の留意点 (・)	予想される子どもの反応 (・)	資料 (*) 評価 (◎)
5. 検証結果を共有する。	<p>◎資料から分かった学習課題の答えを発表しましょう。</p> <p>○もし、高知県のナス農家がリスクに備えていなければどうなるでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1から、12月から3月は市場でナスが高く売れることが分かる。高く売れるから、売上が増える。</li> <li>・資料2によると、高知県の冬は低温のため、ナスを収穫できないリスクがある。しかし、ハウス内の温度調節をすることで、低温のリスクを防いでいる。だから、資料3に書かれているように、ナスの収穫量が多くなり、売上も増える。</li> <li>・せっかく育てたナスがだめになってしまう。</li> <li>・ナスが収穫できなくなると、売上も減る。</li> </ul>	◎評価
6. 学習課題の解をまとめる。	<p>◎資料から読み取った情報を基にして、学習課題の答えを書きましょう。</p> <p>◇リスクが現実になると、売上が減ったり費用が増えたりしてもうけが減ります。そのため、農家はリスクに備えてナスの栽培を行っているのです。</p>	<p>◎学習課題の解 (=社会事象の経済学的な説明) がワークシートに記述されているか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[学習課題]</p> <p>なぜ、同じ畑の面積 (10a)なのに、露地栽培よりハウス栽培の方がナスの売上が多いのだろう。</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[学習課題の解]</p> <p>ハウス栽培は温度調節ができ、低温のリスクを防ぐことができるので、収穫量が増加する。また、ハウス栽培を行う冬は、ナスに高い値段が付く。</p> </div>	

④ 本時の板書計画

**売り上げ** — **費用** = **もうけ**

〈ハウス栽培〉  
 $316 \text{万円} - 155 \text{万円} = 161 \text{万円}$   
 (10aあたり)

〈露地栽培〉  
 $180 \text{万円} - 58 \text{万円} = 122 \text{万円}$   
 (10aあたり)

なぜ、同じ畑の面積(10a)なのに露地栽培よりハウス栽培の方がナスの売上が多いのだろう。


**予想**

- ・ナスを冬に育てることはめずらしいから市場で高い値段が付く、売上が多くなる。
- ・ハウス栽培は温度調節ができて外の気温に左右されないから生産量が多くなる。


12月~3月  
 市場で高値⇒売上が増える

ハウスは低温のリスクを防いでいる  
 ↓その結果  
 ハウス栽培の収量が  
 $15.4 \text{kg}/1\text{m}^2$   
 露地栽培より多い。

**資料1**



**資料2**



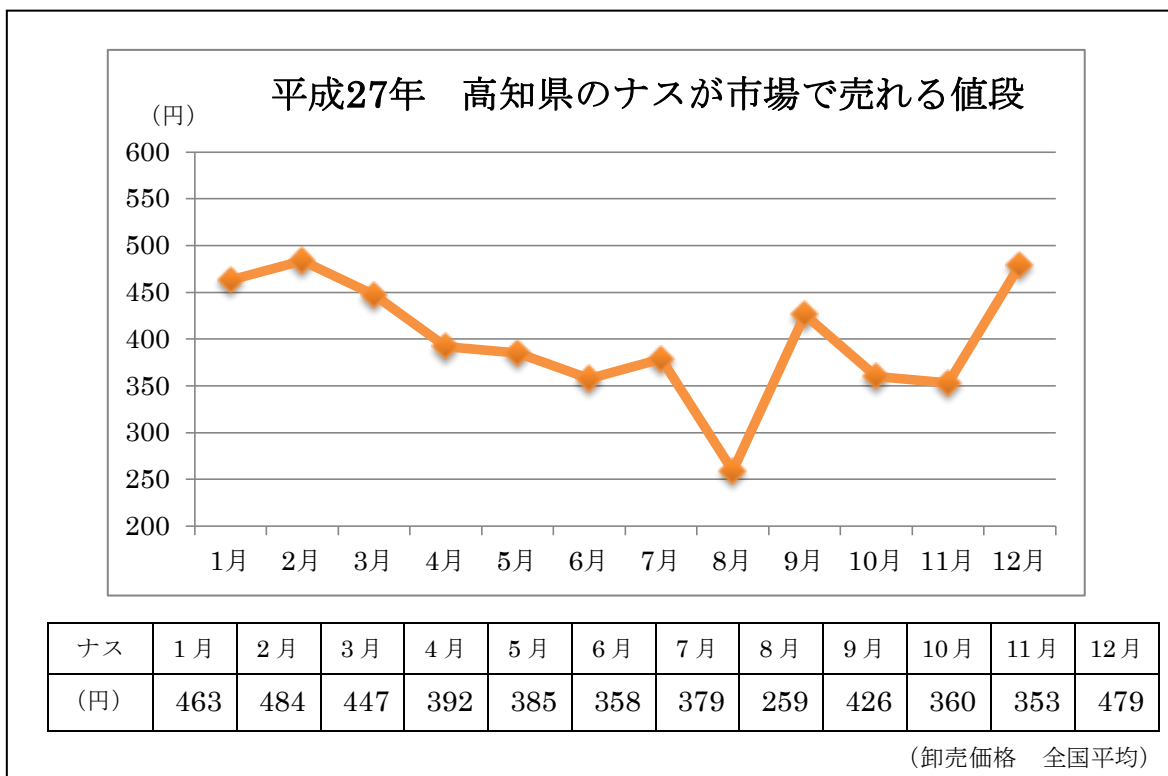
**資料3**

	ハウス栽培	露地栽培
収量	15.4kg	2.7kg
	/1m <sup>2</sup>	/1m <sup>2</sup>

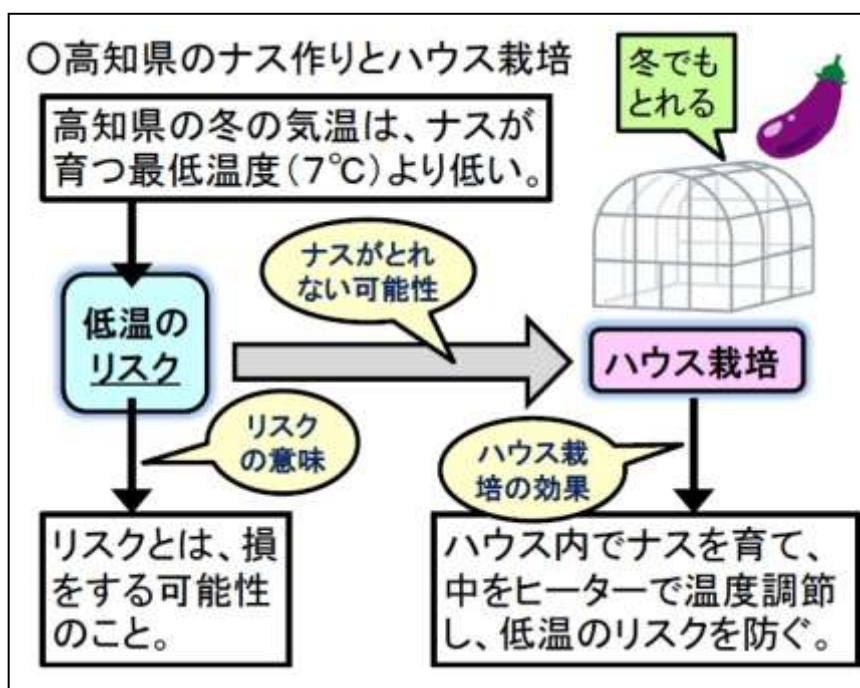
〈こたえ〉  
 ハウス栽培は温度調節ができて低温のリスクを防ぐことができるので、収量が增加する。また、ハウス栽培を行う冬はナスに高い値段が付く。

⑤ 本時の資料

資料1 「平成27年 高知県のナスが市場で売れる値段」



資料2 「高知県のナス作りとハウス栽培」



#### 第IV章 第1節

資料3 「ハウス栽培と露地栽培のナスの収穫量」

	ハウス栽培 (高知県)	露地栽培 (全国平均)
収穫量	15.4kg/1 m <sup>2</sup>	7.7kg/1 m <sup>2</sup>

\*資料1～3の出典については、第II章第3節「価格理論を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成」に明記している。

#### ⑥ 分析フレームワークを用いた本時の分析

第I章第2節で作成した小学校社会科先行授業の分析フレームワークを用いて本時（第5時）を分析し、次頁の表IV-1-3に示す。

表IV-1-3 リスク概念を組み込んだ第5時の分析結果

【分析対象】第[5]学年		形式[ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録]	
単元名	高知県のナス作り	考案者	松浪軌道
出典	-		
○分析対象の学習課題とその解			
【学習課題】なぜ、同じ畑の面積(10a)なのに、露地栽培よりハウス栽培の方がナスの売上が多いのだろう。		【解】ハウス栽培は温度調節ができ、低温のリスクを防ぐことができるので、収穫量が増加する。	
【視点1】社会事象間を、原因-結果、目的-手段、条件-状況で説明している学習課題とその解の分析			
説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因-結果	<input type="checkbox"/> 目的-手段	<input type="checkbox"/> 条件-状況
説明の内容構成	【原因】ハウス栽培は温度調節ができ、低温のリスクを防ぐことができるので、収穫量が増加する。	【結果】同じ畑の面積(10a)なのに、露地栽培よりハウス栽培の方がナスの売上が多い。	
【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無			
経済に関する用語	リスク	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』	
経済に関する用語の意味	経済主体が起す行動(意思決定)のおのおのに対応して特定の既知の結果が生じるような確実性下の世界に反して、どのような結果が生じるかが既知でないとき(②,p.210)		
↓法則性(社会事象間や概念間に成立する関係)の抽出			
意味に含まれる法則性	経済主体が起す行動(意思決定)のおのおのに対応して	どのような結果が生じるかが既知でないとき	
【視点3】経済概念の説明(原因-結果、目的-手段、条件-状況)への組み込まれ方			
経済概念の説明への組み込まれ方	<input checked="" type="checkbox"/> A 原因(目的, 条件)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果(手段, 状況)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果(目的と手段, 条件と状況)の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因(目的, 条件)にも結果(手段, 状況)にも組み込まれていない。		
○「社会事象の経済学的な説明」の構造図			
○分析結果の考察			
原因に示された記述は、経済概念【リスク】に関する内容(リスクの種類, 対処方法, リスク回避の結果)である。また、リスクの意味から、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が確認できる。したがって、社会事象を経済学的に説明した学習課題とその解である。			

#### 第IV章 第1節

##### 【註及び引用・参考文献】

(1) 2017年のデータでは、高知県のナスの生産量は39,700トンと示されており、日本で一番多い数値である。なお、以上のデータは、次のホームページを参照した。

・高知県ホームページ「高知のすがた 2019－農産物の全国シェア－」

[<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/111901/sugata-share.html> 2019.11.11 最終閲覧]

(2) ナスのハウス栽培の光熱費については、次のホームページを参照した。

・農林水産省ホームページ 品目別経営統計「なす 農業経営収支」

[<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001061833> 2019.11.11 最終閲覧]

## 第Ⅳ章 第2節

### 第2節 授業実践の分析と検討

本節では、リスク概念を組み込んだ小学校産業学習「高知県のナス作り」の実践結果を分析、検討する。

#### (1) 授業分析の視点

リスク概念を組み込んだ小学校産業学習「高知県のナス作り」の第4時及び第5時を、西宮市立名塩小学校第5学年A組30名、B組30名に実践した。なお、第4時は、2017年7月13日、第5時は2017年7月14日にそれぞれ行っている。

第4時の評価基準を表Ⅳ-2-1、第5時の評価基準を表Ⅳ-2-2にそれぞれ示す。

表Ⅳ-2-1 利潤概念を組み込んだ第4時の評価基準

A	「B」の内容に加え、ハウス栽培のもうけ(161万円)とレタス作りのもうけ(122万円)の金額から、ハウス栽培の方が10aあたり39万円もうけが多いことについて記述している。
B	学習課題の解として、「ナスのハウス栽培と露地栽培の売上から、それぞれの生産にかかる費用を引くと、ハウス栽培のもうけの方が多くなる。」という内容を記述している。または、「売上－費用＝利潤」の公式に具体的な数値をあてはめ、ハウス栽培のもうけ(316万円－155万円＝161万円)と露地栽培のもうけ(180万円－58万円＝122万円)を比較して学習課題の解を記述している。
C	「A」及び「B」の内容を記述していない。

表Ⅳ-2-2 リスク概念を組み込んだ第5時の評価基準

A	「B」の内容に加え、ナスの収穫量の増加が、売上の上昇につながるについて記述している。
B	学習課題の解として、「ハウス栽培は温度調節ができ、低温のリスクを防ぐことができるので、収穫量が増加する。」という内容を記述している。
C	「A」及び「B」の内容を記述していない。

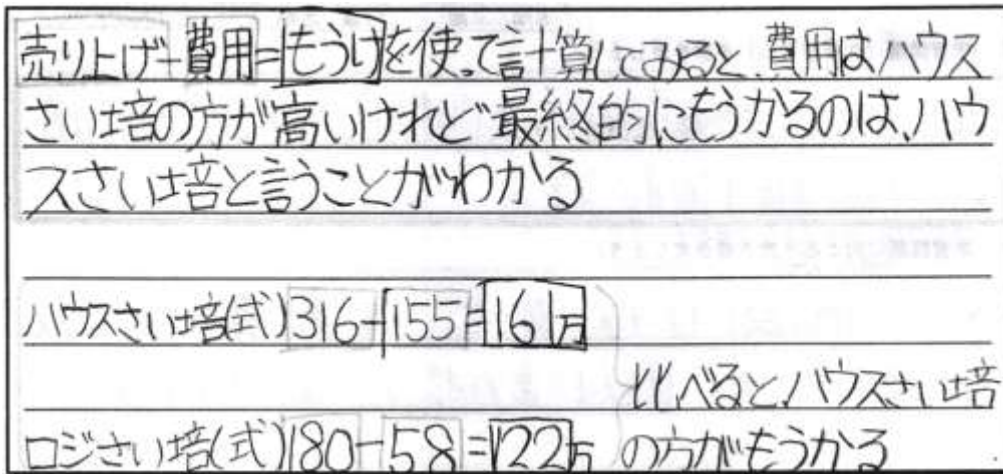
授業の終末、「資料から読み取った情報を基にして、学習課題の答えを書きましょう。」と指示している。そして、ワークシートに示された学習課題の解を分析し、目標到達度を評価した。

#### (2) 第4時の分析と検討

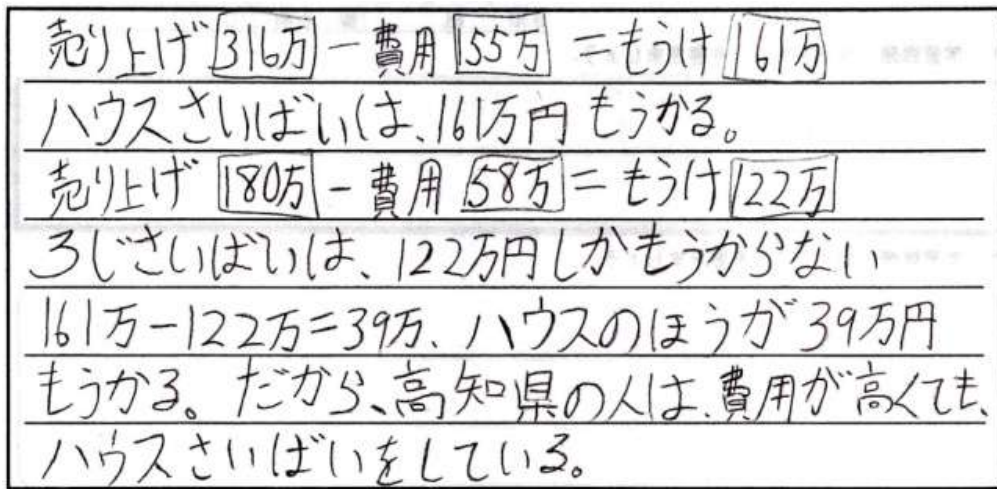
##### ① 第4時の質的分析と検討

目標到達度「A」及び「B」の子どもを抽出し、ワークシートに示された学習課題の解を質的に分析する。目標到達度「A」及び「B」の記述例を、図Ⅳ-2-1に示す。

・「B」の解 (5年A組 No.29)



・「A」の解 (5年A組 No.8)



図IV-2-1 「A」及び「B」の学習課題に対する解の記述例

「B」の解は、「売上-費用=利潤（もうけ）」の公式に具体的な数値をあてはめ、利潤の金額を算出することで、ナスのハウス栽培が露地栽培より儲かることを説明できている。したがって、本時の目標に到達していると判断した。

「A」の解は、算出した利潤の金額を比較し、減法を用いることでその差額（39万円）まで明らかにしている。つまり、「B」の解よりも内容が高度といえる。したがって、「A」と評価した。

## ② 第4時の量的分析と検討

第4時における目標到達度の分布を、表IV-2-3に示し、量的に分析する。なお、第4時を実践した2017年7月13日の5年A組の欠席者は、1名である（5年B組は欠席者なし）。



表IV-2-3 第4時における目標到達度の分布

	A	B	C
5年A組	69% (20人/29人)	24.1% (7人/29人)	6.9% (2人/29人)
5年B組	70% (21人/30人)	20% (6人/30人)	10% (3人/30人)
合計	69.5% (41人/59人)	22% (13人/59人)	8.5% (5人/59人)

本時の目標に到達している「A」及び「B」を合算すると、91.5% (54人/59人) となる。したがって、利潤概念を組み込んだ第4時の授業過程は、社会事象の経済学的な説明を促すという点において、有効と判断できる。

(2) 第5時の分析と検討

① 第5時の質的分析と検討

目標到達度「A」及び「B」の子どもを抽出し、ワークシートに示された学習課題の解を質的に分析する。目標到達度「A」及び「B」の記述例を、図IV-2-2に示す。

・「B」の解 (5年B組 No.29)

ハウスの方がヒーターがあるので、温度調節ができて、悪天候のリスクを防げるのがビニールハウスのメリットだ。なのでたくさん作る

・「A」の解 (5年B組 No.19)

ビニールハウスは温度調節ができてリスクを防げるため、収量がハウス栽培の方が多く、売り上げが多い。

図IV-2-2 「A」及び「B」の学習課題に対する解の記述例

「A」と「B」の解には、いずれも「ハウス栽培は温度調節ができ、低温のリスクが回避される」という内容が示されている<sup>(4)</sup>。また、リスク回避により、収穫量が増加することも示されている。したがって、本時の目標に到達していると判断できる。さらに、「A」の解は、「リスク回避→収穫量の増加」という関係に加えて、売り上げの上昇にまで言及している。つまり、「A」の解の方が、「B」の解よりも厳密性の高い因果関係といえる。

## 第IV章 第2節

### ② 第5時の量的分析と検討

第5時における目標到達度の分布を、表IV-2-4に示し、量的に分析する。なお、第4時を実践した2017年7月14日の5年A組の欠席者は、1名である。また、5年B組の欠席者は、2名である。

表IV-2-4 第5時における目標到達度の分布

	A	B	C
5年A組	37.9% (11人/29人)	55.2% (16人/29人)	6.9% (2人/29人)
5年B組	32.1% (9人/28人)	50% (14人/28人)	17.9% (5人/28人)
合計	35.1% (20人/57人)	52.6% (30人/57人)	12.3% (7人/57人)

本時の目標に到達している「A」及び「B」を合算すると、87.7% (50人/57人)となる。したがって、リスク概念を組み込んだ第5時の授業過程は、社会事象の経済学的な説明を促すという点において、有効と判断できる。

また、第4時と第5時の目標到達度を比較すると、第4時の方が3.8%高い。第5時は、農業リスクの概念に加え、市場価格に関わる内容も取り扱うため習得する知識が多く、子どもの負担となっていることが考えられる。今後は、第5時を2時間構成にすることも視野に入れる必要がある。

#### 【註及び引用・参考文献】

- (1) 例示した解には、低温のリスクという用語は使用されていない。しかし、「温度調節によりリスクを防ぐ」という内容から、低温のリスクを表していると判断できる。

## 第V章 需要・供給理論を組み込んだ小学校歴史学習の開発

需要・供給理論を小学校社会科授業の内容に変換することにより，子どもにとって身近な素材が選定された。そして，学習課題を設定し，検証資料も作成した。そこで，本章では，それらの材料を基に，需要・供給理論を組み込んだ小学校歴史学習を開発する。

第1節では，第6学年社会科「大正時代の米価上昇」の授業モデルを開発する。第2節では，授業実践の結果を分析，検討する。

### 第1節 第6学年社会科授業モデル「大正時代の米価上昇」の開発

本節では，設定した学習課題や作成した検証資料を活用し，需要・供給理論を組み込んだ第6学年社会科「大正時代の米価上昇」の授業モデルを開発する。なお，本単元は，大単元「国力の充実をめざす日本と国際社会（明治時代～大正時代）」を構成する小単元である。

#### (1) 小単元名 「大正時代の米価上昇」

#### (2) 小単元の目標

- 大正時代の米価上昇は，米の需要と供給の不均衡（\*1）が原因となって発生したことが分かる。 【社会事象についての知識】
- 大正時代の米価上昇の原因を究明するために，資料から必要な情報を読み取ったり解釈したりすることができる。 【資料活用の技能】
- 資料から読み取った知識を，比較したり関連付けたりすることで，学習課題に対して設定した仮説を検証することができる。 【社会的な思考・判断・表現】
- 大正時代に関心をもち，米価上昇の原因について主体的に探究しようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】

・米の需要と供給の不均衡（\*1）の具体的な内容は，(3)小単元の指導計画に示す。

#### (3) 小単元の指導計画

小単元「大正時代の米価上昇」の指導計画を，表V-1-1に示す。なお，需要・供給理論は，第1時と第2時双方に組み込まれている。ここでは，第II章第3節で内容構成を論じた第1時の本時案を示し，実践結果を分析する。

表V-1-1 小単元「大正時代の米価上昇」の指導計画

時	学習課題	【知識】目標
1	なぜ、1917年から1919年にかけて米の値段が急上昇したのだろう。	○1917年から1919年にかけて米の値段が急上昇した理由について、次のことが分かる。 ・シベリア出兵での兵士への食糧を用意するため、日本政府は大量に米を買う必要があり、社会全体で米を買いたい量が増えた。そして、米商人は、日本政府に高く売りつけてもうけるために、買いしめや売りおしみをしたので、社会全体で米を売る量が減った。
2	なぜ、1917年から1919年にかけて米の値段が急上昇したのだろう。	○1917年から1919年にかけて米の値段が急上昇した理由について、次のことが分かる。 ・日本の総人口が増え、農村から都市部へと人口が集中し、社会全体で米を買いたい量が増えた。しかし、米の作付面積はあまり増えなかったため、社会全体で買いたい量が増加したほど売る量は増えていない。

本小単元の内容は、大正時代における米価上昇の内容に特化したものである。第一次世界大戦や関東大震災といった大正時代における他の歴史事象は、別の小単元で学習する。

(4) 本時案—第1時—

① 本時の目標

○ 1917年から1919年にかけて米の値段が急上昇した理由について、次のことが分かる。

【社会事象についての知識】

- ・シベリア出兵での兵士への食糧を用意するため、日本政府は大量に米を買う必要があり、社会全体で米を買いたい量が増えた。そして、米商人は、日本政府に高く売りつけてもうけるために、買いしめや売りおしみをしたので、社会全体で米を売る量が減った。

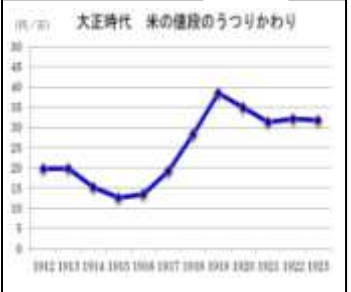

② 本時の授業仮説

資料4「シベリア出兵に必要な食糧」から、社会全体で米を買いたい量が増えたことを読み取り、資料6「もの（米）の値段が上がる時」の買いたい量が増えると値段が上がるという情報と関連付ける。また、資料5「米の買いしめと売りおしめ」から、社会全体で米を売る量が減ったことを読み取り、資料6「もの（米）の値段が上がる時」の売る量が減ると値段が上がるという情報と関連付ける。以上の内容を、ワークシートや板書に残し、授業の終末に総合することで、本時の目標に到達することができるであろう。

③ 本時の展開


学習活動	発問 (○) 指示 (◎) 確認 (◇) 指導上の留意点 (・)	予想される子どもの反応 (・)	資料 (*) 評価 (◎)
<p>1. 本時の学習課題を把握する。</p> <div data-bbox="240 562 427 808" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>富山県で始まった騒動は瞬く間に全国に広がり、多くの米屋の米が奪われたり店が燃やされたりした。</p> </div>	<p>○大正時代（1918年）のある事件が描かれた一枚の絵を見てみましょう。人々がお店を襲っています。何のお店か分かりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1を提示し、襲われているお店を読み取らせる。</li> <li>・「米騒動」について、解説をする。</li> </ul> <p>◇当時の新聞記事です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料2を提示し、米騒動のようすを読み取らせる。</li> </ul> <p>○米屋が壊されています。どの米屋ですか。</p> <p>◇次の新聞記事です。大阪府では、警察官が暴れる人々を刀で斬り、騒動をおさめたようです。</p>	<div data-bbox="804 474 1161 786" style="border: 1px solid black; text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米を売っている店だと思う。</li> <li>・のれんに「米」と書いてある。</li> </ul> <div data-bbox="810 987 1161 1402" style="border: 1px solid black; text-align: center; margin-top: 10px;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・兵庫県。兵庫精米所と書いてあるから。</li> </ul> <div data-bbox="804 1630 1161 1854" style="border: 1px solid black; text-align: center; margin-top: 10px;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人々を刀で斬らなければならぬほど激しかったのか。</li> </ul>	<p>*資料1 米騒動の様子</p> <p>*資料2-(2) 米騒動について報じた新聞記事</p> <p>*資料2-(1) 米騒動について報じた新聞記事</p>

第V章 第1節

学習活動	発問 (○) 指示 (◎) 確認 (◇) 指導上の留意点 (・)	予想される子どもの反応 (・)	資料 (*) 評価 (◎)
	<p>◇なぜ、米騒動が発生したのでしょうか。その謎を解く情報が、次の資料にあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料3により、米価の推移を示し、1917年～1919年にかけて急上昇していることを読み取らせる。</li> </ul>	 <p>・米の値段が、1917年から急激に上がっている。</p> <p>・でも、なぜこんなに米の値段が上がったのだろう。</p>	<p>*資料3 米の値段のうっぴりかわり</p>
<p>なぜ、1917年から1919年にかけて米の値段が急上昇したのだろう。</p>			
<p>2. 仮説を設定する。</p>	<p>◎学習課題の答えを予想しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予想を同じカテゴリーに分類させたり既習知識を活用させたりすることで、仮説へと高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1917年は天気が悪くて、米が不作だったからだと思う。</li> <li>・江戸時代の茶や生糸のように、外国と貿易をして、国内の米がたくさん輸出されたからだと思います。</li> </ul>	
<p>3. 資料で検証する。</p>	<p>◎資料からの情報を基に、仮説を確かめてみましょう。</p>	 <p>ロシア革命により、ロシアでは国王中心の政治が終わりました。そして、新たにソビエト連邦(ソ連)という国となりました。ソ連の動きを警戒したアメリカ、イギリス、フランスとともに1918年、日本もシベリアに出兵しました(シベリア出兵)。兵士の食糧を用意するため、日本政府は大量の米を買う必要がありました。</p>	<p>*資料4 シベリア出兵に必要な食糧</p>



第V章 第1節

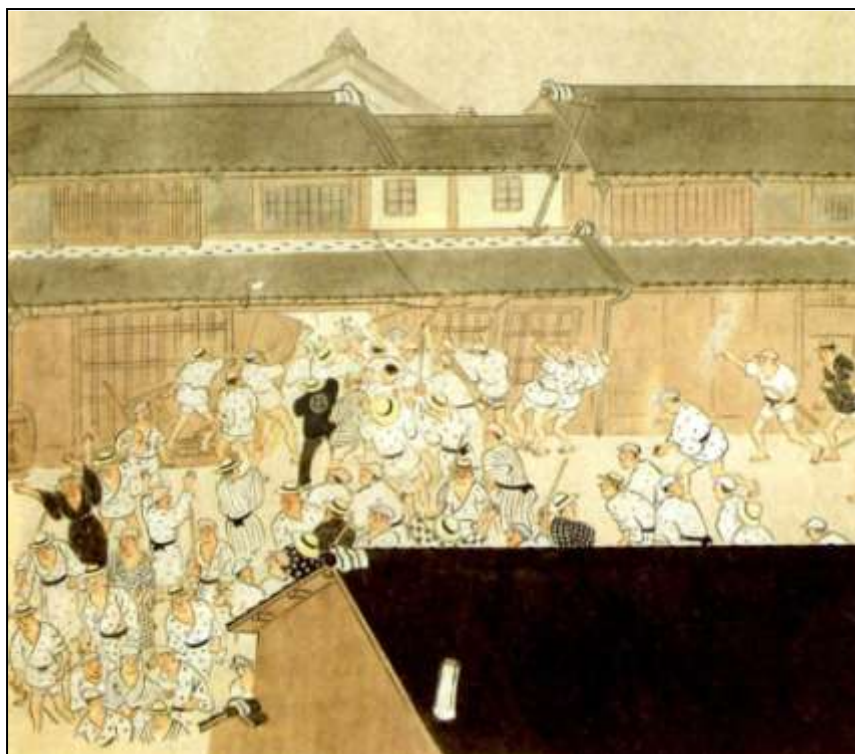
学習活動	発問 (○) 指示 (◎) 確認 (◇) 指導上の留意点 (・)	予想される子供の反応 (・)	資料 (*) 評価 (◎)
<p>5. 学習課題の解をまとめる。</p> <p><b>【授業仮説】</b></p>	<p>◎資料からの情報や確かめられた仮説を基にして、学習課題の答えを書きましょう。</p>	<p>◎学習課題の解 (=社会事象の経済学的な説明) がワークシートに記述されているか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>[学習課題]</p> <p>なぜ、1917年から1919年にかけて米の値段が急上昇したのだろう。</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>【学習課題の解】</b></p> <p>シベリア出兵での兵士への食糧を用意するため、日本政府は大量に米を買う必要があり、社会全体で米を買いたい量が増えた。そして米商人は、日本政府に高く売りつけてもうけるために、買いしめや売りおしめをしたので、社会全体で米を売る量が減った。</p> </div>	<p>◎評価</p>





⑤ 本時の資料

資料1 「米騒動の様子」



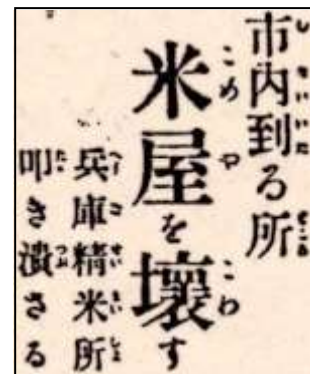
有田和正 石弘光ほか41名『小学社会 6上』教育出版 2010.3 p.111

資料2 「米騒動について報じた新聞記事」

(1) 大阪朝日新聞



(2) 大阪毎日新聞

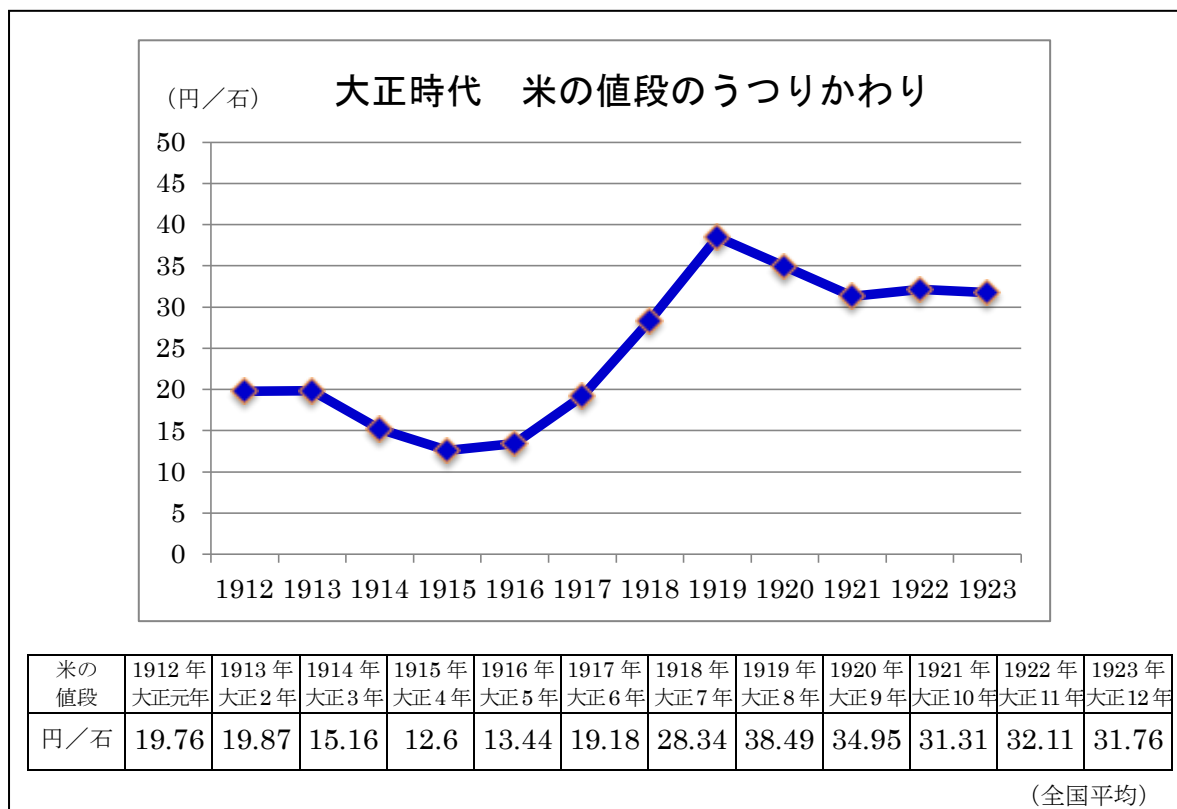


(1) 「大阪朝日新聞 号外 大正7年8月13日」を加工：松浪

(2) 「大阪毎日新聞 号外 大正7年8月13日」を加工：松浪

\* (1)(2)は、いずれも「わくわく！新発見！『秘蔵なま史料』だからわかる！ほんとうの近現代史

6. 『米騒動号外・米相場』変動通知表 鎌谷書店 2015.7.30からの資料である。



資料3 「米の値段のうつりかわり」

中沢弁次郎『日本米価変動史』柏書房 2001 pp.430-477 を基に作成：松浪

資料4 「シベリア出兵に必要な食糧」



ロシア革命により、ロシアでは国王中心の政治が終わりました。そして、新たにソビエト連邦（ソ連）という国となりました。ソ連の動きを警戒したアメリカ、イギリス、フランスとともに1918年、日本もシベリアに出兵しました（シベリア出兵）。兵士の食糧を用意するため、日本政府は大量の米を買う必要がありました。

写真：帝政ロシアの通貨事情ホームページ「シベリア出兵」

[<http://www.a-saida.jp/images/shuppei.htm> 2019.11.14 最終閲覧]

文章：金谷俊一郎『金谷の日本史「なぜ」と「流れ」がわかる本【改訂版】』東進ブックス 2015.3 p.129 を基に作成：松浪



表V-1-2 需要・供給理論を組み込んだ第1時の分析結果

【分析対象】第[6]学年		形式 [■ 学習指導案 □ 教授書 □ 授業記録]	
単元名	大正時代の米価上昇	考案者	松浪軌道
出典	—		

○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、1917年から1919年にかけて米の値段が急上昇したのだろうか。	【解】シベリア出兵での兵士への食糧を用意するため、日本政府は大量に米を買う必要があり、社会全体で米を買いたい量が増えた。そして米商人は、日本政府に高く売りつけてもうけるために、買いしめや売りおしめをしたので、社会全体で米を売る量が減った。
---	---

【視点1】社会事象間を、原因-結果、目的-手段、条件-状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	■ 原因-結果 □ 目的-手段 □ 条件-状況		比較
説明の内容構成	【原因】シベリア出兵での兵士への食糧を用意するため、日本政府は大量に米を買う必要があり、社会全体で米を買いたい量が増えた。そして米商人は、日本政府に高く売りつけてもうけるために、買いしめや売りおしめをしたので、社会全体で米を売る量が減った。	【結果】1917年から1919年にかけて米の値段が急上昇した。	

【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	需要・供給の法則	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	財に対する需要量と供給量の差すなわち超過需要が正ならばその財の価格は上昇し、それが負のときは価格が下落する (②,p.596)	

↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	財に対する需要量と供給量の差すなわち超過需要が正	その財の価格は上昇
	財に対する需要量と供給量の差すなわち超過需要が負	その財の価格は下落

【視点3】経済概念の説明(原因-結果、目的-手段、条件-状況)への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input checked="" type="checkbox"/> A 原因(目的, 条件)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果(手段, 状況)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果(目的と手段, 条件と状況)の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因(目的, 条件)にも結果(手段, 状況)にも組み込まれていない。
-----------------	---

◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図

<p style="text-align: center;"><b>原因</b></p> <p>シベリア出兵での兵士への食糧を用意するため、日本政府は大量に米を買う必要があり、社会全体で米を買いたい量が増えた。そして米商人は、日本政府に高く売りつけてもうけるために、買いしめや売りおしめをしたので、社会全体で米を売る量が減った。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">意味的連動性</div> <div style="font-size: 2em;">→</div>	<p style="text-align: center;"><b>結果</b></p> <p>1917年から1919年にかけて米の値段が急上昇した。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">なぜ (Why)</div> <div style="font-size: 2em;">←</div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">共変関係</div>		

<p>【需要・供給の法則】財に対する需要量と供給量の差すなわち超過需要が正-その財の価格は上昇 財に対する需要量と供給量の差すなわち超過需要が負-その財の価格は下落</p>
--

○ 分析結果の考察

<p>原因に示された記述は、需要・供給の法則に関する内容をもつ。需要・供給の法則は、経済学の研究成果の一つである。したがって、社会事象を経済学的に説明した学習課題とその解である。</p>
---



## 第2節 授業実践の分析と検討

本節では、需要・供給理論を組み込んだ小学校歴史学習「大正時代の米価上昇」の実践結果を分析、検討する。

### (1) 授業分析の視点

需要・供給理論を組み込んだ小学校歴史学習「大正時代の米価上昇」の第1時を、西宮市立名塩小学校第6学年A組35名に実践した(2017年11月29日)。

第1時の評価基準を、表V-2-1に示す。

表V-2-1 第1時の評価基準

A	「A」の内容について、買いたい量が増えたこと(需要増加)と売る量が減ったこと(供給減少)を、「同時に起きた」「二つが合わさった」といった言葉で関連付けて記述している。
B	学習課題の解として、「シベリア出兵での兵士への食糧を用意するため、日本政府は大量に米を買う必要があり、社会全体で米を買いたい量が増えた。そして米商人は、日本政府に高く売りつけてもうけるために、買いしめや売りおしめをしたので、社会全体で米を売る量が減った」という内容を記述している。
C	「A」及び「B」の内容を記述していない。

授業の終末、「資料から読み取った情報を基にして、学習課題の答えを書きましょう。」と指示している。そして、ワークシートに示された学習課題の解を分析し、目標到達度を評価した。

### (2) 第5時の質的分析と検討

目標到達度「A」及び「B」の子どもを抽出し、ワークシートに示された学習課題の解を質的に分析する。目標到達度「A」及び「B」の記述例を、次頁図V-2-1に示す。

「B」の解は、「大量の米が必要だった」(需要増加)「売る量がへった」(供給減少)という内容を、そうなった背景もふまえて説明している。したがって、本時の目標に到達していると判断した。

「A」の解は、需要増加と供給減少が、「同時におきて」と示している。価格は、需要と供給のバランスで決まり、どちらかだけで決定することはない。つまり、需要増加と供給減少を関連付けて表現しているという点で、「B」の解よりも実際の価格決定に近い内容といえる。したがって、「A」と評価した。

・「B」の解 (No.24)

一般の人たちが米がほしくて日本政府もシベリアに出兵するため大量の米が必要だった。米商人は「政府に高く売りたいから買いしめて、売らない」と言っていて売量が入ったから米の値段が上がった。

・「A」の解 (No.15)

シベリア出兵のため大量の米が必要で、一般の人々も米がないと生活が出来ないから買いたい人が増えお米の値段があがる。米商人は政府に売りつけておけようとしたため米を買いしめて一般の人に売らなくて売量がいりお米の値段があがり、お米の二つが同時におきて急激に値段があがった。

図V-2-1 「A」及び「B」の学習課題に対する解の記述例

(3) 第1時の量的分析と検討

第1時における目標到達度の分布を、表V-2-2に示し、量的に分析する。

表6 第1時における目標到達度の分布

A	B	C
28.6% (10人/35人)	65.7% (23人/35人)	5.7% (2人/35人)

本時の目標に到達している「A」及び「B」を合算すると、94.3% (33人/35人)となる。したがって、需要・供給理論を組み込んだ第1時の授業過程は、社会事象の経済学的な説明を促すという点において、有効と判断できる。

## 第VI章 費用・便益理論を組み込んだ小学校公民学習の開発

費用・便益理論を小学校社会科授業の内容に変換することにより、子どもにとって身近な素材が選定された。そして、学習課題を設定し、検証資料も作成した。そこで、本章では、それらの材料を基に、費用・便益理論を組み込んだ小学校公民学習を開発する。

第1節では、費用・便益理論を組み込んだ第6学年社会科「名塩道路の開通と政治の働き」の授業モデルを開発する。第2節では、授業実践の結果を分析、検討する。

### 第1節 第6学年社会科授業モデル「名塩道路の開通と政治の働き」の開発

本節では、設定した学習課題や作成した検証資料を活用し、費用・便益理論を組み込んだ第6学年社会科「名塩道路の開通と政治の働き」の授業モデルを開発する。なお、本単元は、大単元「わたしたちの政治とくらし」を構成する小単元である。

#### (1) 小単元名 「名塩道路の開通と政治の働き」

#### (2) 小単元の目標

- 名塩道路の開通と政治の働きの関係（\*1）について理解する。  
【社会事象についての知識】
- 名塩道路が開通した原因を究明するために、資料から必要な情報を読み取ったり解釈したりすることができる。  
【資料活用の技能】
- 資料から読み取った知識を、比較したり関連付けたりすることで、学習課題に対して設定した仮説を検証することができる。  
【社会的な思考・判断・表現】
- 名塩道路の開通と政治の働きの関係（\*1）に関心を持ち、主体的に探究しようとする。  
【主体的に学習に取り組む態度】

・名塩道路の開通と政治の働きの関係（\*1）の具体的な内容は、(3)小単元の指導計画に示す。

#### (3) 小単元の指導計画

小単元「名塩道路の開通と政治の働き」の指導計画を、表VI-1-1に示す。なお、費用・便益理論を組み込んだ授業は、第4時である。そこで、本時案は第4時を示す。



第VI章 第1節

表VI-1-1 小单元「名塩道路の開発と政治の働き」の指導計画

時	学習課題	【知識】目標
1		<p>○名塩道路に関する次の2点の知識を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名塩道路（西宮市塩瀬町名塩 1.4km）を開通させるため、名塩八幡トンネルと名塩西トンネルが建設された。</li> <li>・道路を広げる工事は全部で 10.6km あり、今回の開通（1.4km）で 6.9km が開通したことになる。</li> </ul>
2 3	なぜ、名塩道路を開通させる必要があったのだろうか。	<p>○名塩道路を開通させる必要があった理由について、次の3点のことが分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国道 176 号線を利用する西宮市北部や三田市の人口が増え、自動車の保有台数も増加している。そのため交通量も年々増加し、渋滞が発生するようになった。</li> <li>・通学路が道路に面しているため、子どもが歩くぎりぎりの所を自動車やトラックが通過し、危険がある。</li> <li>・名塩小学校付近は、自動車の音が要請限度をこえているので、近くに住む人々が騒音によって困っている<sup>(1)</sup>。</li> </ul>
4	なぜ、費用が 1174 億円もかかっているのに、名塩道路を開通させたことは社会全体で得だったと言いきれるのだろうか。	<p>○費用が 1174 億円もかかっているのに、名塩道路を開通させたことが社会全体で得だったと言いきれる理由について、次のことが分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名塩道路を開通させたことによる総便益から総費用を引くと、1577 億円－1174 億円＝403 億円となり、プラスとなる。</li> </ul> <p>(名塩道路を開通させたことによる総便益は 1577 億円であり、総費用の 1174 億円を上回っている。)</p>
5 6	公共事業は、どのように実施が決定されているのだろうか。	<p>○名塩道路の開通は、地域住民の願いが、関係する市や兵庫県を動かし、国（国土交通省）へ要望が伝えられて実現したものであることを知る。</p> <p>○国民の生活を安定させたりよりよくしたりするための公共事業は、人々の願いや社会の動きを受けて始まる。さらに、総便益が総費用を上回ることを確認してから実行することで税金（予算）を有効に使用していることが分かる。</p>

なお、現行の小学校社会科教科書で取り扱われている税金の徴収方法や使用方法、地方自治における住民・役所・議会の関係といった学習内容は、表VI-1-1の指導計画には示されていない。しかし、政治单元においては重要な知識である。そこで、次の小单元において取り扱う。

## 第VI章 第1節

### (4) 本時案—第4時—

#### ① 本時の目標

○ 税金を 1174 億円も使っているのに、名塩道路を開通させたことが社会全体で得だったと言いきれる理由について、次のことが分かる。 【社会事象についての知識】

・名塩道路を開通させたことによる総便益から総費用を引くと、 $1577 \text{ 億円} - 1174 \text{ 億円} = 403 \text{ 億円}$ となり、プラスとなる。

(名塩道路を開通させたことによる総便益は 1577 億円であり、総費用の 1174 億円を上回っている。)

#### ② 本時の授業仮説

○具体的な数値が示された資料 1「名塩道路開通による総便益」と資料 2「名塩道路開通による総費用」を提示する。そして、それぞれの総便益（1495 億円+68 億円+14 億円=1577 億円）と総費用（1133 億円+41 億円=1174 億円）を加法により算出し、比較させる。そして、子どもは、「1577 億円（総便益）-1174 億円（総費用）」から 403 億円というプラスの数値を算出する。以上の計算により、本時の目標に到達することができるであろう。

#### ③ 本時の展開

学習活動	発問 (○) 指示 (◎) 確認 (◇) 指導上の留意点 (・)	予想される子どもの反応 (・)	資料 (*) 評価 (◎)
1. 本時の学習課題を把握する。	◇前回、なぜ、名塩道路を開通させる必要があったのかについて学習しました。  ○名塩道路を開通させたことは、社会全体で得だったと思いますか。それとも損だったと思いますか。  ◎本当に得だったでしょうか。 ・名塩道路を開通させるための費用は、1174 億円（税金）かかっていることを示す。	・名塩道路が開通したことで、多くの方が助かっている。だから、得していると思う。  ・そんなにかかっているの！ ・しかも、1174 億円は、すべて税金なのか。	


第VI章 第1節

学習活動	発問 (○) 指示 (◎) 確認 (◇) 指導上の留意点 (・)	予想される子どもの反応 (・)	資料 (*) 評価 (◎)
	◎みんなは、名塩道路を開通させたことは、社会全体で得だったと答えました。なぜ、そう言い切れるのかを説明してください。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>なぜ、費用が 1174 億円もかかっているのに、名塩道路を開通させたことは社会全体で得だったと言い切れるのだろうか。</p> </div>			
2. 仮説を設定する。	◎学習課題の答えを予想しましょう。 ・予想を同じカテゴリーに分類させたり既習知識を活用させたりすることで、仮説へと高める。	・名塩道路が開通したことで、渋滞が減ったし、名塩小学校のみんなも安全に登校できるようになった。だから、得しているといえる。 ・騒音も小さくなっている。	
3. 学習課題の解を導き出す方法を検討する。	○なるほど。でも、名塩道路を開通させるために、税金を 1174 億円も使っていましたよね。渋滞や騒音が減ったことや安全に登校できるようになったことが、1174 億円を超えるほど得だったと証明できますか。 ・名塩道路の開通は、まちがいなく社会全体にとって得であったという子どもの認識に「揺さぶり」をかける。  ○なぜ、社会全体が得していると証明できないのでしょうか。	・証明はできない。 ・ひよっとしたら、1174 億円を超えるほど、社会全体で得しているとは言えないかもしれない。  ・費用は「円」で表せるけど、渋滞や騒音が減ったことや安全に登校できるようになったことは金額では分からない。	

第VI章 第1節

学習活動	発問 (○) 指示 (◎) 確認 (◇) 指導上の留意点 (・)	予想される子どもの反応 (・)	資料 (*) 評価 (◎)															
4. 資料で検証する。	◇実は方法があるのです。今、金額では表せないという意見が出ました。しかし、名塩道路の開通で生まれたよい効果を「円」で表したデータがあります。 ・便益の意味(よい効果を円単位で表したもの)を解説する。 ◎資料からの情報を基に、仮説を確かめてみましょう。	・そんな方法があるのか。 ・便益を使えば、費用と比べられそう。																
<p>【資料①】名塩道路開通による総便益</p> <p>平成 24 年度を基準とし、50 年間で計算されている。</p> <table border="1" data-bbox="248 987 1150 1245"> <thead> <tr> <th colspan="4">便益</th> </tr> <tr> <th colspan="4">(名塩道路開通によって生まれるよい効果を「円」で計算したもの)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>走行時間短縮便益 = 運転にかかる時間が短くなることで生まれるよい効果</td> <td>走行経費減少便益 = 運転にかかるお金が減ることで生まれるよい効果</td> <td>交通事故減少便益 = 交通事故が減ることによって生まれるよい効果</td> <td>総便益 = それぞれのよい効果の合計</td> </tr> <tr> <td>1495 億円</td> <td>68 億円</td> <td>14 億円</td> <td>億円</td> </tr> </tbody> </table>		便益				(名塩道路開通によって生まれるよい効果を「円」で計算したもの)				走行時間短縮便益 = 運転にかかる時間が短くなることで生まれるよい効果	走行経費減少便益 = 運転にかかるお金が減ることで生まれるよい効果	交通事故減少便益 = 交通事故が減ることによって生まれるよい効果	総便益 = それぞれのよい効果の合計	1495 億円	68 億円	14 億円	億円	*資料 1 名塩道路開通による総便益
便益																		
(名塩道路開通によって生まれるよい効果を「円」で計算したもの)																		
走行時間短縮便益 = 運転にかかる時間が短くなることで生まれるよい効果	走行経費減少便益 = 運転にかかるお金が減ることで生まれるよい効果	交通事故減少便益 = 交通事故が減ることによって生まれるよい効果	総便益 = それぞれのよい効果の合計															
1495 億円	68 億円	14 億円	億円															
<p>【資料②】名塩道路開通による総費用</p> <p>平成 24 年度を基準とし、50 年間で計算されている。</p> <table border="1" data-bbox="248 1379 1150 1547"> <thead> <tr> <th colspan="3">費用</th> </tr> <tr> <th colspan="3">(名塩道路開通を開通させ、維持・管理するためにかかる金額)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名塩道路の開通工事費用</td> <td>名塩道路の維持・管理費用</td> <td>総費用</td> </tr> <tr> <td>1133 億円</td> <td>41 億円</td> <td>億円</td> </tr> </tbody> </table>		費用			(名塩道路開通を開通させ、維持・管理するためにかかる金額)			名塩道路の開通工事費用	名塩道路の維持・管理費用	総費用	1133 億円	41 億円	億円	*資料 2 名塩道路開通による総費用				
費用																		
(名塩道路開通を開通させ、維持・管理するためにかかる金額)																		
名塩道路の開通工事費用	名塩道路の維持・管理費用	総費用																
1133 億円	41 億円	億円																
5. 検証結果を共有する。 【授業仮説】	◎資料から分かった学習課題の答えを発表しましょう。 ・板書に純便益を求める数式を示し、全体で共有する。	・計算すると、名塩道路を開通させたときの総便益は 1577 億円で、総費用 1174 億円を上回っている。 ・総便益 1577 億円から総費用 1174 億円を引くと、+403 億円になるから、名塩道路を開通させて社会全体が得していることが証明された。																
<p>総便益 1577 億円 - 総費用 1147 億円 = 純便益 403 億円</p>																		

第VI章 第1節

学習活動	発問 (○) 指示 (◎) 確認 (◇) 指導上の留意点 (・)	予想される子どもの反応 (・)	資料 (*) 評価 (◎)
6. 学習課題の解をまとめる。	<p>◎資料から読み取った情報を基にして,学習課題の答えを書きましょう。</p> <p>◇名塩道路の開通のように,人々の暮らしを安定させたりよりよくしたりするための取組を,「公共事業」といいます。公共事業が,実行されたり継続されたりするときは,その事業から発生する便益と費用が計算され,税金の無駄づかいを防いでいるのです。</p>		<p>◎評価</p> <p>◎学習課題の解 (=社会事象の経済学的な説明) がワークシートに記述されているか。</p> <div data-bbox="815 600 1347 801" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[学習課題]</p> <p>なぜ,費用が1174億円もかかっているのに,名塩道路を開通させたことは社会全体で得だったと言い切れるのだろうか。</p> </div> <div data-bbox="1038 815 1123 875" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="815 887 1347 1234" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[学習課題の解]</p> <p>名塩道路を開通させたことによる総便益から総費用を引くと,1577億円-1174億円=403億円となり,プラスとなる。</p> <p>(名塩道路を開通させたことによる総便益は1577億円であり,総費用の1174億円を上回っている。)</p> </div>

④ 本時の板書計画

なぜ、費用が1174億円もかかっているのに名塩道路を开通了事は社会全体で得たと言われるのだろうか

名塩道路の開通  
社会全体で...  
得か損か  
費用 (税金) 1174億円

予想  
・名塩道路の開通  
→ 渋滞が減った  
→ 安全に登校できるようになった。  
→ そろ音が小さくなった。  
+ (プラス) などの費用を上回っている。

総便益 - 総費用  
1577億円 - 1174億円  
= 403億円 (純便益)

復益... よい効果を円単位で表したもの

資料①  
名塩道路開通による総便益

資料②  
名塩道路開通による総費用

〈こたえ〉  
名塩道路を開通させたことによる総便益から総費用を引くと1577億円 - 1174億円 = 403億円となり、プラスとなる。

公共事業  
...人々のくらしを安定させた)  
よりよくなりましたための取組

第VI章 第1節

⑤ 本時の資料

資料1 「名塩道路開通による総便益」

平成 24 年度を基準とし、  
50 年間で計算されている。

便益 (名塩道路開通によって生まれるよい効果を「円」で計算したもの)			
走行時間短縮便益 = 運転にかかる時間が 短くなることで生ま れるよい効果	走行経費減少便益 = 運転にかかるお金が 減ることで生まれる よい効果	交通事故減少便益 = 交通事故が減ること によって生まれるよ い効果	総便益 = それぞれのよい効果 の合計
1495 億円	68 億円	14 億円	億円

資料2 「名塩道路開通による総費用」

平成 24 年度を基準とし、  
50 年間で計算されている。

費用 (名塩道路開通を開通させ、維持・管理するためにかかる金額)		
名塩道路の開通工事費用	名塩道路の維持・管理費用	総費用
1133 億円	41 億円	億円

⑥ 分析フレームワークを用いた本時の分析

第I章第2節で作成した小学校社会科先行授業の分析フレームワークを用いて本時（第4時）を分析し、表VI-1-2に示す。

表VI-1-2 費用・便益理論を組み込んだ第4時の分析結果

【分析対象】第〔6〕学年				形式〔 <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録〕			
単元名	名塩道路の開通と政治の働き			考案者	松浪軌道		
出典	—						
○分析対象の学習課題とその解							
【学習課題】なぜ、費用が1174億円もかかっているのに、名塩道路を開通させたことは社会全体で得だったと言い切れるのだろうか。				【解】名塩道路を開通させたことによる総便益から総費用を引くと、1577億円-1174億円=403億円となり、プラスとなる。(名塩道路を開通させたことによる総便益は1577億円であり、総費用の1174億円を上回っている。)			
【視点1】社会事象間を、原因-結果、目的-手段、条件-状況で説明している学習課題とその解の分析							
説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因-結果			<input type="checkbox"/> 目的-手段		<input type="checkbox"/> 条件-状況	
説明の内容構成	【原因】名塩道路を開通させたことによる総便益から総費用を引くと、1577億円-1174億円=403億円となり、プラスとなる。(名塩道路を開通させたことによる総便益は1577億円であり、総費用の1174億円を上回っている。)			【結果】費用が1174億円もかかっているのに、名塩道路を開通させたことは社会全体で得だったと言い切れる。			
【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無							
経済に関する用語	費用・便益分析			①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』			
経済に関する用語の意味	公共投資などのプロジェクトについて、そのプロジェクトの実施により得られる便益とそこから生じる費用を比較することによって、プロジェクトを実施すべきか否かの判断や代替案との比較を行うこと (②,p.596)						
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出							
意味に含まれる法則性	公共投資などのプロジェクトについて、そのプロジェクトの実施により得られる便益とそこから生じる費用を比較			プロジェクトを実施すべきか否かの判断			
【視点3】経済概念の説明(原因-結果、目的-手段、条件-状況)への組み込まれ方							
経済概念の説明への組み込まれ方	<input checked="" type="checkbox"/> A 原因(目的, 条件)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果(手段, 状況)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果(目的と手段, 条件と状況)の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因(目的, 条件)にも結果(手段, 状況)にも組み込まれていない。						
◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図							
【費用・便益分析】公共投資などのプロジェクトについて、そのプロジェクトの実施により得られる便益とそこから生じる費用を比較する。これによってプロジェクトを実施すべきか否かを判断する。							
○ 分析結果の考察							
原因に示された記述は、費用・便益分析に関する内容をもつ。費用・便益分析は、経済学の研究成果の一つである。したがって、社会事象を経済学的に説明した学習課題とその解である。							



## 第VI章 第1節

### 【註及び引用・参考文献】

- (1) 市区町村長は、自動車騒音を低減させるため、測定に基づいて道路管理者に意見を述べ、都道府県公安委員会に対策を講じるよう要請することができる（騒音規制法）。この判断に基準となる数値を、要請限度という。

第2節 授業実践の分析と検討

本節では、費用・便益理論を組み込んだ小学校公民学習「名塩道路の開通と政治の働き」の実践結果を分析、検討する。

(1) 授業分析の視点

費用・便益理論を組み込んだ小学校公民学習「名塩道路と政治の働き」の第4時を、西宮市立名塩小学校第6学年A組35名に実践した(2018年1月23日)。

第4時の評価基準を、表VI-2-1に示す。

表VI-2-1 第4時の評価基準

A	「A」の内容に加え、純便益403億円という数値と50年間という評価期間から、1日あたりの純便益(約220万円)を算出し、記述している。
B	学習課題の解として、「名塩道路を開通させたことによる総便益は1577億円であり、総費用の1174億円を上回っている」という内容を記述している。または、「総便益(1577億円)－総費用(1174億円)」という式から純便益(403億円)を算出し、学習課題の解を記述している。
C	「A」及び「B」の内容を記述していない。

授業の終末、「資料から読み取った情報を基にして、学習課題の答えを書きましょう。」と指示している。そして、ワークシートに示された学習課題の解を分析し、目標到達度を評価した。

(2) 第4時の質的分析と検討

目標到達度「A」及び「B」の子どもを抽出し、ワークシートに示された学習課題の解を質的に分析する。目標到達度「A」及び「B」の記述例を、次頁図VI-2-1に示す。

「B」の解は、「総便益－総費用＝純便益」の公式に具体的な金額をあてはめ、403億円の純便益を算出している。すなわち、総便益が総費用を上回っていることを根拠として、名塩道路を開通させたことは得であったと説明している。したがって、本時の目標に到達していると判断した。

「A」の解も、総便益が総費用を上回っていることを立式と計算で証明している。さらに、純便益403億円という数値と50年間という評価期間から、1日あたりの純便益を算出している[403億円÷(365日×50年)]。すなわち、「B」の解よりも、名塩道路の開通が得であった理由が具体的に表現されている。したがって、「A」と評価した。

・「B」の解 (No.20)

総便益は1577億円で、総費用が1174億円で  
 総便益-費用=純便益の公式に数字を合  
 はめると、 $1577-1174=403$ 億円で得しているこ  
 とが分かるから。

・「A」の解 (No.3)

良い効果が、総費用より403億円分多く、50年  
 間で見ると、1日約220万円得していることになる  
 から、名塩道路を作った。(式  $1577\text{億}-1174\text{億}$   
 $=403\text{億円}$ )

図VI-2-1 「A」及び「B」の学習課題に対する解の記述例

(3) 第4時の量的分析と検討

第4時における目標到達度の分布を、表VI-2-2に示し、量的に分析する。

表VI-2-2 第4時における目標到達度の分布

A+	A	B
17.1% (6人/35人)	80% (28人/35人)	2.9% (1人/35人)

本時の目標に到達している「A+」及び「A」を合算すると、97.1% (34人/35人) となる。  
 したがって、費用・便益理論を組み込んだ第4時の授業過程は、社会事象の経済学的な説明  
 を促すという点において有効と判断できる。

## 終章 研究の成果と課題

本研究は、子どもが社会事象を経済学的に説明できる小学校社会科授業の開発を目的として取り組んだものである。その背景には、次に示す2点の問題があった。

- (1) 社会認識の形成をめざし、社会事象を多面的に説明する小学校社会科授業が、日々開発、実践されている。しかし、社会事象の経済学的な説明に関しては、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が取り扱われていない。
- (2) 小学校社会科授業には、経済的な学習内容が含まれているものの、経済に関する用語のみが使用され、用語の内容は自明のものとして取り扱われている。したがって、授業者も子どもも、経済に関する用語の内容を正確に理解せず、誤解したまま使用し続けることが危惧される。

上記の2点の問題を乗り越えるため、経済分析を行う上で不可欠な「価格理論」に着目し、小学校社会科内容構成論の構築をめざした。具体的には、価格理論の構造を明らかにし、小学校社会科授業の内容に変換する方法の確立をめざした。また、理論の構築だけではなく、利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科の内容構成及び授業開発を行った。

本研究の内容が、小学校現場における授業実践の質的向上に資するだけでなく、社会科教育の分野に新たな可能性を提示することができるよう、理論の構築や授業の開発を行った。

### 第1節 研究の成果

本研究の成果は、次の4点である。

- (1) 社会科授業における社会事象の経済学的な説明を定義し、その構造を明らかにすることができた。

社会科教育における「説明」の重要性は、これまでも数多く論じられてきた。しかし、社会事象の経済学的な説明について言及した先行研究は、管見の限り存在しない。

そこで、先行研究の分析を基に、社会科授業における説明を、原因－結果、目的－手段、条件－状況の3種に分類し、それぞれの構造を明らかにした。さらに、本研究における社会事象の経済学的な説明を、次のように定義することができた。

社会事象の経済学的な説明とは、経済概念（経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容）を組み込んで、社会事象間を原因－結果、目的－手段、条件－状況の関係で示した言明である。

(2) 価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法を明らかにすることができた。

経済的な学習内容を精緻化するため、価格理論を取り扱うこととした。しかし、価格理論は抽象度が高いため、小学校段階の子どもには理解が困難である。したがって、価格理論の内容をそのまま小学校社会科授業に組み込むことはできない。そこで、価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法を検討した。

社会の一般法則として導き出された価格理論は、抽象度の高い内容で構成されている。したがって、小学校社会科授業で取り扱うためには、価格理論の抽象度を下げることが不可欠となる。先行研究を分析、検討した結果、価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法を明らかにすることができた。その方法は、次に示すとおりである。

1 教材と子どもとの近接化

- ① 小学校段階の子どもが理解できる日常用語の使用
- ② 子どもにとって身近な素材の選定
- ③ 認知的不協和の誘発や知的好奇心の刺激を基にした学習課題の設定

2 数値または概念地図による表現を用いた検証資料の作成

(3) 価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法を基に、利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業の内容を構成することができた。

価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法を基に、利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を、小学校社会科授業の内容に変換することができた。そして、学習課題の設定や検証資料の作成を行うことで、それぞれの経済概念を組み込んだ小学校社会科授業の内容を構成することができた。

(4) 利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業モデルを開発し、実践結果を分析、検討することでその有効性を証明することができた。

「第I部 価格理論を組み込んだ小学校社会科内容構成論の構築」において論じた内容を基に、次に示す4点の小学校社会科授業モデルを開発することができた。

1 利潤概念を組み込んだ小学校地域学習

第4学年「兵庫県南あわじ市のレタス作りとたまねぎ作り」

2 リスク概念を組み込んだ小学校産業学習

第5学年「高知県のナス作り」

3 需要・供給理論を組み込んだ小学校歴史学習

第6学年「大正時代の米価上昇」

4 費用・便益理論を組み込んだ小学校公民学習

第6学年「名塩道路と政治の働き」

## 終章

1～4の授業モデルの実践結果を分析した。その結果、本時の目標に到達している割合や人数は、次に示すとおりであった。

### 1 利潤概念を組み込んだ小学校地域学習 … 96.3% (26人/27人)

#### 【本時の目標】

- 兵庫県南あわじ市では、たまねぎより費用のかかるレタスの作付面積が増えている理由について、次のことが分かる。
  - ・兵庫県南あわじ市では、レタス作りのもうけは10aあたり33万円（売上60万円－費用27万円）、たまねぎ作りのもうけは10aあたり13万円（売上38万円－費用25万円）で、レタス作りの方がもうかる。

### 2 リスク概念を組み込んだ小学校産業学習

- ・利潤概念を組み込んだ授業 … 91.5% (54人/59人)

#### 【本時の目標】

- 高知県の農家が、露地栽培より費用のかかるハウス栽培をしてナスを生産する理由について、次のことが分かる。
  - ・高知県のハウス栽培のもうけは、10aあたり161万円（316万円－155万円）、露地栽培の全国平均のもうけは、10aあたり122万円（180万円－58万円）で、ハウス栽培の方がもうかる。

- ・リスク概念を組み込んだ授業 … 87.7% (50人/57人)

#### 【本時の目標】

- 同じ畑の面積（10a）なのに、露地栽培よりハウス栽培の方がナスの売上が多い理由について、次のことが分かる。
  - ・ハウス栽培は温度調節ができ、低温のリスクを防ぐことができるので、収穫量が増加する。

### 3 需要・供給理論を組み込んだ小学校歴史学習 … 94.3% (33人/35人)

#### 【本時の目標】

- 1917年から1919年にかけて米の値段が急上昇した理由について、次のことが分かる。
  - ・シベリア出兵での兵士への食糧を用意するため、日本政府は大量に米を買う必要があり、社会全体で米を買いたい量が増えた。そして、米商人は、日本政府に高く売りつけてもうけるために、買いしめや売りおしめをしたので、社会全体で米を売る量が減った。

### 4 費用・便益理論を組み込んだ小学校公民学習 … 97.1% (34人/35人)

#### 【本時の目標】

- 費用が1174億円もかかっているのに、名塩道路を開通させたことが社会全体で得だったと言い切れる理由について、次のことが分かる。
  - ・名塩道路を開通させたことによる総便益から総費用を引くと、1577億円－1174億円＝403億円となり、プラスとなる。（名塩道路を開通させたことによる総便益は1577億円であり、総費用の1174億円を上回っている。）

## 終章

1～4の分析結果から、本研究で開発した各授業モデルは、社会事象の経済学的な説明を促すという点において有効であると証明することができた。

### 第2節 今後の課題

今後の課題は、次の3点である。

#### (1) 小学校社会科授業に組み込む経済概念の種類を増やす。

本研究では、小学校段階で学習しておくべきと判断し、利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を組み込んだ授業開発を行った。しかし、社会事象の経済学的な説明を促し、子どもの社会認識を深化、拡大させる価格理論の内容は、利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論だけではない。

例えば、独占や寡占といった不完全競争市場は、自動車工業の学習をはじめとして小学校社会科の教材でも取り扱われている。しかし、本研究で開発した小学校地域学習(利潤概念)や小学校歴史学習(需要・供給理論)は、基本的に完全競争を前提としていた。不完全競争市場における価格決定を小学校社会科授業に組み込むことにより、社会事象の経済学的な説明の質的向上が期待できる。

また、費用概念にも、短期と長期という時間軸が存在する。短期費用＝可変費用＋固定費用であるのに対し、長期費用は可変費用しかない。短期費用と長期費用、可変費用と固定費用を峻別して小学校社会科授業に組み込むことも、社会事象の経済学的な説明の質的向上に寄与することが考えられる。

今後は、小学校社会科授業に組み込む経済概念の種類を増やし、研究のさらなる進展をめざす。

#### (2) 小学校社会科授業を開発する領域を拡大する。

利潤概念を組み込んだ授業は「兵庫県南あわじ市のレタス作りとたまねぎ作り」、リスク概念を組み込んだ授業は「高知県のナス作り」と、取り扱う産業は農業が中心であった。しかし、小学校社会科授業では、小売業や工業、情報産業も取り扱われる。そして、他の産業も、経済に関する法則性がはたらき、現代社会が成立している。したがって、今後は、小売業や工業、情報産業でも授業開発を行い、本研究の領域を拡大する必要がある。

本研究の領域が拡大することにより、例えば「価格理論を組み込んだ小学校産業学習」として、第3学年の小売業、第4学年の都道府県の産業、第5学年の農業、水産業、工業、情報産業を射程に入れ、学年を越えたカリキュラムの設計も可能となる。

**(3) 中学校社会科授業との接続について検討する。**

中学校社会科公民的分野経済単元では、利潤概念や需要・供給理論について学習する。しかし、 $\pi$ 型、座布団型関係なく、学習する時期は義務教育最終年度の第3学年である。社会のしくみを理解する上で重要となる利潤概念や需要・供給理論の学習が、中学校第3学年ではあまりに遅いといえる。

本研究で証明したように、利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論は、小学校社会科授業においても十分取り扱うことができる。しかし、開発した小学校社会科授業と中学校社会科公民的分野経済単元との接続については論じることができなかった。また、公民的分野だけではなく、地理的分野や歴史的分野においても、社会事象を経済学的に説明する授業は開発できる。

このように、中学校社会科も視野に入れることで、学年だけではなく校種を越えたカリキュラムの設計が可能となる。今後の課題とする。



## 謝 辞

本研究を進めるにあたり、懇切丁寧なご指導をいただいた難波安彦先生に、心から感謝申し上げます。今から7年前、兵庫教育大学の学部（社会系コース）を卒業し、小学校教員となって8年目の夏、難波先生から、「元気ですか。」とメールをいただきました。そのメールから、すべてが始まったと言っても過言ではありません。難波先生とのやりとりを通して、兵庫教育大学大学院修士課程への進学を決意いたしました。そして、修士2年目の11月、今度は「博士課程に進学しませんか。」と声をかけていただきました。驚いたと同時に、とても嬉しかったことを記憶しております。現職派遣制度による修士課程を修了し、小学校現場へと復帰いたしました。並行して、博士課程の研究も始まりました。日々の校務に追われ、研究が進まないとき、「頑張りましょう。」と励まし続けていただきました。また、私が経済理論をなかなか理解できないときも、粘り強くご指導していただきました。毎回、ゼミ後に公民資料室で食事したこと、学部時代の思い出や家族の近況を語り合ったこと、すべての思い出が私の財産です。これからも、「学び続ける姿勢」を大切に、精進いたします。

米田豊先生からは、社会科教育学の視点から、本研究の内容について、多くのご指導をいただきました。「休まず、焦らず、あきらめず。」と、温かく見守り続けてくださったことは、大きな支えとなりました。西村公孝先生からは、本研究についてはもちろん、学会誌への投稿論文についても、貴重なご意見をいただきました。その他、博士課程に関わる多くの先生方から、ご指導をいただきました。厚く御礼申し上げます。

また、博士課程で同期の植田真夕子先生とは、3年間励まし合い、共に修了することができました。とても嬉しく思います。さらに、修士時代、同期であった石田誠先生、岩下真一郎先生、魚谷亮太先生、竹内哲宏先生、西尾諭先生、薬内要先生の存在は、いつも心の支えとなっております。学会や共同研究でお会いするたびに、「一人で研究しているのではない。」と前向きになることができました。

現任校である西宮市立名塩小学校の臼井健人校長先生には、博士課程への進学にご理解をいただき、いつも温かい励ましの言葉をかけていただきました。また、小学校現場に復帰し、6年生（2017年度）、4年生（2018年度）、5年生（2019年度）で学年を組んでいただいた先生方にも、たくさんご協力いただきました。感謝申し上げます。

最後に、博士課程への進学に理解を示し、毎日笑顔で支え続けてくれた妻と二人の息子に深く感謝します。

2020年3月22日

松浪 軌道

## 〈資料編〉

兵庫教育大学大学院  
連合学校教育学研究科  
教科教育実践学専攻  
(兵庫教育大学)

松浪 軌道

平成元年版小学校指導書社会編分析票 No. 1

【分析対象】 [ 平成元年版小学校指導書社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第3学年	項目	内容(3)の解説	頁数	pp.20-21
分析対象の記述 (対象箇所は太字)		その際、観察や調査活動を通して、地域の人々は、目的に合わせて、品質や価格などを考え商店や商店街を選択しているし、商店や商店街でもアーケードや街灯などの施設や設備を整えたり、 <b>ちらしなどを配布したりして客を集める</b> 工夫を理解させるようにする。			

【視点1】 社会事象間の関係を、原因-結果、目的-手段、条件-状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因-結果 <input checked="" type="checkbox"/> 目的-手段 <input type="checkbox"/> 条件-状況		
説明の内容構成	<b>【目的】</b> 客を集める。	<b>【手段】</b> ちらしなどを配布する。	比較

【視点2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	宣伝	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	情報の受け手の考えや行動を宣伝者の目標の方向に誘導し、特定の主義、主張を広めようとする計画的な情報伝達活動(②,p.745)	

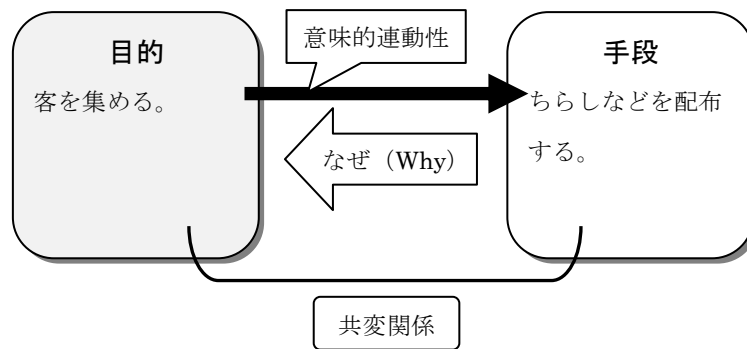
↓ 法則性(社会事象間や概念間に成立する関係)の抽出

意味に含まれる法則性	情報の受け手の考えや行動における宣伝者の目標の方向への誘導	特定の主義、主張の広まり
------------	-------------------------------	--------------

【視点3】 経済概念の説明(原因-結果、目的-手段、条件-状況)への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因(目的, 条件)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果(手段, 状況)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果(目的と手段, 条件と状況)の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因(目的, 条件)にも結果(手段, 状況)にも組み込まれていない。
-----------------	---

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【宣伝】 情報の受け手の考えや行動における宣伝者の目標の方向への誘導により、特定の主義、主張が広まる。

○ 分析結果の考察

経済概念【宣伝】の内容が確認できるものの、「ちらしなどを配布する。」という具体的な行動例を示すにとどまっている。そして、法則性をもつ内容は、目的-手段の関係に組み込まれていない。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述とはいえない。

## 平成元年版小学校指導書社会編分析票 No. 2

【分析対象】 [ 平成元年版小学校指導書社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第5学年	項目	内容(1) -アの解説	頁数	p.45
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	こうした学習を通して、水産物は国民の食生活の中で主要な部分を占めており、 <b>国民の食料を確保し、水産業を発展させるためには、水産資源の保護や育成が大切であることを理解させるようにすることが大切である。</b>				

【視点1】 社会事象間の関係を、原因-結果、目的-手段、条件-状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因-結果	<input checked="" type="checkbox"/> 目的-手段	<input type="checkbox"/> 条件-状況
説明の内容構成	【目的】国民の食料を確保し、水産業を発展させる。	【手段】水産資源の保護や育成をする。	

比較

【視点2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	資源	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (②,p.504)	

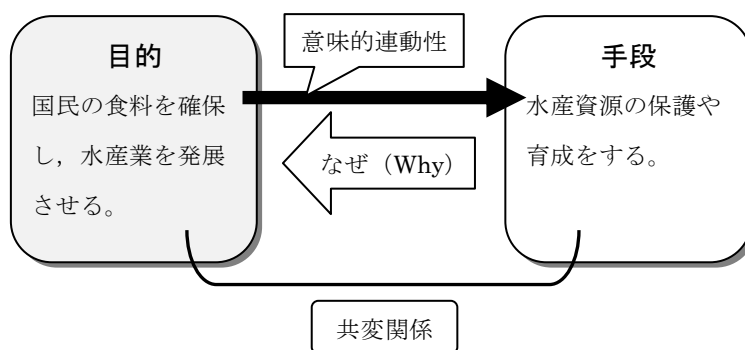
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	*法則性なし	*法則性なし
------------	--------	--------

【視点3】 経済概念の説明 (原因-結果, 目的-手段, 条件-状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点3は分析しない。
-----------------	--	---------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【資源】 生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (法則性なし)

○ 分析結果の考察

経済概念【資源】の内容が確認できるものの、「水産資源の保護や育成」という具体的な取り扱いを示すにとどまっている。また、資源の意味からも、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) は抽出されていない。したがって、社会事象を経済的に説明した記述にはならない。

## 平成元年版小学校指導書社会編分析票 No. 3

【分析対象】 [ 平成元年版小学校指導書社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第5学年	項目	内容(2) -アの解説	頁数	p.47
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	また、工業生産では、原料や燃料を必要とするばかりではなく、様々な加工を行って製品を造るので、生産の過程で各種の廃棄物を排出することになる。				

【視点1】社会事象間の関係を、原因-結果、目的-手段、条件-状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因-結果 <input type="checkbox"/> 目的-手段 <input type="checkbox"/> 条件-状況			比較
説明の内容構成	【原因】工業生産では、原料や燃料ばかりではなく、様々な加工を行って製品を造る。	【結果】生産の過程で各種の廃棄物を排出することになる。		

【視点2】分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	工業	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	自然物にいく段階かの加工作業を加えて、自然物とは形状や質量が異なる非自然物を生産する加工産業 (①,p.377)	

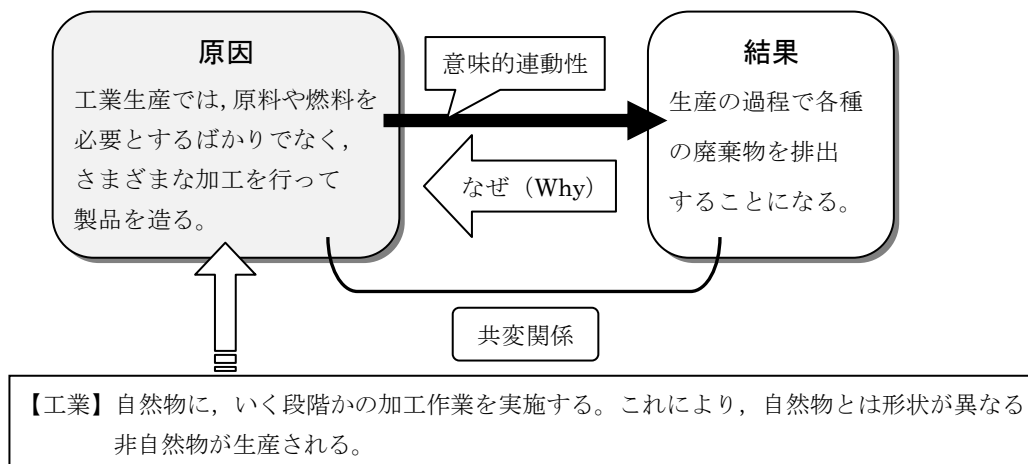
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	自然物へのいく段階かの加工作業の実施	自然物とは形状が異なる非自然物の生産
------------	--------------------	--------------------

【視点3】経済概念の説明(原因-結果、目的-手段、条件-状況)への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input checked="" type="checkbox"/> A 原因(目的, 条件)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果(手段, 状況)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果(目的と手段, 条件と状況)の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因(目的, 条件)にも結果(手段, 状況)にも組み込まれていない。
-----------------	---

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



○ 分析結果の考察

原因に示された「工業生産では、原料や燃料を必要とするばかりではなく、さまざまな加工を行って製品を造る。」という記述は、経済概念【工業】に関する内容である。また、工業の意味から、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が確認できる。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述といえる。

## 平成元年版小学校指導書社会編分析票 No. 4

【分析対象】 [ 平成元年版小学校指導書社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第5学年	項目	内容(3)ーアの解説	頁数	p.50
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	例えば、陸上での運輸業では、トラック輸送は、トラックのもつ機能性を生かしつつ、 <b>高速道路をはじめ幹線道路網の整備によりめざましい発展を遂げ</b> 、今日では日本のどこへでも短時間に物を運ぶことができる。このことによって、国民生活を便利にし、産業の発展を支えている。				

【視点1】社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果	<input type="checkbox"/> 目的－手段	<input type="checkbox"/> 条件－状況	比較
説明の内容構成	【原因】トラック輸送は、トラックのもつ機能性を生かしつつ、高速道路をはじめ幹線道路網の整備によりめざましい発展を遂げ、今日では日本のどこへでも短時間に物を運ぶことができる。	【結果】国民生活を便利にし、産業の発展を支えている。		

【視点2】分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	輸送	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	交通のうち、人間と物の移動 (①,p.399)	

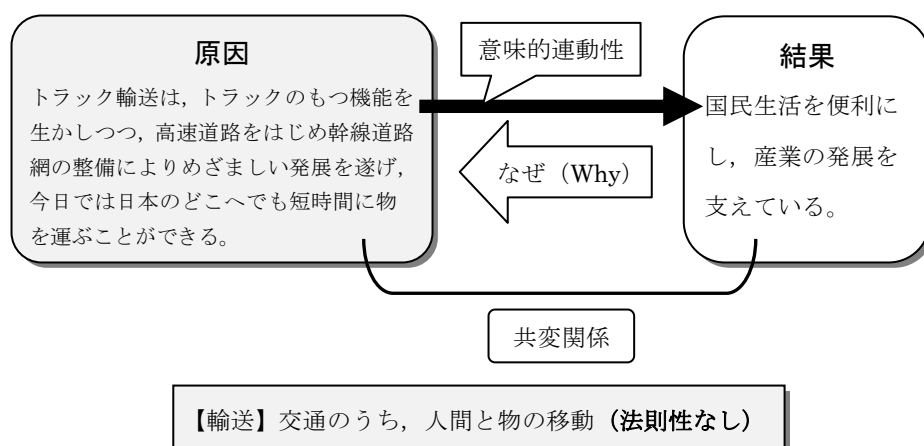
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	*法則性なし	*法則性なし
------------	--------	--------

【視点3】経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点3は分析しない。
-----------------	--	---------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



○ 分析結果の考察

経済概念【輸送】の内容が確認できる。しかし、輸送の意味から、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) が抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述にはならない。

## 平成元年版小学校指導書社会編分析票 No. 5

【分析対象】 [ 平成元年版小学校指導書社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第5学年	項目	内容(3) -アの解説	頁数	p.50
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	また、 <b>鉄道輸送</b> でも、特に新幹線の整備や橋、トンネルの建設等によって日本の各地により一層短時間で移動できるようになり、国民の生活や仕事の仕方に影響を与えている。				

【視点1】 社会事象間の関係を、原因-結果、目的-手段、条件-状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因-結果	<input type="checkbox"/> 目的-手段	<input type="checkbox"/> 条件-状況
説明の内容構成	【原因】 鉄道輸送では、特に新幹線の整備や橋、トンネルの建設等によって日本の各地により一層短時間で移動できるようになった。		【結果】 国民の生活や仕事の仕方に影響を与えている。

比較

【視点2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	輸送	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	交通のうち、人間と物の移動 (①,p.399)	

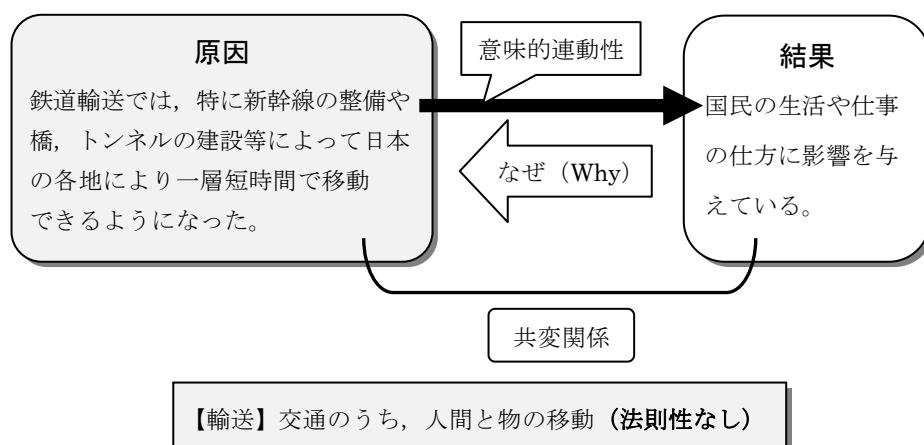
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	*法則性なし	*法則性なし
------------	--------	--------

【視点3】 経済概念の説明 (原因-結果、目的-手段、条件-状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点3は分析しない。
-----------------	---	---------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



○ 分析結果の考察

経済概念【輸送】の内容が確認できる。しかし、輸送の意味から、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) が抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述にはならない。

平成元年版小学校指導書社会編分析票 No. 6

【分析対象】 [ 平成元年版小学校指導書社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第5学年	項目	内容(3)ーイの解説	頁数	p.53
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	ところで、このような産業の発展によって、 <b>情報化の進展</b> ということが言われること から、 <b>人々が</b> 、その中で生きていくには、 <b>情報の正しい収集や活用</b> の仕方、 <b>伝達の方法</b> を身に付けることが大切であることに気付かせるようにすることも大切なことである。				

【視点1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果	<input type="checkbox"/> 目的－手段	<input type="checkbox"/> 条件－状況	比較
説明の内容構成	【原因】情報化の進展と いうことが言われる。	【結果】人々が、その中で生きていくには、情報の 正しい収集や活用 の仕方、伝達の方法を身に付ける ことが大切である。		

【視点2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	情報	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の 意味	個人や組織の意思決定の根拠となる有意味な記号、信号、符号の集合体 (②,p.625)	

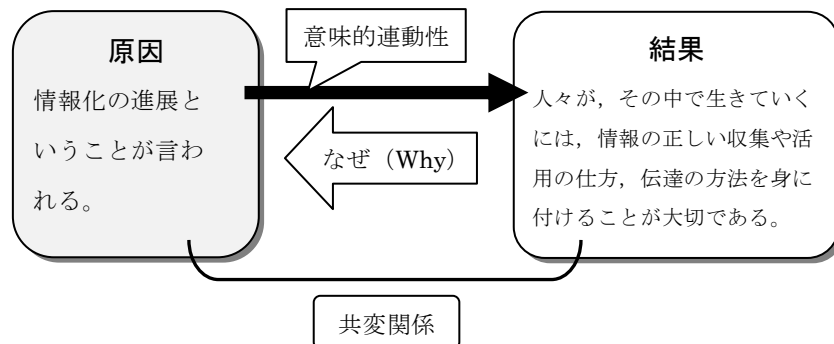
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる 法則性	*法則性なし	法則性なし
----------------	--------	-------

【視点3】 経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への 組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかった ため、視点3は分析しない。
---------------------	--	-------------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【情報】 個人や組織の意思決定の根拠となる有意味な記号、信号、符号の集合体 (法則性なし)

○ 分析結果の考察

経済概念【情報】の内容が確認できるものの、情報を取り扱う際に必要となる能力を示すにとどまっている。また、情報の意味から、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) が抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述にはならない。



## 平成 10 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 1

【分析対象】 [ 平成 10 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 3・4 学年	項目	内容 (3) -イの解説	頁数	p.35
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	「これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること」を調べるとは、 <b>飲料水、電気、ガス</b> については生活に必要な量を常に確保し、安定供給を図るために、(後略：松浪)				

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果	<input checked="" type="checkbox"/> 目的－手段	<input type="checkbox"/> 条件－状況
説明の内容構成	【目的】 安定供給を図る。	【手段】飲料水、電気、ガスについては生活に必要な量を常に確保する。	

比較

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	資源	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の 意味	生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (②,p.504)	

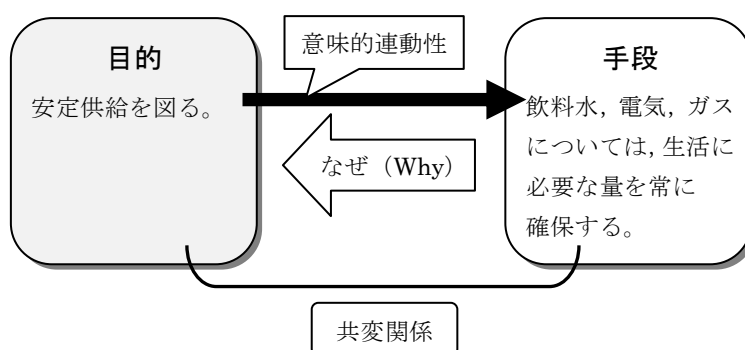
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる 法則性	* 法則性なし	* 法則性なし
----------------	---------	---------

【視点 3】 経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への 組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点 3 は分析しない。
---------------------	--	-----------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【資源】 生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (法則性なし)

○ 分析結果の考察

経済概念【資源】の内容が確認できるものの、「飲料水、電気、ガス」という具体例を示すにとどまっている。また、資源の意味からも、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) は抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述にはならない。

平成 10 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 2

【分析対象】 [ 平成 10 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 3・4 学年	項目	内容 (3) -イの解説	頁数	p.36
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	ここでは、 <b>火力発電の燃料である石油や液化天然ガスなどを確保するため、これらを外国から輸入していること</b> や (後略：松浪)				

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果 <input checked="" type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況		比較
説明の内容構成	【目的】 火力発電の燃料である石油や液化天然ガスなどを確保する。	【手段】 外国から輸入する。	

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	資源	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (②,p.504)	

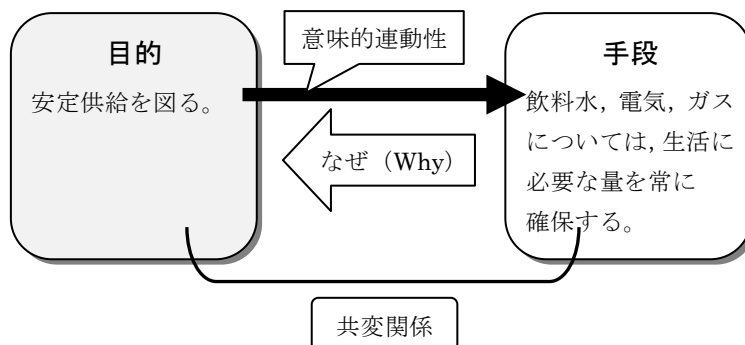
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	*法則性なし	*法則性なし
------------	--------	--------

【視点 3】 経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点 3 は分析しない。
-----------------	--	-----------------------------

○ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【資源】 生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (法則性なし)

○ 分析結果の考察

経済概念【資源】の内容が確認できるものの、「石油や液化天然ガス」という具体例を示すにとどまっている。また、資源の意味からも、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) は抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述にはならない。

平成 10 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 3

【分析対象】 [ 平成 10 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 5 学年	項目	内容 (1) -ウの解説	頁数	p.62
分析対象の記述 (対象箇所は太字)		(前略：松浪) 水産業では、漁業技術の改善に努めるとともに、 <b>水産資源の保護、育成を図るために栽培漁業などに取り組んでいる</b> 事例などを取り上げることが考えられる。			

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果 <input checked="" type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況			比較
説明の内容構成	【目的】 水産資源の保護、育成を図る。	【手段】 栽培漁業などに取り組む。		

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	資源	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (②,p.504)	

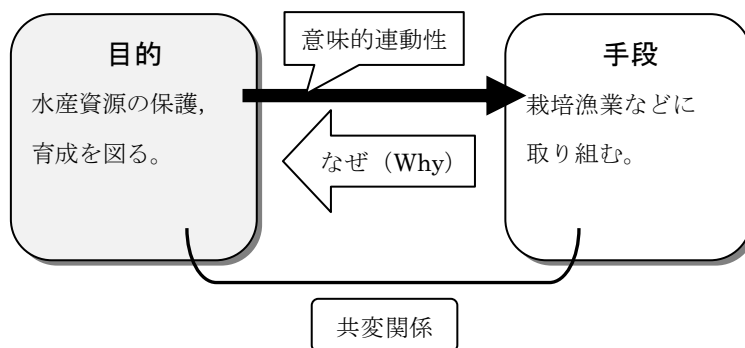
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	* 法則性なし	* 法則性なし
------------	---------	---------

【視点 3】 経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点 3 は分析しない。
-----------------	--	-----------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【資源】 生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (法則性なし)

○ 分析結果の考察

経済概念【資源】の内容が確認できるものの、「栽培漁業」という具体的な取り組みを示すにとどまっている。また、資源の意味からも、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) は抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述にはならない。

## 平成 10 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 4

【分析対象】 [ 平成 10 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 5 学年	項目	内容 (1) -ウの解説	頁数	p.63
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	例えば野菜の生産に従事している人々は、その鮮度を保つために運輸に携わっている人々と協力して、トラックや鉄道、カーフェリー、飛行機などを利用して遠距離の消費地に生鮮野菜を出荷していることを取り上げ、(後略：松浪)				

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果	<input checked="" type="checkbox"/> 目的－手段	<input type="checkbox"/> 条件－状況	比較
説明の内容構成	【目的】 鮮度を保つ。	【手段】 野菜の生産に従事している人々は、運輸に携わっている人々と協力して、トラックや鉄道、カーフェリー、飛行機などを利用して遠距離の消費地に生鮮野菜を出荷している。		

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	輸送	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	交通のうち、人間と物の移動 (①,p.399)	

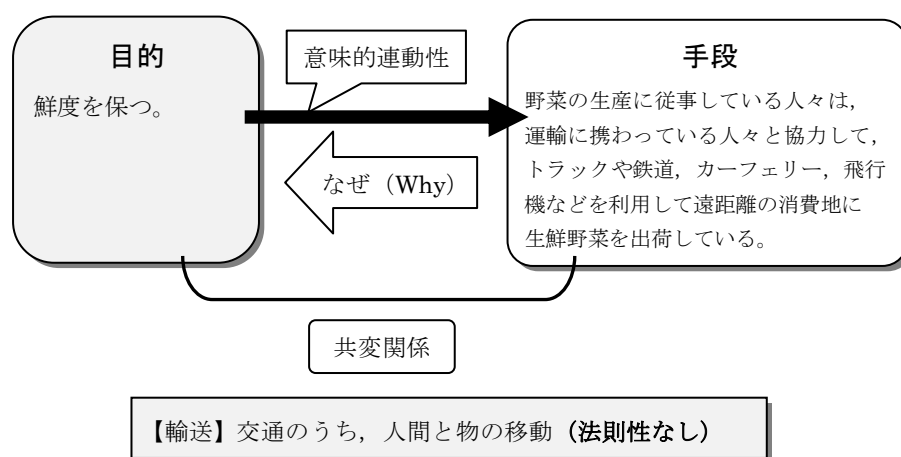
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	*法則性なし	*法則性なし
------------	--------	--------

【視点 3】 経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点 3 は分析しない。
-----------------	--	-----------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



○ 分析結果の考察

経済概念【輸送】の内容が確認できる。しかし、輸送の意味から、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) が抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述にはならない。

平成 10 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 5

【分析対象】 [ 平成 10 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 5 学年	項目	内容 (3) -イの解説	頁数	p.70
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	放送を取り上げた場合には、例えば、 <b>ニュース番組をつくる人々が事件や出来事の取材から編集・放映までの間に互いに連携を取り合い、正確な情報を速く、分かりやすく伝えるための工夫や努力をしていることを調べる</b> ことが考えられる。				

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果	<input checked="" type="checkbox"/> 目的－手段	<input type="checkbox"/> 条件－状況
説明の内容構成	【目的】 正確な情報を速く、分かりやすく伝える。	【手段】 ニュース番組をつくる人々が事件や出来事の取材から編集・放映までの間に互いに連携を取り合う。	

比較

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	情報	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	個人や組織の意思決定の根拠となる有意味な記号、信号、符号の集合体 (②,p.625)	

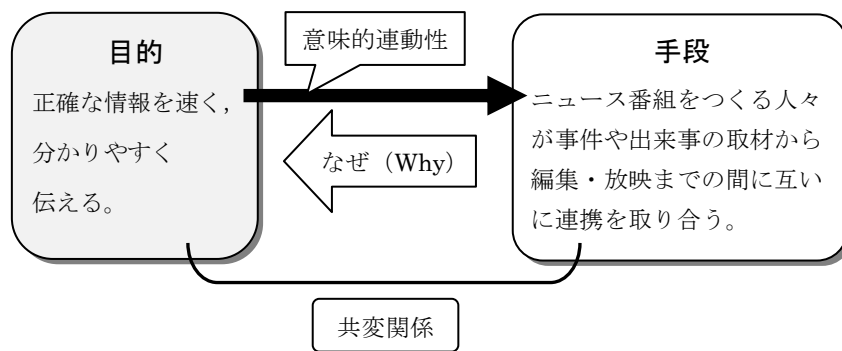
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	* 法則性なし	* 法則性なし
------------	---------	---------

【視点 3】 経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点 3 は分析しない。
-----------------	--	-----------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【情報】 個人や組織の意思決定の根拠となる有意味な記号、信号、符号の集合体 (法則性なし)

○ 分析結果の考察

経済概念【情報】の内容が確認できるものの、「ニュース番組をつくる人々が事件や出来事の取材から編集・放映までの間に互いに連携を取り合う。」という情報伝達に向けての取り組みを示すにとどまっている。また、情報の意味からも、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) が抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述にはならない。

## 平成 10 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 6

【分析対象】 [ 平成 10 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 5 学年	項目	内容 (3) -イの解説	頁数	p.70
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	(前略:松浪) また電信電話を取り上げた場合には、 <b>電話をはじめ、ファックス、コンピュータなどの情報機器によって、情報を確実に速く伝えるための工夫や努力について、それぞれ調べる</b> ことが考えられる。				

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果	<input checked="" type="checkbox"/> 目的－手段	<input type="checkbox"/> 条件－状況
説明の内容構成	【目的】 情報を確実に速く伝える。	【手段】 電話をはじめ、ファックス、コンピュータなどの情報機器を使用する。	

比較

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	情報	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	個人や組織の意思決定の根拠となる有意味な記号、信号、符号の集合体 (②,p.625)	

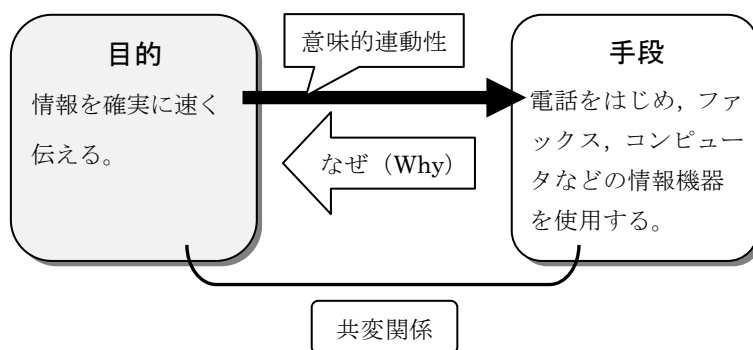
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	* 法則性なし	* 法則性なし
------------	---------	---------

【視点 3】 経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点 3 は分析しない。
-----------------	--	-----------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【情報】 個人や組織の意思決定の根拠となる有意味な記号、信号、符号の集合体 (法則性なし)

○ 分析結果の考察

経済概念【情報】の内容が確認できるものの、「電話をはじめ、ファックス、コンピュータなどの情報機器」という具体的な伝達機器を示すにとどまっている。また、情報の意味からも、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) が抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述にはならない。

平成 10 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 7

【分析対象】 [ 平成 10 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 5 学年	項目	内容 (4) -イの解説	頁数	p.73
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	ここでは、 <b>廃棄物などの適切な処理を怠ってきた結果として人々に有害な影響を及ぼす公害が発生し、国民の健康や生活環境が脅かされてきた</b> ことを具体的事例を通して調べて、(後略：松浪)				

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況			比較
説明の内容構成	【原因】廃棄物などの適切な処理を怠ってきた。	【結果】人々に有害な影響を及ぼす公害が発生し、国民の健康や生活環境が脅かされてきた。		

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	公害	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	主として環境汚染に伴う各種の被害 (大気汚染, 水質汚濁, 土壌汚染, 騒音・振動, 悪臭など) (②,p.341)	

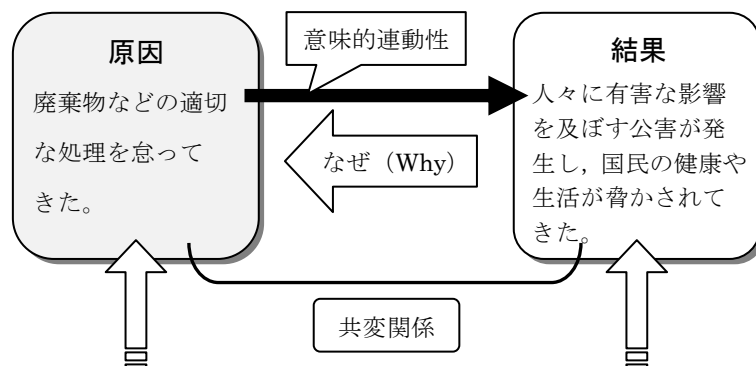
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	主として環境汚染に伴う	各種の被害 (大気汚染, 水質汚濁, 土壌汚染, 騒音・振動, 悪臭など)
------------	-------------	---------------------------------------

【視点 3】 経済概念の説明 (原因－結果, 目的－手段, 条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。
-----------------	---

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【公害】主として環境汚染に伴い、各種の被害 (大気汚染, 水質汚濁, 土壌汚染, 騒音など) が発生する。

○ 分析結果の考察

原因と結果に示された「廃棄物などの適切な処理を怠ってきた結果として人々に有害な影響を及ぼす公害が発生し、国民の健康や生活環境が脅かされてきた」という記述は、経済概念【公害】に関する内容である。また、公害の意味から、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が確認できる。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述といえる。

平成 10 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 8

【分析対象】 [ 平成 10 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 5 学年	項目	内容 (4) -ウの解説	頁数	p.74
分析対象の記述 (対象箇所は太字)		(前略：松浪) <b>国土に広がる森林が、木材を生産するだけではなく、国土の保全や水資源の涵養のために大切な働きを</b> しており、我が国の国土の環境保全に欠かすことのできない資源として重要な役割をしていることを具体的に調べることである。			

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況		
説明の内容構成	<b>【原因】</b> 国土に広がる森林。	<b>【結果】</b> 木材を生産するだけではなく、国土の保全や水資源の涵養のために大切な働きをしている。	

比較

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	資源	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (②,p.504)	

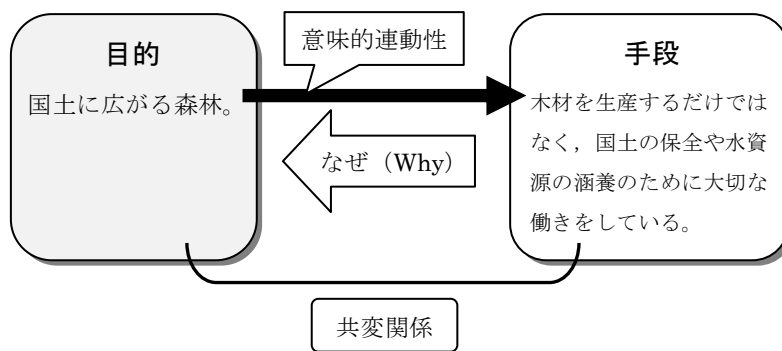
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	* 法則性なし	* 法則性なし
------------	---------	---------

【視点 3】 経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点 3 は分析しない。
-----------------	--	-----------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【資源】 生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (法則性なし)

○ 分析結果の考察

経済概念【資源】の内容が確認できる。しかし、資源の意味から、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) が抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述にはならない。



平成 20 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 1

【分析対象】 [ 平成 20 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 3・4 学年	項目	内容 (3) -イの解説	頁数	p.31
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	「これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること」を調べるとは、 <b>飲料水、電気、ガス</b> については生活や産業に必要な量を常に確保し安定供給を図るための対策や事業を、(後略：松浪)				

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果 <input checked="" type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況		比較
説明の内容構成	<b>【目的】</b> 安定供給を図る。	<b>【手段】</b> 飲料水、電気、ガスについては生活や産業に必要な量を常に確保する。	

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	資源	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (②,p.504)	

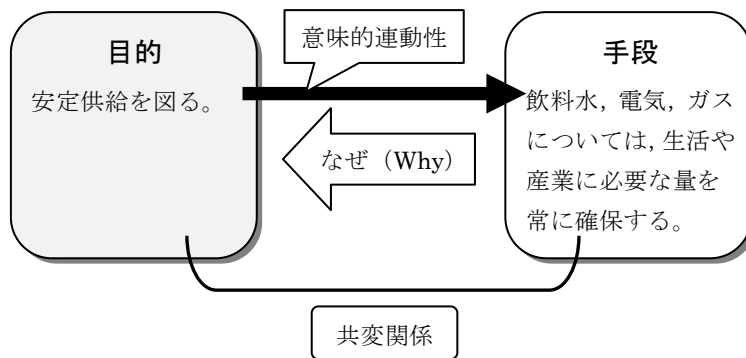
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	* 法則性なし	* 法則性なし
------------	---------	---------

【視点 3】 経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点 3 は分析しない。
-----------------	--	-----------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【資源】 生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (法則性なし)

○ 分析結果の考察

経済概念【資源】の内容が確認できるものの、「飲料水、電気、ガス」という具体例を示すにとどまっている。また、資源の意味からも、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) は抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述にはならない。

## 平成 20 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 2

【分析対象】 [ 平成 20 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 3・4 学年	項目	内容 (3) -イの解説	頁数	p.31
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	飲料水の確保については、需要の増加に対して、 <b>水源を確保・維持するために森林が保全されていること、ダムや浄水場の建設が計画的に進められていること、それらの対策や事業は他の市や県の協力を得ながら行われていること、地域の人々も節水や水の再利用などに協力していること</b> を取り上げることが考えられる。				

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果	<input checked="" type="checkbox"/> 目的－手段	<input type="checkbox"/> 条件－状況	比較
説明の内容構成	【目的】 水源を確保・維持する。	【手段】森林を保全している。ダムや浄水場の建設を計画的に進めている。それらの対策や事業は他の市や県の協力を得ながら行われている。地域の人々も節水や水の再利用などに協力している。		

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	資源	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (②,p.504)	

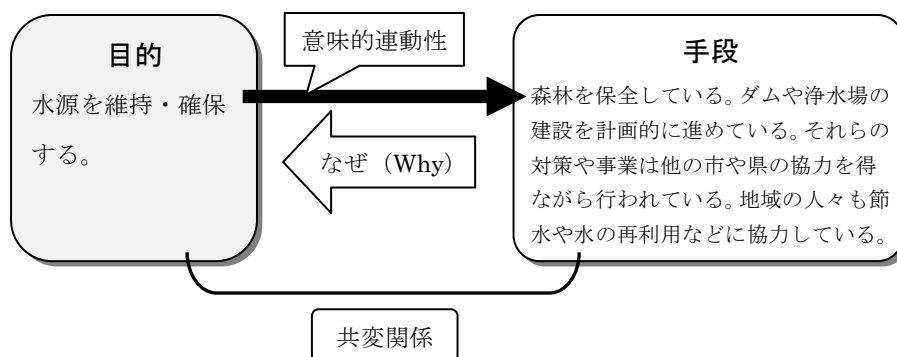
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる 法則性	* 法則性なし	* 法則性なし
----------------	---------	---------

【視点 3】 経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点 3 は分析しない。
-----------------	--	-----------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【資源】 生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (法則性なし)

○ 分析結果の考察

経済概念【資源】の内容が確認できるものの、森林の保全やダム、浄水場の建設といった水源確保の具体的な手段を示すにとどまっている。また、資源の意味からも、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) は抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述にはならない。

平成 20 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 3

【分析対象】 [ 平成 20 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 5 学年	項目	内容 (1) -ウの解説	頁数	p.54
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	ここでは、産業の発展、生活様式の変化や都市化の進展などにより増加した <b>廃棄物の不適切な処理の結果として人々に有害な影響を及ぼす公害が発生し、国民の健康や生活環境が脅かされてきたこと</b> や、(後略：松浪)				

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況		
説明の内容構成	【原因】生活様式の変化や都市化により増加した廃棄物の不適切な処理。	【結果】人々に有害な影響を及ぼす公害が発生し、国民の健康や生活環境が脅かされてきた。	比較

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	公害	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	主として環境汚染に伴う各種の被害 (大気汚染, 水質汚濁, 土壌汚染, 騒音・振動, 悪臭など) (②,p.341)	

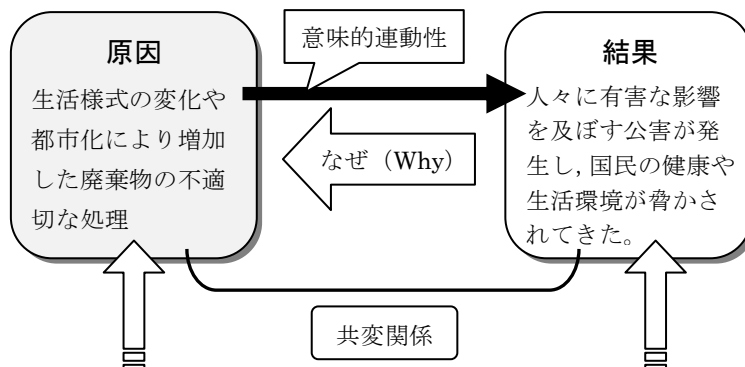
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	主として環境汚染に伴う	各種の被害 (大気汚染, 水質汚濁, 土壌汚染, 騒音・振動, 悪臭など)
------------	-------------	---------------------------------------

【視点 3】 経済概念の説明 (原因－結果, 目的－手段, 条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。
-----------------	---

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【公害】主として環境汚染に伴い、各種の被害 (大気汚染, 水質汚濁, 土壌汚染, 騒音など) が発生する。

○ 分析結果の考察

原因と結果に示された「生活様式の変化や都市化の進展などにより増加した廃棄物の不適切な処理の結果として人々に有害な影響を及ぼす公害が発生し、国民の健康や生活環境が脅かされてきた。」という記述は、経済概念【公害】に関する内容である。また、公害の意味から、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が確認できる。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述といえる。

平成 20 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 4

【分析対象】 [ 平成 20 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 5 学年	項目	内容 (2) -ウの解説	頁数	p.59
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	また、水産業については漁業技術の改善に努めるとともに、 <b>水産資源の保護、育成を図るために栽培漁業などに取り組んでいる</b> ことを取り上げることが考えられる。				

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果 <input checked="" type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況		比較
説明の内容構成	<b>【目的】</b> 水産資源の保護、育成を図る。	<b>【手段】</b> 栽培漁業などに取り組む。	

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	資源	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の 意味	生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (②,p.504)	

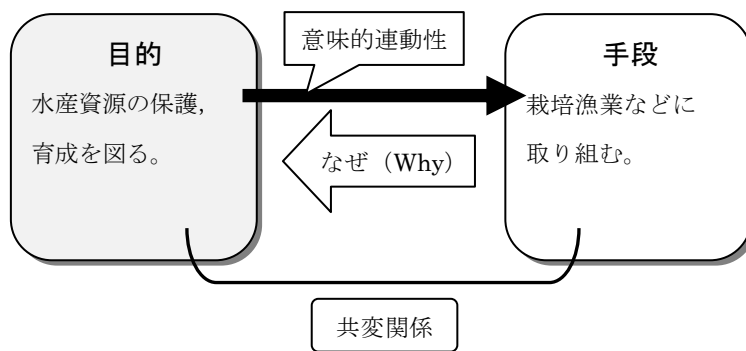
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる 法則性	* 法則性なし	* 法則性なし
----------------	---------	---------

【視点 3】 経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への 組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点 3 は分析しない。
---------------------	--	-----------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【資源】 生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (法則性なし)

○ 分析結果の考察

経済概念【資源】の内容が確認できるものの、「栽培漁業」という具体的な取り組みを示すにとどまっている。また、資源の意味からも、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) は抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述にはならない。

## 平成 20 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 5

【分析対象】 [ 平成 20 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 5 学年	項目	内容 (2) -ウの解説	頁数	pp.59-60
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	例えば、 <b>野菜の生産に従事している人々が</b> 、その鮮度を保つために <b>運輸に携わっている人々と協力して</b> 、トラックや鉄道、カーフェリー、飛行機などを利用して <b>遠距離の消費地に生鮮野菜を出荷している</b> ことを取り上げ、(後略：松浪)				

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果	<input checked="" type="checkbox"/> 目的－手段	<input type="checkbox"/> 条件－状況
説明の内容構成	【目的】鮮度を保つ。	【手段】野菜の生産に従事している人々が、運輸に携わっている人々と協力して、トラックや鉄道、カーフェリー、飛行機などを利用して遠距離の消費地に生鮮野菜を出荷している。	

比較

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	輸送	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	交通のうち、人間と物の移動 (①,p.399)	

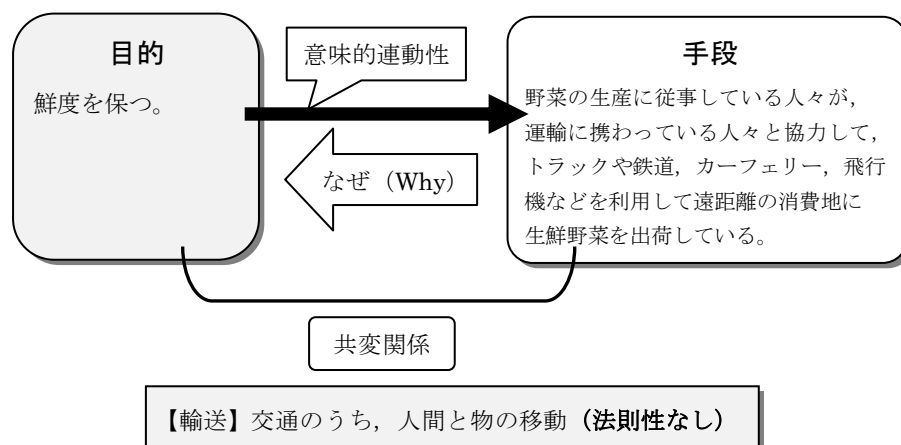
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	*法則性なし	*法則性なし
------------	--------	--------

【視点 3】 経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点 3 は分析しない。
-----------------	--	-----------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



○ 分析結果の考察

経済概念【輸送】の内容が確認できる。しかし、輸送の意味から、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) が抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述にはならない。

## 平成 20 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 6

【分析対象】 [ 平成 20 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 5 学年	項目	内容 (4) ーイの解説	頁数	p.68
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	(前略：松浪) <b>多種多様な情報を必要に応じて瞬時に受信したり発信したりすることができる情報ネットワークの働きが、</b> 公共サービスの向上のために利用され、国民生活に様々な影響を及ぼしていることを具体的に調べることである。				

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果	<input checked="" type="checkbox"/> 目的－手段	<input type="checkbox"/> 条件－状況
説明の内容構成	【目的】公共サービスを向上させる。	【手段】多種多様な情報を必要に応じて受信したり発信したりすることができる情報ネットワークの働きを利用する。	

比較

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	情報ネットワーク	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	各種情報を有効に運営管理し、目的に応じて利用者が効率的に有効に利用できるための網状連結手法、またはその回線。これによって利用者間の電子的なコミュニケーション効果・仲介効果・統合効果による調整機能が高まる。	

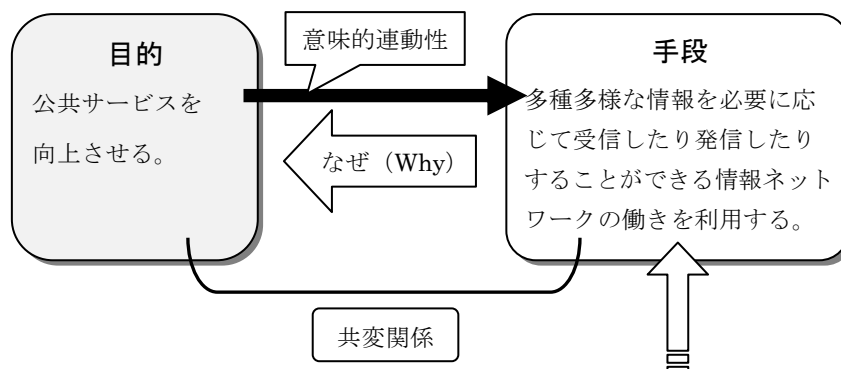
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	各種情報を有効に運営管理し、目的に応じて利用者が効率的に有効に利用できるための網状連結手法、またはその回線	利用者間の電子的なコミュニケーション効果・仲介効果・統合効果による調整機能の向上
------------	---	--

【視点 3】 経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。
-----------------	---

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【情報ネットワーク】 各種情報を有効に運営管理し、目的に応じて利用者が効率的に有効に利用できるための網状連結手法、またはその回線により、利用者間の電子的なコミュニケーション効果・仲介効果・統合効果による調整機能が向上する。

○ 分析結果の考察

手段に示された「多種多様な情報を必要に応じて受信したり発信したりすることができる情報ネットワークの働きを利用する」という記述は、経済概念【情報ネットワーク】に関する内容である。また、情報ネットワークの意味から、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が確認できる。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述といえる。

平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 1

【分析対象】 [ 平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 4 学年	項目	内容 (2) -ア- (ア) の解説	頁数	p.54
分析対象の記述 (対象箇所は太字)		(前略：松浪) 飲料水、電気、ガスを供給する事業においては、現在に至るまでに安全かつ安定的に供給する仕組みがつくれ、計画的に改善されてきたことや、その結果、地域の公衆衛生が向上し、健康な生活が維持・向上できたことなどを基に、飲料水、電気、ガスを供給する事業について理解することである。			

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果	<input type="checkbox"/> 目的－手段	<input type="checkbox"/> 条件－状況	比較
説明の内容構成	【原因】飲料水、電気、ガスを供給する事業においては、現在に至るまでに安全かつ安定的に供給する仕組みがつくれ、計画的に改善されてきた。		【結果】地域の公衆衛生が向上し、健康な生活が維持・向上できた。	

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	資源	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (②,p.504)	

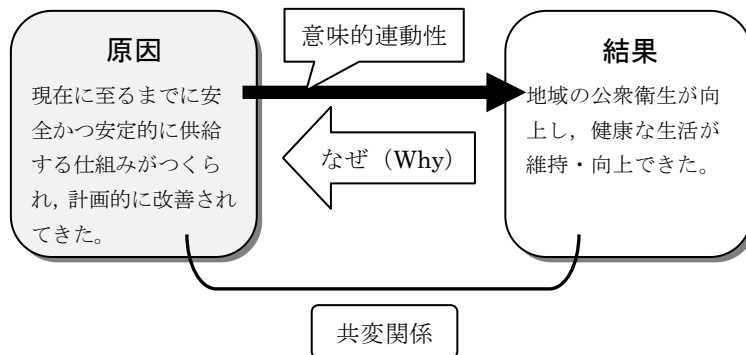
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	* 法則性なし	* 法則性なし
------------	---------	---------

【視点 3】 経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点 3 は分析しない。
-----------------	--	-----------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【資源】 生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (法則性なし)

○ 分析結果の考察

経済概念【資源】の内容が確認できるものの、「飲料水、電気、ガス」という具体例を示すにとどまっている。また、資源の意味からも、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) は抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述にはならない。

平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 2

【分析対象】 [ 平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 5 学年	項目	内容 (3) -イ- (イ) の解説	頁数	p.80
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	輸送に着目するとは、トラックや鉄道などによる陸上輸送や、貨物船やカーフェリーなどによる海上輸送、飛行機による航空輸送を使って鮮度を保ちながら生産物を国内外に届ける工夫について調べることである。				

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因-結果、目的-手段、条件-状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因-結果	<input checked="" type="checkbox"/> 目的-手段	<input type="checkbox"/> 条件-状況	比較
説明の内容構成	【目的】鮮度を保ちながら生産物を国内外に届ける。	【手段】トラックや鉄道などによる陸上輸送や、貨物船やカーフェリーなどによる海上輸送、飛行機による航空輸送を使う。		

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	輸送	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	交通のうち、人間と物の移動 (①,p.399)	

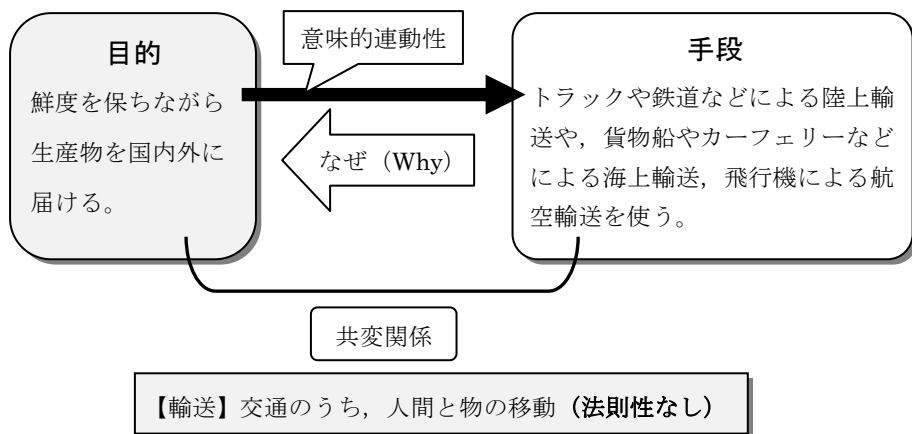
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	*法則性なし	*法則性なし
------------	--------	--------

【視点 3】 経済概念の説明 (原因-結果、目的-手段、条件-状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点 3 は分析しない。
-----------------	--	-----------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



○ 分析結果の考察

経済概念【輸送】の内容が確認できる。しかし、輸送の意味から、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) が抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述にはならない。



## 平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 3

【分析対象】 [ 平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 5 学年	項目	(2) における内容の取扱い (2) -イの解説	頁数	p.81
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	(前略：松浪) 水産物の生産では、魚群探知や養殖などに最新の技術を使っていることや <b>持続可能な漁業を目指し水産資源を保護している</b> こと、さらに、生産・加工・販売を関連付けた、いわゆる「6次産業化」の動きなど新しい取組を取り上げることが考えられる。				

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果 <input checked="" type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況		
説明の内容構成	【目的】 持続可能な漁業を目指す。	【手段】 水産資源を保護している。	比較

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	資源	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の 意味	生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (②,p.504)	

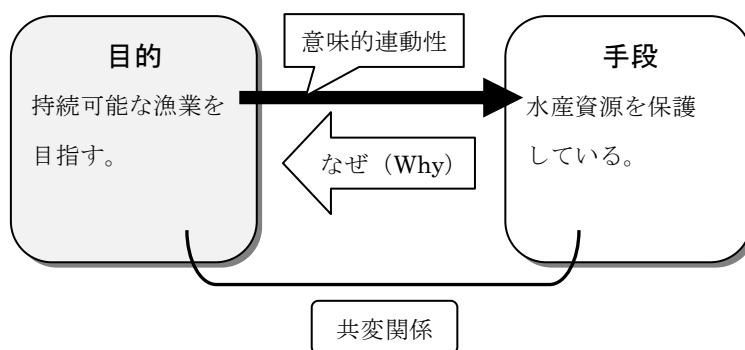
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる 法則性	* 法則性なし	* 法則性なし
----------------	---------	---------

【視点 3】 経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への 組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点 3 は分析しない。
---------------------	--	-----------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【資源】 生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (法則性なし)

○ 分析結果の考察

経済概念【資源】の内容が確認できるものの、「水産資源の保護」という方向性を示すにとどまっている。また、資源の意味からも、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) は抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述にはならない。

平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 4

【分析対象】 [ 平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 5 学年	項目	内容 (3) の解説	頁数	p.82
分析対象の記述 (対象箇所は太字)		我が国の工業生産とは、我が国における工場での生産活動であり、 <b>原材料を加工しその形や性質を変えたり、部品を組み立てたりして生活や産業に役立つ製品を作り出している工業</b> を指している。			

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果	<input checked="" type="checkbox"/> 目的－手段	<input type="checkbox"/> 条件－状況
説明の内容構成	【目的】生活や産業に役立つ製品を作り出している。	【手段】原材料を加工しその形や性質を変えたり、部品を組み立てたりする。	

比較

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	工業	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	自然物にいく段階かの加工作業を加えて、自然物とは形状や質量が異なる非自然物を生産する加工産業 (①,p.377)	

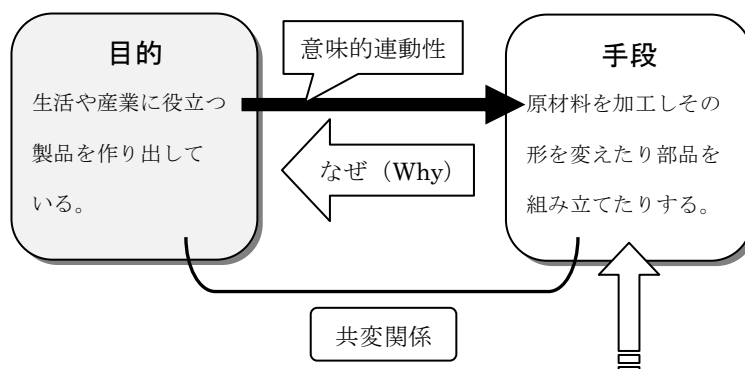
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	自然物へのいく段階かの加工作業の実施	自然物とは形状が異なる非自然物の生産
------------	--------------------	--------------------

【視点 3】 経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。
-----------------	---

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【工業】自然物に、いく段階かの加工作業を実施する。これにより、自然物とは形状が異なる非自然物が生産される。

○ 分析結果の考察

手段に示された「原材料を加工しその形を変えたり部品を組み立てたりする。」という記述は、経済概念【工業】に関する内容である。また、工業の意味から、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が確認できる。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述といえる。

平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 5

【分析対象】 [ 平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 5 学年	項目	内容 (4) -ア- (イ) の解説	頁数	p.88
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	(前略：松浪) 国民がコンピュータや携帯電話などの情報通信機器を利用することにより、いつでも、どこでも様々なサービスを享受でき、生活が向上していることなどを基に、情報や情報通信技術を活用する産業の役割について理解することである。				

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況			比較
説明の内容構成	<b>【原因】</b> 国民がコンピュータや携帯電話などの情報通信機器を利用する。	<b>【結果】</b> いつでも、どこでも様々なサービスが享受でき、生活が向上している。		

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	情報通信産業	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	情報通信に関わるハード・ソフトの供給を行う産業。主な内容は通信ネットワークのアクセスとネットワークサービスの提供、関連機器の開発、生産、販売 (②.p.628)	

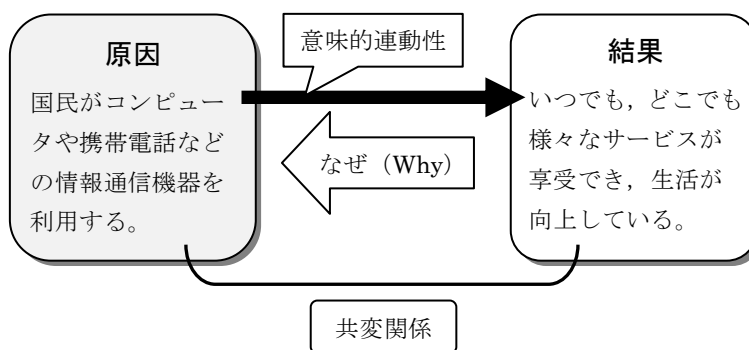
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	* 法則性なし	* 法則性なし
------------	---------	---------

【視点 3】 経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点 3 は分析しない。
-----------------	--	-----------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【情報通信産業】 情報通信に関わるハード・ソフトの供給を行う産業。主な内容は通信ネットワークのアクセスとネットワークサービスの提供、関連機器の開発、生産、販売 (法則性なし)

○ 分析結果の考察

経済概念【情報通信産業】の内容が確認できるものの、「コンピュータや携帯電話など」という具体的な情報通信機器を示すにとどまっている。また、情報通信産業の意味からも、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) が抽出されていない。したがって、社会事象を経済的に説明した記述にはならない。

平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 6

【分析対象】 [ 平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 5 学年	項目	(4)における内容の取扱い(4)ーイの解説	頁数	p.90
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	放送については、テレビやラジオなどの放送局で働く人々は、 <b>国民に多様な情報を伝えるため様々な番組を制作していること、情報を分かりやすく伝えるため映像や音声を編集していること</b> を取り上げることが考えられる。				

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果	<input checked="" type="checkbox"/> 目的－手段	<input type="checkbox"/> 条件－状況
説明の内容構成	【目的】国民に多様な情報を伝える。 情報を分かりやすく伝える。		【手段】様々な番組を制作する。 映像や音声を編集する。

比較

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	情報	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の 意味	個人や組織の意思決定の根拠となる有意味な記号、信号、符号の集合体 (②,p.625)	

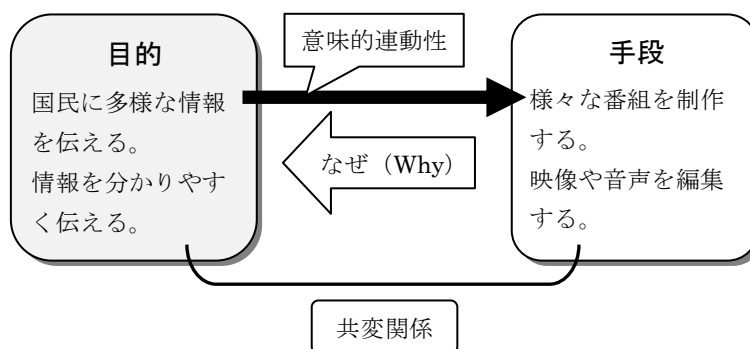
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる 法則性	* 法則性なし	* 法則性なし
----------------	---------	---------

【視点 3】 経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への 組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点 3 は分析しない。
---------------------	--	-----------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【情報】 個人や組織の意思決定の根拠となる有意味な記号、信号、符号の集合体 (法則性なし)

○ 分析結果の考察

経済概念【情報】の内容が確認できるものの、「様々な番組を制作する。」「映像や音声を編集する。」といった情報伝達に向けての取り組みを示すにとどまっている。また、情報の意味からも、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) が抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述にはならない。

平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 7

【分析対象】 [ 平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 5 学年	項目	内容の取扱い（４）－イの解説	頁数	p.90
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	新聞については、新聞社で働く人々は国民に正確な情報を伝えるために取材をしていること、情報を分かりやすく伝えるために記事を選択・加工したり編集したりしていることを取り上げることが考えられる。				

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果	<input checked="" type="checkbox"/> 目的－手段	<input type="checkbox"/> 条件－状況
説明の内容構成	【目的】 国民に正確な情報を伝える。 情報を分かりやすく伝える。	【手段】 取材をする。 記事を選択，加工，編集する。	

比較

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	情報	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の 意味	個人や組織の意思決定の根拠となる有意味な記号，信号，符号の集合体 (②,p.625)	

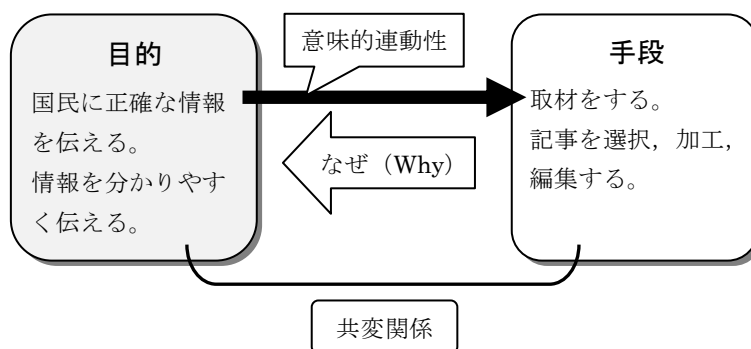
↓ 法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）の抽出

意味に含まれる 法則性	* 法則性なし	* 法則性なし
----------------	---------	---------

【視点 3】 経済概念の説明（原因－結果、目的－手段、条件－状況）への組み込まれ方

経済概念の説明への 組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因（目的，条件）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果（手段，状況）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果（目的と手段，条件と状況）の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因（目的，条件）にも結果（手段，状況）にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点 3 は分析しない。
---------------------	---	-----------------------------

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【情報】 個人や組織の意思決定の根拠となる有意味な記号，信号，符号の集合体（法則性なし）

○ 分析結果の考察

経済概念【情報】の内容が確認できるものの、「取材をする。」「記事を選択，加工，編集する。」といった情報伝達に向けての取り組みを示すにとどまっている。また，情報の意味からも，法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）が抽出されていない。したがって，社会事象を経済学的に説明した記述にはならない。

平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編分析票 No. 8

【分析対象】 [ 平成 29 年版小学校学習指導要領解説社会編 ]

○ 小学校指導書社会編及び小学校学習指導要領解説社会編に示された分析対象の記述

学年	第 5 学年	項目	内容 (5) -ア- (ウ) の解説	頁数	p.93
分析対象の記述 (対象箇所は太字)	(前略：松浪) 我が国では、 <b>産業の発展、生活様式の変化や都市化の進展により公害が発生して国民の健康や生活環境が脅かされてきたこと</b> 、関係機関をはじめ多くの人々の努力や協力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことなどを基に、公害防止の取組と国民生活の関連について理解することである。				

【視点 1】 社会事象間の関係を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している記述の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況			比較
説明の内容構成	【原因】 産業の発展、生活様式の変化や都市化の進展。	【結果】 公害が発生して国民の健康や生活環境が脅かされてきた。		

【視点 2】 分析対象の記述における経済概念の有無

経済に関する用語	公害	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄 他 編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	主として環境汚染に伴う各種の被害（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音・振動、悪臭など）(②,p.341)	

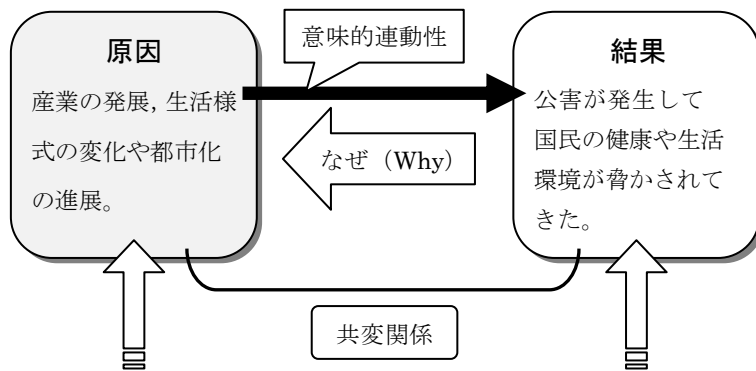
↓ 法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）の抽出

意味に含まれる法則性	主として環境汚染に伴う	各種の被害（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音・振動、悪臭など）
------------	-------------	----------------------------------

【視点 3】 経済概念の説明（原因－結果、目的－手段、条件－状況）への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因（目的、条件）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果（手段、状況）に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> C 原因と結果（目的と手段、条件と状況）の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因（目的、条件）にも結果（手段、状況）にも組み込まれていない。
-----------------	--

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【公害】 主として環境汚染に伴い、各種の被害（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音など）が発生する。

○ 分析結果の考察

原因と結果に示された「産業の発展、生活様式の変化や都市化の進展により公害が発生して国民の健康や生活環境が脅かされてきた。」という記述は、経済概念【公害】に関する内容である。また、公害の意味から、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が確認できる。したがって、社会事象を経済学的に説明した記述といえる。

## 小学校社会科先行授業分析票 No.1

【分析対象】第[5]学年		形式[ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録]	
単元名	新しい工業地域－水島工業地区にある製鉄所を中心にして－	考案者	甲津和寿
出典	甲津和寿「社会認識過程におけるスキーマと概念形成」全国社会科教育学会『社会科研究』第37号 1989 pp.92-102		

## ○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、日本の製鉄所は、全て海に面した所に建設されているのだろうか。	【解】日本は、製鉄に必要な鉄鉱石や原料炭などの主原料を、海外から輸入する。また、できた製品は国内外へ出荷する。輸送には、重量のある原料や、製品を大量に運べる船舶を利用するため、製鉄所は全て海に面したところに建設されている。
---	---

## 【視点1】社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況	比較	
説明の内容構成	<table border="1"> <tr> <td>【原因】日本は、製鉄に必要な鉄鉱石や原料炭などの主原料を、海外から輸入する。また、できた製品は国内外へ出荷する。輸送には、重量のある原料や、製品を大量に運べる船舶を利用する。</td> <td>【結果】日本の製鉄所はすべて海に面した所に建設されている。</td> </tr> </table>		【原因】日本は、製鉄に必要な鉄鉱石や原料炭などの主原料を、海外から輸入する。また、できた製品は国内外へ出荷する。輸送には、重量のある原料や、製品を大量に運べる船舶を利用する。
【原因】日本は、製鉄に必要な鉄鉱石や原料炭などの主原料を、海外から輸入する。また、できた製品は国内外へ出荷する。輸送には、重量のある原料や、製品を大量に運べる船舶を利用する。	【結果】日本の製鉄所はすべて海に面した所に建設されている。		

## 【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	立地論	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	経済活動の空間的配置（すなわち立地パターン）とそれを決める経済的要因（すなわち立地因子）についての理論（②,p.1289）	

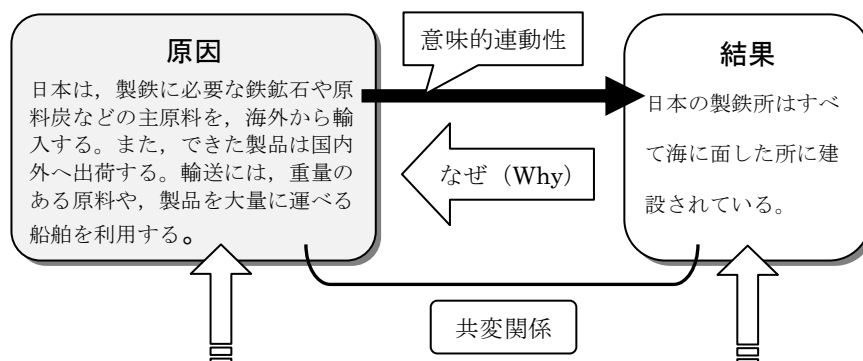
↓ 法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）の抽出

意味に含まれる法則性	経済活動の空間的配置（すなわち立地パターン）	経済活動の空間的配置を決める経済的要因（すなわち立地因子）
------------	------------------------	-------------------------------

## 【視点3】経済概念の説明（原因－結果、目的－手段、条件－状況）への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因（目的、条件）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果（手段、状況）に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> C 原因と結果（目的と手段、条件と状況）の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因（目的、条件）にも結果（手段、状況）にも組み込まれていない。
-----------------	--

## ◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【立地論】経済活動の空間的配置（すなわち立地パターン）と経済活動の空間的配置を決める経済的要因（すなわち立地因子）

## ○ 分析結果の考察

原因に立地因子、結果に立地パターンが示されており、これらは経済概念【立地論】に関する内容である。また、立地論の意味から、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が確認できる。したがって、社会事象を経済学的に説明した学習課題とその解である。

## 小学校社会科先行授業分析票 No.2

【分析対象】 第 [ 5 ] 学年 形式 [ <input type="checkbox"/> 学習指導案 <input checked="" type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]			
単元名	トヨタ生産方式の秘密	考案者	小山直樹
出典	小山直樹「小学校社会科概念探求学習の創造－『トヨタ生産方式の秘密』学習と『クロネコヤマト宅急便快進撃の秘密』学習を中心に－」全国社会科教育学会『社会科研究』第39号 1991 pp.39-55		

○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】トヨタがジャスト・イン・タイム方式をとっているのはなぜだろう。	【解】たくさんの種類の車を少量同じライン上で作るのに適している。倉庫がいらない。・土地が不要、建物が不要、労働者が不要、在庫管理が不要、運搬機材が不要。
---------------------------------------	--

【視点1】社会事象間を，原因－結果，目的－手段，条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況	比較	
説明の内容構成	<table border="1"> <tr> <td>【目的】たくさんの種類の車を少量同じライン上で作るのに適している。倉庫がいらない。・土地が不要、建物が不要、労働者が不要、在庫管理が不要、運搬機材が不要。</td> <td>【手段】ジャスト・イン・タイム方式をとる。</td> </tr> </table>		【目的】たくさんの種類の車を少量同じライン上で作るのに適している。倉庫がいらない。・土地が不要、建物が不要、労働者が不要、在庫管理が不要、運搬機材が不要。
【目的】たくさんの種類の車を少量同じライン上で作るのに適している。倉庫がいらない。・土地が不要、建物が不要、労働者が不要、在庫管理が不要、運搬機材が不要。	【手段】ジャスト・イン・タイム方式をとる。		

【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	ジャスト・イン・タイム方式	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	各工程において，必要な部品が必要なときに必要な数量だけ揃うようにする生産方式 (②,p.570)	

↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	*法則性なし	*法則性なし
------------	--------	--------

【視点3】経済概念の説明 (原因－結果，目的－手段，条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため，視点3は分析しない。
-----------------	--	---------------------------

◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図

【ジャスト・イン・タイム方式】各工程において，必要な部品が必要なときに必要な数量だけ揃うようにする生産方式 (法則性なし)
---

○ 分析結果の考察

経済概念【ジャスト・イン・タイム方式】の内容が確認できるものの，その利点を示すにとどまっている。また，ジャスト・イン・タイム方式の意味からも，法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) が抽出されていない。したがって，社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。
---



小学校社会科先行授業分析票 No.3

【分析対象】第[5]学年		形式[ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	価格破壊のヒミツ	考案者	新山欣二
出典	新山欣二「社会認識形成の『心理』に関する実証的研究—小学校第5学年『価格破壊のヒミツ』の場合—」全国社会科教育学会『社会科研究』第47号 1997 pp.61-70		

○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】激安店はなぜ缶ジュースを1本55円で売っているのだろう。	【解】1個分の儲けを減らしている。
------------------------------------	-------------------

【視点1】社会事象間を、原因—結果、目的—手段、条件—状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因—結果 <input type="checkbox"/> 目的—手段 <input type="checkbox"/> 条件—状況		
説明の内容構成	【原因】1個分の儲けを減らしている。	【結果】缶ジュースを1本55円で売ることができる。	比較

【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	利潤	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	企業の総売上額からその生産ないし販売に要したすべての費用を指し引いた残差 (②,p.1283)	

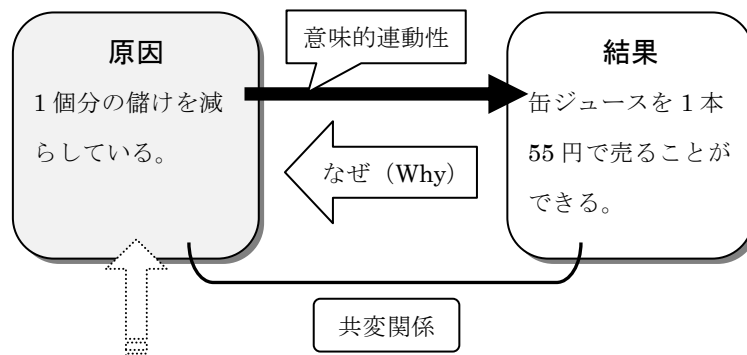
↓法則性(社会事象間や概念間に成立する関係)の抽出

意味に含まれる法則性	企業の総売上額からその生産ないし販売に要したすべての費用を指し引いた	残差
------------	------------------------------------	----

【視点3】経済概念の説明(原因—結果、目的—手段、条件—状況)への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input checked="" type="checkbox"/> A 原因(目的, 条件)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果(手段, 状況)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果(目的と手段, 条件と状況)の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因(目的, 条件)にも結果(手段, 状況)にも組み込まれていない。
-----------------	---

◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【利潤】企業の総売上額からその生産ないし販売に要したすべての費用を指し引いた残差

○分析結果の考察

原因には、「1個分の儲けを減らしている。」としか記述されていないものの、本時案が示されている第3次以前には、売上から諸費用を引いたら儲けになるという利潤の法則性が学習されている。しかし、本時案に示された原因—結果の内容だけでは、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。そこで、【視点3】の判定を▲とする。

## 小学校社会科先行授業分析票 No.4

【分析対象】第[5]学年		形式[ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録]	
単元名	価格破壊のヒミツ	考案者	新山欣二
出典	新山欣二「社会認識形成の『心理』に関する実証的研究—小学校第5学年『価格破壊のヒミツ』の場合—」全国社会科教育学会『社会科研究』第47号 1997 pp.61-70		

○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】激安店はなぜ缶ジュースを1本55円	【解】売るのにかかるお金を節約する。できるだけ安く仕入れる。
-------------------------	--------------------------------

【視点1】社会事象間を，原因—結果，目的—手段，条件—状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因—結果 <input type="checkbox"/> 目的—手段 <input type="checkbox"/> 条件—状況		
説明の内容構成	【原因】売るのにかかるお金を節約する。できるだけ安く仕入れる。	【結果】缶ジュースを1本55円で売ることができる。	比較

【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	費用	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	企業の経営活動により流出した経済価値をいい，企業利益の消極要素(②,p.1064)	

↓法則性(社会事象間や概念間に成立する関係)の抽出

意味に含まれる法則性	企業の経営活動	流出した経済価値 (企業利益の消極要素)
------------	---------	-------------------------

【視点3】経済概念の説明(原因—結果，目的—手段，条件—状況)への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因(目的，条件)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果(手段，状況)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果(目的と手段，条件と状況)の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因(目的，条件)にも結果(手段，状況)にも組み込まれていない。
-----------------	--

◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図

○ 分析結果の考察

経済概念【費用】の内容が確認できるものの、「お金を節約する。」という目標や「できるだけ安く仕入れる。」という手立てを示すにとどまっている。そして，法則性をもつ内容は，原因—結果の関係に組み込まれていない。したがって，社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

## 小学校社会科先行授業分析票 No.5

【分析対象】第[5]学年		形式[ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録]	
単元名	中小小売店減少問題	考案者	岡崎誠司
出典	岡崎誠司「新産業分類に基づく『ネットワーク部門』の内容編成—小学校産業学習の授業改善—」全国社会科教育学会『社会科研究』第50号 1999 pp.191-200		

## ○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、コンビニは多くの人々が利用し 商店数や販売額を増やすことができるのだろうか。	【解】消費者ニーズに対応した商品を置く。
--	----------------------

## 【視点1】社会事象間を、原因—結果、目的—手段、条件—状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因—結果 <input type="checkbox"/> 目的—手段 <input type="checkbox"/> 条件—状況		
説明の内容構成	【原因】消費者ニーズに対応した商品を置く。	【結果】コンビニは、多くの人々が利用し商店数や販売額を増やすことができる。	比較

## 【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	需要	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	ある時期における、ある財・サービスを人々が購入しようとする欲求で、購買力に裏付けられたもの(②,p.595)	

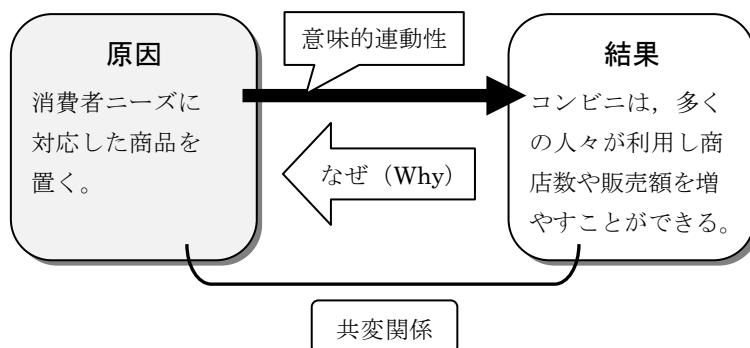
↓法則性(社会事象間や概念間に成立する関係)の抽出

意味に含まれる法則性	ある時期における、ある財・サービスを人々が購入しようとする欲求	購買力に裏付けられたもの
------------	---------------------------------	--------------

## 【視点3】経済概念の説明(原因—結果、目的—手段、条件—状況)への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因(目的, 条件)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果(手段, 状況)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果(目的と手段, 条件と状況)の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因(目的, 条件)にも結果(手段, 状況)にも組み込まれていない。
-----------------	---

## ◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【需要】ある時期における、ある財・サービスを人々が購入しようとする欲求で、購買力に裏付けられたもの
---

## ○分析結果の考察

経済概念【需要】の内容が確認できるものの、「消費者ニーズに対応した商品を置く。」という需要を満たす手立てを示すにとどまっている。そして、法則性をもつ内容は、原因—結果の関係に組み込まれていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

## 小学校社会科先行授業分析票 No.6

【分析対象】第[5]学年		形式[ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録]	
単元名	中小小売店減少問題	考案者	岡崎誠司
出典	岡崎誠司「新産業分類に基づく『ネットワーク部門』の内容編成—小学校産業学習の授業改善—」全国社会科教育学会『社会科研究』第50号 1999 pp.191-200		

## ○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、コンビニは多くの人々が利用し商店数や販売額を増やすことができるのだろうか。	【解】運輸業者や卸売り業者と協力して流通センターをつくりジャスト・イン・タイム輸送をしている。
--	---

## 【視点1】社会事象間を、原因—結果、目的—手段、条件—状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因—結果 <input type="checkbox"/> 目的—手段 <input type="checkbox"/> 条件—状況	比較	
説明の内容構成	<table border="1"> <tr> <td>【原因】運輸業者や卸売り業者と協力して流通センターをつくりジャスト・イン・タイム輸送をしている。</td> <td>【結果】コンビニは、多くの人々が利用し商店数や販売額を増やすことができる。</td> </tr> </table>		【原因】運輸業者や卸売り業者と協力して流通センターをつくりジャスト・イン・タイム輸送をしている。
【原因】運輸業者や卸売り業者と協力して流通センターをつくりジャスト・イン・タイム輸送をしている。	【結果】コンビニは、多くの人々が利用し商店数や販売額を増やすことができる。		

## 【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	ジャスト・イン・タイム物流	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	需要者が求める商品を、求める量、求める場所へ、求める時間にちょうど間に合うように届けること (②,p.569)	

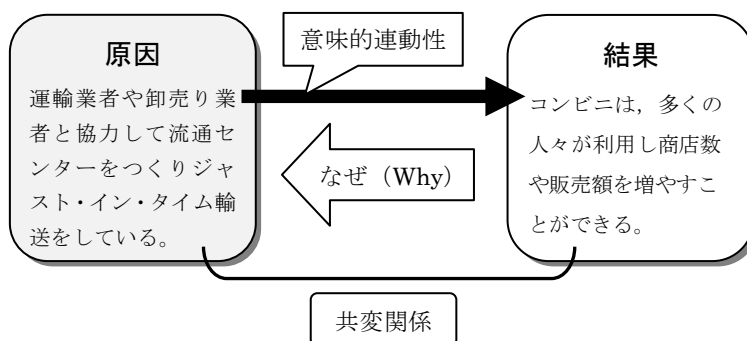
↓法則性(社会事象間や概念間に成立する関係)の抽出

意味に含まれる法則性	*法則性なし	*法則性なし
------------	--------	--------

## 【視点3】経済概念の説明(原因—結果、目的—手段、条件—状況)への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因(目的, 条件)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果(手段, 状況)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果(目的と手段, 条件と状況)の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因(目的, 条件)にも結果(手段, 状況)にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点3は分析しない。
-----------------	---	---------------------------

## ◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【ジャスト・イン・タイム物流】需要者が求める商品を、求める量、求める場所へ、求める時間にちょうど間に合うように届けること (法則性なし)

## ○分析結果の考察

経済概念【ジャスト・イン・タイム物流】の内容が確認できるものの、実現させる手立てを示すにとどまっている。また、ジャスト・イン・タイム物流の意味からも、法則性(社会事象間や概念間に成立する関係)が抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

## 小学校社会科先行授業分析票 No.7

【分析対象】第〔4〕学年		形式〔 <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録〕	
単元名	わたしたちの県－広島菜をつくる－	考案者	岡崎誠司
出典	岡崎誠司「フードシステム論に基づく小学校地域学習の単元開発－4年生単元『わたしたちの県－広島菜をつくる－』の場合－」全国社会科教育学会『社会科研究』第58号 2003 pp.41-50		

## ○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、漬物の会社は、多くの島の中で特に、倉橋町の農家に広島菜づくりをお願いするのでしょうか。	【解】他の島から市場へ運ぶにはフェリー代がかかるが、倉橋町からはトラック輸送のため輸送費が安い。
--	--

## 【視点1】社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況	比較	
説明の内容構成	<table border="1"> <tr> <td>【原因】他の島から市場へ運ぶにはフェリー代がかかるが、倉橋町からはトラック輸送のため輸送費が安い。</td> <td>【結果】漬物の会社は、多くの島の中で特に、倉橋町の農家に広島菜づくりをお願いする。</td> </tr> </table>		【原因】他の島から市場へ運ぶにはフェリー代がかかるが、倉橋町からはトラック輸送のため輸送費が安い。
【原因】他の島から市場へ運ぶにはフェリー代がかかるが、倉橋町からはトラック輸送のため輸送費が安い。	【結果】漬物の会社は、多くの島の中で特に、倉橋町の農家に広島菜づくりをお願いする。		

## 【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	費用	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	企業の経営活動により流出した経済価値をいい、企業利益の消極要素(②,p.1064)	

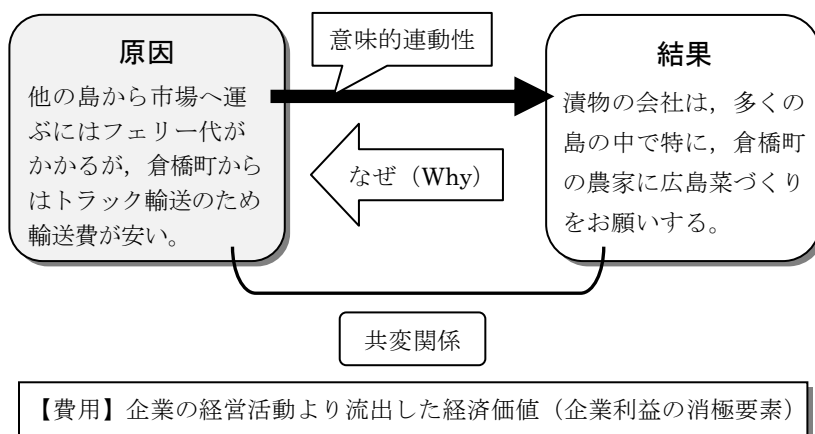
↓法則性(社会事象間や概念間に成立する関係)の抽出

意味に含まれる法則性	企業の経営活動	流出した経済価値 (企業利益の消極要素)
------------	---------	-------------------------

## 【視点3】経済概念の説明(原因－結果、目的－手段、条件－状況)への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因(目的, 条件)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果(手段, 状況)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果(目的と手段, 条件と状況)の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因(目的, 条件)にも結果(手段, 状況)にも組み込まれていない。
-----------------	---

## ◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



## ○分析結果の考察

経済概念【費用】の内容が確認できるものの、輸送費用が安い理由を示すにとどまっている。そして、法則性をもつ内容は、原因－結果の関係に組み込まれていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

## 小学校社会科先行授業分析票 No.8

【分析対象】第〔6〕学年		形式〔 <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録〕	
単元名	平城京と奈良の大仏	考案者	岡崎誠司
出典	岡崎誠司「小学校歴史学習における『仮説吟味学習』－第6学年単元『平城京と奈良の大仏』の場合－」全国社会科教育学会『社会科研究』第67号 2007 pp.11-20		

○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】708年、なぜ朝廷は給料をお金に換えたのでしょうか。	【解】稲の豊作や不作に関係ない。軽くて持ち運びに便利である。破損や腐敗の危険性がない。他のものに交換可能である。朝廷が自由に無制限に作ることができる。朝廷が自由に価値を決めることができる。
----------------------------------	--

【視点1】社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況	比較	
説明の内容構成	<table border="1"> <tr> <td>【原因】稲の豊作や不作に関係ない。軽くて持ち運びに便利である。破損や腐敗の危険性がない。他のものに交換可能である。朝廷が自由に無制限に作ることができる。朝廷が自由に価値を決めることができる。</td> <td>【結果】708年、朝廷は給料をお金に換えた。</td> </tr> </table>		【原因】稲の豊作や不作に関係ない。軽くて持ち運びに便利である。破損や腐敗の危険性がない。他のものに交換可能である。朝廷が自由に無制限に作ることができる。朝廷が自由に価値を決めることができる。
【原因】稲の豊作や不作に関係ない。軽くて持ち運びに便利である。破損や腐敗の危険性がない。他のものに交換可能である。朝廷が自由に無制限に作ることができる。朝廷が自由に価値を決めることができる。	【結果】708年、朝廷は給料をお金に換えた。		

【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	貨幣	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	間接交換で交換手段として一般に使用され、人々の間を流通するようになった財貨のこと (②,pp.164-165)	

↓ 法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）の抽出

意味に含まれる法則性	間接交換で交換手段として一般に使用	人々の間を流通するようになった財貨
------------	-------------------	-------------------

【視点3】経済概念の説明（原因－結果、目的－手段、条件－状況）への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因（目的、条件）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果（手段、状況）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果（目的と手段、条件と状況）の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因（目的、条件）にも結果（手段、状況）にも組み込まれていない。
-----------------	--

◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図

<p style="text-align: center;"><b>原因</b></p> <p>稲の豊作や不作に関係ない。軽くて持ち運びに便利である。破損や腐敗の危険性がない。他のものに交換可能である。朝廷が自由に無制限に作ることができる。朝廷が自由に価値を決めることができる。</p>	<p>意味的連動性</p> <p>→</p> <p>なぜ (Why)</p> <p>←</p>	<p style="text-align: center;"><b>結果</b></p> <p>708年、朝廷は給料をお金に換えた。</p>
<p>共変関係</p>		

【貨幣】間接交換で交換手段として一般に使用され、人々の間を流通するようになった財貨

○ 分析結果の考察

<p>経済概念【貨幣】の内容が確認できるものの、物品から貨幣に移りか変わった理由を示すとどまっている。そして、法則性をもつ内容は、原因－結果の関係に組み込まれていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。</p>
---

## 小学校社会科先行授業分析票 No.9

【分析対象】第 [ ] 学年 (記載なし) 形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	どうする!? 鹿児島のごみ処理
出典	吉元輝幸「小学校社会科における社会的判断力の育成－社会機能の批判的考察を手がかりとして－」全国社会科教育学会『社会科研究』第68号 2008 pp.51-60
考案者 吉元輝幸	

○ 分析対象の学習課題とその解

【学習課題】 もしも、鹿児島市がごみ処理を止め、ごみ処理屋さんに頼むことになったらどうなるかを考えよう。	【解】 1キロ 20円程度の処分費用が必要となる。再利用できるものは買い取られる。
--	---

【視点1】 社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input checked="" type="checkbox"/> 条件－状況		
説明の内容構成	<table border="1"> <tr> <td>【条件】 鹿児島がごみ処理を止め、ごみ処理屋さんに頼むことになる。</td> <td>【結果】 1キロ 20円程度の処分費用が必要となる。再利用できるものは買い取られる。</td> </tr> </table>	【条件】 鹿児島がごみ処理を止め、ごみ処理屋さんに頼むことになる。	【結果】 1キロ 20円程度の処分費用が必要となる。再利用できるものは買い取られる。
【条件】 鹿児島がごみ処理を止め、ごみ処理屋さんに頼むことになる。	【結果】 1キロ 20円程度の処分費用が必要となる。再利用できるものは買い取られる。		

比較

【視点2】 分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	費用	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	企業の経営活動により流出した経済価値をいい、企業利益の消極要素 (②,p.1064)	

↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	企業の経営活動	流出した経済価値 (企業利益の消極要素)
------------	---------	----------------------

【視点3】 経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。
-----------------	---

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図

【費用】 企業の経営活動より流出した経済価値 (企業利益の消極要素)

○ 分析結果の考察

経済概念【費用】の内容が確認できるものの、ごみを処分するためにかかる金額を示すにとどまっている。そして、法則性をもつ内容は、原因－結果の関係に組み込まれていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 10

【分析対象】 第 [ 3 ] 学年 形式 [  学習指導案  教授書  授業記録 ]

単元名	スーパーマーケットのひみつをさぐるう	考案者	佐藤章浩
出典	佐藤章浩「小学校社会科における経済概念の形成－第3学年単元『スーパーマーケットのひみつをさぐるう』を事例に－」全国社会科教育学会『社会科研究』第73号 2010 pp.41-50		

## ○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】お客さんは「いつでも」「何でも」「どこでも」「だれにでも」の安売りの方が嬉しいよ。どうしてだめなの。	【解】小売店では、原価をベースとして一定の利潤を加算した上で価格を設定し、できる範囲で安売りを行っている。
--	---

## 【視点1】社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況	
説明の内容構成	【原因】小売店では、原価をベースとして一定の利潤を加算した上で価格を設定し、できる範囲で安売りを行っている。	【結果】無制限の安売りはできない。

比較

## 【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	コストプラス方式	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	生産原価や仕入原価に、一定のマージンを加えて売価を決定する方式 (②,p.415)	

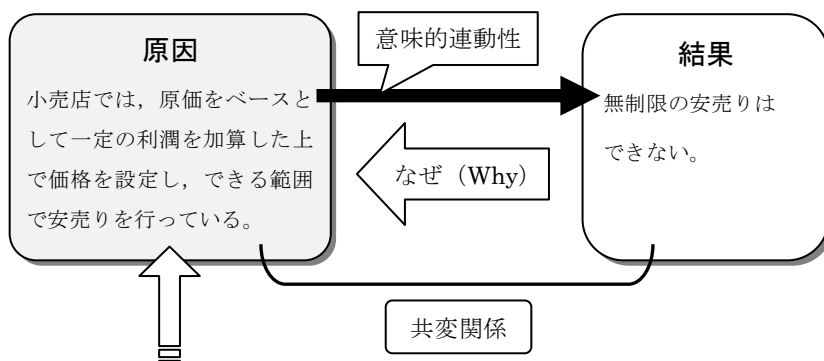
↓ 法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）の抽出

意味に含まれる法則性	生産原価や仕入原価に、一定のマージンを加える。	売価を決定
------------	-------------------------	-------

## 【視点3】経済概念の説明（原因－結果、目的－手段、条件－状況）への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input checked="" type="checkbox"/> A 原因（目的、条件）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果（手段、状況）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果（目的と手段、条件と状況）の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因（目的、条件）にも結果（手段、状況）にも組み込まれていない。
-----------------	--

## ◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【コストプラス方式】生産原価や仕入原価に、一定のマージンを加えて売価を決定する方式

## ○分析結果の考察

原因に示された記述は、経済概念【コストプラス方式】に関する内容である。また、コストプラス方式の意味から、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が確認できる。したがって、社会事象を経済学的に説明した学習課題とその解である。



小学校社会科先行授業分析票 No. 11

【分析対象】第 [ 4 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	黒鯛いつタイどうなるの!?	考案者	新谷和幸
出典	新谷和幸「小学校社会科における『概念カテゴリー化学習』の授業構成－概念の名辞とカテゴリー化の手法に着目して－」全国社会科教育学会『社会科研究』第 80 号 2014 pp.57-68		

○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、黒鯛を食べるように働きかけて、まで、栽培を続けていくのだろうか。	【解】水産資源として将来性があるので、地域を活性化できる。
---	-------------------------------

【視点 1】社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果 <input checked="" type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況		
説明の内容構成	【目的】水産資源として将来性がある、ので、地域を活性化できる。	【手段】黒鯛を食べるように働きかけ、栽培を続ける。	比較

【視点 2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	資源	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄ほか 2 名編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (②,p.504)	

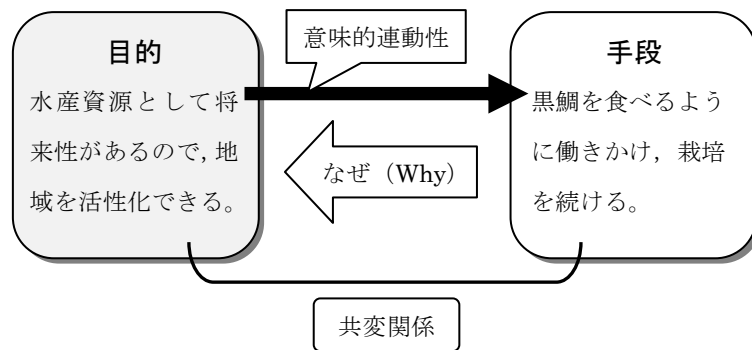
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	* 法則性なし	* 法則性なし
------------	---------	---------

【視点 3】経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点 3 は分析しない。
-----------------	--	-----------------------------

◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【資源】生産に必要な労働・土地・自然資源などの本源的生産要素や生産手段としての資本財の集合の全体 (法則性なし)

○ 分析結果の考察

経済概念【資源】の内容が確認できるものの、黒鯛という具体的な水産資源を示すにとどまっている。また、資源の意味からも、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) は抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 12

【分析対象】第 [ 5 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	日本の国土の広がりと領土	考案者	松岡靖
出典	松岡靖「学習指導要領に依存した社会科授業からの改善方略—学習者の『状況』に着目した教科書メディアを相対化する授業改善を通して—」全国社会科教育学会『社会科研究』第 50 号 1999 pp.191-200		

## ○ 分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、沖ノ鳥島を守るために、たくさんのお金をかけているのでしょうか。	【解】利用できる海洋面積が増え、豊富な資源も利用できる。
--	------------------------------

## 【視点 1】社会事象間を、原因—結果、目的—手段、条件—状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因—結果 <input checked="" type="checkbox"/> 目的—手段 <input type="checkbox"/> 条件—状況		比較
説明の内容構成	【目的】利用できる海洋面積が増え、豊富な資源も利用できる。	【手段】沖ノ鳥島を守るために、たくさんのお金をかける。	

## 【視点 2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	費用	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄ほか 2 名編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	企業の経営活動により流出した経済価値をいい、企業利益の消極要素 (②,p.1064)	

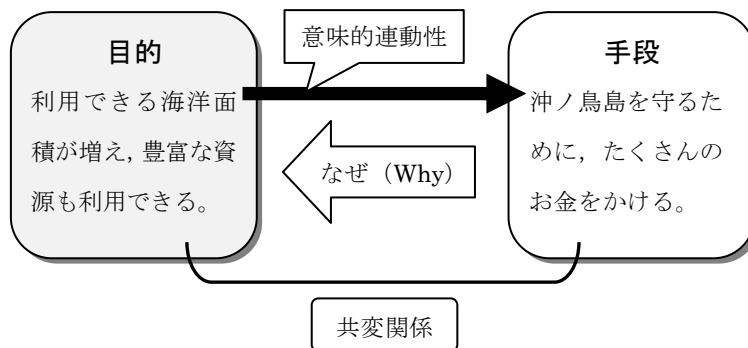
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	企業の経営活動	流出した経済価値 (企業利益の消極要素)
------------	---------	----------------------

## 【視点 3】経済概念の説明 (原因—結果、目的—手段、条件—状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。
-----------------	---

## ◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【費用】企業の経営活動より流出した経済価値 (企業利益の消極要素)

## ○ 分析結果の考察

経済概念【費用】の内容が確認できるものの、「沖ノ鳥島を守る。」という費用の用途を示すにとどまっている。そして、法則性をもつ内容は、原因—結果の関係に組み込まれていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 13

【分析対象】第 [ 5 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	100円ショップのひみつをさぐる	考案者	真加部三智也
出典	真加部三智也「社会的事象の見方・考え方を育成する産業学習の授業」全国社会科教育学会『社会科論叢』第44号 2005 pp.27-34		

○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】100円ショップは、どうして売上げ	【解】利益を上げるために、集客力を高める工夫（低価格、品揃え、立地など）をしている。
-------------------------	--

【視点1】社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況	比較
説明の内容構成	【原因】利益を上げるために、集客力を高める工夫（低価格、品揃え、立地など）をしている。 【結果】100円ショップは、売上げや店舗数が伸びている。	

【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	収益（売上）	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	企業の経営活動により流入した経済価値をいい、企業利益の積極的要素（②,pp.572-573）	

↓ 法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）の抽出

意味に含まれる法則性	企業の経営活動	流入した経済価値（企業利益の積極要素）
------------	---------	---------------------

【視点3】経済概念の説明（原因－結果、目的－手段、条件－状況）への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input checked="" type="checkbox"/> A 原因（目的、条件）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果（手段、状況）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果（目的と手段、条件と状況）の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因（目的、条件）にも結果（手段、状況）にも組み込まれていない。
-----------------	--

◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図

【収益（売上）】企業の経営活動より流入した経済価値（企業利益の積極要素）

○ 分析結果の考察

原因に示された記述は、経済概念【収益（売上）】に関する内容である。また、収益（売上）の意味から、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が確認できる。したがって、社会事象を経済学的に説明した学習課題とその解である。

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 14

【分析対象】第 [ 5 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	100円ショップのひみつをさぐる	考案者	真加部三智也
出典	真加部三智也「社会的事象の見方・考え方を育成する産業学習の授業」全国社会科教育学会『社会科論叢』第44号 2005 pp.27-34		

## ○ 分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、100円という低価格で売ることができるのだろう。	【解】100円ショップは、商品の価格を下げるために原材料費や賃金を安くするための努力をしている。
-----------------------------------	--

## 【視点1】社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況		
説明の内容構成	【原因】100円ショップは、商品の価格を下げるために原材料費や賃金を安くするための努力をしている。	【結果】100円という低価格で売る。	比較

## 【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	費用	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	企業の経営活動により流出した経済価値をいい、企業利益の消極要素(②,p.1064)	

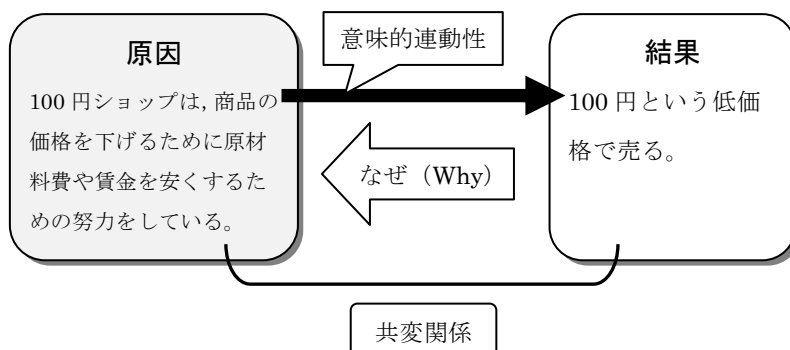
↓ 法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）の抽出

意味に含まれる法則性	企業の経営活動	流出した経済価値（企業利益の消極要素）
------------	---------	---------------------

## 【視点3】経済概念の説明（原因－結果、目的－手段、条件－状況）への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因（目的、条件）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果（手段、状況）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果（目的と手段、条件と状況）の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因（目的、条件）にも結果（手段、状況）にも組み込まれていない。
-----------------	--

## ◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【費用】企業の経営活動より流出した経済価値（企業利益の消極要素）

## ○ 分析結果の考察

経済概念【費用】の内容が確認できるものの、「原材料費や賃金」という費用の具体的な内容を示すにとどまっている。そして、法則性をもつ内容は、原因－結果の関係に組み込まれていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 15

【分析対象】第 [ 5 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	100円ショップのひみつをさぐる	考案者	真加部三智也
出典	真加部三智也「社会的事象の見方・考え方を育成する産業学習の授業」全国社会科教育学会『社会科論叢』第44号 2005 pp.27-34		

## ○ 分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、100円という低価格で売ることができるのだろう。	【解】100円ショップは、商品の価格を下げるために、海上コンテナによる大量輸送によって経費を低くする努力をしている。
-----------------------------------	--

## 【視点1】社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果	<input type="checkbox"/> 目的－手段	<input type="checkbox"/> 条件－状況
説明の内容構成	【原因】100円ショップは、商品の価格を下げるために、海上コンテナによる大量輸送によって経費を低くする努力をしている。	【結果】100円という低価格で売る。	

比較

## 【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	輸送	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	交通のうち、人間と物の移動 (①,p.399)	

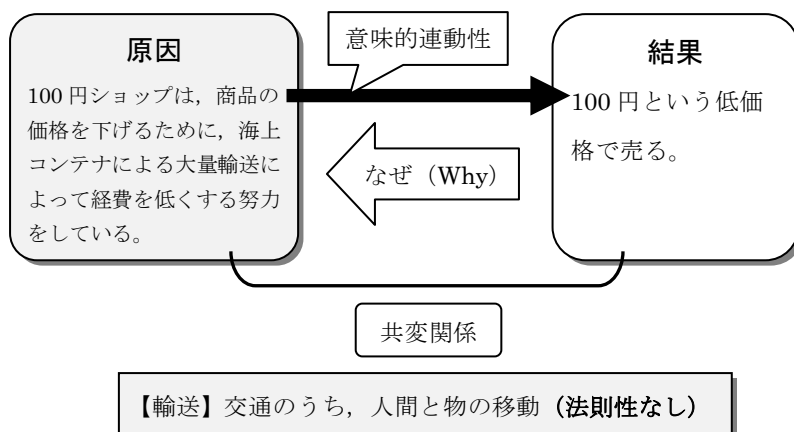
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	*法則性なし	*法則性なし
------------	--------	--------

## 【視点3】経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点3は分析しない。
-----------------	--	---------------------------

## ◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



## ○ 分析結果の考察

経済概念【輸送】の内容が確認できるものの、「海上コンテナによる大量輸送」という輸送の方法を示すにとどまっている。また、輸送の意味からも、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) は抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

小学校社会科先行授業分析票 No. 16

【分析対象】第 [ 5 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	100円ショップのひみつをさぐる	考案者	真加部三智也
出典	真加部三智也「社会的事象の見方・考え方を育成する産業学習の授業」全国社会科教育学会『社会科論叢』第44号 2005 pp.27-34		

○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、100円ショップでは、原価120円の商品を売っているのだろうか。	【解】低価格の商品を売ることによって集客力を高め、利益を上げている。
---	------------------------------------

【視点1】社会事象間を、原因-結果、目的-手段、条件-状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因-結果 <input checked="" type="checkbox"/> 目的-手段 <input type="checkbox"/> 条件-状況		比較
説明の内容構成	【目的】低価格の商品を売ることによって集客力を高め、利益を上げる。	【手段】100円ショップで、原価120円の商品を売る。	

【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	ロス・リーダー	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	顧客を吸引する目的で、コストを割って提供される特価品 (②,p.1329)	

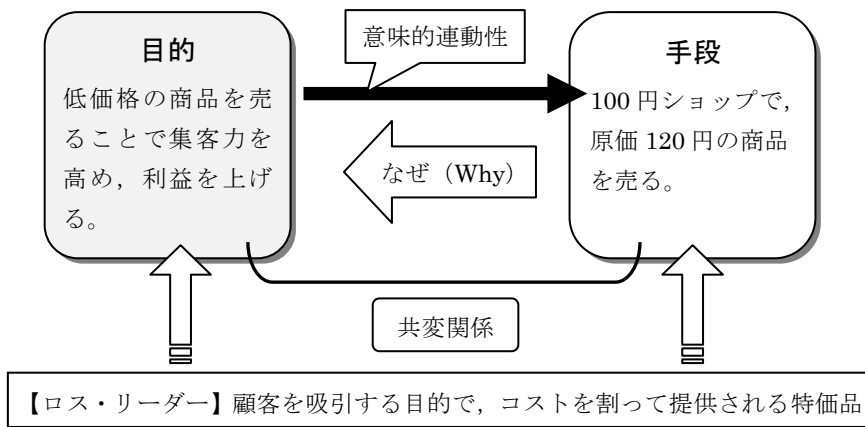
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	顧客を吸引する目的	コストを割って提供される特価品
------------	-----------	-----------------

【視点3】経済概念の説明 (原因-結果、目的-手段、条件-状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。
-----------------	---

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



○ 分析結果の考察

目的と手段に示された記述は、経済概念【ロス・リーダー】に関する内容である。また、ロス・リーダーの意味から、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が確認できる。したがって、社会事象を経済学的に説明した学習課題とその解である。

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 17

【分析対象】第 [ 5 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	日本の農業－野菜工場を事例として－	考案者	福田裕治
出典	福田裕治「科学的な見方・考え方を育てる小学校社会科産業学習の教育内容開発－『野菜工場』を事例とした単元『日本の農業』－」全国社会科教育学会『社会科論叢』第46号 2007 pp.10-15		

## ○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、岡山県産のあきたこまちは安く売られているのだろうか。	【解】複数の農家が営農集団をつくり、大規模化させている。
-------------------------------------	------------------------------

## 【視点1】社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果	<input type="checkbox"/> 目的－手段	<input type="checkbox"/> 条件－状況	比較
説明の内容構成	【原因】複数の農家が営農集団をつくり、大規模化させている。	【結果】岡山県産あきたこまちは安く売られている。		

## 【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	集落営農	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	集落を単位として、農業機械を共同で所有、利用したり、共同で所有する機械をオペレーター組織等が委託を受けて利用したりするなど、農業生産過程における一部または全部についての共同化・統一化についての合意の下に実施される農業 (②,p.587)	

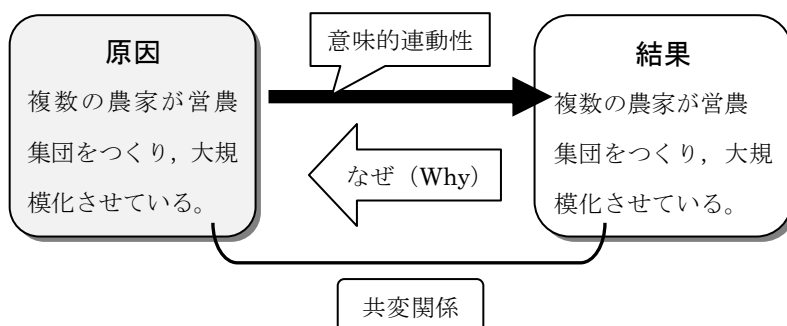
↓法則性(社会事象間や概念間に成立する関係)の抽出

意味に含まれる法則性	*法則性なし	*法則性なし
------------	--------	--------

## 【視点3】経済概念の説明(原因－結果、目的－手段、条件－状況)への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因(目的, 条件)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果(手段, 状況)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果(目的と手段, 条件と状況)の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因(目的, 条件)にも結果(手段, 状況)にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点3は分析しない。
-----------------	--	---------------------------

## ◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【集落営農】集落を単位として、農業機械を共同で所有、利用したり、共同で所有する機械をオペレーター組織等が委託を受けて利用したりするなど、農業生産過程における一部または全部についての共同化・統一化についての合意の下に実施される農業 (法則性なし)

## ○分析結果の考察

経済概念【集落営農】の内容が確認できるものの、「大規模化させる。」という集落営農のねらいを示すにとどまっている。また、集落営農の意味からも、法則性(社会事象間や概念間に成立する関係)は抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

小学校社会科先行授業分析票 No. 18

【分析対象】 第 [ 5 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	日本の農業－野菜工場を事例として－	考案者	福田裕治
出典	福田裕治「科学的な見方・考え方を育てる小学校社会科産業学習の教育内容開発－『野菜工場』を事例とした単元『日本の農業』－」全国社会科教育学会『社会科論叢』第46号 2007 pp.10-15		

○ 分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、魚沼産コシヒカリは高く売られているのだろうか。	【解】特殊技術，少量生産によって，ブランド化している。
----------------------------------	-----------------------------

【視点1】 社会事象間を，原因－結果，目的－手段，条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況		比較
説明の内容構成	【原因】特殊技術，少量生産によって，ブランド化している。	【結果】魚沼産コシヒカリは高く売られている。	

【視点2】 分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	ブランド商品	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	特定の生産者や販売業者によって単一のブランドが付された商品。ブランドは，出所表示，品質保証，広告宣伝機能を果たす (②,p.1112)。	

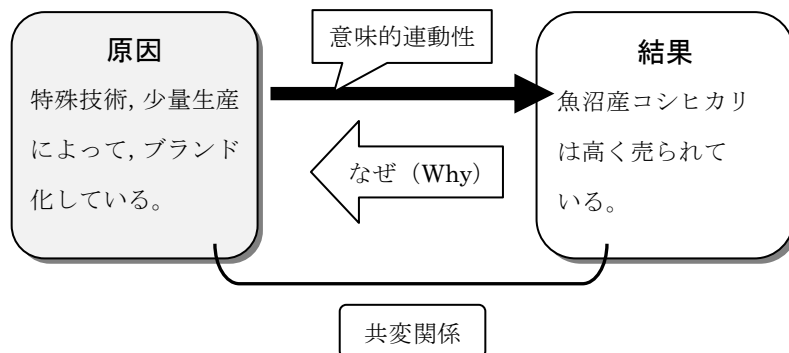
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	特定の生産者や販売業者により	単一のブランドが付された商品
------------	----------------	----------------

【視点3】 経済概念の説明 (原因－結果，目的－手段，条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。
-----------------	---

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【ブランド商品】 特定の生産者や販売業者により単一のブランドが付された商品

○ 分析結果の考察

経済概念【ブランド商品】の内容が確認できるものの，ブランド化の方法を示すにとどまっている。そして，法則性をもつ内容は，原因－結果の関係に組み込まれていない。したがって，社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。



小学校社会科先行授業分析票 No. 19

【分析対象】 第 [ 5 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	どっちがいいで商!?	考案者	新谷和幸
出典	新谷和幸「社会を見つめ暮らしに生きる産業学習ー多様な消費者ニーズに応えるコンビニの働きー」全国社会科教育学会『社会科教育論叢』第 46 号 2007 pp.16-21		

○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、ローソンは、健康的な商品や安さに焦点をあてた店を作ったのだろうか。	【解】コンビニが、社会変化に伴う多様な消費者ニーズに着目し、人数の増加が見込める階層を購買層に定め、それらのニーズに沿った店をつくることで、売り上げを伸ばそうとしている。
--	---

【視点 1】社会事象間を、原因ー結果、目的ー手段、条件ー状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因ー結果	<input checked="" type="checkbox"/> 目的ー手段	<input type="checkbox"/> 条件ー状況	比較
説明の内容構成	【目的】社会変化に伴う多様な消費者ニーズに着目し、人数の増加が見込める階層を購買層に定め、それらのニーズに沿った店をつくることで、売り上げを伸ばそうとしている。		【手段】ローソンは、健康的な商品や安さに焦点をあてた店を作った。	

【視点 2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	収益（売上）	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄ほか 2 名編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	企業の経営活動により流入した経済価値をいい、企業利益の積極的要素 (②, pp.572-573)	

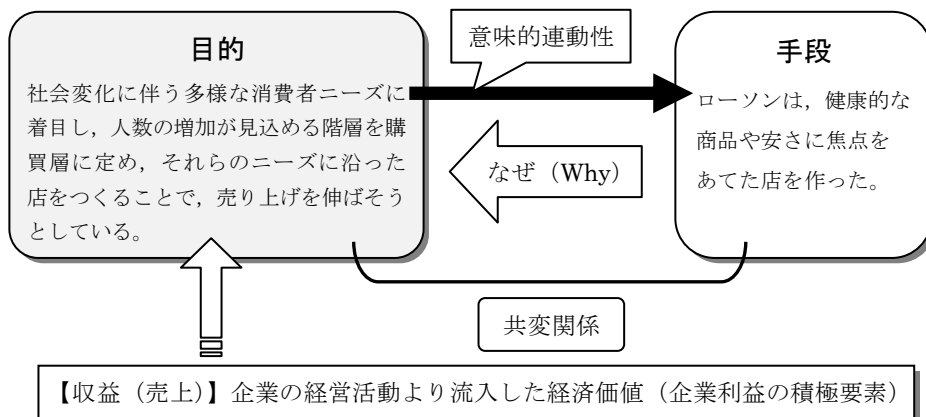
↓ 法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）の抽出

意味に含まれる法則性	企業の経営活動	流入した経済価値 (企業利益の積極的要素)
------------	---------	--------------------------

【視点 3】経済概念の説明（原因ー結果、目的ー手段、条件ー状況）への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input checked="" type="checkbox"/> A 原因（目的、条件）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果（手段、状況）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果（目的と手段、条件と状況）の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因（目的、条件）にも結果（手段、状況）にも組み込まれていない。
-----------------	--

◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



○ 分析結果の考察

原因に示された記述は、経済概念【収益（売上）】に関する内容である。また、収益（売上）の意味から、経済学研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が確認できる。したがって、社会事象を経済学的に説明した学習課題とその解である。

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 20

【分析対象】第 [ 5 ] 学年		形式 [ ■ 学習指導案 □ 教授書 □ 授業記録 ]	
単元名	どっちがいいで商!?	考案者	新谷和幸
出典	新谷和幸「社会を見つめ暮らしに生きる産業学習ー多様な消費者ニーズに応えるコンビニの働きー」全国社会科教育学会『社会科教育論叢』第 46 号 2007 pp.16-21		

## ○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ東京のような大都市と広島とは、販売方法が異なるのだろうか。	【解】広島のレストランでは、消費者の多様なニーズに応えるために、大都市と地方の実態に即して販売形態を変える工夫を行っている。
---------------------------------------	--

## 【視点 1】社会事象間を、原因ー結果、目的ー手段、条件ー状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因ー結果	<input checked="" type="checkbox"/> 目的ー手段	<input type="checkbox"/> 条件ー状況	比較
説明の内容構成	【目的】広島のレストランでは、消費者の多様なニーズに応えるために、大都市と地方の実態に即して販売形態を変える工夫を行っている。		【手段】東京のような大都市と広島とは、販売方法が異なる。	

## 【視点 2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	需要	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄ほか 2 名編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	ある時期における、ある財・サービスを人々が購入しようとする欲求で、購買力に裏付けられたもの (②,p.595)	

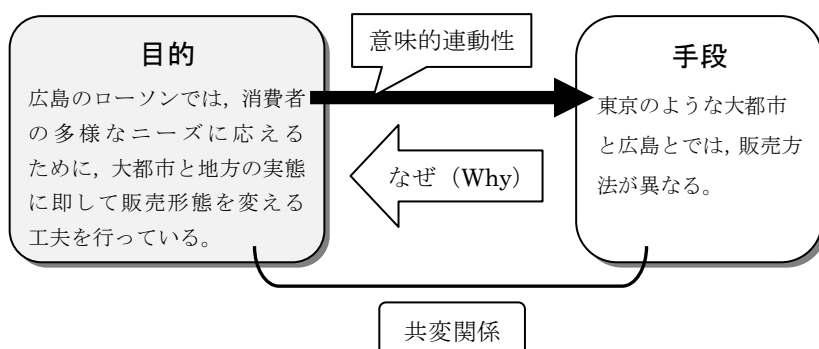
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	ある時期における、ある財・サービスを人々が購入しようとする欲求	購買力に裏付けられたもの
------------	---------------------------------	--------------

## 【視点 3】経済概念の説明 (原因ー結果、目的ー手段、条件ー状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。
-----------------	---

## ◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【需要】ある時期における、ある財・サービスを人々が購入しようとする欲求で、購買力に裏付けられたもの

## ○ 分析結果の考察

経済概念【需要】の内容が確認できるものの、「販売方法を変える。」という需要を満たす手立てを示すにとどまっている。そして、法則性をもつ内容は、目的ー手段の関係に組み込まれていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 21

【分析対象】第[3]学年		形式[■ 学習指導案 □ 教授書 □ 授業記録]	
単元名	商店のある町ー空き店舗問題ー	考案者	岡崎誠司
出典	岡崎誠司「社会変動の視点を重視した小学校地域学習の単元開発ー第3学年単元『商店のある町ー空き店舗問題ー』の場合ー」日本社会科教育学会『社会科教育研究』第88号 2002 pp.15-28		

## ○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、広島市中心の中区や南区では人口が減り、中心部より遠い安佐北区や佐伯区では、人口が急にたくさん増えているのだろうか。	【解】中区や南区では、交通が便利で店が多いため、土地の値段が高い。安佐北区や佐伯区は、中心部から遠いため、安くて広い土地を人々は買うことができる。
--	---

## 【視点1】社会事象間を、原因ー結果、目的ー手段、条件ー状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因ー結果	<input type="checkbox"/> 目的ー手段	<input type="checkbox"/> 条件ー状況	比較
説明の内容構成	【原因】中区や南区では、交通が便利で店が多いため、土地の値段が高い。安佐北区や佐伯区は、中心部から遠いため、安くて広い土地を人々は買うことができる。		【結果】広島市中心の中区や南区では人口が減り、中心部より遠い安佐北区や佐伯区では、人口が急にたくさん増えている。	

## 【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	地価	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	市場で土地が売買される価格 (②,p.833)	

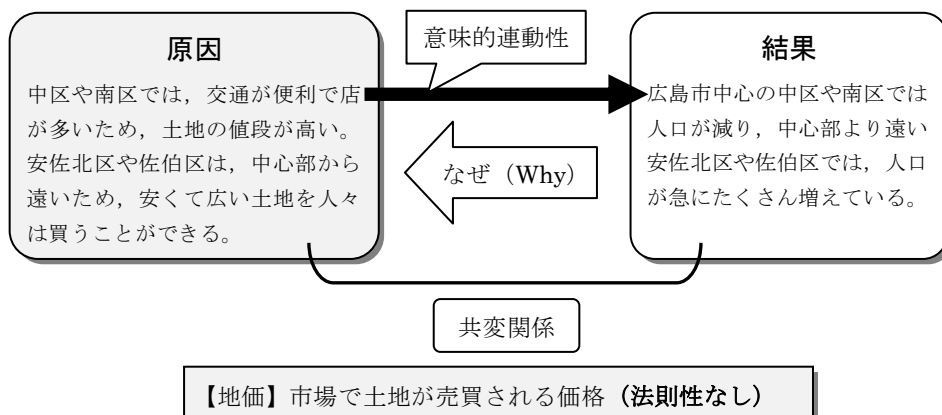
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	*法則性なし	*法則性なし
------------	--------	--------

## 【視点3】経済概念の説明 (原因ー結果, 目的ー手段, 条件ー状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点3は分析しない。
-----------------	--	---------------------------

## ◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



## ○ 分析結果の考察

経済概念【地価】の内容が確認できる。しかし、地価の意味から、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) が抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

小学校社会科先行授業分析票 No. 22

【分析対象】第 [ 5 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	観光産業	考案者	佐藤克士
出典	佐藤克士「観光研究の成果を組み込んだ「社会科観光」の授業開発とその評価－小学校第 5 学年産業学習－『観光産業』を題材にして－」日本社会科教育学会『社会科教育研究』第 118 号 2013 pp.1-14		

○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、日光東照宮は日光五大観光地の中で一番人気があるのだろうか。	【解】日光東照宮は、近年では Michelin で 3 つ星に格付けされたりパワースポットブーム等を背景にテレビや雑誌等で取り上げられたりするようになった。
--	--

【視点 1】社会事象間を，原因－結果，目的－手段，条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況		比較
説明の内容構成	【原因】日光東照宮は、近年では Michelin で 3 つ星に格付けされたりパワースポットブーム等を背景にテレビや雑誌等で取り上げられたりするようになった。	【結果】日光東照宮は日光五大観光地の中で一番人気がある。	

【視点 2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	宣伝	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄ほか 2 名編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	情報の受け手の考えや行動を宣伝者の目標の方向に誘導し、特定の主義、主張を広めようとする計画的な情報伝達活動 (②,p.745)	

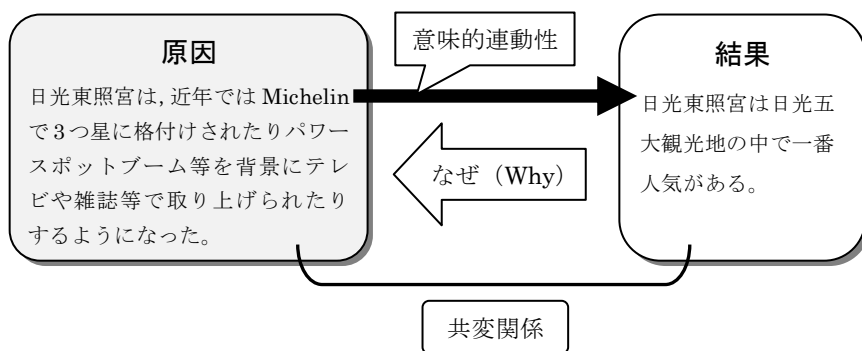
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	情報の受け手の考えや行動における宣伝者の目標の方向への誘導	特定の主義、主張の広まり
------------	-------------------------------	--------------

【視点 3】経済概念の説明 (原因－結果，目的－手段，条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。
-----------------	---

◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【宣伝】情報の受け手の考えや行動における宣伝者の目標の方向への誘導により、特定の主義、主張が広まる。

○ 分析結果の考察

経済概念【宣伝】の内容が確認できるものの、「テレビや雑誌等」という広告媒体を示すにとどまっている。そして、法則性をもつ内容は、原因－結果の関係に組み込まれていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

小学校社会科先行授業分析票 No. 23

【分析対象】 第 [ 5 ] 学年 形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]			
単元名	これからの食料生産，食料輸入のあり方	考案者	小野間正巳
出典	小野間正巳「授業コミュニケーションの分析をとおした社会科授業評価－GTMA，会話分析，ポートフォリオ分析をとおして－」日本社会科教育学会『社会科教育研究』第133号 2018 pp.1-14		

○ 分析対象の学習課題とその解

【学習課題】 どうして，多くの費用をかけてまで日本は安全基準を高く設定しているのだろう。	【解】 BSE を安全になくすため。牛肉に対して不安をもっている人が多い。
--	---------------------------------------

【視点1】 社会事象間を，原因－結果，目的－手段，条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果 <input checked="" type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況		比較
説明の内容構成	【目的】 BSE を安全になくすため。牛肉に対して不安をもっている人が多い。	【手段】 多くの費用をかけて日本は安全基準を高く設定している。	

【視点2】 分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	費用	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	企業の経営活動により流出した経済価値をいい，企業利益の消極要素 (②,p.1064)	

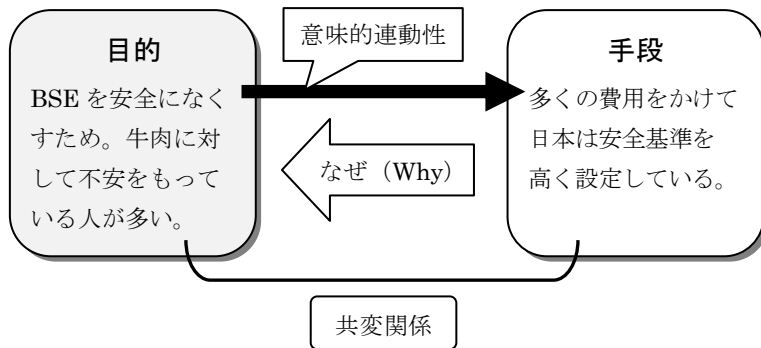
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	企業の経営活動	流出した経済価値 (企業利益の消極要素)
------------	---------	----------------------

【視点3】 経済概念の説明 (原因－結果，目的－手段，条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的，条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段，状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段，条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因 (目的，条件) にも結果 (手段，状況) にも組み込まれていない。
-----------------	--

◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【費用】 企業の経営活動より流出した経済価値 (企業利益の消極要素)

○ 分析結果の考察

経済概念【費用】の内容が確認できるものの，「安全基準を高く設定する。」という費用の用途を示すにとどまっている。そして，法則性をもつ内容は，目的－手段の関係に組み込まれていない。したがって，社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 24

【分析対象】第 [ 5 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	新しい工業地域－水島工業地区にある製鉄所を中心にして－	考案者	甲津和寿
出典	甲津和寿「スキーマ理論を組み込んだ社会科授業の展開－小学校における『工業立地』概念の形成－」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第3号 1991 pp.15-20		

## ○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、日本の製鉄所は、関東から北九州にかけての太平洋ベルト地帯に多いのだろうか。	【解】太平洋ベルト地帯には、自動車工場など鉄製品を使う工場が多い。新しい製鉄所は、重量のある製品が輸送しやすい。
--	--

## 【視点1】社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況	比較	
説明の内容構成	<table border="1"> <tr> <td>【原因】太平洋ベルト地帯には、自動車工場など鉄製品を使う工場が多い。新しい製鉄所は、重量のある製品が輸送しやすい。</td> <td>【結果】日本の製鉄所は、関東から北九州にかけての太平洋ベルト地帯に多い。</td> </tr> </table>		【原因】太平洋ベルト地帯には、自動車工場など鉄製品を使う工場が多い。新しい製鉄所は、重量のある製品が輸送しやすい。
【原因】太平洋ベルト地帯には、自動車工場など鉄製品を使う工場が多い。新しい製鉄所は、重量のある製品が輸送しやすい。	【結果】日本の製鉄所は、関東から北九州にかけての太平洋ベルト地帯に多い。		

## 【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	立地論	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	経済活動の空間的配置（すなわち立地パターン）とそれを決める経済的要因（すなわち立地因子）についての理論（②,p.1289）	

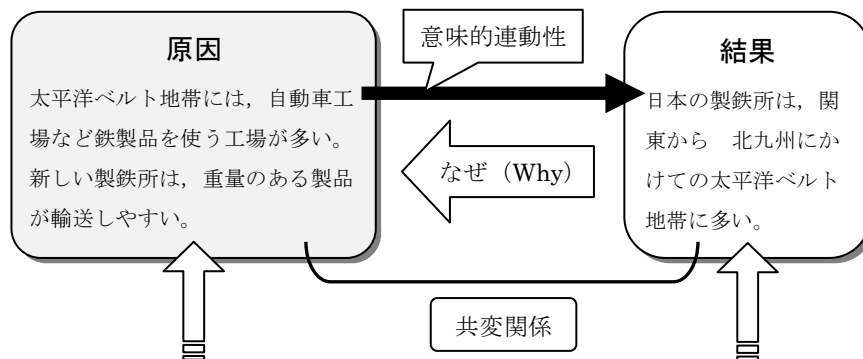
↓法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）の抽出

意味に含まれる法則性	経済活動の空間的配置（すなわち立地パターン）	経済活動の空間的配置を決める経済的要因（すなわち立地因子）
------------	------------------------	-------------------------------

## 【視点3】経済概念の説明（原因－結果、目的－手段、条件－状況）への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因（目的、条件）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果（手段、状況）に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> C 原因と結果（目的と手段、条件と状況）の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因（目的、条件）にも結果（手段、状況）にも組み込まれていない。
-----------------	--

## ◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【立地論】経済活動の空間的配置（すなわち立地パターン）と経済活動の空間的配置を決める経済的要因（すなわち立地因子）

## ○分析結果の考察

原因に立地因子、結果に立地パターンが示されており、これらは経済概念【立地論】に関する内容である。また、立地論の意味から、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が確認できる。したがって、社会事象を経済学的に説明した学習課題とその解である。

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 25

【分析対象】第 [ 4 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	各地のくらし単元－沖縄－	考案者	岡本昌浩
出典	岡本昌浩「開発と保全の接点を探る地域経済学習－第4学年『開発単元』『各地のくらし単元』を例に－」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第50号 1994 pp.15-20		

○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、(宮古島は：松浪) 地下にダムを建設したのか。	【解】地下にダムをつくるので立ち退き料などの費用が節約できる。
----------------------------------	---------------------------------

【視点1】社会事象間を，原因－結果，目的－手段，条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況		
説明の内容構成	【原因】地下にダムをつくるので立ち退き料などの費用が節約できる。	【結果】(宮古島は：松浪) 地下にダムを建設した。	比較

【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	費用	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	企業の経営活動により流出した経済価値をいい，企業利益の消極要素(②,p.1064)	

↓法則性(社会事象間や概念間に成立する関係)の抽出

意味に含まれる法則性	企業の経営活動	流出した経済価値(企業利益の消極要素)
------------	---------	---------------------

【視点3】経済概念の説明(原因－結果，目的－手段，条件－状況)への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因(目的，条件)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果(手段，状況)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果(目的と手段，条件と状況)の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因(目的，条件)にも結果(手段，状況)にも組み込まれていない。
-----------------	--

◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図

○ 分析結果の考察

経済概念【費用】の内容が確認できるものの，立ち退き料という節約できる費用の具体を示すにとどまっている。そして，法則性をもつ内容は，原因－結果の関係に組み込まれていない。したがって，社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 26

【分析対象】 第 [ 5 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	わたしたちの生活と「食の安全」	考案者	齊藤昌長
出典	齊藤昌長 『『食の安全』から見た社会科授業の開発－消費者教育の視点を取り入れて－』 社会系教科教育学会 『社会系教科教育学研究』 第 16 号 2004 pp.37-44		

## ○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、「食の安全」に対する問題が発生してきたのだろう。	【解】食生活が変化すると加工食品や外食の利用が多くなり、生産者と消費者の間に様々な業者が介在するようになった。これによって、経費を減らし保存性を高めるために農薬や食品添加物などが使われ、消費者に生産や流通段階での安全性に関する情報が届きにくくなった。
-----------------------------------	---

## 【視点 1】社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況	比較	
説明の内容構成	<table border="1"> <tr> <td>【原因】食生活が変化すると加工食品や外食の利用が多くなり、生産者と消費者の間に様々な業者が介在するようになった。これによって、経費を減らし保存性を高めるために農薬や食品添加物などが使われ、消費者に生産や流通段階での安全性に関する情報が届きにくくなった。</td> <td>【結果】「食の安全」に対する問題が発生してきた。</td> </tr> </table>		【原因】食生活が変化すると加工食品や外食の利用が多くなり、生産者と消費者の間に様々な業者が介在するようになった。これによって、経費を減らし保存性を高めるために農薬や食品添加物などが使われ、消費者に生産や流通段階での安全性に関する情報が届きにくくなった。
【原因】食生活が変化すると加工食品や外食の利用が多くなり、生産者と消費者の間に様々な業者が介在するようになった。これによって、経費を減らし保存性を高めるために農薬や食品添加物などが使われ、消費者に生産や流通段階での安全性に関する情報が届きにくくなった。	【結果】「食の安全」に対する問題が発生してきた。		

## 【視点 2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	リスク（危険）	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	経済主体が起す行動（意思決定）のおのおのに対応して特定の既知の結果が生じるような確実性下の世界に反して、どのような結果が生じるかが既知でないとき（②,p.210）	

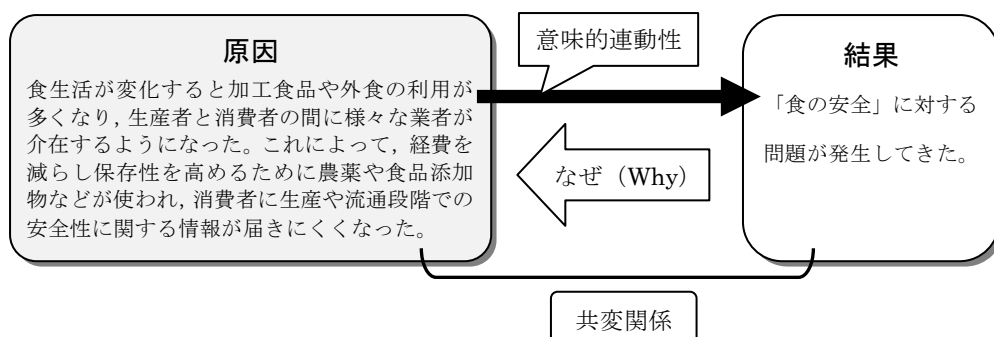
↓法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）の抽出

意味に含まれる法則性	経済主体が起す行動（意思決定）のおのおのに対応して	どのような結果が生じるかが既知でないとき
------------	---------------------------	----------------------

## 【視点 3】経済概念の説明（原因－結果、目的－手段、条件－状況）への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因（目的、条件）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果（手段、状況）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果（目的と手段、条件と状況）の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因（目的、条件）にも結果（手段、状況）にも組み込まれていない。
-----------------	--

## ◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【リスク（危険）】経済主体が起す行動（意思決定）のおのおのに対応してどのような結果が生じるかが既知でないとき

## ○分析結果の考察

経済概念【リスク（危険）】の内容が確認できるものの、農薬や食品添加物といった損害を生み出すおそれのある具体物を示すにとどまっている。そして、法則性をもつ内容は、原因－結果の関係に組み込まれていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。



## 小学校社会科先行授業分析票 No. 27

【分析対象】第 [ 5 ] 学年		形式 [ ■ 学習指導案 □ 教授書 □ 授業記録 ]	
単元名	わたしたちの生活と「食の安全」	考案者	齊藤昌長
出典	齊藤昌長『『食の安全』から見た社会科授業の開発－消費者教育の視点を取り入れて－』 社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第16号 2004 pp.37-44		

## ○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、日本は「食の安全」を守る新しい仕組みを取り入れたのだろう。	【解】食料の安定供給が優先され、食料の安全性については積極的な取り組みはしてこなかった。しかし、「食の安全」の問題が繰り返し発生してきたので、これまでの農業政策と食品安全行政を見直し、「食の安全」を確保しようとしている。
--	--

## 【視点1】社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	■ 原因－結果 □ 目的－手段 □ 条件－状況		比較
説明の内容構成	【原因】食料の安定供給が優先され、食料の安全性については積極的な取り組みはしてこなかった。しかし、「食の安全」の問題が繰り返し発生してきたので、これまでの農業政策と食品安全行政を見直し、「食の安全」を確保しようとしている。	【結果】日本は「食の安全」を守る新しい仕組みを取り入れた。	

## 【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	供給	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	異なる価格水準に対し各経済主体もしくはそれら全体が市場取引の対象として提供する財・サービスの数量 (②,p.236)	

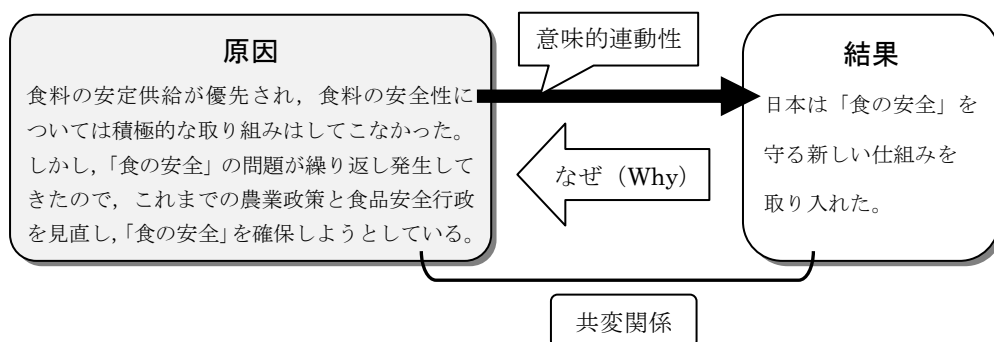
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	異なる経済主体に対し各経済主体もしくはそれら全体が市場取引の対象として提供する	財・サービスの数量
------------	---	-----------

## 【視点3】経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。
-----------------	---

## ◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【供給】異なる経済主体に対し各経済主体もしくはそれら全体が市場取引の対象として提供する財・サービスの数量

## ○ 分析結果の考察

経済概念【供給】の内容が確認できるものの、「食料の安定供給」という財を市場に提供する際の理想を示すにとどまっている。そして、法則性をもつ内容は、原因－結果の関係に組み込まれていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

小学校社会科先行授業分析票 No. 28

【分析対象】第 [ 3 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	ものを売る仕事－通信販売－	考案者	中本和彦 川田節生
出典	中本和彦 川田節生「科学的な見方や考え方を拡大・深化させる小学校社会科の単元開発とその検証－小学校 3 年生単元『ものを売る仕事－通信販売－』を事例として－」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 18 号 2006 pp.19-30		

○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、通販はかかる費用を少なくしようとしているのかな。	【解】もうけるため。
-----------------------------------	------------

【視点 1】社会事象間を，原因－結果，目的－手段，条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果	<input checked="" type="checkbox"/> 目的－手段	<input type="checkbox"/> 条件－状況
説明の内容構成	【目的】もうけるため。	【手段】通販は，かかる費用を少なくしようとしている。	

比較

【視点 2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	利潤	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄ほか 2 名編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	企業の総売上額からその生産ないし販売に要したすべての費用を指し引いた残差 (②,p.1283)	

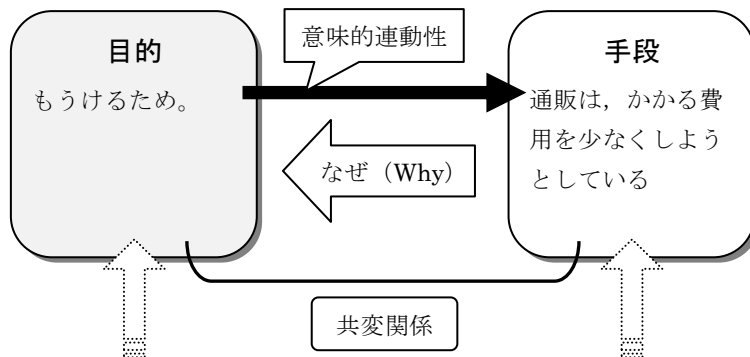
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	企業の総売上額からその生産ないし販売に要したすべての費用を指し引いた	残差
------------	------------------------------------	----

【視点 3】経済概念の説明 (原因－結果，目的－手段，条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。
-----------------	---

◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【利潤】企業の総売上額からその生産ないし販売に要したすべての費用を指し引いた残差

○ 分析結果の考察

前時のロールプレイングにより，売上から諸費用を引いたら儲けになるという経済概念【利潤】の法則性が学習されている。しかし，上記の目的－手段の内容は，あまりにも単純である。社会事象を経済学的に説明するには，法則性を組み込む必要がある。そこで，【視点 3】の判定を▲とする。

小学校社会科先行授業分析票 No. 29

【分析対象】第 [ 5 ] 学年		形式 [ ■ 学習指導案 □ 教授書 □ 授業記録 ]	
単元名	コンテナの発達とわたしたちの暮らし	考案者	酒井喜八郎
出典	酒井喜八郎「体験に基づく子どもの問いから始まる地域学習一筏の総合学習から社会科『運輸業』・『林業』の授業設計へ」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第19号 1999 pp.97-104		

○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、内陸輸送から鉄道輸送や海運に変えていこうとしているのか。	【解】CO <sub>2</sub> を削減させる。
---------------------------------------	----------------------------

【視点1】社会事象間を、原因-結果、目的-手段、条件-状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因-結果	<input checked="" type="checkbox"/> 目的-手段	<input type="checkbox"/> 条件-状況
説明の内容構成	【目的】CO <sub>2</sub> を削減させる。	【手段】内陸輸送から鉄道輸送や海運に変えていこうとしている。	

比較

【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	輸送	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	交通のうち、人間と物の移動 (①,p.399)	

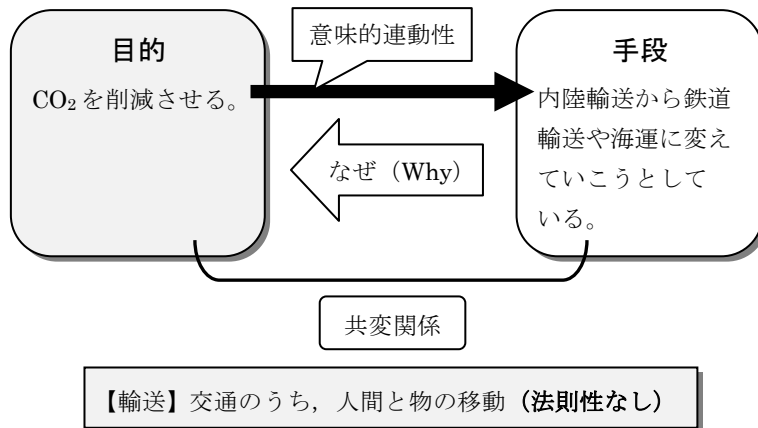
↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	*法則性なし	*法則性なし
------------	--------	--------

【視点3】経済概念の説明 (原因-結果, 目的-手段, 条件-状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。	法則性が抽出されなかったため、視点3は分析しない。
-----------------	--	---------------------------

◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



○ 分析結果の考察

経済概念【輸送】の内容が確認できる。しかし、輸送の意味から、法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) が抽出されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

小学校社会科先行授業分析票 No. 30

<b>【分析対象】 第 [ 5 ] 学年</b>				<b>形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]</b>	
單元名	我が国の食料生産と私たちの暮らし—松江市のキュウリづくり—	考案者	加藤寿朗 和田倫寛		
出典	加藤寿朗 和田倫寛「子どもの社会認識発達に基づく小学校社会科授業の開発研究」 社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第21号 2009 pp.1-10				

**○分析対象の学習課題とその解**

【学習課題】キュウリ農家は、なぜわざわざまっすぐなキュウリを栽培しているの	【解】消費者は調理しやすい形が揃っていて、まっすぐなキュウリを買う。消費者は見た目のいいキュウリを買う。小売店は消費者の好むまっすぐなキュウリを販売する。
---------------------------------------	---

**【視点1】社会事象間を，原因—結果，目的—手段，条件—状況で説明している学習課題とその解の分析**

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因—結果 <input type="checkbox"/> 目的—手段 <input type="checkbox"/> 条件—状況			比較
説明の内容構成	<b>【原因】</b> 消費者は調理しやすい形が揃っていて、まっすぐなキュウリを買う。消費者は見た目のいいキュウリを買う。小売店は消費者の好むまっすぐなキュウリを販売する。	<b>【結果】</b> キュウリ農家は、わざわざまっすぐなキュウリを栽培している。		

**【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無**

経済に関する用語	需要	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	ある時期における、ある財・サービスを人々が購入しようとする欲求で、購買力に裏付けられたもの (②,p.595)	

↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	ある時期における、ある財・サービスを人々が購入しようとする欲求	購買力に裏付けられたもの
------------	---------------------------------	--------------

**【視点3】経済概念の説明 (原因—結果，目的—手段，条件—状況) への組み込まれ方**

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。
-----------------	---

**◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図**

**原因**

消費者は調理しやすい形が揃っていて、まっすぐなキュウリを買う。消費者は見た目のいいキュウリを買う。小売店は消費者の好むまっすぐなキュウリを販売する。

意味的連動性

→

なぜ (Why)

←

**結果**

コンビニは、多くの人々が利用し商店数や販売額を増やすことができる。

共変関係

【需要】ある時期における、ある財・サービスを人々が購入しようとする欲求で、購買力に裏付けられたもの
---

**○ 分析結果の考察**

経済概念【需要】の内容が確認できるものの、消費者や小売店のキュウリに対するニーズを示すにとどまっている。そして、法則性をもつ内容は、原因—結果の関係に組み込まれていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。
--

小学校社会科先行授業分析票 No. 31

<b>【分析対象】 第 [ 5 ] 学年</b>				<b>形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]</b>	
単元名	我が国の食料生産と私たちの暮らし—松江市のキュウリづくり—	考案者	加藤寿朗 和田倫寛		
出典	加藤寿朗 和田倫寛 「子どもの社会認識発達に基づく小学校社会科授業の開発研究」 社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第21号 2009 pp.1-10				

**○ 分析対象の学習課題とその解**

【学習課題】キュウリ農家は、なぜわざわざ まっすぐなキュウリを栽培しているの だろう。	【解】1箱に箱詰めできる本数が多いと遠くの九州の方から運ぶ 時、一度にたくさん運べる。輸送にかかる費用が安くなるため、 キュウリの値段が安くなる。
---	---

**【視点1】 社会事象間を、原因—結果、目的—手段、条件—状況で説明している学習課題とその解の分析**

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因—結果 <input type="checkbox"/> 目的—手段 <input type="checkbox"/> 条件—状況			比較
説明の内容構成	【原因】1箱に箱詰めできる本数が多いと遠くの九州の方から運ぶ時、一度にたくさん運べる。輸送にかかる費用が安くなるため、キュウリの値段が安くなる。	【結果】キュウリ農家は、わざわざまっすぐなキュウリを栽培している。		

**【視点2】 分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無**

経済に関する用語	費用	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	企業の経営活動により流出した経済価値をいい、企業利益の消極要素 (②,p.1064)	

↓ 法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）の抽出

意味に含まれる法則性	企業の経営活動	流出した経済価値 (企業利益の消極要素)
------------	---------	-------------------------

**【視点3】 経済概念の説明（原因—結果、目的—手段、条件—状況）への組み込まれ方**

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因（目的、条件）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果（手段、状況）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果（目的と手段、条件と状況）の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因（目的、条件）にも結果（手段、状況）にも組み込まれていない。
-----------------	--

**◎ 「社会事象の経済学的な説明」の構造図**

**○ 分析結果の考察**

経済概念【費用】の内容が確認できるものの、輸送費が安くなるしくみを示すにとどまっている。そして、法則性をもつ内容は、原因—結果の関係に組み込まれていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 32

【分析対象】第〔6〕学年		形式〔 <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録〕	
単元名	石見銀山から江戸幕府を見る－江戸システムの確立－	考案者	紙田路子
出典	紙田路子「構造主義からの小学校社会科歴史学習の設計－『石見銀山から江戸幕府を見る～江戸システムの確立』の授業設計－」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第22号 2010 pp.101-110		

## ○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】江戸幕府はなぜ銀を必要としたのだろうか。	【解】貨幣制度を整え、正貨を安定的に流通させる。
----------------------------	--------------------------

## 【視点1】社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果	<input type="checkbox"/> 目的－手段	<input type="checkbox"/> 条件－状況
説明の内容構成	【原因】貨幣制度を整え、正貨を安定的に流通させる。	【結果】江戸幕府は銀を必要とした。	

比較

## 【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	貨幣	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	間接交換で交換手段として一般に使用され、人々の間を流通するようになった財貨のこと (②,pp.164-165)	

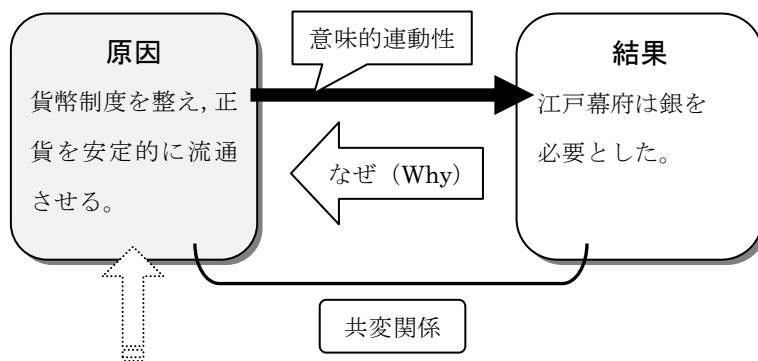
↓法則性(社会事象間や概念間に成立する関係)の抽出

意味に含まれる法則性	間接交換で交換手段として一般に使用	人々の間を流通するようになった財貨
------------	-------------------	-------------------

## 【視点3】経済概念の説明(原因－結果、目的－手段、条件－状況)への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input checked="" type="checkbox"/> A 原因(目的, 条件)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果(手段, 状況)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果(目的と手段, 条件と状況)の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因(目的, 条件)にも結果(手段, 状況)にも組み込まれていない。
-----------------	---

## ◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【貨幣】間接交換で交換手段として一般に使用され、人々の間を流通するようになった財貨

## ○分析結果の考察

原因－結果の関係には、貨幣制度確立のため銀が必要という内容しか記述されておらず、法則性は示されていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。しかし、後続の学習(第4次以降)において、貨幣の法則性が学習されている。そこで、【視点3】の判定を▲とする。

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 33

【分析対象】第 [ 5 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	自動車を作る工業	考案者	埴岡靖司
出典	埴岡靖司『『マルチ・スケール』アプローチによる小学校社会科学習—小学校第 5 学年『工業のある場所と広がり—自動車工業—』の内容開発』社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第 23 号 2011 pp.11-20		

## ○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、自動車関連工場は、内陸部に広がっているのだろうか。	【解】工場をつくることができる広大な土地が安く手に入ることで、豊富で優秀な労働力の確保がしやすいこと、物流に有利な高速道路や港、空港が近くにあるという興津条件がそろっていること、国や地方の援助を受けることができるという理由で工場を立地している。
------------------------------------	--

## 【視点 1】社会事象間を、原因—結果、目的—手段、条件—状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因—結果 <input type="checkbox"/> 目的—手段 <input type="checkbox"/> 条件—状況		比較
説明の内容構成	【原因】工場をつくることができる広大な土地が安く手に入ることで、豊富で優秀な労働力の確保がしやすいこと、物流に有利な高速道路や港、空港が近くにあるという興津条件がそろっていること、国や地方の援助を受けることができるという理由で工場を立地している。	【結果】自動車関連工場は、内陸部に広がっている。	

## 【視点 2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	立地論	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第 3 版』 ②金森久雄ほか 2 名編『経済辞典第 5 版』
経済に関する用語の意味	経済活動の空間的配置（すなわち立地パターン）とそれを決める経済的要因（すなわち立地因子）についての理論（②,p.1289）	

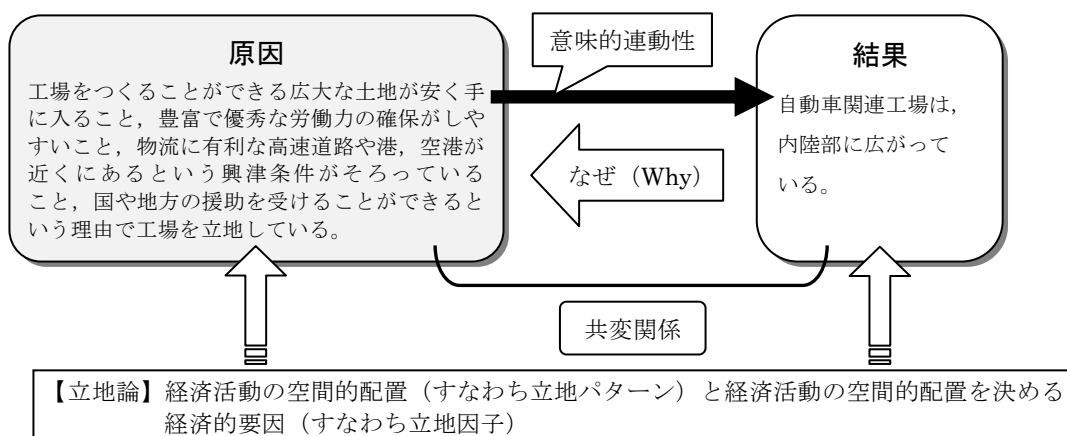
↓ 法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）の抽出

意味に含まれる法則性	経済活動の空間的配置（すなわち立地パターン）	経済活動の空間的配置を決める経済的要因（すなわち立地因子）
------------	------------------------	-------------------------------

## 【視点 3】経済概念の説明（原因—結果、目的—手段、条件—状況）への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因（目的、条件）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果（手段、状況）に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> C 原因と結果（目的と手段、条件と状況）の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因（目的、条件）にも結果（手段、状況）にも組み込まれていない。
-----------------	--

## ◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



## ○ 分析結果の考察

原因に立地因子、結果に立地パターンが示されており、これらは経済概念【立地論】に関する内容である。また、立地論の意味から、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が確認できる。したがって、社会事象を経済学的に説明した学習課題とその解である。

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 34

【分析対象】第 [ 3 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	地域の特産物	考案者	小田浩平
出典	小田浩平「情意的立場から合理的立場への『視点』の転換による概念の獲得—小学校第3学年『地域の特産物』を事例にして—」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第24号 2012 pp.11-20		

○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、黒豆作りの農家の人々は、1月の終わりには自然に乾燥し、収穫できるのに、お金や手間のかかる乾燥機を使ってまで、11月の終わりに収穫するのだろうか。	【解】黒豆作りの農家の人々は、乾燥にお金や手間がかかっても、消費者がほしがる正月の時期に合わせて出荷すれば、たくさんの黒豆が高く売れる。
---	--

【視点1】社会事象間を、原因—結果、目的—手段、条件—状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因—結果	<input type="checkbox"/> 目的—手段	<input type="checkbox"/> 条件—状況
説明の内容構成	【原因】黒豆作りの農家の人々は、乾燥にお金や手間がかかっても、消費者がほしがる正月の時期に合わせて出荷すれば、たくさんの黒豆が高く売れる。	【結果】黒豆作りの農家の人々は、1月の終わりには自然に乾燥し、収穫できるのに、お金や手間のかかる乾燥機を使ってまで、11月の終わりに収穫する。	

比較

【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	需要・供給の法則	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	財に対する需要量と供給量の差すなわち超過需要が正ならばその財の価格は上昇し、それが負のときは価格が下落する (②,p.596)	

↓法則性(社会事象間や概念間に成立する関係)の抽出

意味に含まれる法則性	財に対する需要量と供給量の差すなわち超過需要が正	その財の価格は上昇
	財に対する需要量と供給量の差すなわち超過需要が負	その財の価格は下落

【視点3】経済概念の説明(原因—結果、目的—手段、条件—状況)への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因(目的, 条件)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果(手段, 状況)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果(目的と手段, 条件と状況)の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因(目的, 条件)にも結果(手段, 状況)にも組み込まれていない。
-----------------	---

◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図

<p style="text-align: center;"><b>原因</b></p> <p>黒豆作りの農家の人々は、乾燥にお金や手間がかかっても、消費者がほしがる正月の時期に合わせて出荷すれば、たくさんの黒豆が高く売れる。</p>	<p>意味的連動性</p> <p>→</p>	<p style="text-align: center;"><b>結果</b></p> <p>黒豆作りの農家の人々は、1月の終わりには自然に乾燥し、収穫できるのに、お金や手間のかかる乾燥機を使ってまで、11月の終わりに収穫する。</p>
<p>← なぜ (Why) →</p>		
<p>〓 共変関係</p>		

【需要・供給の法則】財に対する需要量と供給量の差すなわち超過需要が正ならば、その財の価格は上昇  
財に対する需要量と供給量の差すなわち超過需要が負ならば、その財の価格は下落

○ 分析結果の考察

需要・供給の法則に関する内容が確認できる。しかし、供給サイドの内容については、ほとんどふれられていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。
---



## 小学校社会科先行授業分析票 No. 35

【分析対象】第 [ 5 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	野菜作りのさかんな宮崎平野	考案者	吉崎雄貴
出典	吉崎雄貴「子どもによる知識の構造の精緻化を目指した社会科授業開発—『なぜ疑問の分割と連鎖』と『因果関係』に着目して—」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第26号 2014 pp.71-80		

## ○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、旬ではない時期に（きゅうりを：松浪）出荷するの	【解】きゅうりの旬は夏であり、旬ではない冬の時期だと生産量が減り、需要に比べ他府県からの入荷量が少なくなる。そのため、品物の価値が上がり、高い値段で取り引きされる。
----------------------------------	--

## 【視点1】社会事象間を、原因—結果、目的—手段、条件—状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因—結果	<input type="checkbox"/> 目的—手段	<input type="checkbox"/> 条件—状況
説明の内容構成	【原因】きゅうりの旬は夏であり、旬ではない冬の時期だと生産量が減り、需要に比べ他府県からの入荷量が少なくなる。そのため、品物の価値が上がり、高い値段で取り引きされる。	【結果】旬ではない時期に（きゅうりを：松浪）出荷する。	比較

## 【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	需要・供給の法則	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	財に対する需要量と供給量の差すなわち超過需要が正ならばその財の価格は上昇し、それが負のときは価格が下落する (②,p.596)	

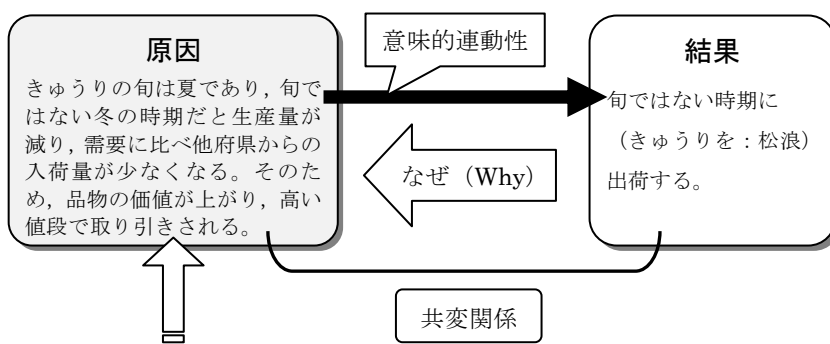
## ↓法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）の抽出

意味に含まれる法則性	財に対する需要量と供給量の差すなわち超過需要が正	その財の価格は上昇
	財に対する需要量と供給量の差すなわち超過需要が負	その財の価格は下落

## 【視点3】経済概念の説明（原因—結果、目的—手段、条件—状況）への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input checked="" type="checkbox"/> A 原因（目的、条件）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果（手段、状況）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果（目的と手段、条件と状況）の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因（目的、条件）にも結果（手段、状況）にも組み込まれていない。
-----------------	--

## ◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【需要・供給の法則】財に対する需要量と供給量の差すなわち超過需要が正ならば、その財の価格は上昇  
財に対する需要量と供給量の差すなわち超過需要が負ならば、その財の価格は下落

## ○分析結果の考察

原因に示された記述は、需要・供給の法則に関する内容をもつ。需要・供給の法則は、経済学の研究成果の一つである。したがって、社会事象を経済学的に説明した学習課題とその解である。

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 36

【分析対象】第[5]学年		形式 [■ 学習指導案 □ 教授書 □ 授業記録]	
単元名	野菜作りのさかんな宮崎平野	考案者	吉崎雄貴
出典	吉崎雄貴「子どもによる知識の構造の精緻化を目指した社会科授業開発—『なぜ疑問の分割と連鎖』と『因果関係』に着目して—」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第26号 2014 pp.71-80		

## ○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、(きゅうりを：松浪) 全国に出荷することができるのだろうか。	【解】交通網が発達し、輸送時間が短縮された。また、鉄道による大量輸送によって輸送費用を削減でき、さらに、保冷設備の整備によって鮮度を保ち輸送できるようになった。
---	--

## 【視点1】社会事象間を、原因—結果、目的—手段、条件—状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因—結果	<input type="checkbox"/> 目的—手段	<input type="checkbox"/> 条件—状況	比較
説明の内容構成	【原因】交通網が発達し、輸送時間が短縮された。また、鉄道による大量輸送によって輸送費用を削減でき、さらに、保冷設備の整備によって鮮度を保ち輸送できるようになった。		【結果】(きゅうりを：松浪) 全国に出荷することができる。	

## 【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	費用	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	企業の経営活動により流出した経済価値をいい、企業利益の消極要素(②,p.1064)	

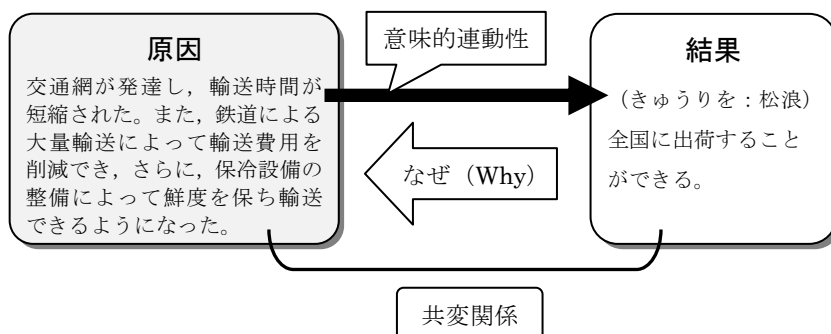
↓法則性(社会事象間や概念間に成立する関係)の抽出

意味に含まれる法則性	企業の経営活動	流出した経済価値(企業利益の消極要素)
------------	---------	---------------------

## 【視点3】経済概念の説明(原因—結果、目的—手段、条件—状況)への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因(目的, 条件)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果(手段, 状況)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果(目的と手段, 条件と状況)の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因(目的, 条件)にも結果(手段, 状況)にも組み込まれていない。
-----------------	---

## ◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【費用】企業の経営活動より流出した経済価値(企業利益の消極要素)

## ○分析結果の考察

経済概念【費用】の内容が確認できるものの、輸送費用を削減する方法を示すにとどまっている。そして、法則性をもつ内容は、原因—結果の関係に組み込まれていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 37

【分析対象】第 [ 5 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	工業生産と貿易	考案者	岡崎誠司
出典	岡崎誠司『『グローバル化する社会』の理論獲得をめざす仮説吟味学習の単元開発—小学校社会科第5学年単元『工業生産と貿易』の場合—』社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第27号 2015 pp.41-50		

○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、中国に日本の自動車会社の組立工場が、世界で最もたくさんあるのだろうか。	【解】人件費が安い、生産費が安い。
--	-------------------

【視点1】社会事象間を、原因—結果、目的—手段、条件—状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因—結果 <input type="checkbox"/> 目的—手段 <input type="checkbox"/> 条件—状況	比較	
説明の内容構成	<table border="1"> <tr> <td>【原因】人件費が安い、生産費が安い。</td> <td>【結果】中国に日本の自動車会社の組立工場が、世界で最もたくさんある。</td> </tr> </table>		【原因】人件費が安い、生産費が安い。
【原因】人件費が安い、生産費が安い。	【結果】中国に日本の自動車会社の組立工場が、世界で最もたくさんある。		

【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	費用	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	企業の経営活動により流出した経済価値をいい、企業利益の消極要素 (②,p.1064)	

↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	企業の経営活動	流出した経済価値 (企業利益の消極要素)
------------	---------	----------------------

【視点3】経済概念の説明 (原因—結果、目的—手段、条件—状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。
-----------------	---

◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図

【費用】企業の経営活動より流出した経済価値 (企業利益の消極要素)
-----------------------------------

○ 分析結果の考察

経済概念【費用】の内容が確認できるものの、「人件費」という費用の具体を示すにとどまっている。そして、法則性をもつ内容は、原因—結果の関係に組み込まれていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。
--

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 38

【分析対象】第 [ 5 ] 学年 形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]			
単元名	気候の特色を生かした農業	考案者	佐々木豊
出典	佐々木豊「概念装置獲得の過程を組み込んだ小学校社会科の授業開発－第5学年『気候の特色を生かした農業』を事例として－」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第27号 2015 pp.51-60		

## ○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、輸送費のかかる飛行機で菊を出荷することができるのだろう。	【解】沖縄県では冬のあたたかい気候を利用してビニールハウスを使わずに菊を栽培することで、生産にかかる費用をおさえて飛行機でも菊が出荷できるようにしている。
---------------------------------------	---

## 【視点1】社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況	比較	
説明の内容構成	<table border="1"> <tr> <td>【原因】沖縄県では冬のあたたかい気候を利用してビニールハウスを使わずに菊を栽培することで、生産にかかる費用をおさえて飛行機でも菊が出荷できるようにしている。</td> <td>【結果】輸送費のかかる飛行機で菊を出荷することができる。</td> </tr> </table>		【原因】沖縄県では冬のあたたかい気候を利用してビニールハウスを使わずに菊を栽培することで、生産にかかる費用をおさえて飛行機でも菊が出荷できるようにしている。
【原因】沖縄県では冬のあたたかい気候を利用してビニールハウスを使わずに菊を栽培することで、生産にかかる費用をおさえて飛行機でも菊が出荷できるようにしている。	【結果】輸送費のかかる飛行機で菊を出荷することができる。		

## 【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	費用	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	企業の経営活動により流出した経済価値をいい、企業利益の消極要素(②,p.1064)	

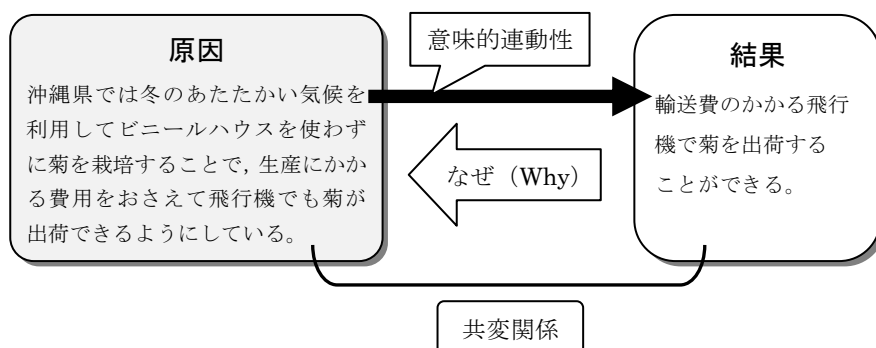
↓法則性(社会事象間や概念間に成立する関係)の抽出

意味に含まれる法則性	企業の経営活動	流出した経済価値 (企業利益の消極要素)
------------	---------	-------------------------

## 【視点3】経済概念の説明(原因－結果、目的－手段、条件－状況)への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因(目的, 条件)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果(手段, 状況)に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果(目的と手段, 条件と状況)の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因(目的, 条件)にも結果(手段, 状況)にも組み込まれていない。
-----------------	---

## ◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【費用】企業の経営活動より流出した経済価値(企業利益の消極要素)

## ○分析結果の考察

経済概念【費用】の内容が確認できるものの、「生産にかかる費用をおさえて飛行機でも菊が出荷できるようにする。」という費用削減の具体的な方法を示すにとどまっている。そして、法則性をもつ内容は、原因－結果の関係に組み込まれていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 39

【分析対象】第 [ 3 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	梨農家で働く人々（築西市関城地区）	考案者	佐藤克士
出典	佐藤克士「社会空間の変容を捉えさせる小学校社会科授業開発－第3学年地域学習 単元『梨農家で働く人々（築西市関城地区）』の場合－」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第27号 2015 pp.61-70		

○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】どうして、築西市の中でも関城地区では、梨作りが盛んなのだろうか。	【解】築西市産（茨城県産）の梨が市場で高く評価され、高い収益を得ることができるからである。その中でも贈答用の「新高」は、最高級ブランド梨として1玉（9L）2500円以上で販売されている。
--	---

【視点1】社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況	比較	
説明の内容構成	<table border="1"> <tr> <td>【原因】築西市産（茨城県産）の梨が市場で高く評価され、高い収益を得ることができるからである。その中でも贈答用の「新高」は、最高級ブランド梨として1玉（9L）2500円以上で販売されている。</td> <td>【結果】築西市の中でも関城地区では、梨作りが盛んである。</td> </tr> </table>		【原因】築西市産（茨城県産）の梨が市場で高く評価され、高い収益を得ることができるからである。その中でも贈答用の「新高」は、最高級ブランド梨として1玉（9L）2500円以上で販売されている。
【原因】築西市産（茨城県産）の梨が市場で高く評価され、高い収益を得ることができるからである。その中でも贈答用の「新高」は、最高級ブランド梨として1玉（9L）2500円以上で販売されている。	【結果】築西市の中でも関城地区では、梨作りが盛んである。		

【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	収益（売上）	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	企業の経営活動により流入した経済価値をいい、企業利益の積極要素（②,pp.572-573）	

↓ 法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）の抽出

意味に含まれる法則性	企業の経営活動	流入した経済価値 （企業利益の積極要素）
------------	---------	-------------------------

【視点3】経済概念の説明（原因－結果、目的－手段、条件－状況）への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因（目的、条件）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果（手段、状況）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果（目的と手段、条件と状況）の双方に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> D 原因（目的、条件）にも結果（手段、状況）にも組み込まれていない。
-----------------	--

◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図

**原因**

築西市産（茨城県産）の梨が市場で高く評価され、高い収益を得ることができるからである。その中でも贈答用の「新高」は、最高級ブランド梨として1玉（9L）2500円以上で販売されている。

意味の連動性

← なぜ (Why) →

**結果**

築西市の中でも関城地区では、梨作りが盛んである。

共変関係

【収益（売上）】企業の経営活動より流入した経済価値（企業利益の積極要素）

○ 分析結果の考察

経済概念【収益（売上）】の内容が確認できるものの、市場で高く評価されているという高収益の理由を示すにとどまっている。そして、法則性をもつ内容は、原因－結果の関係に組み込まれていない。したがって、社会事象を経済学的に説明しているとはいえない。
--

小学校社会科先行授業分析票 No. 40

【分析対象】第 [ 3 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	梨農家で働く人々（築西市関城地区）	考案者	佐藤克士
出典	佐藤克士「社会空間の変容を捉えさせる小学校社会科授業開発－第3学年地域学習 単元『梨農家で働く人々（築西市関城地区）』の場合－」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第27号 2015 pp.61-70		

○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】 どうして、稲城市や世羅市では、6次産業化をめざしているのだろうか。	【解】 他の産地と同じ農産物との差別化（付加価値）を図ることで、高値で取引される。
--	---

【視点1】社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input type="checkbox"/> 原因－結果 <input checked="" type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況	比較	
説明の内容構成	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>【目的】 他の産地と同じ農産物との差別化（付加価値）を図ることで、高値で取引される。</td> <td>【手段】 稲城市や世羅市では、6次産業化をめざしている。</td> </tr> </table>		【目的】 他の産地と同じ農産物との差別化（付加価値）を図ることで、高値で取引される。
【目的】 他の産地と同じ農産物との差別化（付加価値）を図ることで、高値で取引される。	【手段】 稲城市や世羅市では、6次産業化をめざしている。		

【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	6次産業化	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	農業と各産業との有機的・総合的結合を図って、付加価値を高めること (②,p.1327)	

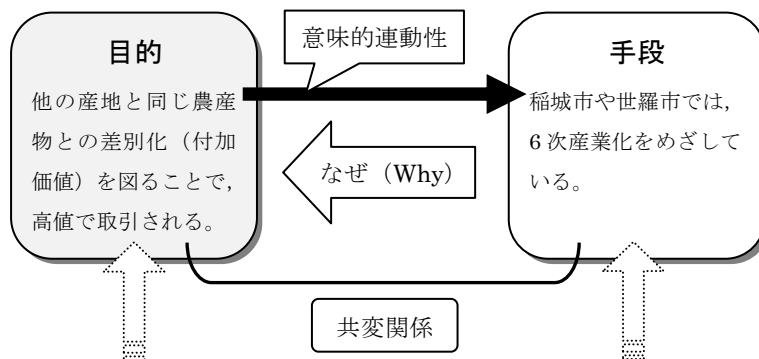
↓ 法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）の抽出

意味に含まれる法則性	農業と各産業との有機的・総合的結合	付加価値の上昇
------------	-------------------	---------

【視点3】経済概念の説明（原因－結果、目的－手段、条件－状況）への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因（目的、条件）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果（手段、状況）に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> C 原因と結果（目的と手段、条件と状況）の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因（目的、条件）にも結果（手段、状況）にも組み込まれていない。
-----------------	--

◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【6次産業化】 農業と各産業との有機的・総合的結合を図って、付加価値を高めること。

○ 分析結果の考察

目的と手段に示された記述は、経済概念【6次産業化】に関する内容である。また、6次産業化の意味から、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が確認できる。しかし、農業と各産業の有機的・総合的結合の内容については、目的－手段の関係に示されていない（第10時において学習している）。そこで、【視点3】の判定を▲とする。

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 41

【分析対象】第 [ 5 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	情報単元	考案者	戸田征男
出典	戸田征男「情報産業の構造を読み解く小学校『情報単元』の授業開発－『フリー』のビジネスモデルを事例として－」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第28号 2016 pp.41-50		

○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、新聞は、有料なのだろう。	【解】新聞社は、新聞を作るのに、多くの人が関わっている。また、新聞を印刷したり、輸送したりするのにもお金がかかる。そのため、新聞社は、新聞を有料で販売することによって、会社を運営している。
-----------------------	--

【視点1】社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果 <input type="checkbox"/> 目的－手段 <input type="checkbox"/> 条件－状況	比較	
説明の内容構成	<table border="1"> <tr> <td>【原因】新聞社は、新聞を作るのに、多くの人が関わっている。また、新聞を印刷したり、輸送したりするのにもお金がかかる。そのため、新聞社は、新聞を有料で販売することによって、会社を運営している。</td> <td>【結果】新聞は、有料である。</td> </tr> </table>		【原因】新聞社は、新聞を作るのに、多くの人が関わっている。また、新聞を印刷したり、輸送したりするのにもお金がかかる。そのため、新聞社は、新聞を有料で販売することによって、会社を運営している。
【原因】新聞社は、新聞を作るのに、多くの人が関わっている。また、新聞を印刷したり、輸送したりするのにもお金がかかる。そのため、新聞社は、新聞を有料で販売することによって、会社を運営している。	【結果】新聞は、有料である。		

【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	費用	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	企業の経営活動により流出した経済価値をいい、企業利益の消極要素(②,p.1064)	

↓ 法則性 (社会事象間や概念間に成立する関係) の抽出

意味に含まれる法則性	企業の経営活動	流出した経済価値 (企業利益の消極要素)
------------	---------	-------------------------

【視点3】経済概念の説明 (原因－結果、目的－手段、条件－状況) への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input type="checkbox"/> A 原因 (目的, 条件) に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果 (手段, 状況) に組み込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> C 原因と結果 (目的と手段, 条件と状況) の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因 (目的, 条件) にも結果 (手段, 状況) にも組み込まれていない。
-----------------	---

◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図

○ 分析結果の考察

原因と結果に示された記述は、経済概念【費用】に関する内容である。また、費用の意味から、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が確認できる。したがって、社会事象を経済学的に説明した学習課題とその解である。
---

## 小学校社会科先行授業分析票 No. 42

【分析対象】第 [ 5 ] 学年		形式 [ <input checked="" type="checkbox"/> 学習指導案 <input type="checkbox"/> 教授書 <input type="checkbox"/> 授業記録 ]	
単元名	情報単元	考案者	戸田征男
出典	戸田征男「情報産業の構造を読み解く小学校『情報単元』の授業開発－『フリー』のビジネスモデルを事例として－」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第28号 2016 pp.41-50		

## ○分析対象の学習課題とその解

【学習課題】なぜ、民法のテレビ局は、無料で番組を放送しているのだろう。	【解】民法は広告主からの広告収入によって運営されている。広告主は、番組と一緒に広告（CM）を見てもらうことによって、商品の売り上げを増やそうとしている。
-------------------------------------	--

## 【視点1】社会事象間を、原因－結果、目的－手段、条件－状況で説明している学習課題とその解の分析

説明の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 原因－結果	<input type="checkbox"/> 目的－手段	<input type="checkbox"/> 条件－状況	比較
説明の内容構成	【原因】民法は広告主からの広告収入によって運営されている。広告主は、番組と一緒に広告（CM）を見てもらうことによって、商品の売り上げを増やそうとしている。	【結果】民法のテレビ局は、無料で番組を放送している。		

## 【視点2】分析対象の学習課題とその解における経済概念の有無

経済に関する用語	広告収入	①大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典第3版』 ②金森久雄ほか2名編『経済辞典第5版』
経済に関する用語の意味	広告主にスペース、時間を提供した対価として媒体社が受け取る収入 (②,p,353)	

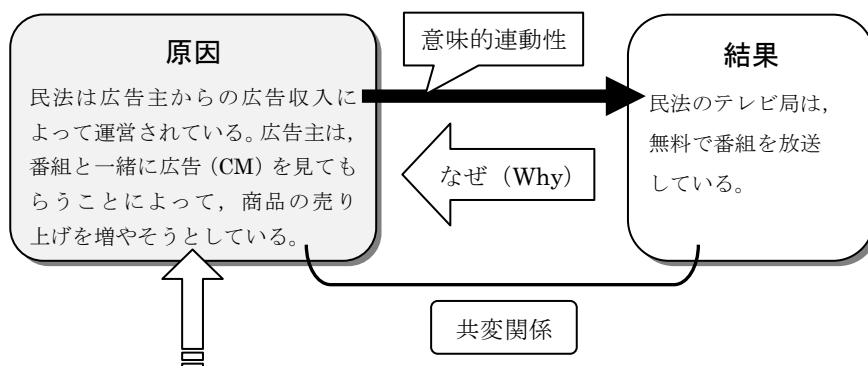
↓ 法則性（社会事象間や概念間に成立する関係）の抽出

意味に含まれる法則性	広告主にスペース、時間を提供	対価として媒体社が受け取る収入
------------	----------------	-----------------

## 【視点3】経済概念の説明（原因－結果、目的－手段、条件－状況）への組み込まれ方

経済概念の説明への組み込まれ方	<input checked="" type="checkbox"/> A 原因（目的、条件）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> B 結果（手段、状況）に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> C 原因と結果（目的と手段、条件と状況）の双方に組み込まれる。 <input type="checkbox"/> D 原因（目的、条件）にも結果（手段、状況）にも組み込まれていない。
-----------------	--

## ◎「社会事象の経済学的な説明」の構造図



【広告収入】 広告主にスペース、時間を提供した対価として媒体社が受け取る収入

## ○ 分析結果の考察

原因と結果に示された記述は、経済概念【広告収入】に関する内容である。また、広告収入の意味から、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が確認できる。したがって、社会事象を経済学的に説明した学習課題とその解である。